財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第399集

上植木光仙房遺跡

主要地方道伊勢崎大間々線単独特別道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

群馬県伊勢崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第399集

上植木光仙房遺跡

主要地方道伊勢崎大間々線単独特別道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００７

群馬県伊勢崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上植木光仙房遺跡は伊勢崎市三和町に所在する旧石器時代から近世に至る大規模な複合遺跡で、これまでも上武道路や北関東自動車道の建設工事等に先立って発掘調査が実施され、調査報告書が刊行されてまいりました。

北関東自動車道の建設に伴い、遺跡地に近接して建設されることになった伊勢崎インターチェンジとのアクセスの利便性と安全性を高めるため、北関東自動車道や上武道路と南北に直交する主要地方道伊勢崎大間々線の拡幅工事が同町内で行われることとなり、工事箇所が本遺跡の範囲内にかかっておりましたために、事前の発掘調査が県から当事業団に委託され、実施されました。発掘調査は平成11年度から16年度にわたって行われ、旧石器時代からの長きにわたる先人たちの営みの跡を見出すことができました。

このたび、本事業の整理作業が、群馬県伊勢崎土木事務所の委託を受けて実施され、ここに本報告書刊行の運びとなりました。

この成果は、かって当事業団や伊勢崎市教育委員会によって行われた上武道路や北関東自動車道あるいは三和工業団地等の建設に伴う本遺跡及び隣接遺跡の発掘調査の成果とともに、この地域の歴史的な移り変わりを知り、今後、さらによりよい地域社会を築き上げていく上で参考にしていただけるものと思います。

本報告書の刊行に至るまでには、伊勢崎土木事務所、県教育委員会、伊勢崎市教育委員会はじめ関係諸機関並びに関係各位に大変なご尽力を賜りました。ここに銘記して心よりの感謝を申し上げますとともに、本報告書が広く資料として活用されますことを願いまして、序といたします。

平成19年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　　高橋　勇夫

例　　言

1．本報告書は、主要地方道伊勢崎大間々単独特別道路改良事業に伴い平成12年４月から16年９月にかけて、当事業団が群馬県伊勢崎市三和町において実施した上植木光仙房遺跡（かみうえきこうせんぼういせき）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本発掘調査および整理事業は、県伊勢崎土木事務所の委託を受けた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

3．調査対象地は一般国道17号（上武道路）及び北関東自動車道にほぼ南北に直交する主要地方道伊勢崎大間々線の、上武道路との交差点を起点にした北側約470m分に当たる東西両側の拡幅部分6,452㎡である。

4．伊勢崎市三和町上植木光仙房遺跡の発掘調査は、これまで、一般国道17号（上武道路）の建設に伴って、昭和58年（1983）５月から昭和59年（1984）10月まで、当事業団が23,800㎡を発掘調査し、昭和62年（1987）８月から翌63年（1988）まで整理作業を実施して、平成元年３月に発掘調査報告書（『(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第80集　上植木光仙房遺跡 一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1989）を刊行している。
また、北関東自動車道の建設にともなって、平成９年（1997）４月から平成11年（1999）10月にかけて、当事業団が34,650㎡を発掘調査し、平成12年（2000）４月から平成15年（2003）３月まで整理作業を実施して、発掘調査報告書（『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第308集　光仙房遺跡（集落編）（須恵器窯跡編)』2003）を刊行している。

5．発掘調査・整理期間及び調査整理担当者、事務局体制

（1）発掘　第一次調査　平成12年１月１日～３月31日

担当：事務局調査研究第２部調査研究第４課専門員 間庭稔、調査研究員 勢藤暁美

第二次調査　平成12年４月１日～６月30日

担当：事務局調査研究第２部調査研究第４課専門員 高井佳弘・金子伸也

第三次調査　平成13年４月１日～６月30日

担当：東毛調査事務所調査研究部調査研究第1課専門員 坂井隆、調査研究員 橋本淳・西原和久

第四次調査　平成14年６月１日～７月31日

担当：東毛調査事務所調査研究部調査研究第２課専門員 谷藤保彦、主任調査研究員 増田眞次

第五次調査　平成15年10月１日～10月31日

担当：東毛調査事務所調査研究部調査研究第２課専門員 大澤務・川端俊介、主任調査研究員 深澤敦仁

第六次調査　平成16年９月１日～９月30日

担当：東毛調査事務所調査研究部調査研究第2課専門員 坂口一、主任調査研究員 小高哲茂

（2）整理　平成18年8月1日～平成19年3月31日

担当：事務局資料整理部資料整理第２グループ 専門員（主幹）高島英之

（3）調査整理機関組織事務体制

役　員　理事長　小野宇三郎(平成11～17年度)・高橋勇夫

常務理事　赤山容造(平成11～13年度)・吉田豊(平成13～14年度)・住谷永市(平成15～16年度)・木村裕紀

事務局　事業局長　神保侑史(平成14～16年度)・津金沢吉茂

調査研究第２部長　水田稔(平成11～12年度)・資料整理部長 中東耕志

調査研究第４課長　中東耕志(平成11年度)・佐藤明人(平成12年度)・資料整理第２グループリーダー 関晴彦

管理部長　住谷進(平成11～13年度)・萩原利通(平成14～15年度)・矢崎俊夫(平成16年度)

総務部長　萩原勉

総務課長　坂本敏夫(平成11～12年度)・大島信夫(平成13年度)・植原恒夫(平成14～15年度)・丸岡道雄(平成16年度)

総務グループリーダー 笠原秀樹・経理グループリーダー 石井清

総務係長　笠原秀樹(平成11～13年度)・小山健夫(平成14年度)・竹内宏(平成15～16年度)

経理係長　小山健夫(平成11～13年度)・高橋房雄(平成14～16年度)

総務課主幹(総括)　須田朋子・斉藤恵利子、主幹 吉田有光(平成11～16年度)・今泉大作・柳岡良宏

総務課係長代理　森下弘美(平成12～15年度)

総務課主任　岡嶋伸昌(平成11年度)・栗原幸代・阿久澤玄洋(平成14～16年度)・佐藤聖行

総務課主事　片岡徳雄(平成11～13年度)・田中賢一(平成14～15年度)

総務課補助員　吉田恵子(平成11～13年度)・並木綾子(平成11～13年度)・今井もと子・内山佳子・若田誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・松下次男(平成11～16年度)・吉田茂(平成11～16年度)・浅見宜記(平成11年度)・蘇原正義(平成12～13年度)・武藤秀典

東毛調査事務所　所長　水田稔(平成13年度)・能登健(平成14年度)・平野進一(平成15～16年度)

調査研究部長　津金沢吉茂(平成13年度)・真下高幸(平成14～16年度)

調査研究第１課長　佐藤明人(平成13～14年度)・調査研究第２課長 井川達雄(平成15～16年度)

庶務課長　笠原秀樹(平成13～16年度)

庶務課副主幹　柳岡良宏(平成13～16年度)・今泉大作(平成16年度)

庶務課主任　北野勝美(平成15年度)・清水秀紀(平成16年度)

庶務課補助員　中沢恵子(平成13～16年度)・金子三枝子(平成15～16年度)

7．報告書作成関係者

（1）本文執筆、編集　資料整理部長 中東耕志(第3章第10節・第11節、旧石器・縄文時代土器・石器観察表)、専門員(主幹) 高島英之(前記以外)

（2）遺構写真撮影　事務局調査研究第２部調査研究第４課専門員　間庭稔・同調査研究員　勢藤暁美(平成11年度)、同専門員　高井佳弘・金子伸也(平成12年度)、東毛調査事務所調査研究部調査研究第１課専門員　坂井隆・調査研究員　橋本淳・西原和久(平成13年度)、同専門員　谷藤保彦・主任調査研究員　増田眞次(平成14年度)、同調査研究第２課専門員　大澤務・川端俊介・主任調査研究員　深澤敦仁(平成15年度)、同調査研究第1課専門員　坂口一・主任調査研究員　小高哲茂(平成16年度)

（3）遺物写真撮影　資料整理第１グループ主幹(総括) 佐藤元彦

（4）遺物保存処理　資料整理第１グループ主幹(総括) 関邦一、同嘱託員 土橋まり子、同補助員 小材浩一・津久井桂一・多田ひさ子・長岡久幸

（5）整理指導助言　資料整理部長　中東耕志(旧石器、縄文時代土器・石器、遺構図面・写真)、第２グループリーダー

上席専門員　関晴彦(土師器・須恵器)、第２グループ上席専門員　井川達雄(土師器・須恵器、遺構図面・写真)、第２グループ専門員(総括)　大西雅広(近世陶磁器･土器)、第２グループ主任調査研究員高井佳弘(遺構図面･写真)･深沢敦仁(埴輪､遺構図面･写真)･橋本淳(遺構図面･写真)、第１グループ主任専門員(総括)　坂口一(鉄器、埴輪、土師器、遺構図面・写真)、調査研究部調査研究グループ専門員(総括)　谷藤保彦(旧石器、縄文時代土器・石器、遺構図面･写真)

（６）整理作業　資料整理第２グループ整理補助員 岩渕節子･阿部幸恵･掛川智子･笛木広美･吉田明恵･水野さかゑ

（７）機械遺物実測　資料整理第２グループ整理補助員 田中精子・小菅優子

８．出土遺物・図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センター（群馬県渋川市北橘町下箱田784-2）に保管している。

９．発掘調査及び報告書作成に際しては、下記の関係各機関にご高配・ご指導・ご教示を賜った。記して深甚なる謝意を表する。

群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会

凡　　例

１．本報告書に掲載する遺構平面図の方位記号は、国家座標の北を表す。座標系は国家座標Ⅸ系である。今回の調査区は、X=39205～39630、Y=－55140～－55400の範囲に収まる。なお、本文中の記述では煩雑さを避けるためにＸ座標の頭「39」とＹ座標の頭「55」の数値は略記する。

２．遺構平面・断面実測図に示した標高値の単位はｍである。

３．遺構・遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。

４．遺構の土層及び土器の色調の表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』1993年版に準拠した。

５．遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版ともすべて共通している。

６．本報告書で使用した地形図は、「大胡」1/25000である。

７．遺構の面積はデジタルプラニメーターを使用して３回の計測値を平均したものである。

８．本報告書では「掘立柱建物」･「平地建物」等に対偶する建物遺構の概念として学界にも膾炙している「竪穴建物跡」の用語を使用する。

９．図中の出土遺物の略号は、●土器　■石器　▲金属器　とする。

目　　次

序
例言
凡例
第１章　調査に至る経緯と調査経過　1
　第１節　調査に至る経緯　1
　第２節　調査の経過　2
第２章　遺跡の地理的・歴史的環境　5
　第１節　遺跡の地理的環境　5
　第２節　遺跡の歴史的環境　6
　　第１項　周辺の旧石器時代遺跡の動向　6
　　第２項　周辺の縄文時代遺跡の動向　7
　　第３項　周辺の弥生時代遺跡の動向　8
　　第４項　周辺の古墳時代遺跡の動向　8
　　第５項　周辺の奈良・平安時代遺跡の動向　10
　　第６項　中世以降における歴史的環境と遺跡の動向　11
第３章　発見された遺構と遺物　17
　第１節　Ａ区で検出された遺構と遺物　17
　　第１項　古墳跡　17
　　第２項　溝跡　19
　　第３項　土坑跡　26
　第２節　Ｂ区で検出された遺構と遺物　32
　　第１項　溝跡　32
　　第２項　土坑跡　35
　第３節　Ｃ区で検出された遺構と遺物　39
　　第１項　古墳跡　39
　　第２項　掘立柱建物跡　41
　　第３項　竪穴建物跡　44
　　第４項　溝跡　50
　　第５項　井戸跡　54
　　第６項　土坑跡　55
　第４節　Ｄ区で検出された遺構と遺物　70
　　第１項　竪穴建物跡　70
　　第２項　溝跡　70
　　第３項　井戸跡　76
　　第４項　土坑跡　77

第５節　Ｅ区で検出された遺構と遺物　83
第１項　古墳跡　83
第２項　溝跡　99
第３項　墓壙跡　101
第４項　土坑跡　102
第６節　Ｆ区で検出された遺構と遺物　110
第１項　溝跡　110
第２項　土坑跡　113
第７節　Ｇ区で検出された遺構と遺物　115
第１項　古墳跡　115
第８節　Ｈ区で検出された遺構と遺物　119
第１項　溝跡　119
第２項　墓壙跡　120
第３項　土坑跡　120
第９節　Ｉ区で検出された遺構と遺物　124
第１項　古墳跡　124
第２項　土坑跡　129
第10節　Ｊ区　129
第11節　金属製品　131
第12節　縄文土器　133
第13節　石器　137
まとめ　146
写真図版

図版目次

図1　周辺遺跡位置図　14
図2　A区1号墳　平面図・土層断面図・エレベーション図　18
図3　A区1～4・9号溝跡　平面図・土層断面図　20
図4　A区6・30号溝跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　21
図5　A区10号溝跡　平面図・エレベーション図　21
図6　A区11号溝跡　平面図・土層断面図　22
図7　A区12号溝跡　平面図・土層断面図　23
図8　A区14・16・17号溝跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　24
図9　A区18号溝跡　平面図　24
図10　A区18号溝跡　土層断面図　25
図11　A区19・20号溝跡　平面図・土層断面図　25
図12　A区1～4・6～8号土坑跡　平面図・土層断面図　27
図13　A区9～15号土坑跡　平面図・土層断面図　29
図14　A区16号土坑跡　平面図・土層断面図　30
図15　A区17～24号土坑跡　平面図・土層断面図　31
図16　B区27号溝跡　平面図・土層断面図　32
図17　B区28・29号溝跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　33
図18　B区31号溝跡　平面図・エレベーション図　34
図19　B区32号溝跡　平面図・土層断面図　34
図20　B区33号溝跡　平面図・土層断面図　35
図21　B区32～35号土坑跡　平面図・土層断面図　36
図22　B区36・37号土坑跡　平面図・土層断面図　37
図23　B区38・39号土坑跡　平面図・土層断面図　38
図24　C区3号墳　平面図・土層断面図　40
図25　C区1号掘立柱建物跡 平面図・柱穴土層断面図　42
図26　C区1号掘立柱建物跡　柱穴エレベーション図　43
図27　C区2号掘立柱建物跡　平面図・柱穴エレベーション図　44
図28　C区1～3号竪穴建物跡　平面図　46
図29　C区1号竪穴建物跡　土層断面図・柱穴土層断面図・エレベーション図　47
図30　C区2・3号竪穴建物跡　土層断面図・柱穴土層断面図・エレベーション図　48
図31　C区1・3号竪穴建物跡　出土遺物　49
図32　C区39～43号溝跡　平面図・土層断面図　51
図33　C区39・43号溝跡　出土遺物　52
図34　C区49・51号溝跡　平面図・土層断面図　53
図35　C区50号溝跡　平面図・エレベーション図　53
図36　C区56号溝跡　平面図・土層断面図　54
図37　C区3号井戸跡　平面図・エレベーション図　55
図38　C区59・60号土坑跡　平面図・土層断面図　56
図39　C区61・62号土坑跡　平面図・土層断面図　56
図40　C区63・64号土坑跡　平面図・エレベーション図　57
図41　C区65・66・68号土坑跡　平面図・エレベーション図　58
図42　C区67・77号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　59
図43　C区77号土坑跡　出土遺物　59
図44　C区78・79号土坑跡　平面図・土層断面図　60
図45　C区80・81・97・98号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　61
図46　C区82・83号土坑跡　平面図・土層断面図　62
図47　C区82号土坑跡　出土遺物　62
図48　C区84～87号土坑跡　平面図・土層断面図　63
図49　C区85号土坑跡　出土遺物　63
図50　C区89・91号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　64
図51　C区91号土坑跡　出土遺物　64
図52　C区88・90号土坑跡　出土遺物　65
図53　C区88・90号土坑　平面図・土層断面図・エレベーション図　66
図54　C区93号土坑跡　出土遺物　67
図55　C区92・93号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　67
図56　C区94～96号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　68
図57　C区表土　出土遺物　69
図58　D区4号竪穴建物跡　平面図・土層断面図・柱穴エレベーション図　71
図59　D区36・37号溝跡　平面図・土層断面図　72

図60　Ｄ区37号溝跡　出土遺物　72
図61　Ｄ区38号溝跡　平面図・土層断面図　73
図62　Ｄ区46・47号溝跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　74
図63　Ｄ区47号溝跡　出土遺物　75
図64　Ｄ区48号溝跡　平面図・土層断面図　75
図65　Ｄ区２号井戸跡　平面図・エレベーション図　76
図66　Ｄ区40・47号土坑跡　平面図・土層断面図　77
図67　Ｄ区46・48号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　78
図68　Ｄ区49～51号土坑跡　平面図・土層断面図　79
図69　Ｄ区52・53号土坑跡　平面図・土層断面図　80
図70　Ｄ区54・56号土坑跡　平面図・土層断面図　82
図71　Ｄ区57・58・70号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　82
図72　Ｅ・Ｆ区２号墳　平面図　84
図73　Ｅ・Ｆ区２号墳　土層断面図　85
図74　Ｅ・Ｆ区２号墳　出土遺物（Ｅ－１）　90
図75　Ｅ・Ｆ区２号墳　出土遺物（Ｅ－２）　91
図76　Ｅ・Ｆ区２号墳　出土遺物（Ｅ－３）　92
図77　Ｅ・Ｆ区２号墳　出土遺物（Ｅ－４）　93
図78　Ｅ・Ｆ区２号墳　出土遺物（Ｆ－１）　97
図79　Ｅ・Ｆ区２号墳　出土遺物（Ｆ－２）　98
図80　Ｅ・Ｆ区２号墳　出土遺物（Ｆ－３）　99
図81　Ｅ区１・２号溝跡　平面図・土層断面図　100
図82　Ｅ区52～54号溝跡　平面図・エレベーション図　101
図83　Ｅ区１号墓壙跡　平面図・土層断面図・出土遺物　102
図84　Ｅ区71号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図・出土遺物　103
図85　Ｅ区72・73号土坑跡　平面図・エレベーション図　104
図86　Ｅ区74～76号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図　105
図87　Ｅ区表土　出土遺物（１）　108
図88　Ｅ区表土　出土遺物（２）　109
図89　Ｆ区21・23・24号溝跡　平面図・土層断面図　111
図90　Ｆ区25・26号溝跡　平面図・土層断面図　112
図91　Ｆ区25～29号土坑跡　平面図・土層断面図　113
図92　Ｆ区30・31号土坑跡　平面図・土層断面図　114
図93　Ｇ区４号墳　平面図・土層断面図　116
図94　Ｇ区４号墳　出土遺物（１）　117
図95　Ｇ区４号墳　出土遺物（２）　118
図96　Ｈ区45号溝跡　平面図・土層断面図　119
図97　Ｈ区２号墓壙跡　平面図・土層断面図・エレベーション図・出土遺物　120
図98　Ｈ区41・42号土坑跡　平面図・土層断面図　121
図99　Ｈ区42号土坑跡　出土遺物、Ｈ区44号土坑跡　平面図・土層断面図・出土遺物　122
図100　Ｈ区表土　出土遺物　123
図101　Ｉ区５号墳　平面図・土層断面図　125
図102　Ｉ区６号墳　平面図　125
図103　Ｉ区６号墳　土層断面図・エレベーション図　126
図104　Ｉ区６号墳　石室平面図・展開図・エレベーション図　127
図105　Ｉ区６号墳　出土遺物　128
図106　Ｉ区99・100号土坑跡平面図・土層断面図　129
図107　Ｊ区平面図・土層断面図　130
図108　出土金属製品集成図　132
図109　Ａ・Ｂ区出土縄文土器　133
図110　Ｄ区縄文土器出土状況図　133
図111　Ｄ区出土縄文土器　134
図112　Ｄ・Ｅ・Ｇ区出土縄文土器　135
図113　調査区基本土層　137
図114　Ｃ・Ｆ区旧石器出土状況　138
図115　Ｈ区旧石器出土状況　139
図116　出土石器（１）　142
図117　出土石器（２）　143
図118　出土石器（３）　144
図119　出土石器（４）　145

写真図版目次

PL. 1　A区調査区全景、A区１号墳
PL. 2　A区１～４，９～12号溝跡
PL. 3　A区14～20・30号溝跡、１～３号土坑跡
PL. 4　A区４・６～12号土坑跡
PL. 5　A区13～23号土坑跡
PL. 6　A区24号土坑跡、B区調査区全景、B区27～29号溝跡、32・33号土坑跡
PL. 7　B区調査区全景、B区31～33号溝跡、B区36号土坑跡
PL. 8　B区34・35・37～39号土坑跡、C区調査区全景
PL. 9　C区１～３号竪穴建物跡
PL.10　C区２～３号竪穴建物跡、C区49号溝跡
PL.11　C区50・51・56号溝跡、C区３号井戸跡、C区61～63号土坑跡
PL.12　C区59～63号土坑跡
PL.13　C区64～67・77号土坑跡
PL.14　C区78～82号土坑跡
PL.15　C区83～88・90号土坑跡
PL.16　C区88・90～94号土坑跡
PL.17　C区95・96号土坑跡、C区調査区全景、C区３号墳、C区39～43号溝跡
PL.18　C区39・40・43号溝跡、C区旧石器出土状況
PL.19　C区旧石器出土状況、D区調査区全景、D区４号竪穴建物跡・46号溝跡
PL.20　D区47号溝跡、D区２号井戸跡、D区46号土坑跡
PL.21　D区47～50号土坑跡
PL.22　D区51～54・56号土坑跡
PL.23　D区57・58号土坑跡、D区黒曜石出土状況
PL.24　D区耳環出土状況、D区基本土層、D区調査区全景、D区36・37号溝跡
PL.25　D区38号溝跡、D区40号土坑跡、D区調査区全景、E区調査区全景
PL.26　E区２号墳
PL.27　E区１・２号溝跡、E区１号墓壙跡、E区71号土坑跡
PL.28　E区71～73号土坑跡
PL.29　E区74・75号土坑跡、F区旧石器調査状況
PL.30　F区槍先形尖頭器出土状況、F区調査区全景、F区21～24号溝跡、F区25・26号土坑跡
PL.31　F区２号墳、F区26号溝跡、F区27～29号土坑跡、F区調査区全景
PL.32　F区25号溝跡、F区30・31号土坑跡、F区２号墳、F区調査区全景、G区調査区全景
PL.33　G区４号墳、H区全景、H区45号溝跡
PL.34　H区41・42・44号土坑跡、H区２号墓壙跡
PL.35　H区旧石器検出状況
PL.36　H区旧石器検出状況
PL.37　H区旧石器検出状況
PL.38　H区旧石器検出状況
PL.39　H区旧石器検出状況
PL.40　H区旧石器検出状況、Ⅰ区５号墳全景、Ⅰ区６号墳
PL.41　Ⅰ区６号墳
PL.42　Ⅰ区６号墳
PL.43　Ⅰ区６号墳
PL.44　Ⅰ区99・100号土坑跡、Ⅰ区縄文時代遺物出土状況、Ⅰ区旧石器調査状況
PL.45　Ⅰ区旧石器調査状況、Ⅰ区調査区全景、Ⅰ区基本土層断面図
PL.46　C区出土遺物
PL.47　E～F区出土遺物
PL.48　F・H・Ⅰ区出土遺物
PL.49　金属製品
PL.50　縄文土器
PL.51　石器（１）
PL.52　石器（２）
PL.53　H区出土旧石器接合資料

第１章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯

本事業　本事業は、群馬県土木部（当時）によって計画された、伊勢崎市三和町における主要地方道伊勢崎大間々線単独特別道路改良事業に伴い、埋蔵文化財発掘調査による記録保存の措置が当事業団に委託されたものである。

対象地周辺での大規模開発に伴う発掘調査の着手　日本道路公団（当時）による北関東自動車道（高崎～伊勢崎地域）の建設にともなって、伊勢崎インターチェンジが同町の一般国道17号（上武道路）の南側に接して建設されることとなり、県教育委員会による確認調査及び調整を経て、日本道路公団（当時）の委託を受けた当事業団が平成８年度より対象地の発掘調査に着手した（舞台遺跡）。また、上武道路と伊勢崎インターチェンジとを結ぶアクセス道の建設予定地についても同年より、建設省関東地方建設局（当時）の委託を受けた当事業団が発掘調査に着手した（下植木壱町田遺跡）。さらに、それらインターチェンジ群を取り囲む52haに及ぶ広大な範囲に、県企業局が伊勢崎市三和工業団地の造成を計画したため、平成７年度から当事業団と伊勢崎市教育委員会社会教育課（のち文化財保護課）によって調査に着手された。

本事業の意義と目的　日本道路公団（当時）による北関東自動車道及びその伊勢崎インターチェンジの建設や、インターチェンジ周囲における県企業局による三和工業団地の造成･分譲計画などの動きを受けて、県土木部は、県南中央部における南北交通の要路であり、上武道路及び北関東自動車道と南北に交差する主要地方道伊勢崎大間々線と新設の北関東自動車道および三和工業団地とのアクセスの利便性と安全性をより高めるために、上武道路との交差点の北約450mの範囲において、同道と上武道路や三和工業団地への連絡車線を確保するための拡幅工事を計画した。

調査着手に至る調整過程　平成８年度当初の県土木部道路建設課（当時）と県教育委員会事務局文化財保護課（当時）との調整会議において、県道路建設課から、この伊勢崎市三和町における主要地方道伊勢崎大間々線拡幅改良工事の計画が呈示され、工事範囲における埋蔵文化財包蔵の有無や発掘調査の必要性、さらにはそうなった場合に要する期間及び経費額等についての照会がなされた。県教育委員会文化財保護課は、同道の工事予定範囲に隣接する県企業局造成の三和工業団地や北関東自動車道・上武道路等の建設に先だって、いずれの箇所においても非常に濃密な埋蔵文化財の包蔵が確認され、それぞれの工事対象地においては工事に先立って、くまなく埋蔵文化財発掘調査による記録保存の措置が執られていることに鑑み、当該箇所についても埋蔵文化財の濃密な包蔵が確実であり、埋蔵文化財保護の観点から言えば、出来れば当該地域における開発行為は避けるべきであること、やむを得ない諸般の事情によって開発行為に着手せざるを得ないのであれば、文化財保護当局の調整・指導及び範囲確認等の調査を経た上での、事前の埋蔵文化財発掘調査による記録保存の措置が必要である旨を回答した。

当時は、北関東自動車道（高崎～伊勢崎地域）建設に伴う発掘調査が最盛期を迎えており、当事業団の調査班の大半が北関東自動車道建設関連の事前の発掘調査に当たっていて、調査に投入できる人的な余裕が少ないことや、県土木部内における調整や計画準備、さらには用地買収状況等の問題もあり、本事業に関する埋蔵文化財取り扱いの協議・調整が本格化したのは平成９年度の後半を迎えてからであった。

平成９年度当初からは、本事業地に隣接する北関東自動車道建設予定地内の光仙房遺跡において、当事業団によって発掘調査に着手された。北関東自動車道用地における光仙房遺跡の発掘調査は平成10年10月31日

まで続けられた。整理事業は平成12年４月１日から15年３月末まで当事業団が実施し、平成15年３月27日に発掘調査報告書を刊行した（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第308集・北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域発掘調査報告書第17集『光仙房遺跡』）。

平成10年度末にかけて県土木部と県教育委員会文化財保護課との間で、本事業についての調整がたびたびなされ、県教育委員会文化財保護課と当事業団との調整協議を経て、平成11年度末に工事対象用地の最も北側に当たる場所から発掘調査に着手することが決定され、当事業団の調査班も具体的に配置されることが決まった。

第２節　調査の経過

調査の経過　発掘調査は県土木部の委託を受けた当事業団によって平成12年１月初旬から着手され、平成13年度からは、主に佐波郡東村（当時）から藪塚本町（当時）南部を経て太田市北郊にかけて北関東自動車道（伊勢崎～県境地域）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査に対応するために伊勢崎市三和町に開設された当事業団東毛調査事務所が、事業を管掌し、平成13年度の調査から16年度の調査終了まで所管した。

調査対象箇所は、主要地方道伊勢崎大間々線と上武道路との交差点から旧赤堀町伊勢崎市市町境までの約450mの、東西両側幅約４～10mの範囲である。平成11年度の調査着手にあたって、調査を円滑に進めるために、調査対象地を、現在の主要地方道伊勢崎大間々線の両側、南北に横断する現道や地境等でＡ～Ｊの10区に便宜的に分割し、調査対象地の呼称とした（図）。

平成11年度の調査（第一次調査）　平成11年度の調査は平成12年１月当初から年度末までの期間、Ａ・Ｂ・Ｆ区の合計1700㎡を対象に実施した。Ａ区では外径約12mほどの規模を呈する古墳時代後期の古墳や中近世の溝跡や土坑跡が多数、Ｂ区では中近世の溝跡・土坑跡が多数、Ｆ区南部では現・伊勢崎大間々線を挟んだ西側に続く大きな古墳の堀跡の一部がそれぞれ検出された。

Ｆ区南部で検出された古墳は、６世紀のもので、『上毛古墳綜覧』に掲載された前方後円墳「殖蓮村第62號」墳の後円部に相当するものと考えられる。

Ａ区とＦ区南部の調査は終了。Ｂ区とＦ区北～中部の調査は次年度以降に持ち越された。

平成12年度の調査（第二次調査）　平成12年度の調査は平成12年４月年度当初から６月30日まで３ヶ月間、Ｂ区・Ｃ区北半部・Ｄ区南半部・Ｆ区・Ｇ区・Ｈ区の計2000㎡を対象に実施した。Ｂ区とＦ区北部は昨年度からの継続で、今年度は旧石器の確認調査を実施したが、両箇所共に旧石器の出土はなかった。

Ｃ区北半部は、調査直前まで宅地であったため、大きく攪乱されており、遺構の残存状況は良くない。近世の溝跡、中世の竪穴建物跡３棟と古墳周溝の一部、さらに下層の浅間板鼻褐色軽石を含むローム層中から旧石器が１点出土した。

Ｄ区南半部では遺物包含層中から縄文時代中期後半の土器片が多数検出された。

Ｇ区では古墳周溝の一部が検出され、Ｈ区では縄文中期後半の土器片が多数出土し、中には早期の土器も含まれるが、縄文時代の遺構は全く検出されていない。

Ｂ区、Ｃ区北半部、Ｄ区南半部、Ｆ区北部・Ｇ区・Ｈ区の調査は終了した。

平成13年度の調査（第三次調査）　平成13年度の調査は、年度頭初から６月30日まで、Ｃ区南半部・Ｄ区北半部・Ｅ区北端約1/5・Ｉ区の計1538㎡を対象とした。

Ｃ区南半部では、近現代に大きく攪乱されていたが、掘立柱の主屋と井戸・厠などが付帯する19世紀初頭

～幕末頃の屋敷跡が検出された。

Ｄ区北半部東西方向に走る２本の堀によって区画された中世の居館跡や方形の竪穴建物跡などが検出された。また縄文時代中期の土器片が少量出土している。

Ｅ区は近代明治期の地下倉跡によって大きく攪乱を受けていた。

Ｉ区では終末期の古墳の周溝跡を２箇所で検出している。また、縄文時代中期の土器片が少量出土したが、縄文時代の遺構は検出されていない。

Ｃ区南半部・Ｄ区北半部・Ｉ区の調査は終了した。

平成14年度の調査（第四次調査）　平成14年６月から７月一杯にかけて、平成11～12年度に調査したＦ区の中央部300㎡分と、現・伊勢崎大間々線の東側最南端部のＪ区の計400㎡を対象に調査を実施した。

Ｆ区では縄文時代の遺物包含層の中から、草創期の槍先形尖頭器がほぼ完形で出土しており、中期後半の土器片も出土している。

Ｊ区では上層面の遺構・遺物は全く確認されなかった。旧石器の確認調査を実施したところ、浅間板鼻黄色軽石ないし浅間白糸軽石が混入する上部ローム層中から、自然石が出土したが、旧石器制作に関わる剥片類とは認められなかった。

平成15年度の調査（第五次調査）　平成15年度は、平成15年10月一ヶ月間、平成13年度に調査を実施したＥ区の北端約1/5を除いた残りの南側、対象面積は614㎡である。

北西から南東方向に並行して走向する中近世の溝跡２条、平安時代中期10世紀代の土坑跡１基、古墳時代後期の古墳の周溝跡などが検出されている。

中近世の溝跡は、走向がいわゆる「あずま道」と並行しており、道路跡との関連が想定される。

古墳の周溝跡は、東側が平成11年度に調査されたＦ区南部で検出された古墳周溝跡に続く大きなもので、『上毛古墳綜覧』に掲載された前方後円墳「殖蓮村第62號」墳の後円部に相当するものと考えられる。６世紀の古墳である。

また、旧石器の確認調査では、いずれの箇所においても旧石器は出土しなかった。

平成16年度の調査（第六次調査）　平成16年９月一ヶ月間、昨年度に引き続いてＥ区の最南端部で検出された「殖蓮村第62號」墳に相当する古墳の調査を主体に200㎡を調査した。前年度までの調査と同様、墳丘は完全に削平されており、主体部はもちろんのこと、葺石や埴輪列等は一切確認できなかった。

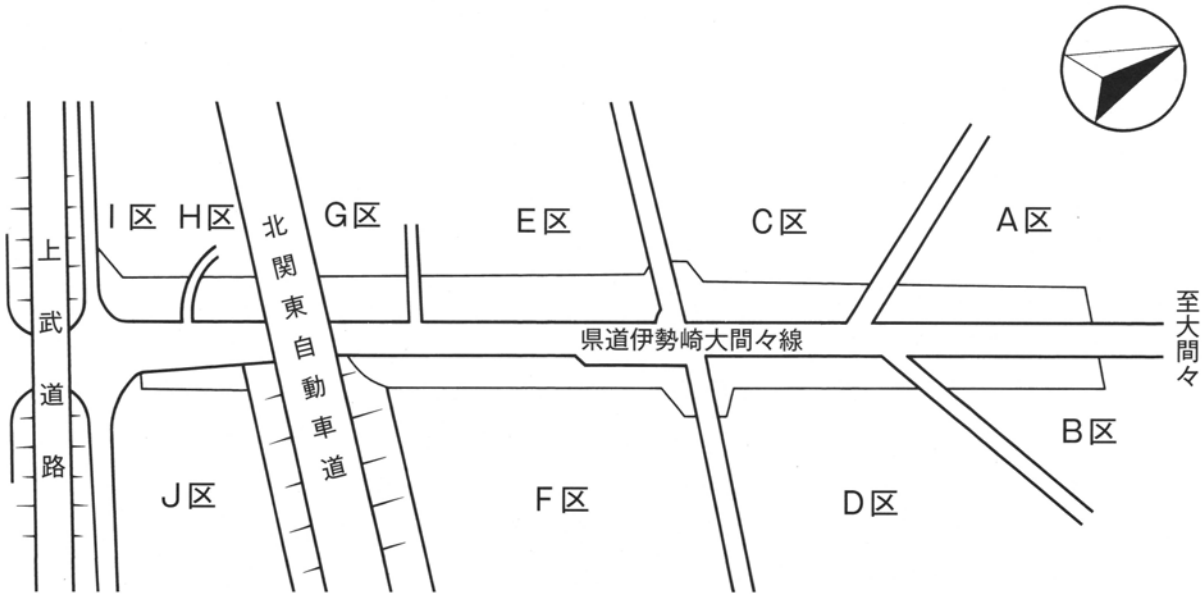
また、他に、奈良・平安時代の遺物が若干出土している。旧石器は確認されなかった。

なお、９月末に埋め戻し、６年度に及んだ当事業に関わる全ての調査を終了した。

整理作業は当事業団資料整理部（担当：資料整理第２グループ）が担当し、当事業団分室において平成18年８月１日から平成19年３月31日まで８ヶ月間実施し、３月に発掘調査報告書を刊行した。

・基本土層

Ⅰ	Ⅰ層：表土、現地表面から約15cmまで、暗灰色土
Ⅱ	Ⅱ層：厚さ約10cm、灰色褐色土
Ⅲ	Ⅲ層：厚さ約10cm、黒褐色土
Ⅳ	Ⅳ層：厚さ約10～20cm、灰黄褐色土
Ⅴ	Ⅴ層：厚さ約５cm、明黄褐色土
Ⅵ	Ⅵ層：厚さ約30cm、にぶい黄褐色土
Ⅶ	Ⅶ層：厚さ約20cm、灰黄褐色土
Ⅷ	Ⅷ層：厚さ約20cm、暗色帯



調査区配置図

第２章　遺跡の地理的・歴史的環境

第１節　遺跡の地理的環境

位置　遺跡は、群馬県の南部中央に位置する伊勢崎市北東部の平地にある。市の南端には利根川が西北西から東南東に流れ、その南側に位置する埼玉県本庄市との県市境となっている。伊勢崎市の北側約30kmの位置には赤城山が聳え、全体的に北から南へ緩傾斜地である。市域中央部は平坦な地形であり、ともに赤城山に源を発する粕川・韮川・広瀬川がそれぞれ市域を南流している。

本遺跡の位置する伊勢崎市三和町は、市域中央部のやや北寄りに位置している。北側と西側は旧赤堀町、東側は旧東村との市町村境に接していたが、平成17年に伊勢崎市と赤堀町・東村等が合併し、市域が北・東に拡大したため、三和町は市域の中央部に位置することになった。

地形・立地　伊勢崎市の地形は、市街地中央部を北西から南東に流れる広瀬川を境に、東側は洪積台地、西側は沖積台地に大別される。本遺跡が所在する伊勢崎市三和町一帯は、西側を粕川が南流しており、粕川を境にして、その西側には赤城山南麓特有の開析された低い台地が樹枝状に発達している。

本遺跡は、地形的には、足尾山地に源を発する渡良瀬川によって形成された大間々扇状地の西南端部にあたり、標高約90m前後の、約３度傾斜する緩傾斜平地に立地している。遺跡地の基盤層である大間々扇状地は、南流する渡良瀬川によって形成された開析扇状地で、標高約200mのみどり市大間々町一帯を扇頂部として、現在の桐生市、太田市、伊勢崎市東北部などの地域にまたがり、扇頂から扇端まで南北約20km、東西約15km、平均勾配10パーミルという規模を呈する関東平野第三位、群馬県内筆頭の巨大な扇状地である。原地形は、約30万年前に形成された赤城山火山斜面であり、周辺には「洞山」・「権現山」と称されている赤城山の大規模な水蒸気爆発に伴う泥流丘が散在している。

遺跡地の基盤層は、約５万年前に形成された大間々扇状地古期面であり、赤城火山系の安山岩やチャート・粘板岩等の礫層からなっている。

遺跡地周辺には、洪積台地上に湧水点が点在し、細長い浸食谷が形成され、谷地状の水田と畑地帯となっている。遺跡地の水捌けは良好で、南流する粕川や、付近に点在する灌漑用の溜池、大正用水などの灌漑設備の整備に伴って耕地の拡大が図られてきた。調査箇所の南約450mのところに位置する「新沼」は幕末の元治元年（1864）に完成し、上植木村一帯を潤したものであるが、沼の築堤工事によって２基の古墳が没したとされている。遺跡の南東、現在の上武道路の南に接する鯉沼は、鎌倉時代に田部井氏によって造営されたとの伝承を有し、現在も「大（男）井戸」から湧き出る水を豊かにたたえている。

また、遺跡地の東側には「あまが池」・「角弥清水」・「谷地清水」・「大（男）井戸」などの湧水点が標高約90mの等高線にほぼ沿うように存在し、それらによって形成された幅約60mの開析谷があり、水田化されていた。これらの湧水のうち、「大（男）井戸」は現在でも湧水池として残っているが、多くは昭和50年代に周辺一帯で広く行われた土地改良事業によって消滅してしまった。本遺跡が立地しているのはこれらの湧水池群からやや西によった高燥な台地上で、比較的水の便の乏しい場所に当たる。

遺跡の西側を南流する粕川の氾濫は激しかったようで、粕川右岸の沖積微高地上に発達した集落を壊滅させたり、左岸の洪積台地状に造営された古墳群を破壊したりしている。

第２節　遺跡の歴史的環境

第１項　周辺の旧石器時代遺跡の動向

赤城山南麓は、相沢忠洋氏による昭和21年（1946）のみどり市笠懸岩宿遺跡の発見に象徴される、わが国旧石器時代調査研究発祥の地であると同時に、相沢氏自身のフィールドとして精力的な研究が進められた学史上、特筆すべき地域であり、実際、多くの旧石器時代遺跡が分布する地域としてよく知られている。

相沢氏は、昭和23年（1948）にはみどり市不二山遺跡と伊勢崎市波志江権現山遺跡、昭和25年（1950）にはみどり市桐原遺跡というように、学史的に重要な遺跡を次々と発見し、わが国の旧石器時代研究をリードしていった。権現山遺跡は、伊勢崎市豊城町の独立丘陵上に立地する遺跡で、関東ローム層の八崎軽石層（Hr-HP）下から岩宿遺跡を遡る古い石器が発掘されており、赤城山南麓では最も古い石器と位置づけられ、市の史跡に指定されている。石器の形態は全国的にも類例を見ないものであり、学史に著名であるが、学界での評価は必ずしも定まっているわけではない。

その後、明治大学によって昭和25年（1950）に太田市藪塚遺跡が、また昭和28～29年（1953～54）にみどり市武井遺跡が発掘調査されたり、昭和49年（1974）から63年（1988）にかけて当事業団によって実施された上武道路（国道50号線以南）の建設に伴う一連の発掘調査では、本遺跡の南に位置する伊勢崎市書上本山遺跡や、本遺跡の西に位置する同堀下八幡遺跡など、伊勢崎市から太田市にかけての８箇所の遺跡で旧石器が出土している。

また、昭和57年（1982）から59年（1984）にかけて当事業団によって調査された、本遺跡の西北西に位置する伊勢崎市赤堀下触牛伏遺跡では直径50mに及ぶ環状ユニットが発見されており、さらに本遺跡の北西に位置する同じく伊勢崎市赤堀の今井北三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡においても、当事業団によって大規模な旧石器時代の遺跡が調査されている。

また、本遺跡の東に接する舞台遺跡や、北に連続する三和工業団地遺跡群、舞台遺跡を挟んで隣接してその南側に展開する下植木壱町田遺跡などでは、浅間板鼻黄色テフラ（As-YP）を含むローム層より下、姶良Tnテフラ（AT）下暗色帯の間に４つの文化層が層位的に確認され、両極剥離痕のある石器や尖頭器、大型礫、局部磨製石斧、台形様石器などが出土している。それらの遺跡では、広範囲に分布する石器群の分析から環状分布の様子が指摘され、本遺跡を含め、隣接する周辺地域は、旧石器時代における遺跡が連続して発見されている全国的に見ても屈指の地域なのである。

本遺跡の上武道路関連調査箇所では、県道伊勢崎大間々線から東に約250mの調査区の中央部で黒曜石製柳葉形槍先型尖頭器が１点出土している。同じ遺跡内とはいえ、今回調査区の旧石器出土地点からはかなり離れた場所に当たる。

また、本遺跡北関東自動車道調査区では、伊勢崎大間々線を挟んだ東側から２文化層にわたって旧石器が出土している。上位の第Ⅰ文化層では、伊勢崎大間々線の東側から４点の石器が出土したに過ぎないが、細石刃石器群に位置づけられるものである。また、下層の第Ⅱ文化層では、石器は二つのブロックに分かれて検出され、東側のブロックには礫群が伴っている。槍先形尖頭器石器群に位置づけられるものということである。さらに伊勢崎大間々線の西側の調査区からも、旧石器時代のものとみられる石器が数点単独で出土している。

第２項　周辺の縄文時代遺跡の動向

赤城山南麓の先の緩傾斜地に位置する伊勢崎市域の縄文時代の遺跡の分布は、広瀬川低地帯を挟んだ東側に濃密である。広瀬川西側の前橋台地上には遺跡数は少なく、縄文時代後期後半の遺跡の分布が若干みられる程度である。広瀬川の東側一帯で、最も古い土器が出土したのが、本遺跡に隣接する三和工業団地遺跡群である。縄文時代前期の資料を中心に、草創期から後期に至る竪穴建物跡が約130棟が検出され、調査されている。

広瀬川東側における縄文時代早期の遺跡には、波志江六反田遺跡、山崎遺跡、波志江権現山遺跡、高山遺跡、書上本山遺跡、八寸Ｂ遺跡など、いずれも小丘陵やその裾に立地している。

縄文時代前期になると、波志江天神山遺跡、書上浄水場遺跡、尼ヶ池周辺遺跡、天ヶ堤遺跡、下吉祥寺遺跡など、湧水に近い台地の縁辺部の分布が顕著である。本遺跡の上武道路の建設に伴う調査では、最も南東寄りの箇所で前期後半の埋設土器が１基、また本調査箇所Ｊ区の南側に当たる位置において時期不明の縄文時代陥穴が検出されている。また、本遺跡に隣接する舞台遺跡では、北関東自動車道本線と伊勢崎IC建設予定地の調査において、縄文時代前期の竪穴建物跡が５棟と陥穴等の遺構が検出された。

縄文時代中期前半になると、周辺の遺跡数はやや減少傾向となってくるが、縄文時代中期後半から後期前半にかけて、遺跡数はもとより、建物や集落の規模などが大きくなり、それにともなって周辺における遺跡の立地も湧水や小河川に近い広い台地上に変わってくる。扇状地の西端縁、早川右岸の段丘上に位置する伊勢崎市赤堀曲沢遺跡では、中期後半～後期初頭の集落が検出されている。この時期の伊勢崎市域における代表的な遺跡としては、本遺跡の南東に近接する三和町の鯉沼東遺跡（加曽利Ｅ式期）、本遺跡の南に位置する茂呂の下海老遺跡（勝坂期終末～加曽利Ｅ式期後半）などがある。

縄文時代後期から晩期にかけての遺跡は、中期以前の遺跡に比べて極端に減少するが、荒砥川左岸の波志江町八坂遺跡や粕川左岸の大道西遺跡など広瀬川低地帯に臨む伊勢崎台地西縁の河川や湧水に恵まれた地帯に立地し、より低地化した平地に営まれるようになってくる。とくに八坂遺跡は、赤城山南麓の末端の台地と旧利根川の沖積面との接点の荒砥川の左岸に位置する遺跡で、遺物散布範囲だけでも２haに及ぶ。昭和44年（1969）と47年（1972）の２度、群馬大学が学術調査し、縄文時代後期中葉の配石遺構が見つかっている。配石遺構は、焼土を中心として、その周辺に河原石を敷いたもので、平面形は方形で、１辺2.4mから2.5m。配石遺構からは後期中葉の土器片、イノシシの頭蓋骨、石斧が出土した。遺物包含層からは縄文時代中期から晩期にかけての土器片、石器、土偶、耳飾、獣骨が出土している。石器は石鏃などの狩猟具より、彫器、楔形石器、磨石などの加工具が多い。また、発掘調査前に10センチメートルほどの白色泥岩製の岩版が採集されている。

本調査区に隣接して当事業団が調査した本遺跡の北関東自動車道に関わる調査区においては、縄文時代の遺構そのものはみつかっていない。低地・旧河道などから縄文時代前期から後期にかけての遺物が出土している（『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第308集光仙房遺跡（集落編）北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第17集』2003）。

第３項　周辺の弥生時代遺跡の動向

赤城山南麓及び大間々扇状地における弥生時代遺跡の分布は希薄である。近年、低台地を控えた山麓の末端地域では、徐々にではあるが、その事例が増加してはいるものの、なお、集落遺跡としての十分な展開を見せるには至っていない。

これまでに判明している伊勢崎市域での弥生時代遺跡の分布は、古利根川低地帯を流れる現在の広瀬川北側の微高地上に立地している。いずれも中期以降の遺跡である。

安堀町西太田遺跡は、神沢川と広瀬川が合流する北側の台地に立地し、中期・後期の竪穴建物跡と大型蛤刃石斧や扁平片刃石斧、茨城県地方の十王台式土器の系譜を引くとみられる土器が出土している。安堀町から波志江町にかけて所在する中組遺跡は、大間々扇状地の端部が古利根川流路の低地帯に接する位置にあたり、中期～後期の竪穴建物跡がみつかっている。これら二遺跡は、当該地域でも数少ない中期の遺構を検出した遺跡として重要である。また、後期における県内主体の土器形式である樽式土器を中心とする遺跡としては、大道西遺跡、合同庁舎北遺跡などがあり、栃木県地方に特有な二軒屋式系の土器も出土している。これらの時期には、いまのところ本遺跡周辺では大規模な集落は見つかっていない。

赤城山南麓地域には、後期後半になると、壷型・甕型土器の口頸部に残す輪積痕と縄文の施文を特徴とする赤井戸式土器が樽式土器と混在して出土するようになってくる。従来、赤井戸式土器は赤城山南麓を中心に分布する土器形式ととらえられてきたが、近年、県内各地において出土事例が増加しており、必ずしも赤城山南麓に限られるものではなく、県西の鏑川流域をはじめとして、県内各地に分布していることが判明してきた。

いずれにしても伊勢崎市域では現在までの所、弥生時代の大規模な集落遺跡や耕地遺跡はまだ発見されておらず、土器の分布状況を見ても異系統の土器文化が交錯しながら進出してはいるものの、そのいずれもが完全にこの地域に根付くことはないように見受けられる。利根川流域の大規模な湿潤地帯を開発の対象とするには未だ至らない、技術力の足りなさ、未熟さを示しているようにも感じられる。

なお、本遺跡や、隣接する舞台遺跡などでは、弥生時代の遺構・遺物は全く発見されていない。

第４項　周辺の古墳時代遺跡の動向

昭和10年（1935）から翌年にかけて群馬県が県下に残存する古墳を一斉に調査し、その結果として昭和13年（1938）に公刊された『上毛古墳綜覧』には、本遺跡周辺に所在が確認出来る古墳として847基が収録されている。その中で、上植木地区に所在する古墳は79基にものぼる。本遺跡の上武道路の建設に伴う調査箇所では、同文献に載る「殖蓮村第65號」（上植木光仙房遺跡上武道路調査箇所10号墳、５世紀後半）・「殖蓮村第66號」（上植木光仙房遺跡上武道路調査箇所１号墳、７世紀）「殖蓮村第67號」（上植木光仙房遺跡上武道路調査箇所９号墳、時期不詳）の３基が調査された。それらの他、墳丘が完全に削平されて同文献に掲載されていない古墳を含めて、上武道路の建設に先立つ調査範囲からは、本遺跡に於いて10基の古墳が検出、調査されている。また、後述するように、本遺跡本調査箇所Ｅ区からＦ区にかけて検出・調査された古墳は、『上毛古墳綜覧』に掲載された前方後円墳「殖蓮村第62號」墳の後円部に相当するものと考えられる。

伊勢崎市域における古墳時代の遺跡で最も古いものは、粕川と広瀬川に画された伊勢崎台地上、両河川に

よって形成された沖積平坦面に立地する喜多町の喜多町遺跡である。遺構は確認されていないが、地表面下60cmの黒色シルト質泥土中から、壷、甕、台付甕、器台などが出土している。壷は、いずれも赤色塗彩され、一方はいわゆるパレススタイルの壷で胴上部に貼付突帯があり、その下に３段の横線文を施し、間を鋸歯文でうめている。台付甕はＳ字状口縁を持つものが含まれている。東海地方の流れをくむもので、いずれも４世紀前半代、弥生土器から土師器への過渡的な様相を有する土器と位置づけられている。また、地域における最古の古墳は、華蔵寺町の華蔵寺山古墳で、４世紀代と考えられている。

北関東自動車道や上武道路の建設に伴って調査された本遺跡では、それぞれ古墳時代前期の集落跡が検出・調査されており、北関東自動車道の建設に伴って本遺跡の東側に隣接して発掘調査された舞台遺跡では、古墳時代前期の竪穴建物跡が150棟と前方後方型２基をふくむ10基もの周溝墓が検出されているが、同遺跡における集落と周溝墓群と中心は、本遺跡からは離れた東よりの地域である。古墳時代前期の集落と墓域は、さらにその周囲の三和工業団地遺跡群や本遺跡上武道路調査箇所の南東に隣接する上植木壱町田遺跡などにも及んでいる。

弥生時代後期の遺跡が無いことと併せて考えれば、本遺跡及びその周辺が古墳時代前期に開発が進んだ様子が判明する。

なお、本遺跡北関東自動車道調査箇所の最東端では、後述するように粘土採掘坑跡が383基検出されているが、大半は古墳時代後期のものとは言え、４世紀代のものが１基だけ存在している。

古墳時代中期は、この地域一帯はある種の空白地帯であるが、古墳時代後期の集落は、本遺跡北関東自動車道調査箇所の東に隣接する舞台遺跡、本遺跡上武道路調査箇所の南東側に隣接する上植木壱町田遺跡、さらにそれらの周囲に位置する三和工業団地遺跡群などに展開し、舞台遺跡の中央部南寄りの箇所を中心に竪穴建物跡71棟と円形周溝状に検出された平地建物跡２棟が調査されている。後期前半のものが多い。また、上植木壱町田遺跡でも古墳時代後期の竪穴建物跡が１棟検出されている。、

本遺跡の上武道路調査箇所では、先述したように後期の古墳が10基検出、調査されている。箱式棺状竪穴式石室を有するものと横穴式石室のものがあり、５世紀後半～７世紀と考えられている。また、本遺跡の北関東自動車道調査箇所では、後期の古墳が２基検出、調査されている。粕川左岸にはほぼ同時期の本関町古墳群が展開しており、本遺跡で検出された古墳も、この古墳群の一環のものと考えられる。

本遺跡では県道伊勢崎大間々線調査箇所、上武道路調査箇所、北関東自動車道調査箇所いずれの調査箇所においても古墳時代後期の集落は検出されていない。本遺跡ではいずれの調査箇所においても古墳が検出されているところからみれば、東側の舞台遺跡で検出された居住域と、本遺跡で検出された墓域という土地利用の区別が存在していたのかもしれない。

なお、本遺跡北関東自動車道調査箇所の最東端では、両側を河川に挟まれた低地から古墳時代後期の粘土採掘坑が383基検出されている。本遺跡の集落と舞台遺跡の集落との間の、集落が立地する台地より標高が約１m低い低地帯からである。長径1.3mから1.5m前後の土坑で、採掘された粘土は暗色帯下部もしくは暗色帯を抜いたところで止まっていることから、姶良Ｔｎ火山灰（AT）下の暗色帯に相当する粘土を主として採集しているものと考えられる。大半は古墳時代後期のものと考えられている（中束耕志「古代群馬の粘土採掘坑－波志江中宿遺跡をめぐって－」『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』22　2004）。

第５項　周辺の奈良・平安時代遺跡の動向

周知の通り、７世紀後半、古代国家が成立し地方支配体制が確立すると、地方は各段階に応じて国・評（のち郡）・五十戸（のち里、さらに郷）という地方行政組織に編成された。本遺跡の所在する場所は、古代においては佐位郡に当たる。『和名抄』によれば佐位郡には、平安時代中期には名（多）橋、雀部、美侶、佐位、淵名、岸新、反治、驛家の８つの郷が存在していたことが知られ、『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条によれば、この地域には佐位駅家が設置されていたことがわかる。『和名抄』にみえる上野国佐位郡「驛家郷」の存在は、郡内の駅家設置を裏付けている。

歴史地理学者の金坂清則氏は、中世「東道」を古代の東山道駅路の後身と考え、中世東道に沿った伊勢崎市上植木町から三和町一帯に佐位驛家の存在を想定している（「上野国府とその付近の東山道、および群馬・佐位駅家について」『歴史地理学紀要』16　1974、「上野国」藤岡謙二郎編『日本古代の交通路』Ⅱ　1974）。すなわち本遺跡周辺である。しかしながらこの金坂氏が想定するルート上の、現在の利根川以西、群馬駅家から佐位駅家を経て新田駅家・下野国足利駅家に至る道筋では、伊勢崎市赤堀酒匂遺跡第二地点ただ一箇所において平成14年に古代の道路遺構が検出されているに過ぎない。また、これまで金坂氏の想定ライン上では、前橋市小島田町・今井町、伊勢崎市赤堀下触牛伏、本遺跡周辺などにおいてこれまでも発掘調査の機会があったにもかかわらず、古代の道路遺構は全く検出できていない。

金坂氏が、佐位駅家を伊勢崎市上植木町付近に想定した理由は、『延喜式』雑式駅路辺植菓条に、「駅路には果樹を植え、往来の人びとが休息できるように計らう」ことを命じていることに鑑み、「上植木」という地名が、それに由来するものと考えてのことであるが、根拠としては乏しいだろう。佐位郡内随一の寺院である上植木廃寺や佐位郡家と考えられる三軒屋遺跡が、いずれも「上植木」の地に存在していることからみれば、自ずから佐位駅家もそれら郡官衙や、郡の主要寺院とかけ離れた場所に位置しているとは考えにくい。

本遺跡の北約400mのところの微高地上に、中世の「東道」約200m北をほぼ並行して西北西から東南東方向の直線的な地割が数kmにわたって検出されており、一部では伊勢崎市と旧赤堀町との市町境になっていた。古代道路研究の第一人者である木下良氏は、この直線的な地割りを古代東山道駅路の名残とみて、「古あづま道」と呼称している（「上野・下野両国と武蔵国における古代東山道駅伝路」『栃木史学』４　國學院大學栃木短期大学史学会　1990、「近年における古代官道の研究成果について」『国史学』145 國學院大學国史学会 1990）。また、歴史地理学者の木本雅康氏は、この木下良氏想定のラインに接する、伊勢崎市赤堀五目牛に所在する小独立丘陵「洞山」一帯の古代遺物散布地周辺に佐位駅を想定している（「東山道」、木下良編『古代を考える　古代道路』吉川弘文館 1996）。いずれにせよ今後の詳細な調査と具体的な検証が待たれるところである。

本遺跡で検出された当該期の集落は佐位郷か驛家郷に属するものと考えられているが、本遺跡において手がかりになるような文字資料が今のところまだ確認されていないので、定かではない。古代の地方行政組織は、本来的には人間集団の集合体を編成するものであって、現在の自治体のように領域としての範囲が必ずしも明確なものではない。しかしながら、本遺跡及び周辺で検出された集落が、里（のちに郷）という行政単位に組織されないことはあり得ないわけであるから、そのような意味においては、本遺跡で検出された集落は、律令制下に佐位郷あるいは駅家郷を構成する集落の一つであるとみられよう。前述したように、木下良・木本雅康両氏が言われるように、東山道駅路が本遺跡のすぐ北側を通っていたとするならば、佐位駅家

はまさしく本遺跡の近辺に想定できるわけであり、そうであるならば、本遺跡の集落は駅家郷を構成する集落の一部である可能性が高くなる。

本遺跡の南、約1.3kmの位置には、群馬郡の山王廃寺（前橋市総社町）や新田郡の寺井廃寺（太田市天良町）等と並ぶ、７世紀後半に創建され11世紀頃までは存続していたと見られる上毛野地域最古級の寺院跡の一つである上植木廃寺が所在し、佐位郡の郡名を負ったであろう郡内随一の寺院跡と考えられている。また、さらにその１km南には、佐位郡家正倉院の遺構と考えられる倉庫群が検出された三軒屋遺跡が所在し、本遺跡から約１～２km南のエリアが律令制下の佐位郡の中枢地帯であったことが判明している。
本遺跡周辺も、そうした郡政中枢域縁辺地域における遺構群として把握する必要がある。

本遺跡の南東に近接する上武道路と北関東自動車道伊勢崎インターチェンジとの連絡道路の建設に伴って当事業団が調査した下植木壱町田遺跡、本遺跡上武道路調査箇所の東に隣接する上植木壱町田遺跡などでは、奈良・平安時代の竪穴建物跡をはじめとし、多くの遺構が検出されている。舞台遺跡では51棟の竪穴建物跡と12基の須恵器窯跡が検出されており、本県の平地部における窯跡の稀有な調査例として注目された。それらの竪穴建物跡群及び窯跡群ともいずれも９～10世紀代のものである。確実に須恵器生産工人関連施設と指摘できる竪穴建物跡が６棟存在する反面、全般的には竪穴建物跡群と窯跡群との有機的な関連については今ひとつ不明確な点も残っている。

本遺跡上武道路調査箇所では、奈良時代の終末頃から竪穴建物がつくられはじめ、集落の主体は平安時代に入ってからである。竪穴建物跡が123棟、掘立柱建物跡２棟、小鍛治遺構２基等が検出されている。東側に隣接する上植木壱町田遺跡や書上上原之城遺跡、粕川対岸の下触向井遺跡、鷹巣遺跡、五目牛東遺跡等とならんで一帯では多量の墨書土器が出土した。本遺跡北関東自動車道調査箇所においても奈良・平安時代の竪穴建物跡は50棟にのぼり、同時期の須恵器の窯跡が12基検出されている。平地における須恵器窯の例としてか東に隣接する舞台遺跡で検出された須恵器窯跡群と比べると、年代的にやや遅れて出現するも、ほぼ一致しており、関連が想定できる。また、前述した粘土採掘坑のうち４基だけは平安時代のものと考えられており、当遺跡で検出された12基の平安時代窯跡との関連は、十分考慮に入れるべきであろう。

さらに近接する三和工業団地遺跡群においても、本遺跡北関東自動車道調査箇所検出のものとほぼ同時期の須恵器窯が二基検出されている（伊勢崎市教育委員会『三和工業団地Ⅱ～Ⅳ遺跡　三和工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2004）。

第６項　中世以降における歴史的環境と遺跡の動向

12世紀、上野国の平野部には天仁元年（1108）の浅間山大噴火による降灰によって壊滅した耕地を復興する過程で、各地で荘園や御厨が成立していった。仁安３年（1168）の「新田義重譲状」に示されている新田荘もそれらの一つとして形成された荘園である。周知のように、源義家の三男である義国が勅勘を被って坂東に下向、土着し、その長男である源義重（？～建仁２年（1202））が上野国新田郡に入部して開発し、久寿元年（1154）頃には新田郡南西部の「こかんの郷々」とよばれた19郷からなる荘園を成立させ、これを権門貴族である藤原忠雅（領家）と金剛心院（本所）とに寄進した。義重は、保元２年（1157）、下司職に任命され、新田荘を立荘、新田庄司を称した。

本遺跡地は新田荘の東隣に位置する淵名荘に属したものと考えられる。佐位郡の東側を早川、西側を粕川

に囲まれた範囲。史料上の初見は文永９年（1272）11月18日付の世良田長楽寺住持院豪置文（長楽寺文書／『群馬県史』資料編５所収）に「渕名庄政所黒沼太郎入道殿」とみえることである。荘園成立の時期を明示する史料はないが、戦国期の仁和寺領文書目録（文明10年８月仁和寺文書／『群馬県史』資料編７）および仁和寺法金剛院文書（天文２年11月8日法金剛院文書／『群馬県史』資料編７）に「上野国淵名庄」がみえる。天文２年（1533）11月８日付の法金剛院所領目録には、淵名庄について「田百九町五段廿五代、畠十八町二段十代」とあり、法金剛院が本所であったことがわかる。法金剛院は周知の通り仁和寺の御堂の一つとして平安末期の大治５年（1130）に、鳥羽天皇中宮であり崇徳・後白河両天皇の母である待賢門院（1101～1145）により再興された。淵名荘もその頃、平安末期に立券されたものと考えられている。秀郷流藤原氏の一族に「淵名大夫兼行」なる人物名がみえ（『尊卑分脈』）、この人物によって開発された荘園とみる説が有力であるが、実証すべき史料は何もない。

その後、鎌倉時代には、頼朝の重臣中原親能の子・季時が淵名の苗字を名乗り（「大友系図」／『続群書類従』６上）、その後、一時は下野国の豪族である小山氏が本荘の地頭職を有したこともあり（年月日不詳「小山文書」／『埼玉県史』資料編５）、さらに鎌倉時代末期には得宗領になっていた可能性が高いという（『新田町誌』通史編１）。室町～戦国期には豪族赤堀氏の勢力下にあったようだが、東に隣接する新田荘の故地を勢力下におく新田本宗家格の岩松氏がしばしば当荘に侵入して戦闘が交わされることがあったようである。

本遺跡、北関東自動車道調査箇所の東に接する舞台遺跡では、灯火器と考えられる中世初期のかわらけ皿が50点以上とまとまって出土した78号溝跡が検出されているくらいで、明確な中世の遺構は全く検出されていない。この灯火器が50点以上まとまって出土した遺構については、調査担当者は祭祀・儀礼等の行為の存在を想定している。ただ、詳細な時期が不明な小規模な掘立柱建物跡が全部で40棟検出されており、その中に中世の建物遺構が含まれる可能性はある。また、同様に、時期不明の溝跡、土坑跡、井戸跡のなかにも中世期のものが存在している可能性はある。

本遺跡上武道路調査箇所の南東に隣接する上武道路から北関東自動車道伊勢崎インターチェンジへの連絡道路の建設に伴って当事業団が発掘調査を実施した下植木壱町田遺跡からは、一片約40m弱四方の方形の屋敷跡が検出されている（(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第248集　下植木壱町田遺跡 北関東自動車道伊勢崎インターチェンジ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』1999)。存続期間は長く、14～16世紀に及んでいる。

この、比較的小規模な屋敷跡は、史料等に全くみえないので、館主や造営主体など、今のところ全く不明である。しかしながら、鯉沼を挟んだ西側には約150m四方の「齋藤屋敷」と称される16世紀代、齋藤氏の居館とする巨大な方形居館の存在が想定されているが（群馬県教育委員会『群馬県の中世城館跡』 1988)、周辺部における調査でも関連する遺構等は発見されていない。

また、本遺跡北関東自動車道調査区の北西側に近接する三和工業団地遺跡では、中世初期の馬房跡とみられる掘立柱建物跡群や柵列で方形に囲まれた小区画の繋飼場風の遺構も検出され、本遺跡周辺での本格的な馬の飼育の様相が明らかになっている（伊勢崎市教育委員会『三和工業団地Ⅱ～Ⅳ遺跡　三和工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2004)。

戦国期、上杉氏系、小田原北条氏系等在地勢力の支配を経て、関ヶ原の戦いの後、慶長６年（1601）に勢多郡新川の稲垣長茂が佐位郡内１万石を与えられて伊勢崎に入封した。子の稲垣重綱のときに、越後国藤井へ移封となり、前橋藩主の酒井重忠の嫡男で、後に大老になった酒井忠世が５万2000石を与えられて伊

勢崎に移るが、酒井忠世が前橋藩を継ぐと伊勢崎藩領はそのまま前橋藩領に組み込まれた。

酒井忠世は寛永13年（1636）に死去し、同年のうちに忠世の後を継いだ嫡子・酒井忠行も死去したため、酒井氏の家督と前橋藩は忠行の嫡男・忠清が継いだ。このとき忠清の弟・忠能は兄である前橋藩主より２万2500石を分与され、伊勢崎藩主となった。しかし寛文２年（1662）６月に酒井忠能は信濃小諸藩に移封され、伊勢崎藩は廃藩となる。天和元年（1681）、酒井忠清の次男・忠寛が兄・忠挙より２万石を分与され、前橋藩の支藩的な性格を帯びて、伊勢崎藩が再興される。その後、前橋藩主酒井氏は姫路に移封となったため、この伊勢崎藩は姫路藩の支藩的存在となり、幕末まで酒井氏による支配が続いた。

遺跡の所在する伊勢崎市三和町は、江戸時代から明治22年（1889）の町村制施行までの間、「上植木村」であった。上植木村は、『上植木元文書上帳』（山田武麿・萩原進編「上植木元文書上帳」群馬県文化事業振興会編『群馬県史料集』２ 風土記篇（Ⅱ）1967）によると元文３年（1738）には「百姓家数二百軒、職人二人」と記載があり、典型的な農村地帯の様相を呈していたことが判明する。田は、「四十三町八反二畝二十四歩」、畠は「百二町一反四畝四歩」と記されていて、畠が田の約倍以上の面積であったことが判明する。

嘉永７年（1854）の上植木村絵図（伊勢崎市史編纂室『伊勢崎の村絵図』１）によると、水田は村の東縁と西縁の一部、それに南端に存在するのみであり、多くは畠地になっている。この状況は明治時代初期にも変わらず、明治６年（1873）の地引絵図（群馬県立文書館保管、(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第80集　上植木光仙房遺跡 一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1988、361頁に引用）にも地目は畠が多いという。

嘉永７年上植木村絵図によれば、本遺跡の上武道路調査箇所は、上植木村北部を南東から北西に横切っており、その位置は集落の北端付近に当たり、中央部は屋敷地にかかっている。上武道路調査箇所では、現代まで続けられた耕作に伴う表土の削平・攪乱によって近世・近代の遺構の残存状態が極めて悪く、この絵図にみえる屋敷跡を明確に裏付けるような遺構は一切検出されていない。調査区中央部から東にかけては、多数の時期不明の溝跡、土坑跡、井戸跡等が検出されており、あるいはこれらの遺構群の一部が、近世の屋敷跡に関わる遺構である可能性は捨てきれない。また、これらの遺構や表土中からは、多量の近世陶磁器片が出土しており（(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『(財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第80集　上植木光仙房遺跡 一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1988、358～359頁）、絵図にみえる屋敷地に関わる遺物とも考えられる。

また、本遺跡の北関東自動車道調査箇所は、嘉永７年村絵図によれば、ほぼすべて畠地である。明確な中世の遺構はほとんど無く、遺物も出土しておらず、その東に接する舞台遺跡でも、近世の遺構は全く検出されていない。

県道伊勢崎大間々線に関わる調査区に関しては、嘉永７年の村絵図を見ると、現在の県道伊勢崎大間々線とほぼ同位置に、その前身とみられる南北に延びる道路が描かれており、今回の調査区を東西に分断するこの県道の起源は、非常に古いようである。今回の調査対象範囲の北に寄った部分には７軒の屋敷地が明示されているが、全体的に後世の攪乱が甚だしかったため、これら屋敷に関わる明確な遺構は検出できなかった。

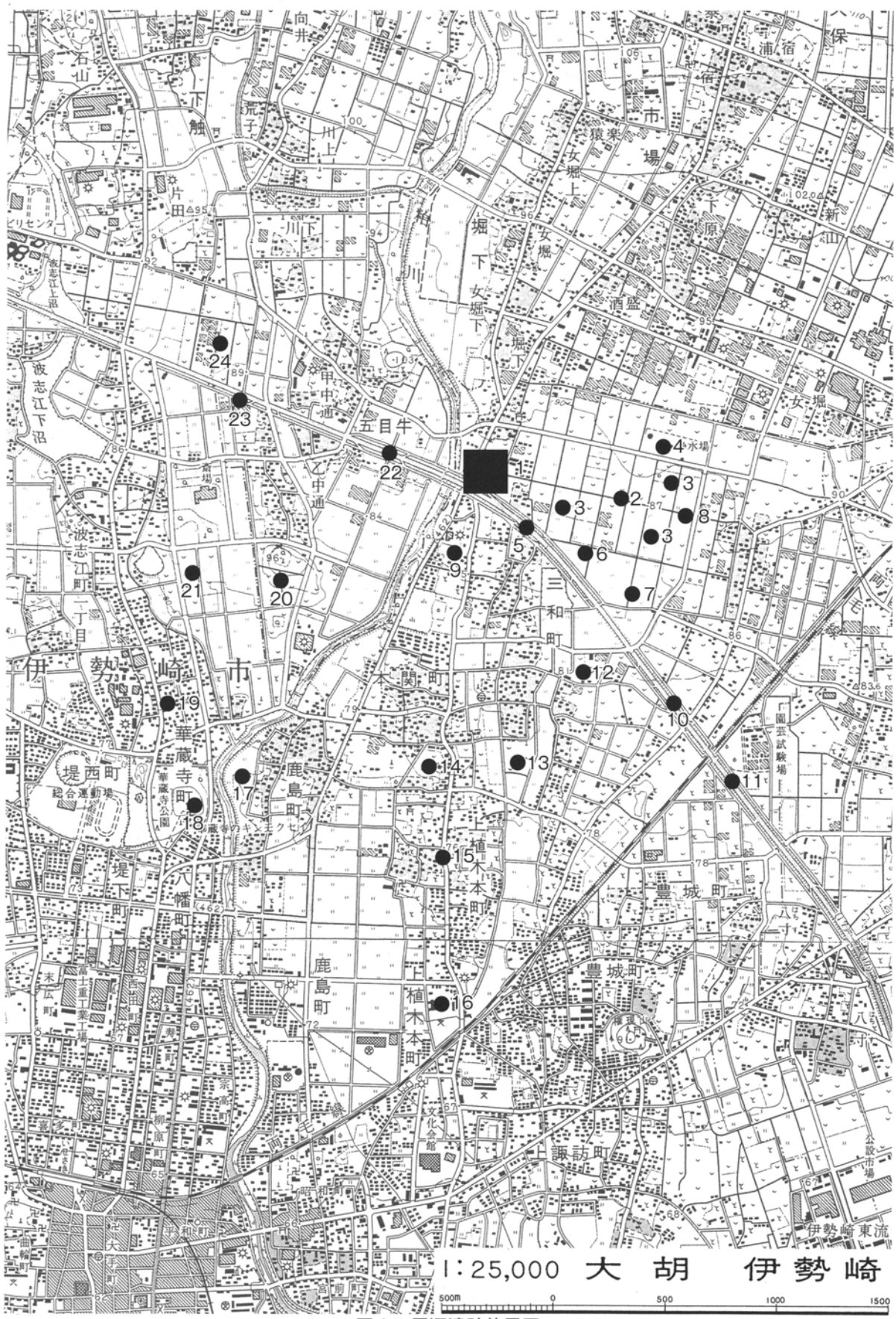

1:25,000 大胡 伊勢崎
500m 0 500 1000 1500
伊勢崎市
三和町
本関町
上植木本町
鹿島町
豊城町
諏訪町
堤西町
堤下町
八幡町
華蔵寺町
五目牛
乙中通
甲中通
波志江下沿
波志江町
伊勢崎東流
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

図１　周辺遺跡位置図

表１　周辺の主な遺跡

番号	遺　跡　名	所在地	概　　要
1	上植木光仙房	三和町	旧石器、縄文土器、古墳、古墳時代前期・後期集落・粘土採掘坑、奈良平安時代集落・須恵器窯跡・粘土採掘坑、中近世溝跡・土坑跡
2	舞台	三和町	旧石器、縄文前期竪穴建物跡・縄文時代陥穴、古墳時代前期周溝墓群・集落跡、古墳時代後期集落跡、奈良平安時代集落跡・須恵器窯跡、
3	三和工業団地	三和町	旧石器、縄文時代前期竪穴建物跡、古墳時代前期集落・周溝墓、後期集落、奈良平安時代集落・須恵器窯跡、中世馬房・繋飼場跡
4	書上浄水場	三和町	縄文時代前期土器
5	上植木壱町田	三和町	縄文時代中期～奈良・平安時代集落、中世井戸跡
6	下植木壱町田	三和町	旧石器、古墳時代前期集落・後期集落、奈良・平安時代集落・水田、中世方形居館跡
7	鯉沼東遺跡	三和町	古墳時代後期～平安集落
8	大(男)井戸	三和町	湧水点、古墳～奈良・平安～中世溜め井・溝跡
9	本関町古墳群	三和町～本関町	後期古墳群、本遺跡で一部検出
10	書上本山	三和町	旧石器、古墳時代後期集落、奈良・平安時代集落
11	書上上原之城	豊城町	平安時代集落
12	高山古墳群	三和町	終末期古墳群
13	丸塚山古墳	上植木本町	５世紀後半、全長81mの帆立貝式前方後円墳、後円部に箱式棺状竪穴式石室３基
14	上植木廃寺	上植木本町	７世紀後半創建寺院
15	恵下	上植木本町	後期古墳、古墳時代前期集落、奈良・平安時代集落
16	三軒屋	上植木本町	奈良・平安時代佐位郡家正倉院
17	上西根	鹿島町	古墳時代前期周溝墓・後期古墳、古墳時代後期～奈良時代集落
18	華蔵寺裏山古墳	華蔵寺町	前期古墳、全長40m前方後円墳
19	台所山古墳群	波志江町	前期古墳群
20	地蔵山古墳群	波志江町	前期～後期古墳群
21	蟹沼東古墳群	波志江町	後期～終末期古墳群
22	五目牛清水田	赤堀五目牛	縄文時代前期竪穴建物、古墳時代前期集落・古墳、古墳時代後期～奈良時代集落、平安時代水田
23	堀下八幡	波志江町	旧石器、縄文時代前期竪穴建物、奈良・平安時代集落
24	八幡林古墳群	赤堀五目牛	縄文時代前期竪穴建物、後期～終末期古墳群

（文献）

1．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上植木光仙房遺跡－一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1988

・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『光仙房遺跡－北関東自動車道（高崎～伊勢崎地域）埋蔵文化財発掘調査報告書』2003

・本報告書

2．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『舞台遺跡（1）～（3）－北関東自動車道（高崎～伊勢崎地域）埋蔵文化財発掘調査報告書』2001～5

3．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『三和工業団地Ⅰ遺跡－三和工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』1999～2001

・伊勢崎市教育委員会『三和工業団地Ⅱ～Ⅳ遺跡－三和工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』2004

4．・伊勢崎市『伊勢崎市史 通史編』1　1987

5．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木壱町田遺跡－一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1988

6．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『下植木壱町田遺跡－北関東自動車道伊勢崎IC建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1999

7．・伊勢崎市教育委員会『鯉沼東遺跡・舞台遺跡』 1977
8．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『舞台遺跡（3）・大井戸遺跡－北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書』 2005
9．・伊勢崎市『伊勢崎市史 通史編』1 1987
10．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『書上本山遺跡－一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1985
11．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木壱町田遺跡－一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1988
12．・伊勢崎市教育委員会『高山遺跡・天ヶ堤遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』 1977
13．・伊勢崎市『伊勢崎市史 通史編』1 1987
14．・伊勢崎市教育委員会『上植木廃寺発掘調査概報』Ⅰ　1985
15．・伊勢崎市教育委員会『恵下遺跡』 1979
16．・伊勢崎市教育委員会『三軒屋遺跡現地説明会資料』 2005
17．・伊勢崎市教育委員会『上西根遺跡』 1985
18．・伊勢崎市『伊勢崎市史 通史編』1 1987
19．・伊勢崎市『伊勢崎市史 通史編』1 1987
20．・赤堀村教育委員会『赤堀村地蔵山古墳』Ⅰ　1978
・赤堀村教育委員会『赤堀地蔵山古墳』Ⅱ　1979
21．・伊勢崎市教育委員会『蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡』 1978
・伊勢崎市教育委員会『宮貝戸古墳群・蟹沼東古墳群』 1983
・伊勢崎市教育委員会『蟹沼東古墳群』 1988
22．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『五目牛清水田遺跡－一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1992
23．・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『堀下八幡遺跡－一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1990
24．・赤堀村教育委員会『八幡林古墳群及び縄文住居調査概報』 1982

第３章　発見された遺構と遺物

第１節　Ａ区で検出された遺構と遺物

平成11年度に発掘調査されたＡ区は、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線を挟んだＢ区とともに調査区域の最北端である。本調査区からは、溝跡16条、土坑跡23基、古墳１基が検出された。

第１項　古墳跡

・１号墳跡

調査区の最南端において古墳跡が１基検出された。全体の約半分強を調査することが出来たが、残りは現在の主要地方道伊勢崎・大間々線の下に入っており、調査は不可能であった。周溝の最大上幅は1.98m・下幅は1.26m・深さ0.56mで、外径は11.9m・内径は8.71mほどであった。周溝の底部からは古墳造営時の周溝掘削時の一単位の痕跡とみられる短径0.9m前後×長径1.4m前後の隅丸長方形状の掘削痕跡が並行して検出された。西側約５割弱が現道下に入っており、調査が不可能であったので、墳形の全容は不明であるが、周辺部から検出されている古墳の形状等と勘案して、円墳であると想定できる。

周溝を埋めていた土は、Hr-I及びAs-C軽石を含む黒褐色土をベースとする土である。なお、墳丘の封土及び主体部は完全に削平されており、墳丘周辺や周溝内から、墳丘に貼られた葺石の痕跡や残骸、あるいは埴輪片は全く出土しておらず、周溝内の遺物も極めて少ないため、詳細な年代は不明である。

本遺跡の上武道路調査箇所では、現・伊勢崎・大間々線の西側の調査区から４基、東側の調査区から６基の計10基の古墳が検出されている。

いずれも円墳で、墳丘の封土は完全に削平されていたが、主体部の一部や痕跡を調査できた古墳が７基あり、それらはいずれも輝石安山岩の川原石や割石を用いた横穴式石室か箱式棺状竪穴式石室である。また、これらの古墳には、いずれにも墳丘部の葺石や埴輪等は認められなかった。Ａ区１号墳にも葺石や埴輪は全く認められないので、時期的にこれらの古墳に近いものと考えられる。

また、北関東自動車道調査区では、現・伊勢崎・大間々線の東側と西側で１基づつ計２基の古墳が検出されているＡ１号墳では埋土中から埴輪片が出土しているが、Ｂ１号墳からは埴輪は全く出土していない。遺物の年代からみてＢ１号墳はかなり終末期の新しい時期の古墳であると考えられる。

このような周辺での調査成果を勘案すると、本遺跡の伊勢崎・大間々線調査区Ａ区で検出された１号墳の年代も、主体部の構造が全く不明で、かつ出土遺物が皆無でありながらも、周辺における古墳と同様、６世紀前半～７世紀初頭の年代を想定することが出来そうである。

今回、伊勢崎・大間々線調査箇所Ａ区において検出された１号墳を含めて、これらの古墳は前述したように粕川左岸の段丘上に展開する本関町古墳群の一画を形成していたものと考えられる。

このＡ区１号墳は、殖蓮村62号墳よりも、さらに北に200m上がった位置に存在しており、本関町古墳群の範囲は、これまで考えられていたよりもさらに北に展開していたことが判明した。

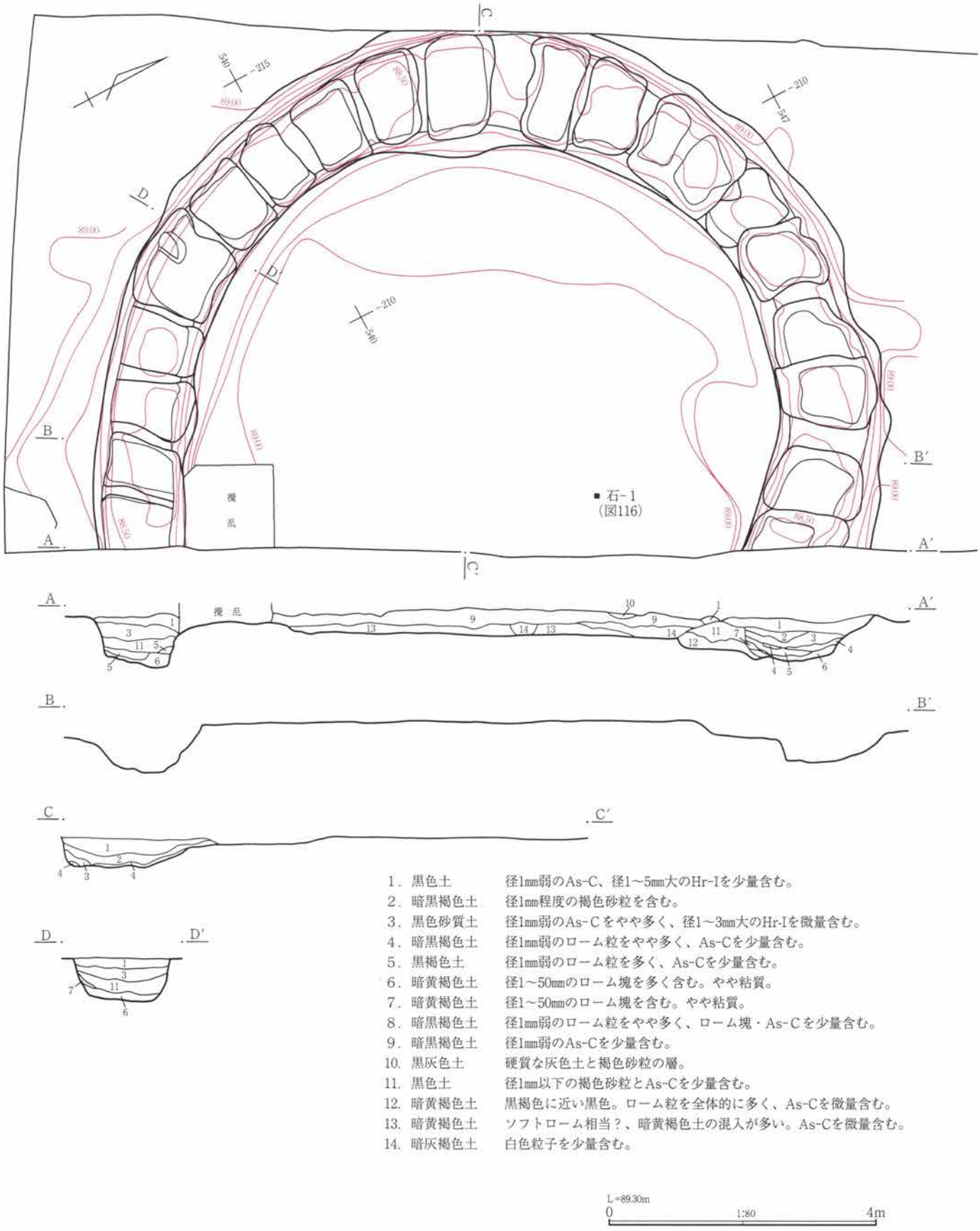


図２　Ａ区１号墳　平面図・土層断面図・エレベーション図

第２項　溝跡

Ａ区では、溝跡は16条検出されている。東西方向に流れるものが圧倒的に多く、西北西－東南東方向のものが多い。東西方向に限られているため、調査区外に続いているものが少なくなく、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線を東に越えたＢ区で東側の継続部分が検出されているものもあるが、Ｂ区自体も調査区の東西幅が狭いために、結局、全貌が明らかにしがたい部分が少なくない。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの溝跡の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは溝跡自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（１）１号溝跡

位置：Ａ区の南端部寄り、X545・Y-200～-215。　**重複**：２・３・４号溝跡及び６号土坑跡の一部を破壊する。　**規模と形状**：確認全長９ｍ・最大上幅0.78m・最大下幅0.41m・深さ0.18m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。東～西方向に流れ、両端とも調査区外に出る。　**埋土**：暗灰色土をベースとする。

（２）２号溝跡

位置：Ａ区の南端部寄り、X545・Y-210。　**重複**：１・４号溝跡に破壊される。　**規模と形状**：確認全長4.4m・最大上幅0.32m・最大下幅0.21m・深さ0.08m、断面は緩やかな半円状を呈する。南北方向に流れ北端は４号溝跡に、南端は上面を削平されたため不明確。　**埋土**：暗褐灰色土をベースとする。

（３）３号溝跡

位置：Ａ区の南端寄り、X545～560・Y-205～-210　**重複**：１号溝跡に一部破壊され、９号溝跡を破壊する。**規模と形状**：確認全長10.72m・最大上幅1.05m・最大下幅0.48m・深さ0.21ｍ。南北方向に直線的に流れ、北端は調査区外に出る。南端は調査区南東壁際で止まる。　**埋土**：暗褐色土をベースとする。

（４）４号溝跡

位置：Ａ区の南端寄り、X545～560・Y-205　**重複**：１号溝跡に一部破壊され、２・９号溝跡を破壊する。**規模と形状**：確認全長9.31m・最大上幅0.99m・最大下幅0.78m・深さ0.28m。３号溝跡の西側約１ｍの位置をほぼ並行して南北に流れる。北端は調査区外に出る。南端は攪乱によって破壊され未検出。　**埋土**：灰黄褐色土をベースとする。

（５）９号溝跡

位置：Ａ区の南端寄り、X545・Y-200～-210。　**重複**：３・４号溝跡・８号土坑跡に破壊される。　**規模と形状**：確認全長8.28m、最大上幅1.32m・最大下幅0.99m・深さ0.26ｍ、断面は緩やかな不整逆台形状を呈する。１号溝跡の北側約3.3ｍの位置をほぼ並行して東西方向に流れる。東端は８号土坑跡に破壊され、西端は調査区外に出る。　**埋土**；暗褐色土をベースとする。

1～4・9号溝跡

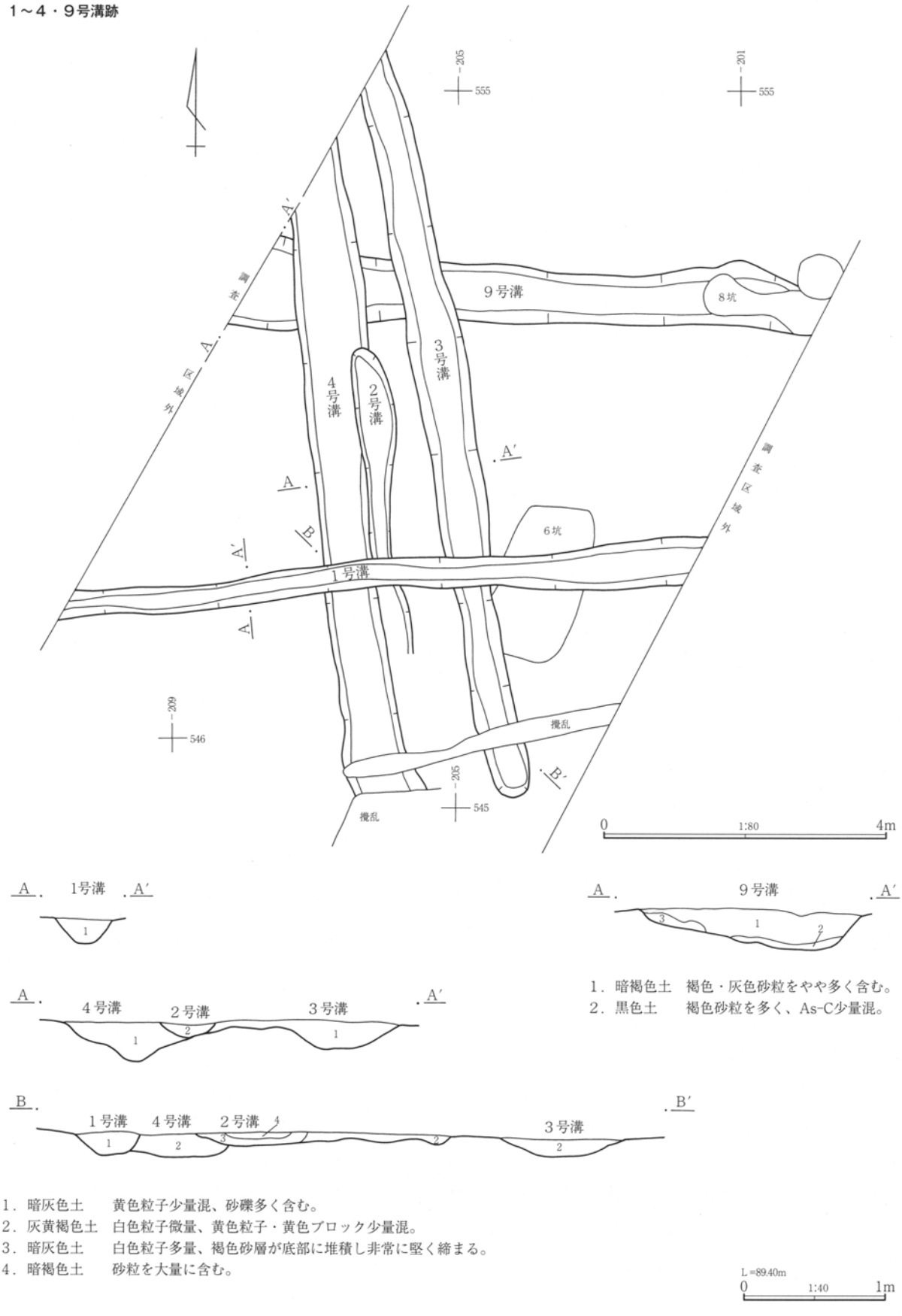


図３　Ａ区１～４・９号溝跡　平面図・土層断面図

（６）６号溝跡

位置：Ａ区の中央部南寄りの位置、X555・Y-190～-210。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長7.92m・最大上幅0.81m・最大下幅0.42m・深さ0.41m、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。

（７）３０号溝跡

位置：Ａ区中央部南寄り、X555・Y-190。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長2.01m・最大上幅0.52m・最大下幅0.21m。北東～南西方向。両端ともに攪乱によって破壊される。　**埋土**：暗褐色土ベース。

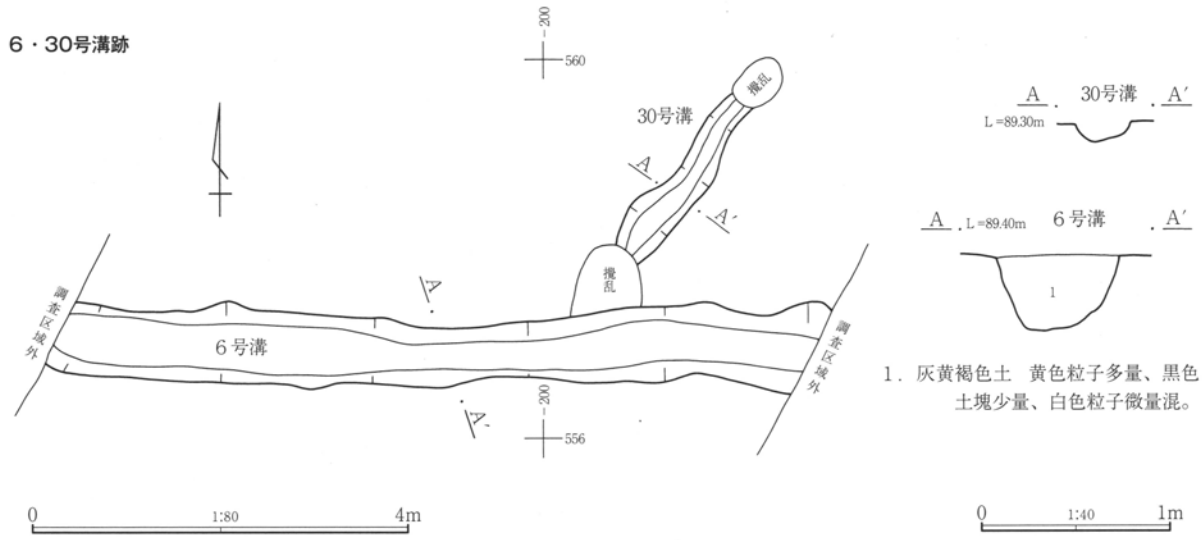


図４　Ａ区６・30号溝跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

（８）10号溝跡

位置：Ａ区の中央部やや南寄り、X565～570・Y-190～-195。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長6.72m・最大上幅0.78m・最大下幅0.39m・深さ0.48m。北西～南東方向に一直線に流れる、しっかりとした堀方を有する細い溝跡。県道を越えた東側Ｂ区33号溝跡に繋がる。　**埋土**：暗褐色土ベース。

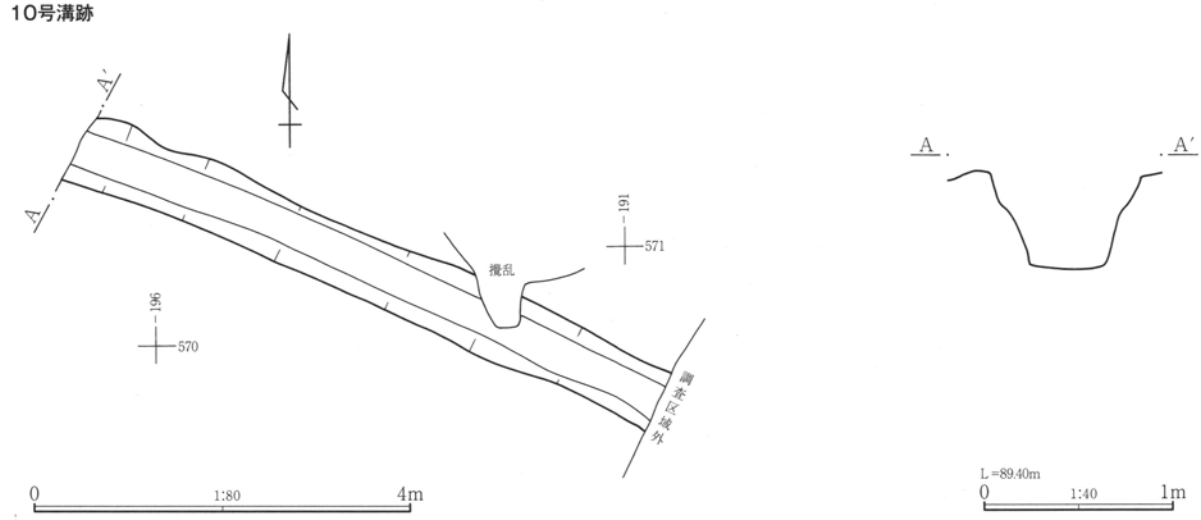
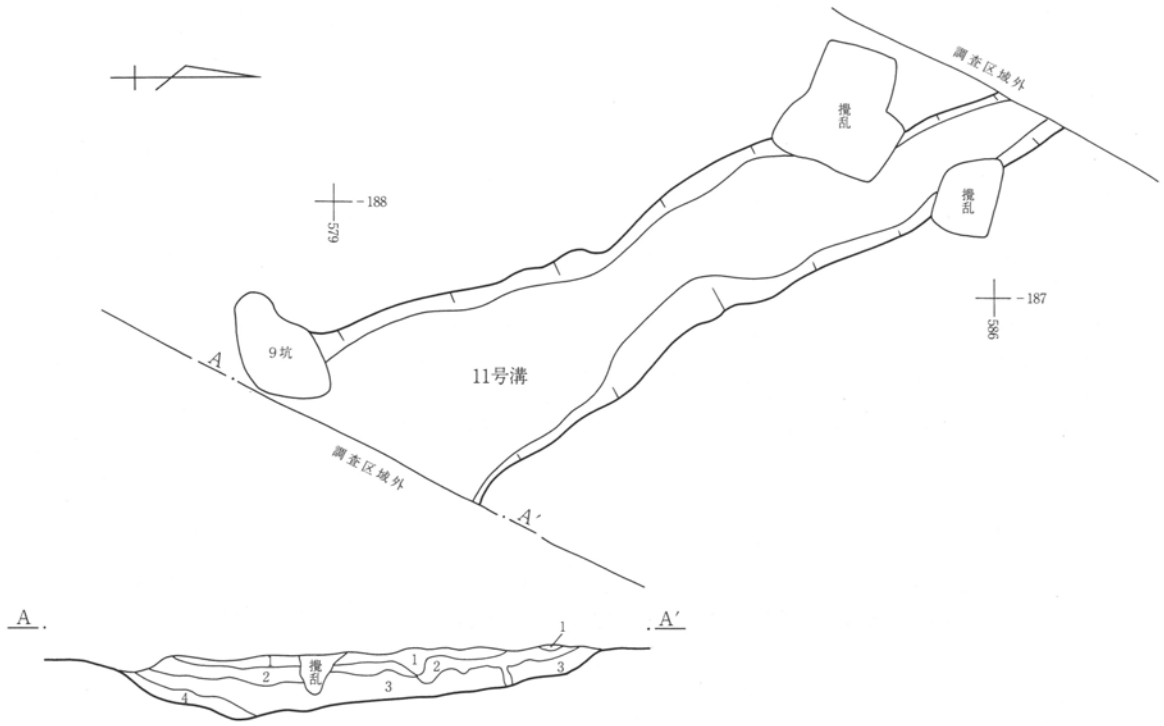


図５　Ａ区10号溝跡　平面図・エレベーション図

（9）11号溝跡

位置：Ａ区の中央部やや南寄り、X570～575・Y-180～-185。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長8.71m・最大上幅2.51m・下幅2.12m・深さ0.57m。北西～南東方向。北西よりの部分が細く、南東方向に行くに従って広くなる。現・伊勢崎・大間々線を越えてＢ区で検出された32号溝跡に繋がる。　**埋土**：暗灰色土ベース。

11号溝跡



1．黄灰色砂質土　　As-B。
2．暗灰褐色砂質土　As-B。
3．暗褐色土　　ローム粒及びローム塊を少量含む。
4．暗褐色砂質土　　灰色・褐色砂粒を主体とする。ローム粒子を少量含む。

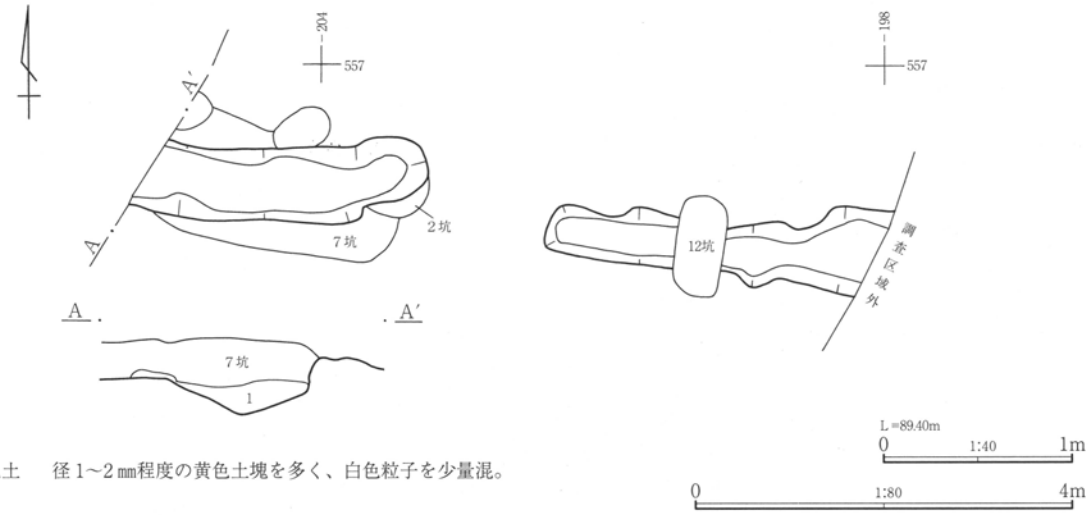
L=89.40m
0　1:40　1m
0　1:80　4m

図６　Ａ区 11 号溝跡　平面図・土層断面図

（10）12号溝跡

位置：Ａ区の南端寄り、X555・Y-185～-210。　**重複**：２・７・12号土坑跡に破壊される。　**規模と形状**：確認全長8.18m、最大上幅0.79m、最大下幅0.59m、深さ0.41m。東西方向。両端は調査区外に出る。中央部の上面が削平され検出できない。幅はほぼ一定。現・伊勢崎・大間々線を越えて東側、B区で検出された31号溝跡に繋がる。　**埋土**：暗褐色土をベースとする。

12号溝跡



1．暗褐色土　径１～２㎜程度の黄色土塊を多く、白色粒子を少量混。

図７　Ａ区12号溝跡　平面図・土層断面図

（11）14号溝跡

位置：Ａ区の南端、Ｘ535～550・Ｙ-205～-210。　**重複**：１号墳を破壊。　**規模と形状**：確認全長12.26m、最大上幅1.31m、最大下幅1.02m、深さ0.11m。16・17号溝跡とほぼ並行して北東～南西方向に流れ、南西端は調査区外に出る。北東端はX545・Y-210Gr.の北東で止まる。幅に広狭の起伏の大きい不整形の浅い溝。
埋土：暗褐色土をベースとする。

（12）16号溝跡

位置：Ａ区の南端、X535~550・Y-205～-210。　**重複**：１号墳を破壊。17号溝跡によって破壊される。
規模と形状：確認全長14.89m、最大上幅1.54m、最大下幅1.28m、深さ0.48m。14・17号溝跡とほぼ並行して北東～南西方向に流れ、南西端は調査区外に出る。北東端はX545・Y-205Gr.の北西で止まる。幅に広狭の起伏の大きい不整形の溝。　**埋土**：黒褐色土をベースとする。　**遺物**：埋土中より縄文時代石器(石鏃)が1点出土しているが、埋土の堆積状況や層位関係から見て、縄文時代の遺構とは考えにくい。

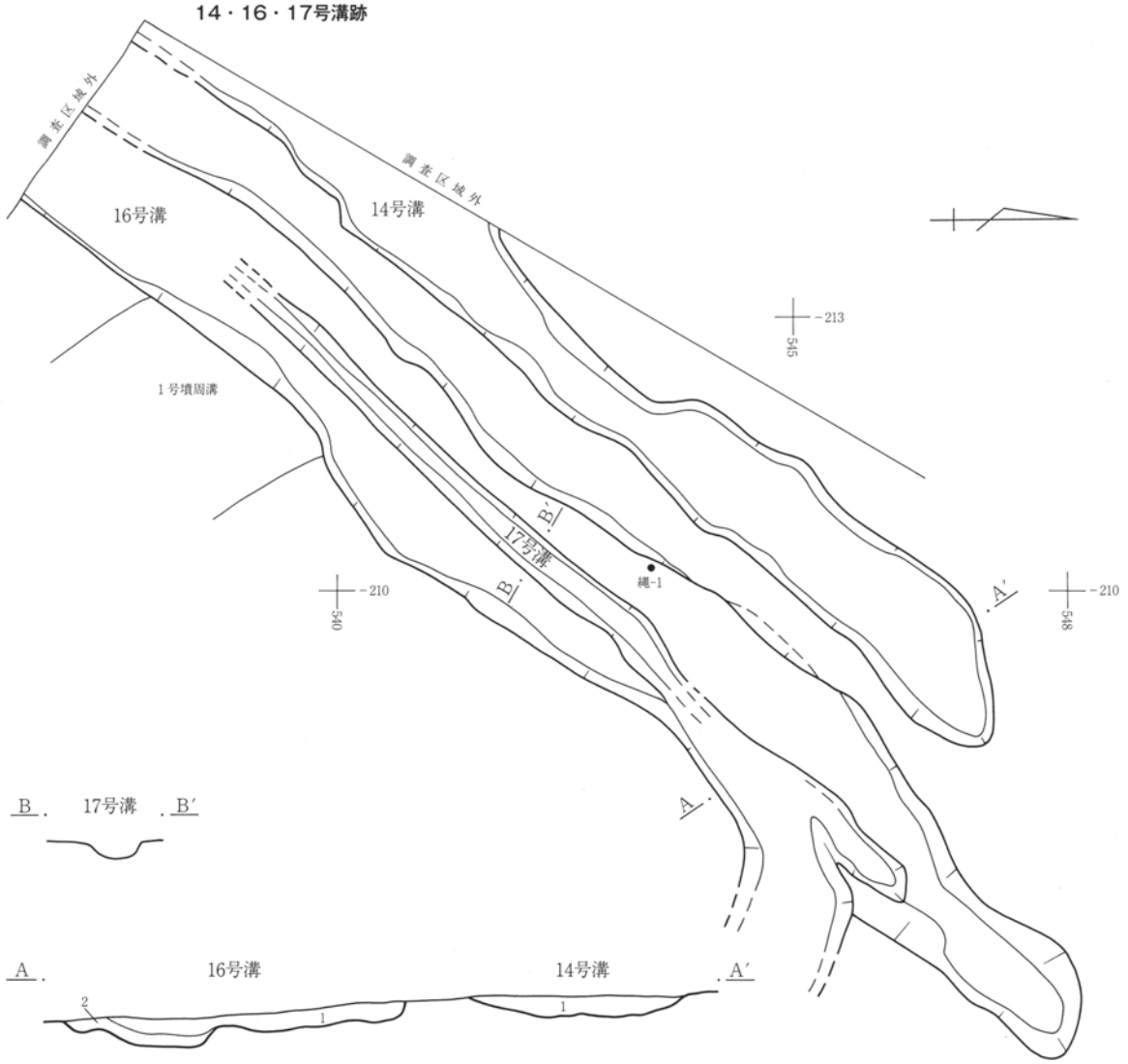
（13）17号溝跡

位置：Ａ区の南端、X535～550・Y-205～-210。　**重複**：１号墳・16号溝跡を破壊。　**規模と形状**：確認全長9.68m、最大上幅0.49m、最大下幅0.26m、深さ0.08m。14・16号溝跡とほぼ並行して北東～南西方向に流れ、南西端は上面を削平されて検出できず、北東端はX545・Y-205Gr.の北西で止まる。16号溝が埋没した後に、16号溝跡の埋土中に掘り込まれた幅が狭く一定の浅い溝。　**埋土**：黒褐色土をベースとする。

（14）18号溝跡

位置：Ａ区の北端寄り、X605～610・Y-165～-180。　**重複**：なし。　**規模と形状**：全長7.39m・最大上幅1.08・最大下幅0.68m・深さ0.51m。東西方向に流れる、一定幅でしっかりとした堀方を有する溝。東側は、現・伊勢崎大間々線の東、Ｂ区27号溝跡に繋がる。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。

14・16・17号溝跡



1．暗褐色土　砂粒を多く、白色粒子を少量含む。
2．黒褐色土　白色粒子を多く、黄色粒子を少量混含む。非常に堅く締まる。

L=89.30m
0　1:40　1m
0　1:80　4m

図８　Ａ区14・16・17号溝跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

18号溝跡

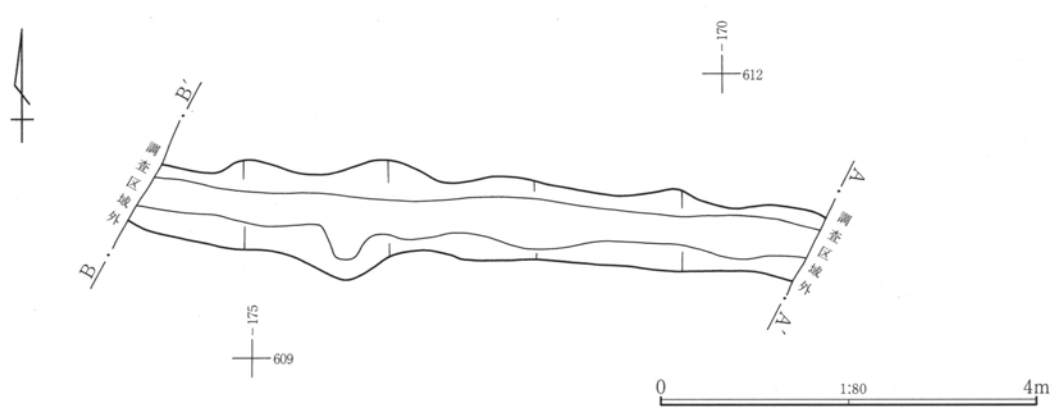


図９　Ａ区18号溝跡　平面図

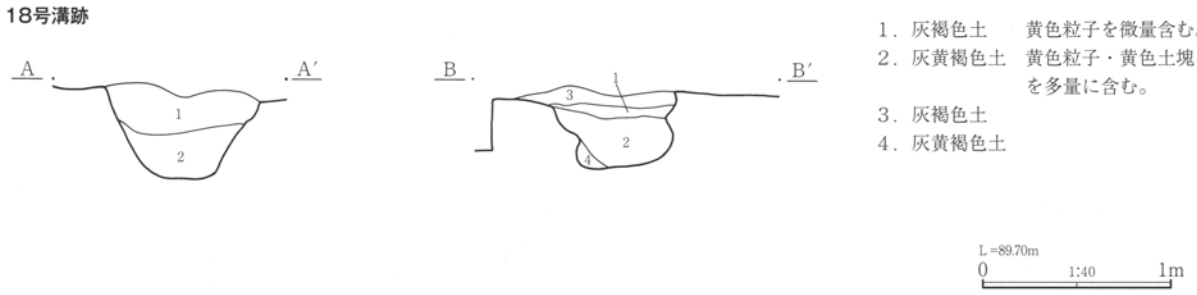


図10　Ａ区18号溝跡　土層断面図

(15) 19 号溝跡

位置：Ａ区の北東隅、X625・Y-160 ～ -165 。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長 3.78m・最大上幅 0.42m・最大下幅 0.31m・深さ 0.18m 。東西方向に流れる一定幅でしっかりとした堀方を有する溝。溝幅は狭い。東西両端とも調査区外に出る。　**埋土**：暗褐色土ベース。

(16) 20 号溝跡

位置：Ａ区の北東隅、X620・Y-165 。　**重複**：東端を 16 号土坑跡に破壊される。16 号土坑跡以東では検出されていない。　**規模と形状**：確認全長 4.58m・最大上幅 0.5m・最大下幅 0.31m・深さ 0.14m 。19 号溝跡の約 3.5m 南側をほぼ並行して東西方向に流れる。一定幅でしっかりとした堀方を有する溝。溝幅は狭い。西端は調査区外に出る。東端は 16 号土坑跡に破壊されるが、16 号土坑跡以東では検出されていない。
埋土：暗褐色土ベース。

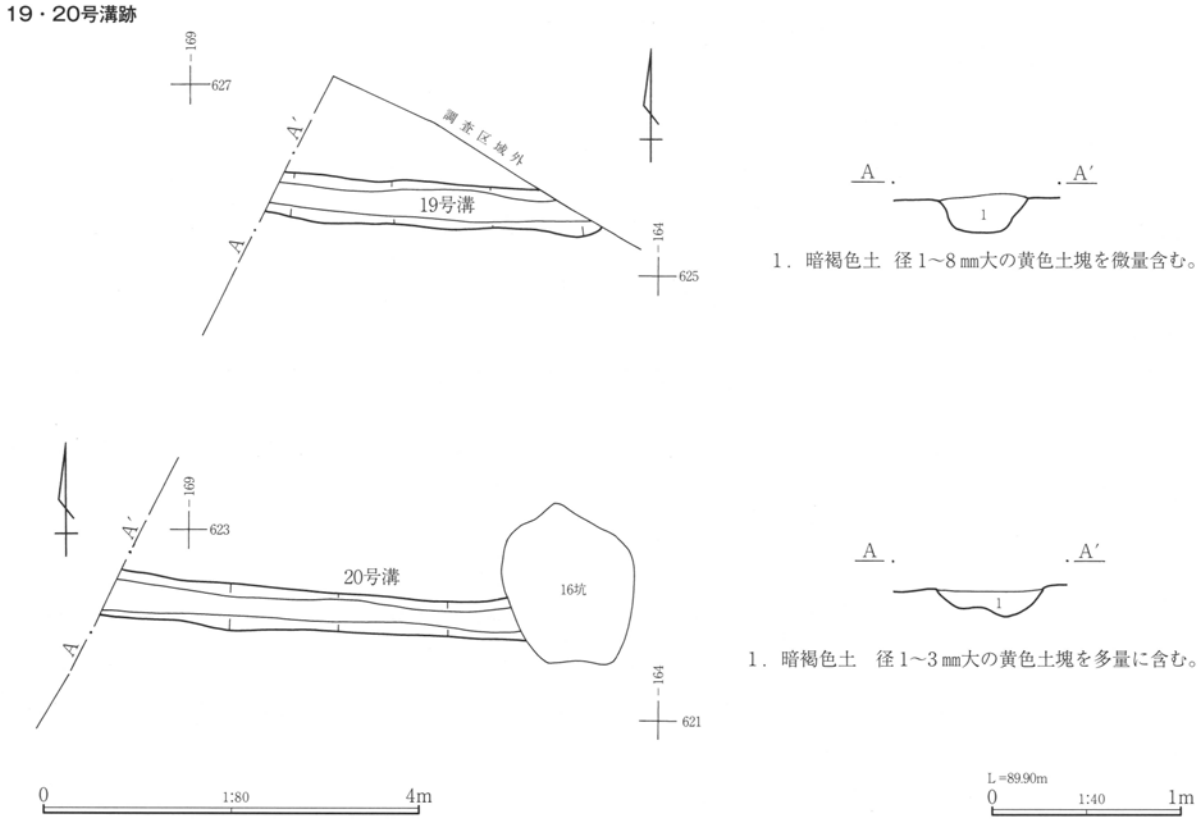


図11　Ａ区19・20号溝跡　平面図・土層断面図

第３項　土坑跡

Ａ区では、土坑跡は23基検出されている。いずれも用途不明の穴である。調査区の中央部から北寄り一帯では検出密度がやや高い。ただし、こうした分布の理由は、不明である。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの土坑の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは土坑自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（１）１号土坑跡

位置：Ａ区の南寄り、６号溝跡の北に接する。X555・Y-200。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認最大径1.71m・深さ0.32m・検出面積2.313㎡、不整円形状を呈する。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。

（２）２号土坑跡

位置：Ａ区の南寄り、６号溝跡の南側、X550・Y-200。　**重複**：12号溝跡の上層に掘り込まれているが、直接の切り合い関係はない。７号土坑跡を破壊する。　**規模と形状**：確認最大径1.04m・深さ0.22m・検出面積0.6㎡、東西に長い楕円形状を呈する。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。

（３）３号土坑跡

位置：Ａ区の南寄り、１号土坑跡の北東側、４号土坑跡の南西に位置する。X560・Y-195。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈し、長径0.49m・短径0.45m・深さ0.22m・検出面積0.151㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（４）６号土坑跡

位置：Ａ区の南寄り、X545・Y-200。　**重複**：１号溝跡に破壊される。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈し、長径2.24m・短径1.36m・深さ0.35m・面積2.369㎡。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。

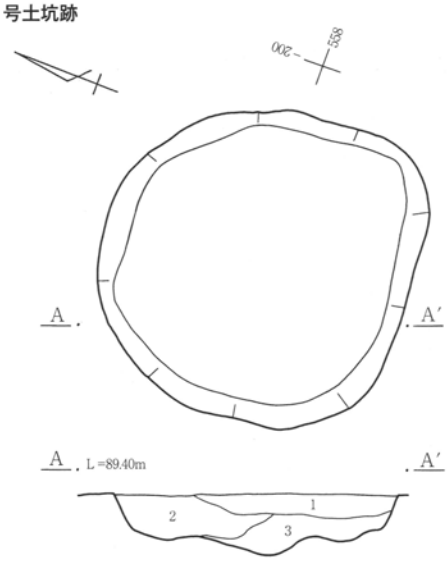
（５）８号土坑跡

位置：Ａ区の南寄り東端部、X550、Y-200。　**重複**：９号溝跡を破壊する。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈し、東端は調査区外に出る。確認長径166m・短径0.58m・深さ0.18m・面積0.777㎡。　**埋土**：褐灰色土ベース。

（６）７号土坑跡

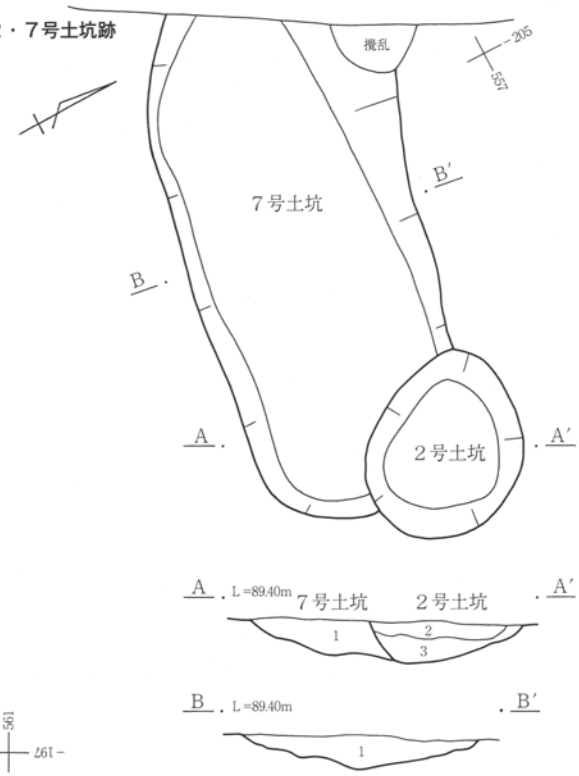
位置：Ａ区の南寄り、６号溝跡の南側、X550・Y-200。　**重複**：12号溝跡の上層に掘り込まれているが、直接の切り合い関係はない。２号土坑跡に破壊される。　**規模と形状**：東西に長い長円形状を呈し、西端は調査区外に出る。確認長径2.78m・短径1.32m・深さ0.18m・確認面積2.936㎡。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。

1号土坑跡



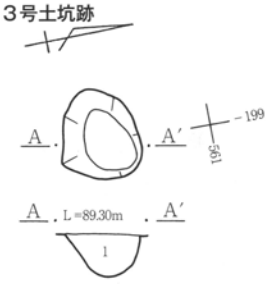
1．灰黄褐色土　黄色粒子を多量に、径１～２㎜の黒色土塊
　　および白色粒子を微量含む。
2．灰黄褐色土　黒色土・黄色粒子を多量に、径１～２㎜の黒色土塊
　　および白色粒子を微量含む。
3．黄褐色土　　径10㎝大の黒色土塊を含む。

2・7号土坑跡



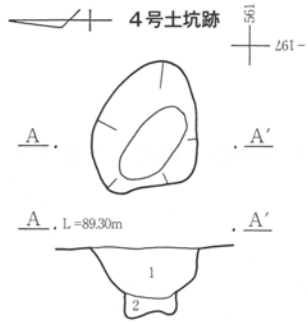
1．灰黄褐色土　　黒色土塊、白色粒子少量混。
2．灰黄褐色土　　白色粒子微量混。
3．暗灰黄褐色土　白色粒子微量混。

3号土坑跡



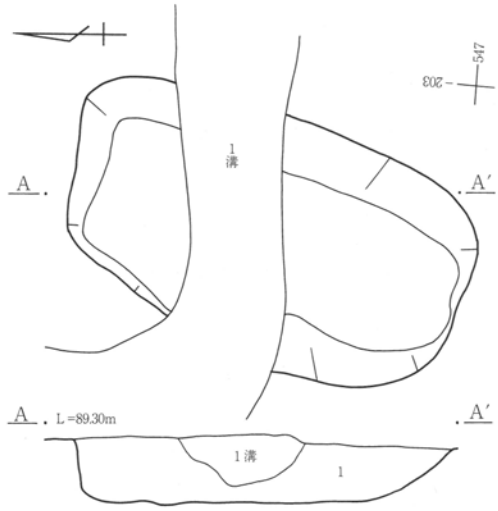
1．黒褐色土　　白色粒子微量混。

4号土坑跡



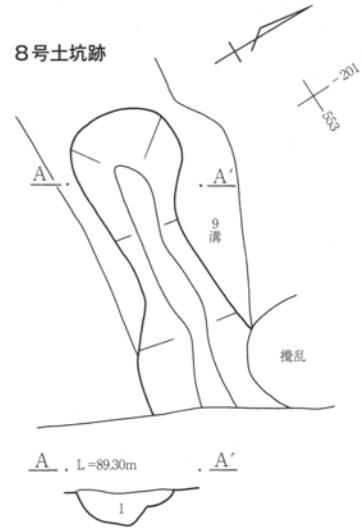
1．黒褐色土　白色粒子、黄色粒子、黄色土塊を少量混。
2．黒褐色土　白色粒子、黄色粒子を１層より多く含む。

6号土坑跡



1．灰黄褐色土　黄色粒子を多く、径３～４㎝の黒色土塊を僅かに含む。

8号土坑跡



1．褐灰色砂質土　非常に堅く締まった砂層。黒色土塊少量混。

0　1:40　1m

図12　Ａ区１～４・６～８号土坑跡　平面図・土層断面図

（7）９号土坑跡

位置：Ａ区の中央部東端、X575・Y-185。　**重複**：11号溝跡を破壊する。　**規模と形状**：南西－北東方向に長い長円形状を呈し、長径1.32m・短径0.66m・深さ0.72m・面積0.744㎡。　**埋土**：暗黒褐色土ベース。

（8）10号土坑跡

位置：Ａ区の中央部やや北寄り、東端、X595・Y-180。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い長円形状を呈し、長径1.5m・短径0.85m・深さ0.1m・面積1.029㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（9）11号土坑跡

位置：Ａ区の南寄り、12号溝跡の北に隣接。X555・Y-200。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈し、長径0.56m・短径0.43m・深さ0.27m・確認面積0.22㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（10）12号土坑跡

位置：Ａ区の南寄り、東端近く、11号土坑跡のすぐ東側、X550・Y-190。　**重複**：12号溝跡を破壊する。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈し、長径1.02m・短径0.51・深さ0.32m・面積0.469㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（11）13・14号土坑跡

位置：Ａ区の南端。X530・Y-200。　**重複**：13号土坑が元々存在していた南側に後から14号土坑が掘り込まれる。１号墳の上層に掘り込まれるが、直接の切り合い関係はない。　**規模と形状**：13号土坑跡は東西に長い楕円形状を呈していたものと思われるが、南側を14号土坑によって掘り込まれているために正確な形状は不明である。この二つの土坑は、当初、一つの土坑として調査され、土層断面の観察によってはじめて２つの土坑が重複したものと判明した。13号土坑跡は、現存径0.85m・深さ0.16m、14号土坑跡は長径1.31m・短径1.25m・深さ0.13m、両土坑併せた面積は2.149㎡。　**埋土**：ともに暗褐色土ベース。

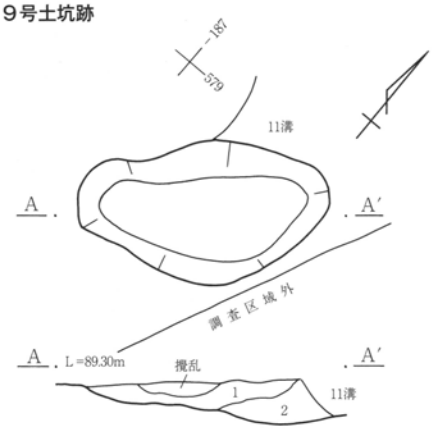
（12）15号土坑跡

位置：Ａ区の南東端。16号土坑跡の北側に隣接。X620・Y-160。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い隅丸長方形状を呈し、長径2.79m・短径1.01m、深さ0.17m、面積2.72㎡。　**埋土**：暗灰褐色土ベース。

（13）16号土坑跡

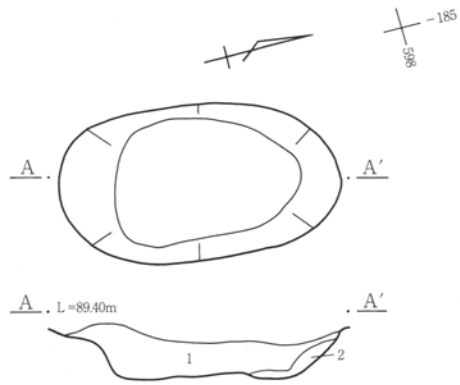
位置：Ａ区の南東端。15号土坑跡の南側に隣接。X620・Y-160。　**重複**：20号溝跡の東端を破壊。　**規模と形状**：不整円形状を呈し、長径1.75m・短径1.41m、深さ0.17m、面積1.828㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

9号土坑跡



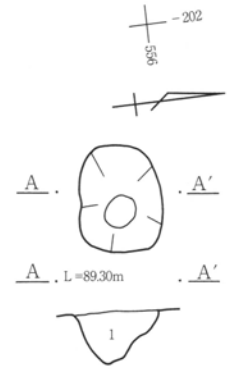
1．暗黒褐色土　ローム粒子をやや多く含む。やや軟質でしまり悪い。
2．暗黒褐色土　１層に比してローム粒の混入が少ない。

10号土坑跡



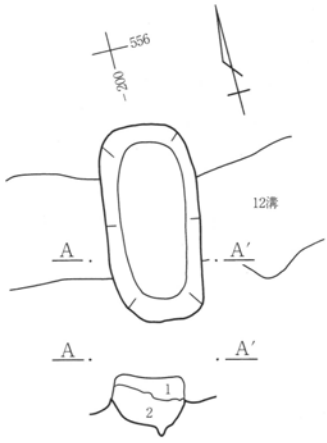
1．黒褐色土　径1～30㎜のローム粒・ローム塊を多く、黒色粘質土塊を少量含む。
2．暗黄褐色土　ローム粒を多く、黒褐色土を少量含む。

11号土坑跡



1．黒褐色土　径1～10㎜大の黄色土塊を下層に含む。白色粒子を微量含む。締まり悪い。

12号土坑跡

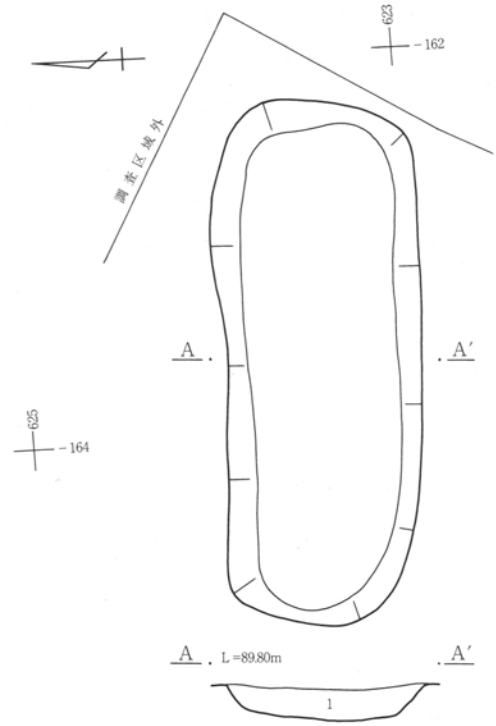


1．黒褐色粘質土　砂粒を多く含む。
2．黒褐色土　下層に黄色土多量、径２～３㎜の灰褐色土塊を少量、白色粒子を微量含む。

13・14号土坑跡

1．暗褐色土　径１～５㎜の暗黄色土塊及び白色粒子を少量含む。
2．暗褐色土　暗黄色土塊を多く含む。

15号土坑跡



1．暗灰褐色土　径１～４㎜の黄色土塊を少量、黒色土塊及び白色粒子を微量含む。

0　1:40　1m

図13　Ａ区９～15号土坑跡　平面図・土層断面図

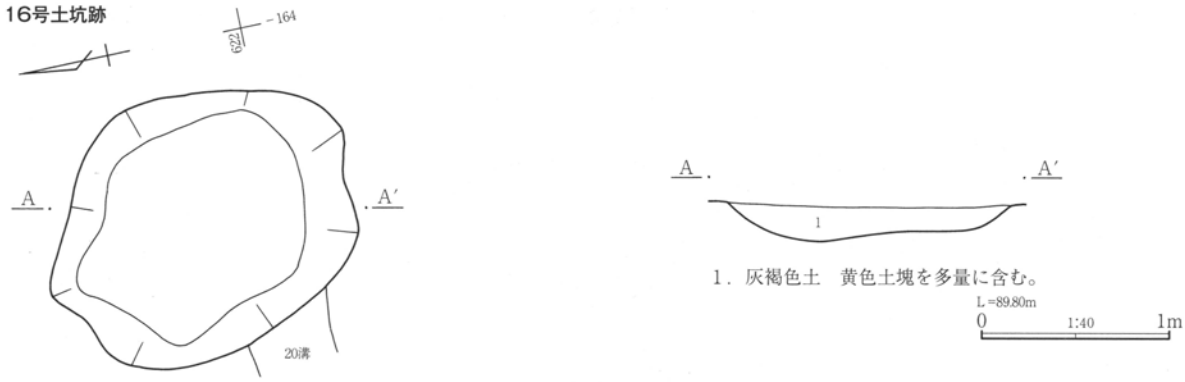


図14　A区16号土坑跡　平面図・土層断面図

（14）17号土坑跡

位置：A区の南西端寄り、20号溝跡の南に隣接。X620・Y-160。　**重複**：南側を現代の攪乱によって破壊される。　**規模と形状**：南端が破壊されているため全容は不明であるが、楕円形状を呈し、確認最大長0.92m・深さ0.15m・検出面積0.595㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

（15）18・19号土坑跡

位置：A区の北東端寄り、X615・Y-165。　重複：19号土坑跡は、18号土坑跡に南西隅部を破壊される。**規模と形状**：18号土坑跡は南北にやや長い楕円形状を呈し、長径0.65m・短径0.51m・深さ0.14m・面積0.255㎡。19号土坑跡は東側が調査区外に出るため、全体の形状は不明である。確認最大長1.71m・深さ0.14m・確認面積2.351㎡。　**埋土**：18号土坑跡は黒褐色土ベース、19号土坑跡は暗灰褐色土ベース。

（16）20・21号土坑跡

位置：A区の北端寄り、X610・Y-165。　**重複**：。大きな21号土坑跡の南に楕円形状を呈する小さな20号土坑跡が掘り込まれている。　**規模と形状**：21号土坑跡は南北に長い分銅形の平面形状を呈し、現存最大長1.74m・深さ0.51m・現存面積3.063㎡。20号土坑跡は、東西に長い楕円形状を呈し、長径1.1m・短径1.05m・深さ0.41m・面積0.72㎡。　**埋土**：21号土坑跡は灰褐色土ベース、20号土坑跡は黒褐色土ベース。

（17）22号土坑跡

位置：A区の北端寄り、18・19号土坑跡の西隣、X615・Y-165。　**重複**：なし　**規模と形状**：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.61m・短径0.5m・面積0.275㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

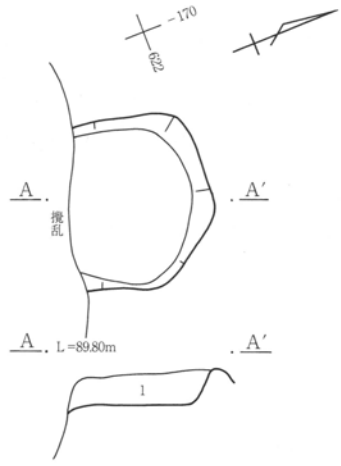
（18）23号土坑跡

位置：A区の中央から北端寄り。18号溝跡のすぐ南側。X605・Y-170。　**重複**：なし。　**規模と形状**：不整円形状を呈し、長径0.94m・短径0.89m・深さ0.25m・面積0.58㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

（19）24号土坑跡

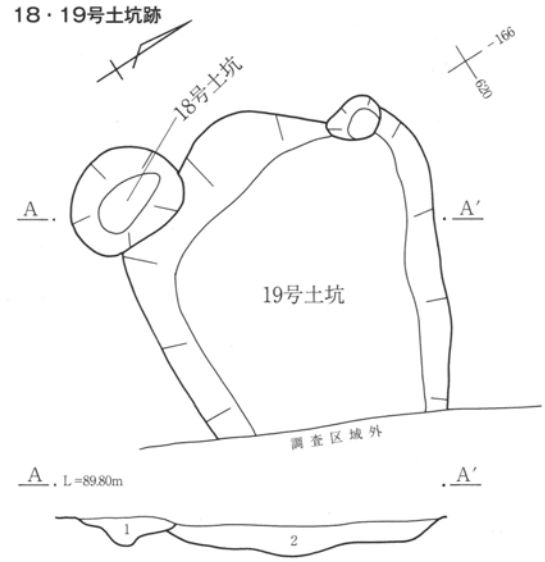
位置：A区の中央やや南端寄り。４号土坑跡のすぐ東側。X560・Y-190。　**重複**：なし。　**規模と形状**：北西－南東方向に長い不整円形状を呈し、長径0.84m・短径0.56m・深さ0.33m・面積0.365㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

17号土坑跡



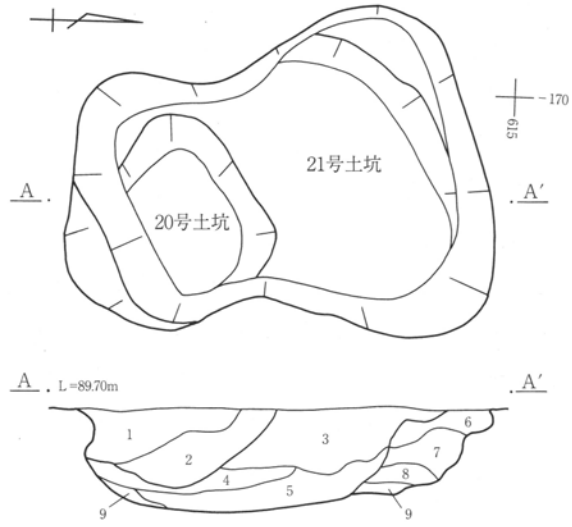
1．灰褐色土　径１cm大の黄色土塊・白色粒子を少量含む。

18・19号土坑跡



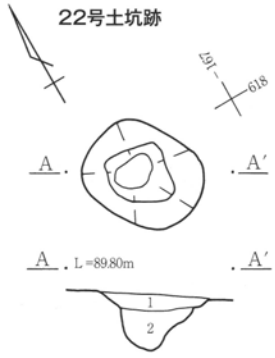
1．黒褐色土　　径1～6 cmの黄色土塊を少量、白色粒子を微量含む。
2．暗灰褐色土　黄色土塊・黄色粒子を多量に含む。

20・21号土坑跡



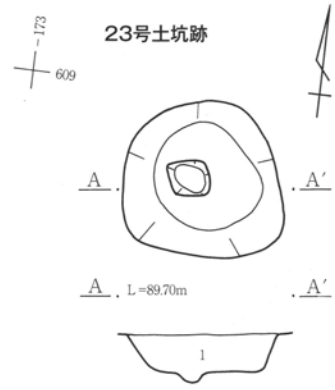
1．灰褐色土　　黄色土塊微量混。
2．黒褐色土　　Hr-I、As-C を少量混。
3．灰褐色土　　黄色土塊少量混。
4．暗灰褐色土　径５㎜以下の黄色粒子を少量含む。
5．暗灰褐色土　径５㎜以下の黄色粒子を少量、径1.5 cm大の黄色土塊を含む。
6．灰褐色土　　径1～8 cmの黄色土塊を多く含む。
7．灰褐色土　　径1～8 cmの黄色土塊を多く、径１cmの黒色土塊を少量含む。
8．灰褐色土　　径1～8 cmの黄色土塊を多く含む。
9．暗灰褐色土　径５㎜以下の黄色粒子を多量含む。

22号土坑跡



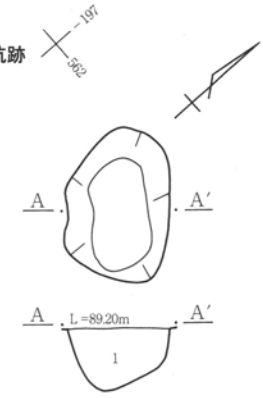
1．黒褐色土　径２cm大の灰褐色土塊、白色粒子を少量含む。
2．灰褐色土　黄色粒子を多量に含む。

23号土坑跡



1．灰褐色土
径８㎜以下の黄色粒子と黄色土塊を多量に、径１～４cmの黒色土塊を少量含む。

24号土坑跡



1．黒褐色土
径２cm大の灰黄褐色土塊、白色粒子を少量混含む。

0　1:40　1m

図15　Ａ区17～24号土坑跡　平面図・土層断面図

第２節　Ｂ区で検出された遺構と遺物

平成11から12年度にかけて発掘調査されたＢ区は、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線を挟んだＡ区とともに調査区域の最北端である。現在の県道伊勢崎・大間々線に直角に交わる生活道路によって、４箇所の小区画に分かれている。なお、平成12年度の調査は、旧石器の確認調査を実施したのみである。本調査区からは旧石器は発見されなかった。遺構面の調査はすべて平成11年度中に終了していた。

本調査区からは、溝跡６条、土坑跡８基が検出された。本調査区において検出された溝跡のうちのいくつかはＡ区で検出された溝跡から繋がるものである。

第１項　溝跡

Ｂ区では、溝跡は６条検出されている。Ａ区と異なり、南北方向に流れるものが比較的に多く、Ａ区同様、調査区が東西方向に狭いため、調査区外に続いているものが少なくない。現在の主要地方道伊勢崎・大間々線を東に越えたＡ区で、西側の継続部分が検出されているものもあるが、ＡＢ区両区とも調査区の東西幅が狭いために、結局、全貌が明らかにしがたい部分が少なくない。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの溝跡の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは溝跡自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（1）27号溝跡

位置：Ｂ区北から二番目の調査区の中の最端部、X605・Y-150～-155。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長5.12m・最大上幅0.99m・最大下幅0.17m・深さ0.27m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。東～西方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝。東端は攪乱によって破壊されるが、両端ともに調査区外に出るものと考えられる。規模や形状、走向方向からみて、Ａ区で検出された18号溝跡の東側に続くと考えられる。18号溝跡も西端は調査区外にさらにのびている。　**埋土**：暗灰褐色土ベース。

27号溝跡

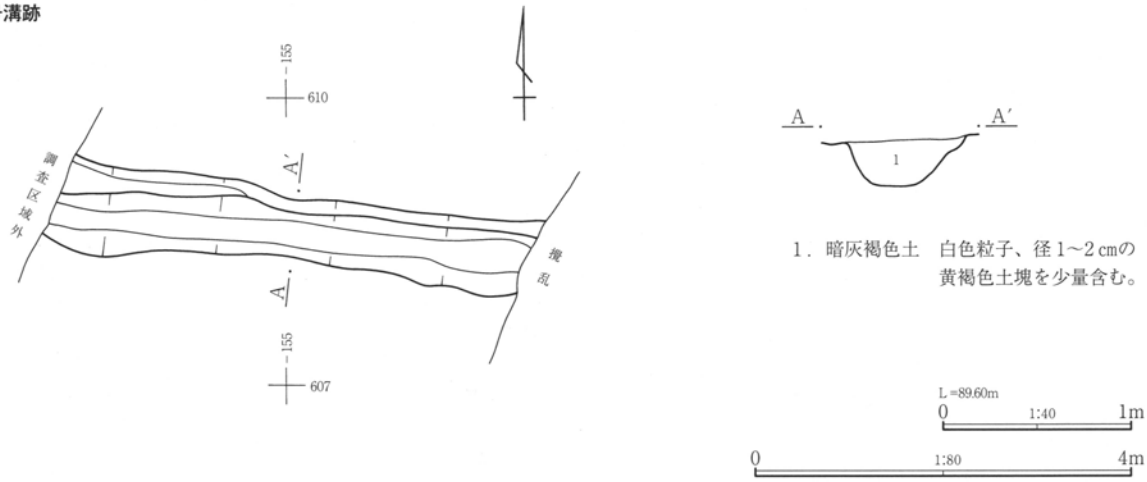


図16　Ｂ区27号溝跡　平面図・土層断面図

（２）28号溝跡

位置：Ｂ区の北から二番目の区画の北端部寄り、X600・Y-155～-160。　**重複**：29号溝跡に破壊される。**規模と形状**：確認全長4.01m・最大上幅2.08m・最大下幅0.38m・深さ0.09m、非常に浅く、断面は緩やかな弧状を呈する。27号溝跡の約７ｍ南側を並行して東西方向に流れる。東端は攪乱によって、西端は29号溝跡によって破壊される。29号溝跡を越えて西側Ａ区では確認できず、現道下で止まるものとみられる。　**埋土**：暗灰褐色土ベース。

（３）29号溝跡

位置：Ｂ区の北から２番目の区画から３番目の区画にわたって検出され、X580～600・Y-155～-160。　**重複**：28号溝跡を破壊する。　**規模と形状**：確認全長、途中現道で調査不可能な部分を越えて14.8m・最大上幅1.76m・最大下幅0.34m・深さ0.65m。南北方向に直線的に流れ、南北端とも調査区外に出る。　**埋土**：暗灰褐色土をベースとする。

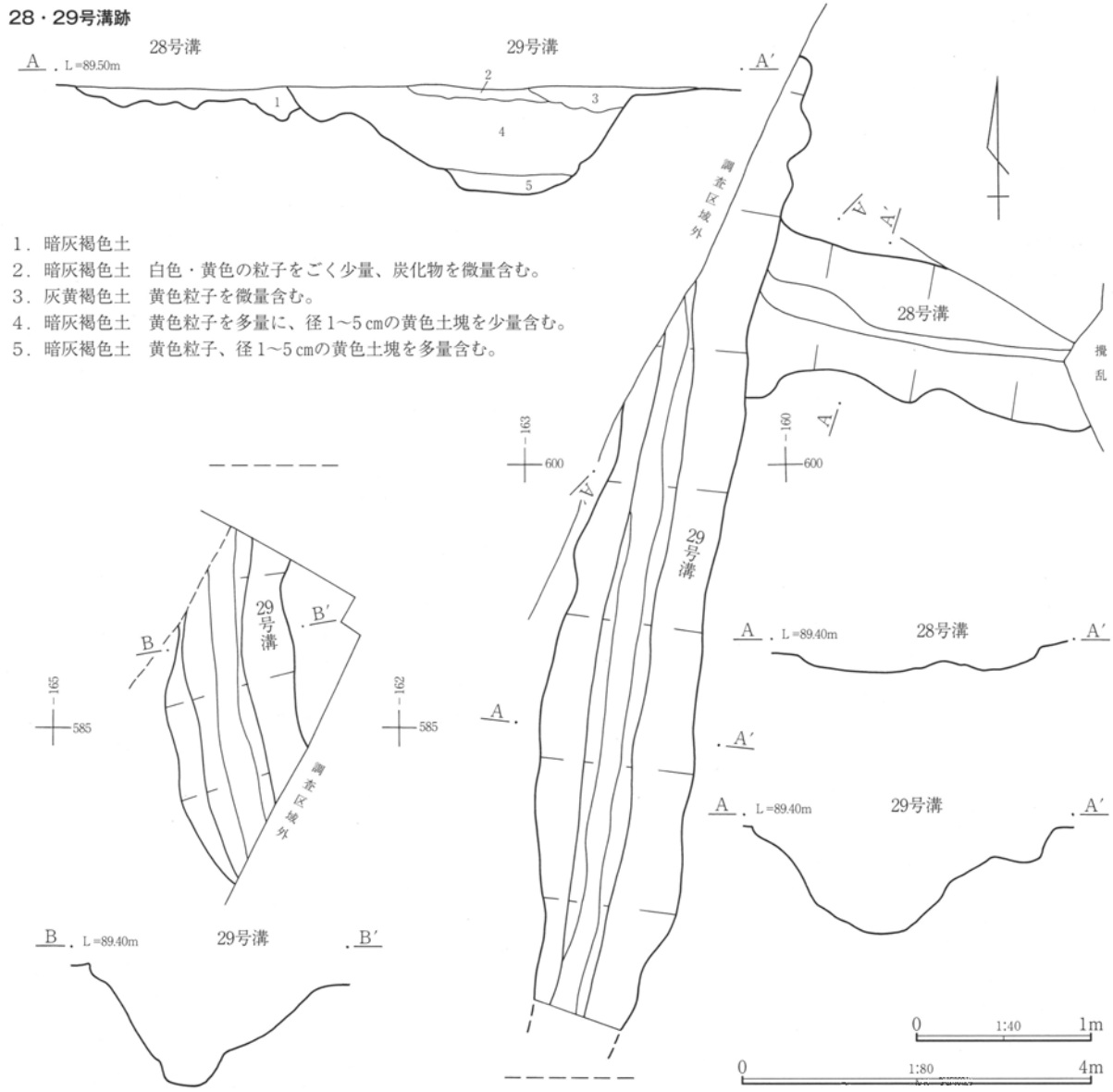


図17　Ｂ区28・29号溝跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

（4）31号溝跡

位置：Ｂ区の最南の区画の中央部、やや南寄り、X550・Y-180～-185。　**重複**：南縁を攪乱によって大部分破壊される。　**規模と形状**：確認全長6.64m・最大上幅1.45m・最大下幅1.1m・深さ0.22m。西北西－東南東方向に流れるやや不整形の溝跡。東西両端は調査区外に出る。規模や形状、走向方向からみてＡ区12号溝跡に繋がる可能性も存在する。Ａ区12号溝跡の西端は、さらに調査区外にのびている。

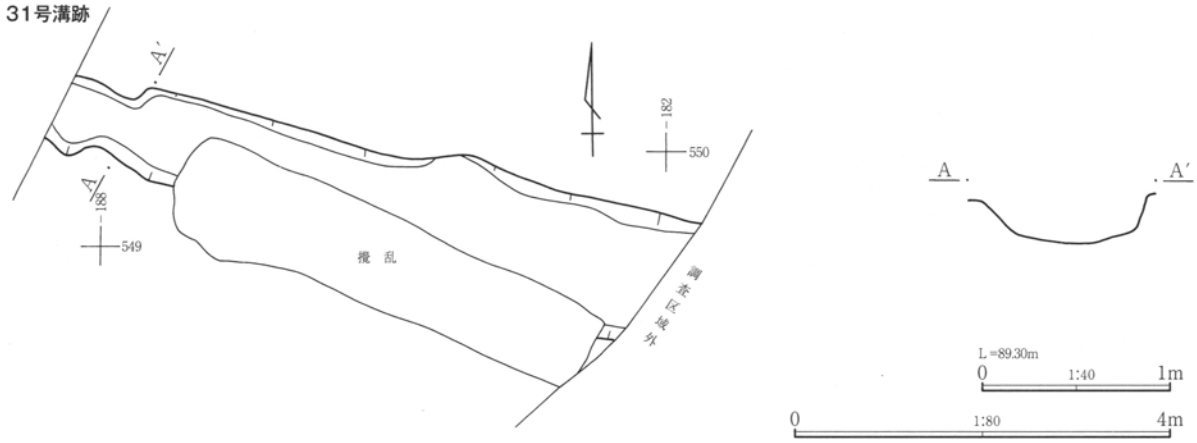
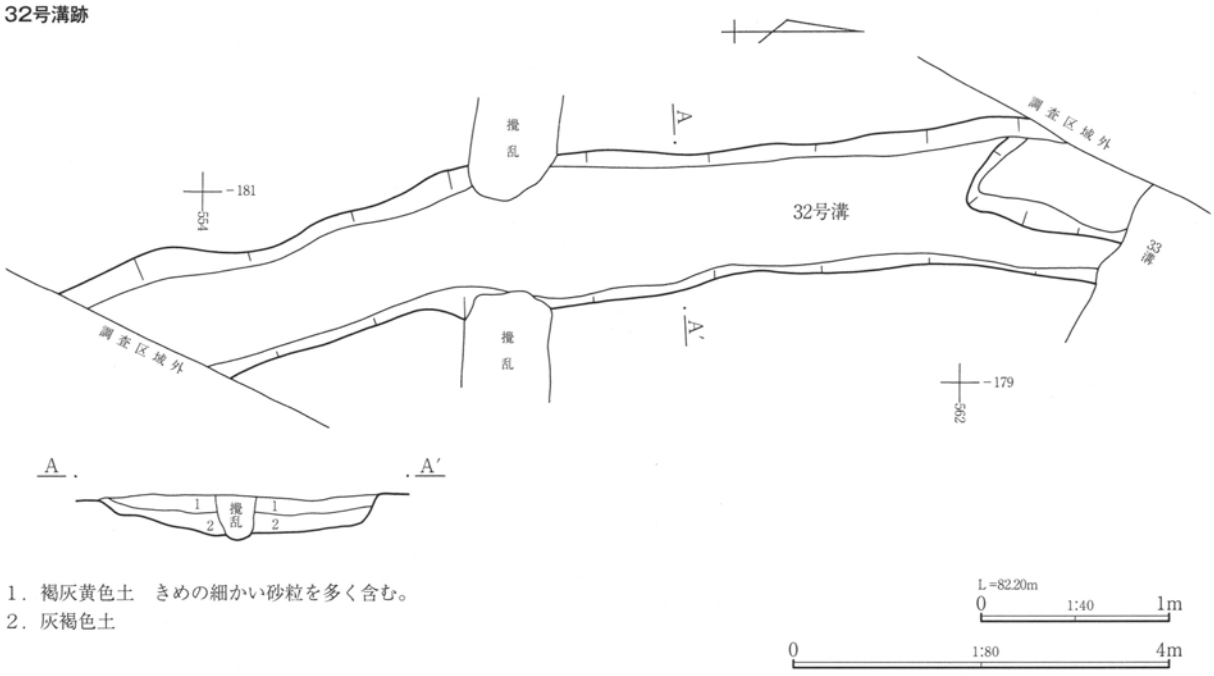


図18　Ｂ区31号溝跡　平面図・エレベーション図

（5）32号溝跡

位置：Ｂ区の最南の区画の西北端寄りから中央部東端寄り、X550～565・Y-175～-180。　**重複**：西北端を33号溝跡によって破壊される。　**規模と形状**：確認全長11.78m、最大上幅1.54m・最大下幅1.18m・深さ0.21m、断面は幅広で緩やかな逆台形状を呈する。Ｂ区の最南の区画の西北端寄りから中央部東端寄りを南北方向に流れる幅広で浅い溝跡。北西側県道を越えてＡ区11号溝跡に繋がり、Ａ区11号溝跡は北西端が調査区の外にさらにのびる。東南端は調査区外にのびる。　**埋土**　灰褐色土ベース。



1．褐灰黄色土　きめの細かい砂粒を多く含む。
2．灰褐色土

図19　Ｂ区32号溝跡平面図・土層断面図

（６）33号溝跡

位置：Ｂ区の最南端の区画の北端寄りの位置、X560・Y-175～-180。　**重複**：西北端が32号溝跡を破壊する。　**規模と形状**：確認全長6.28m・最大上幅0.61m・最大下幅0.34m・深さ0.31m、断面は逆台形状を呈する。北西～南東方向に流れるしっかりとした堀方を有する狭い溝。両端とも調査区外に出る。規模や形状、走向方向からみて、北西端は県道を越えた北西側、Ａ区10号溝跡に繋がるものと考えられる。Ａ区11号溝跡の北西端は、さらにＡ区調査区外にのびている。　**埋土**：暗褐色土ベース。

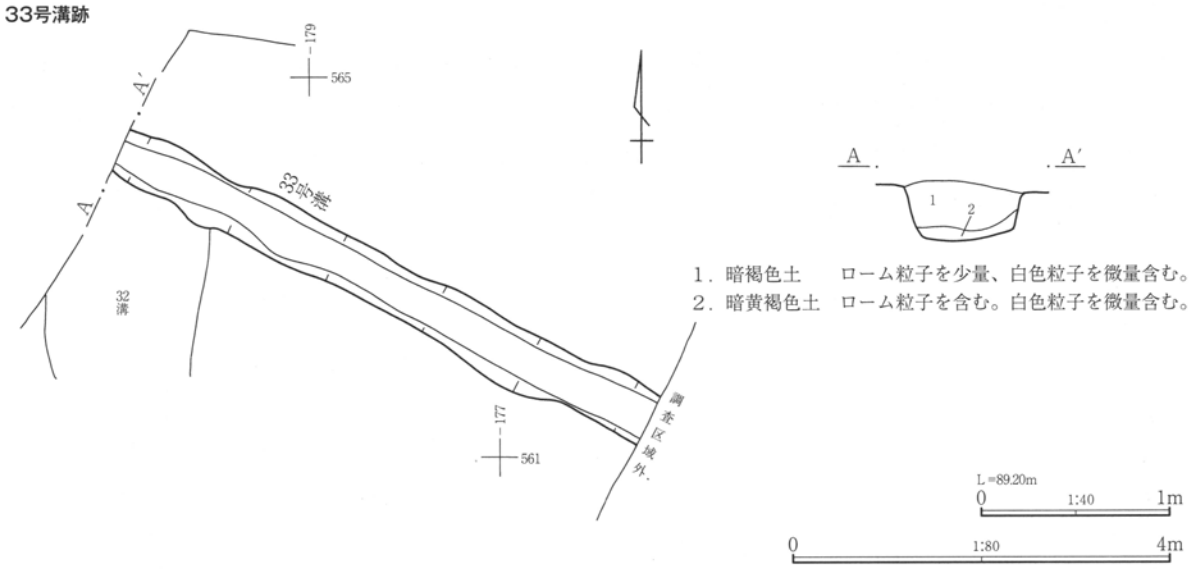


図20　Ｂ区33号溝跡　平面図・土層断面図

第２項　土坑跡

Ｂ区では、土坑跡は８基検出されている。いずれも用途不明の穴である。最北端の調査区画から北から二番目・三番目の区画で検出され、最南端の区画からは全く検出されていない。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの土坑の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは土坑自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（１）32号土坑跡

位置：Ｂ区の最北端の調査区画のほぼ中央から南端にかけて、33号土坑跡の西側約２mの位置に並行して、X615・Y-145。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に細長い隅丸長方形状を呈し、確認最大長9.57m・幅1.82m・深さ0.34m・検出面積4.008㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

（２）33号土坑跡

位置：Ｂ区の最北端の調査区画のほぼ中央から南端にかけて、32号土坑跡の東側約２mの位置に並行して、X615・Y-145。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に細長い隅丸長方形状を呈し、全長12.18m・幅1.58m・深さ0.15m・検出面積4.804㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

（３）34号土坑跡

位置：Ｂ区の北から二番目の調査区画の北東寄り、27号溝跡の南側、35号土坑跡の西側に接して、X605・Y-155。　**重複**：35号土坑跡の西縁を掘り込んで破壊する。　**規模と形状**：南北に長い溝形状を呈し、北端は調査区外に出る。南端は攪乱によって破壊されている。確認長径3.4m・短径1.1m・深さ0.21m・確認面積0.953㎡。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。

（４）35号土坑跡

位置：Ｂ区の北から二番目の調査区画の北東寄り、27号溝跡の南側、34号土坑跡の東側に接して、X605・Y-155。　**重複**：34号土坑跡に西縁を掘り込まれ破壊される。　**規模と形状**：南北に長い溝形状を呈し、北端は調査区外に出る。南端は攪乱によって破壊されている。確認長径7.01m・現存短径1.74m・深さ0.18m・確認面積2.561㎡。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。

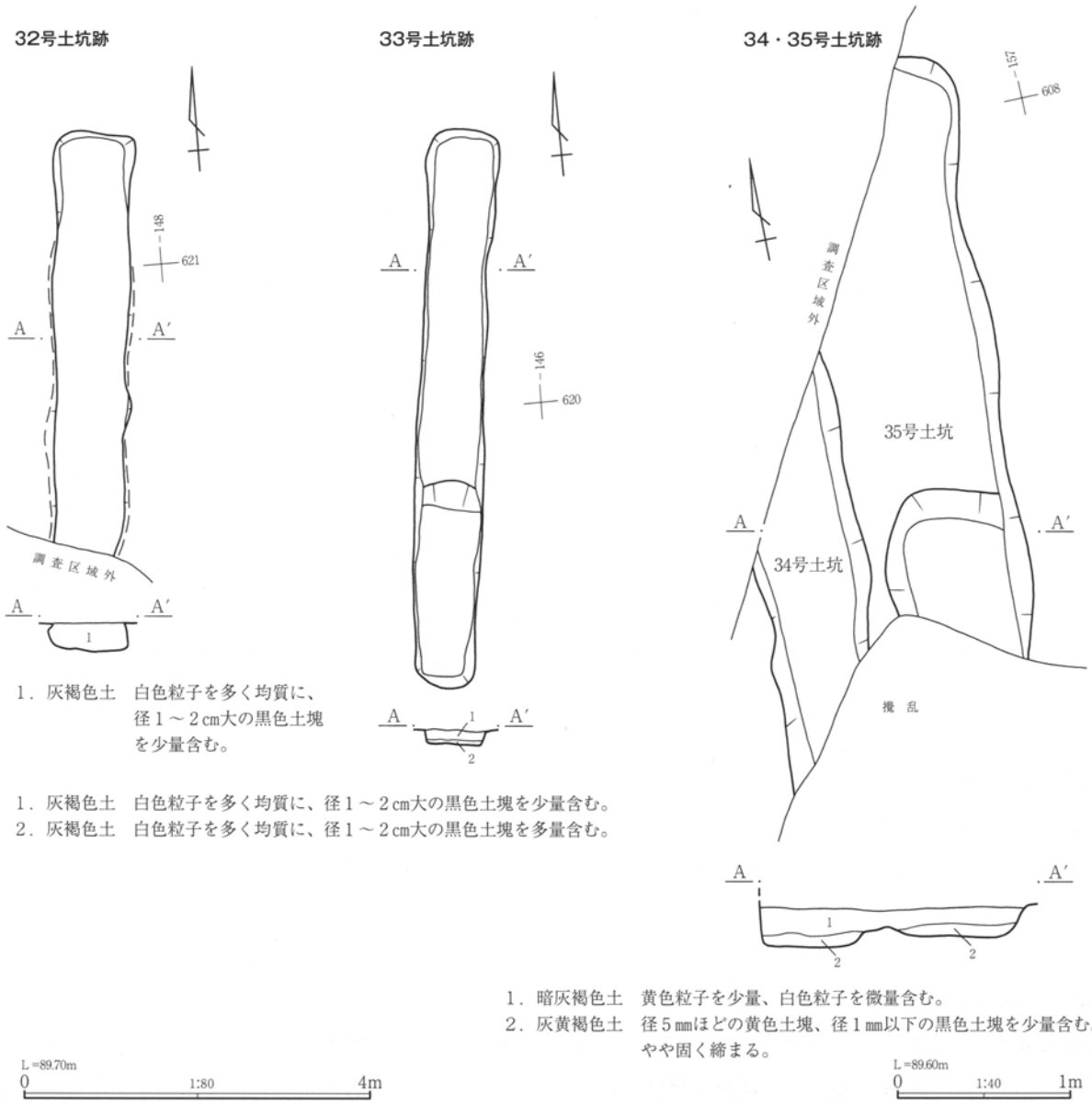


図21　Ｂ区32～35号土坑跡　平面図・土層断面図

（5）36号土坑跡

位置：Ｂ区の北から二番目の調査区画の北西隅、X610・Y-155。　**重複**：なし。　**規模と形状**：隅丸方形状を呈するが北側及び西側が調査区外に出るため、全容は不明。確認最大長径1.28m・深さ0.28m・面積1.088㎡。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。

（6）37号土坑跡

位置：Ｂ区の中央部。北から三番目の調査区画の南寄り、X570、Y-165。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.66m・短径0.58m・深さ0.24m・面積0.304㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（7）38号土坑跡

位置：Ｂ区の中央部。北から三番目の調査区画の中央西端、X570、Y-170。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈し、長径0.91m・短径0.75m・深さ0.37m・面積0.544㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（8）39号土坑跡

位置：Ｂ区の中央部。北から三番目の調査区画の中央やや東寄り、X575、Y-160。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西方向に長い楕円形状を呈し、長径0.82m・短径0.79m・深さ0.22m・面積0.433㎡。　**埋土**：暗褐色土ベース。

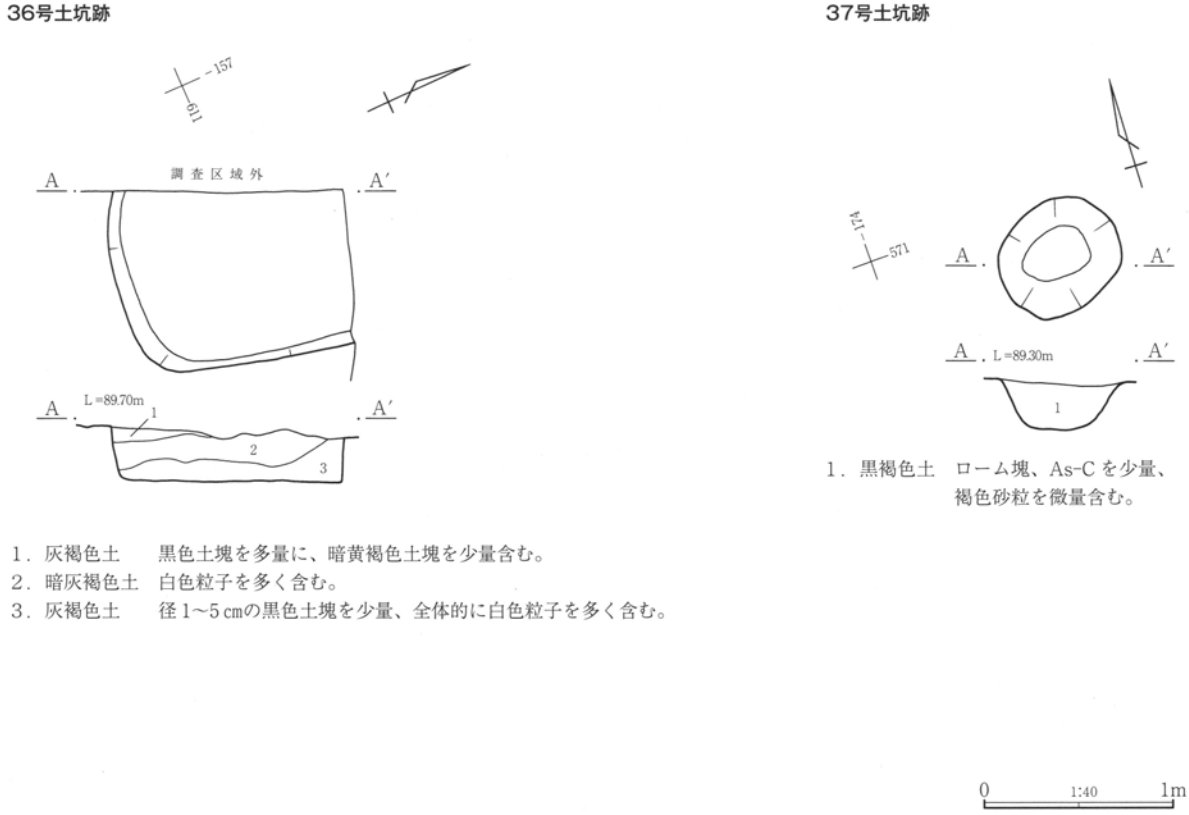
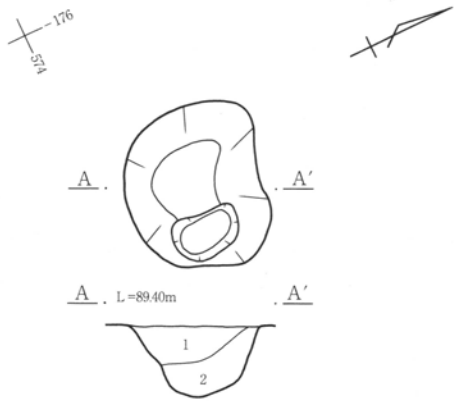


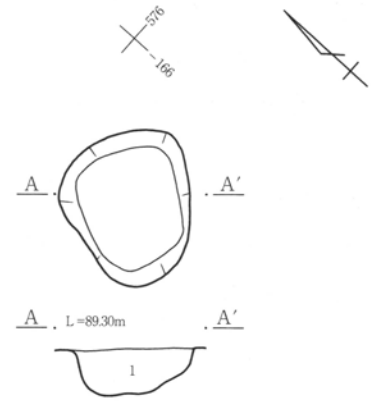
図22　Ｂ区36・37号土坑跡　平面図・土層断面図

38号土坑跡



1．明黒褐色土　ローム粒子を少量含む。
2．黒褐色土　　ローム粒及びローム塊をやや多く含む。

39号土坑跡



1．暗褐色土　ローム塊混、褐色砂粒を多く含む。

0　1:40　1m

図23　Ｂ区38・39号土坑跡　平面図・土層断面図

第３節　Ｃ区で検出された遺構と遺物

Ｃ区は、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線を挟んだＤ区とともに調査区域の北から二番目の大調査区である。現在の県道伊勢崎・大間々線に直角に交わる生活道路によって、４箇所の小区画に分かれている。このうち北半分の北側二箇所と最南端の区画を平成12年度に、残った中央の区画を平成13年度に調査している。

中央部と最南端の調査区は、最近まで宅地であったために近現代の攪乱が著しく、遺構の残存状況は悪い。また、宅地に面した位置での調査であったために、宅地への進入路の安全を確保しながらの調査であり、やむを得ず小規模な調査を積み重ねざるをえず、結果的に、良好な状態での遺構の確認及び検出に大きな支障が出たことも事実である。

本調査区からは、古墳周溝跡１、掘立柱建物跡２棟、竪穴建物跡３棟、溝跡９条、土坑跡８基が検出された。本調査区において検出された溝跡のうちのいくつかはＤ区で検出された溝跡に繋がるものである。

第１項　古墳跡

・３号墳跡

調査区の最北西端において古墳の周溝跡が１基検出された。周溝の東の弧のごく一部を検出したに過ぎず、墳丘を含め圧倒的大部分は西の調査区外に出ており、調査は不可能であった。よって古墳の全容は全く不明である。

周溝の最大上幅は1.98m・下幅は1.26m・深さ0.56mで、外径は11.9m・内径は8.71mほどであった。西側大部分が現道下に入っており、調査が不可能であったので、墳形の全容は不明であるが、周辺部から検出されている古墳の形状等と勘案して、円墳であると想定できる。

周溝を埋めていた土は、Hr-I及びAs-C軽石を含む黒褐色土をベースとする土である。なお、墳丘の封土及び主体部は完全に削平されており、墳丘周辺や周溝内から、墳丘に貼られた葺石の痕跡や残骸、あるいは埴輪片は全く出土しておらず、周溝内の遺物も極めて少ないため、詳細な年代は不明である。

本遺跡の上武道路調査箇所では、現・伊勢崎・大間々線の西側の調査区から４基、東側の調査区から６基の計10基の古墳が検出されている。

いずれも円墳で、墳丘の封土は完全に削平されていたが、主体部の一部や痕跡を調査できた古墳が７基あり、それらはいずれも輝石安山岩の川原石や割石を用いた横穴式石室か箱式棺状竪穴式石室である。また、これらの古墳には、いずれにも墳丘部の葺石や埴輪等は認められなかった。Ａ区１号墳にも葺石や埴輪は全く認められないので、時期的にこれらの古墳に近いものと考えられる。

また、北関東自動車道調査区では、現・伊勢崎・大間々線の東側と西側で１基づつ計２基の古墳が検出されている

Ａ１号墳では埋土中から埴輪片が出土しているが、Ｂ１号墳からは埴輪は全く出土していない。遺物の年代からみてＢ１号墳はかなり終末期の新しい時期の古墳であると考えられる。

このような周辺での調査成果を勘案すると、本遺跡の伊勢崎・大間々線調査区Ｃ区で検出された３号墳の年代も、主体部の構造が全く不明で、かつ出土遺物が皆無でありながらも、周辺における古墳と同様、６世

３号墳

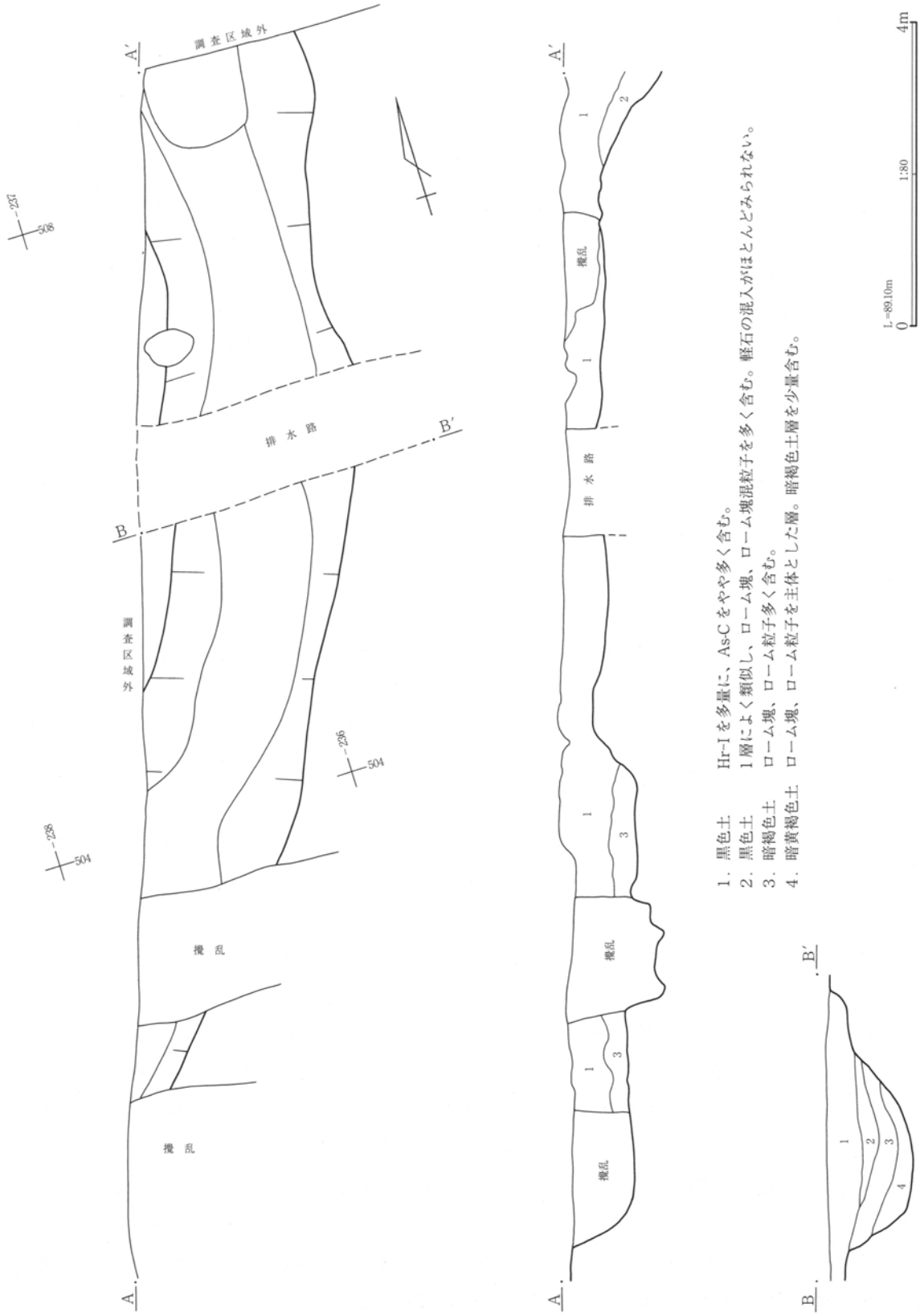


図24　C区３号墳　平面図・土層断面図

紀前半～７世紀初頭の年代を想定することが出来そうである。

今回、伊勢崎・大間々線調査箇所Ｃ区において検出された３号墳を含めて、これらの古墳は前述したように粕川左岸の段丘上に展開する本関町古墳群の一画を形成していたものと考えられる。

第２項　掘立柱建物跡

Ｃ区では北から３つ目と４つ目の調査区から、それぞれ１棟ずつ掘立柱建物跡が検出されている。形状からみて近世の建物跡と考えられるが、嘉永７年（1854）上植木村村絵図によれば、当該箇所には屋敷地の記載はない。

屋敷を構成する建物よりも貧弱な建物であったため、絵図に記載されていないか、あるいは嘉永７年絵図段階とは時代を異にする遺構であるか、ということになろう。

（１）１号掘立柱建物跡

位置：Ｃ区で北から３番目の調査区の中の南端付近。X465～470・Y-255～-250。　**主軸方位**：N-65°-W

重複：59～68号土坑跡と重複。土坑群を本建物跡の柱穴が破壊しており、土坑群よりも新しい。

規模と形状：南北に長い長方形状を呈するが、柱穴の間隔はまばらであり、柱穴列の並列もまた斉一的とは言い難く、平面形態が多少ゆがんでいる。柱穴の多くは床束と考えられる。長辺11m・短辺8.2m。　**柱穴埋土**：黒褐色土をベースとする。　**柱穴**：東西方向に並列した柱穴列が７列検出された。一列の柱穴数はまちまちであり、３～５基である。南北方向での直線的な並びは東南辺一箇所のみに限られている。柱穴は、いずれもしっかりとした堀方を有している。

柱穴Ａ１　径0.34m×最大深度0.62m、**柱穴Ａ２**　長径0.51m×現存短径0.28m×最大深度0.11m、**柱穴Ａ３**　長径0.32m×短径0.28m×最大深度0.28m、**柱穴Ａ４**　現存長径0.5m×短径0.24m×最大深度0.11m、**柱穴Ａ５**　長径0.42m×短径0.31m×最大深度0.43m、**柱穴Ａ６**　径0.28m×最大深度0.22m。

柱穴Ｂ１　径0.3m×最大深度0.4m、**柱穴Ｂ２**　長径0.5m×短径0.4m×最大深度0.32m、**柱穴Ｂ３**　長径0.44m×短径0.38m×最大深度0.61m、**柱穴Ｂ４**　径0.22m×最大深度0.56m。

柱穴Ｃ１　径0.5m×最大深度0.46m、**柱穴Ｃ２**　径0.48m×最大深度0.27m、**柱穴Ｃ３**　径0.28m×最大深度0.24m。

柱穴Ｄ１　径0.32m×最大深度0.42m、**柱穴Ｄ２**　径0.34m×最大深度0.24m、**柱穴Ｄ３**　長径0.52m×短径0.37m×最大深度0.42m、**柱穴Ｄ４**　長径0.39m×短径0.22m×最大深度0.24m、**柱穴Ｄ５**　径0.2m×最大深度0.24m。

柱穴Ｅ１　長径0.6m×短径0.3m×最大深度0.44m、**柱穴Ｅ２**　径0.3m×最大深度0.46m、**柱穴Ｅ３**　長径0.41m×短径0.21m×最大深度0.24m、**柱穴Ｅ４**　径0.24m×最大深度0.3m、**柱穴Ｅ５**　径0.18m×最大深度0.19m。

柱穴Ｆ１　現存長径0.34m×現存短径0.26m×最大深度0.4m、**柱穴Ｆ２**　径0.22m×最大深度0.28m、**柱穴Ｆ３**　長径0.8m×短径0.38m×最大深度0.27m、**柱穴Ｆ４**　長径0.25m×短径0.18m×最大深度0.64m、**柱穴Ｆ５**　径0.2m×最大深度0.16m。

柱穴Ｇ１　径0.4m×最大深度0.5m、**柱穴Ｇ２**　径0.3m×最大深度0.24m、**柱穴Ｇ３**　長径0.5m×短径0.41m×最大深度0.22m、**柱穴Ｇ４**　長径0.17m×短径0.22m×最大深度0.24m、

１号掘立柱建物跡

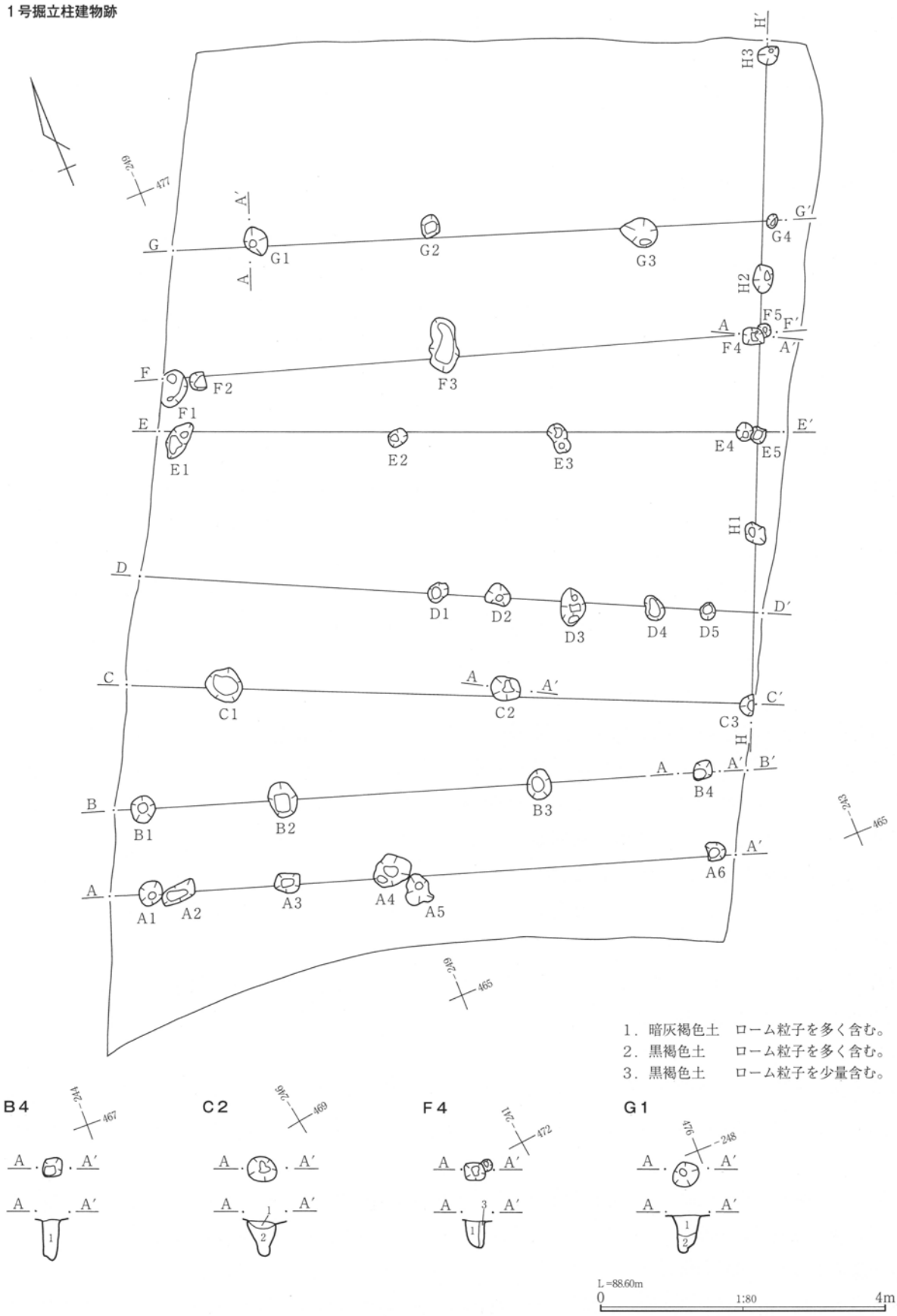


図25　Ｃ区１号掘立柱建物跡　平面図・柱穴土層断面図

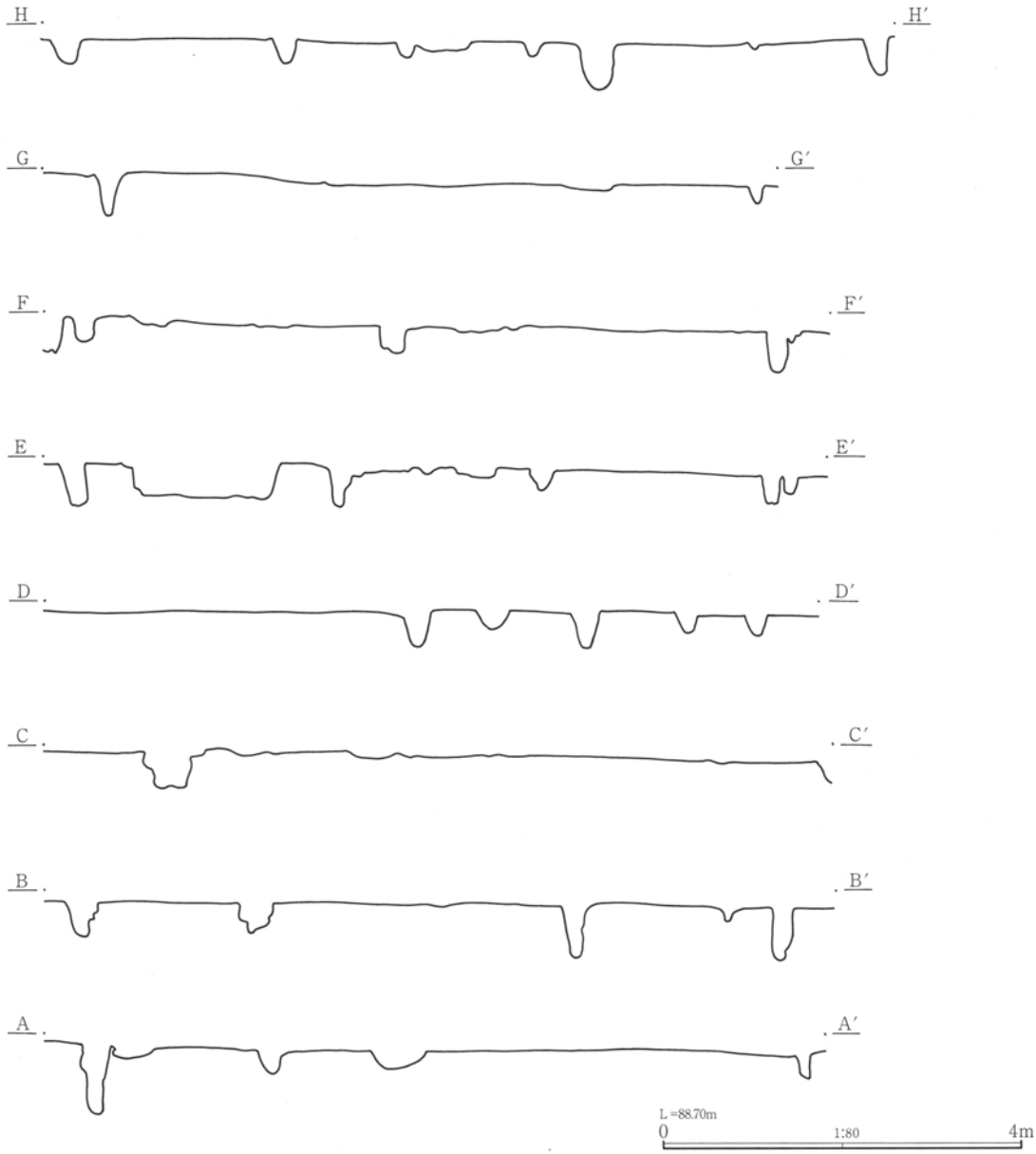


図26　Ｃ区１号掘立柱建物跡　柱穴エレベーション図

柱穴Ｈ１　長径0.34m×最大深度0.28m、**柱穴Ｈ２**　長径0.4m×短径0.28m×最大深度0.51m、**柱穴Ｈ３**　径0.3m×最大深度0.48m

時期：出土遺物が皆無のため詳細は不明ながら、形状から近世のものと考えられる。

（２）２号掘立柱建物跡

位置：Ｃ区で北から４番目の調査区の中の中央、西端付近。X455・Y-260。　**主軸方位**：N-25°-E

重複：北東隅で92号土坑跡を破壊。また、南西隅は３号井戸跡によって破壊される。

規模と形状：西側が調査区外に大きく出てしまうため全体の形状は不明であるが、長方形状を呈するものと推測できる。北辺の一部、東辺、南辺の一部が検出されたが、完全に検出できたのは東辺のみである。柱穴の間隔はまばらだが、床束と考えられる建物内部からの柱穴は、調査範囲内では全く検出されなかった。

柱穴埋土：黒褐色土をベースとする。　**柱穴**：北辺の一部、東辺、南辺の一部が検出されたが、完全に検出できたのは東辺のみである。北辺は、東辺にもつながる東北隅の柱穴が１基のみ。東辺では東北隅及び南東隅の柱穴各１基ずつと、辺のほぼ中央に２基。中央の２基は据え換えの可能性もある。南辺では南東隅の柱穴から北西方向に向かって直線上に３基の柱穴が検出されている。柱穴間隔と数は、各辺でまちまちであるが、柱穴は、いずれもしっかりとした掘方を有している。

柱穴１　長径0.39m×短径0.24×最大深度0.39m、**柱穴２**　長径0.45m×短径0.37m×最大深度0.24m、**柱穴３**　長径0.36m×短径0.19m×最大深度0.46m、**柱穴４**　長径0.4m×短径0.3m×最大深度0.38m、**柱穴５**　長径0.41m×短径0.32m×最大深度0.15m、**柱穴６**　長径0.69m×短径0.47×最大深度0.34m。**柱穴７**　残存最大径0.26m×最大深度0.26m。

時期：出土遺物が皆無のため詳細は不明ながら、形状から近世のものと考えられる。

２号掘立柱建物跡

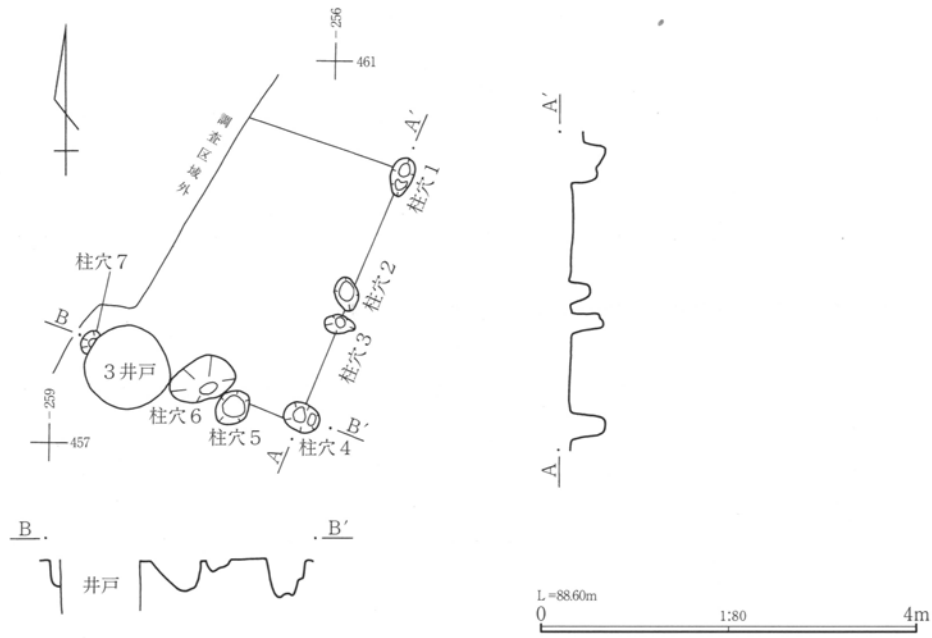


図27　Ｃ区２号掘立柱建物跡　平面図・柱穴エレベーション図

第３項　竪穴建物跡

Ｃ区の最も北よりの調査区画の南よりの位置から竪穴建物跡が３棟検出された。

いずれも平面長方形状を呈し、南北にやや長い3.5m×３m前後のものが２棟と、東西に長い２m×３mのものが１棟であり、相互に切り合っている。

南北にやや長い長方形状を呈する２棟の竪穴建物跡、１号竪穴建物跡と３号竪穴建物跡は、いずれにも４隅と各辺の中央と計８本の柱穴があり、これらの遺構は全く同一の構造であったと考えられる。また、１・３号竪穴建物跡は、ともに規模も非常によく類似しているので、３号竪穴建物跡を建て直したものが１号竪穴建物跡である可能性も考えられる。

また、東西に長い長方形状を呈し、１・３号竪穴建物跡に比べてかなり小振りな２号竪穴建物跡では、短

辺の中央に２本だけ柱穴がある。

いずれでも竈などの設備はなく、遺物も全く出土しなかったため、正確な年代等については、詳にしがたい部分もある。形態からみて中世のものと考えられる。

（１）１号竪穴建物跡

位置：Ｃ区で最も北寄りの調査区の中の南端付近。Ｘ485・Ｙ-240。　主軸方位：N-10°-E　**重複**：３号竪穴建物跡の南東隅約1/5を掘り込んで破壊している。北東隅を近代の井戸跡によって破壊される。　**規模と形状**：南北に長い均整がとれた長方形状を呈し、しっかりとした掘り込みである。長辺3.4m・短辺2.98m・深さ0.38m　　埋土：黒褐色土をベースとする。　**床面**：地山を削りだして床面を形成している。床面と堀方がほぼ一致している箇所が多い。　**柱穴**：後世の井戸によって破壊されたため検出できなかった北東隅部を除いて、他の３隅及び各辺の中央に１基ずつ検出されている。元来は４隅及び各辺のほぼ中央の壁際の計８箇所に設けられていたものと考えられる。柱穴は、いずれもそれぞれ同一箇所に２基ずつ重複して検出され、柱の据え換えが行われたことが判明する。柱穴は、いずれも深く、しっかりとした堀方を有している。**柱穴１Ａ**　長径0.38m×短径0.34m×最大深度0.52m、**柱穴１Ｂ（旧）**　現存長径0.32m×現存短径0.18m×最大深度0.4m、**柱穴２Ａ**　長径0.42m×短径0.37m×最大深度0.57m、**柱穴２Ｂ（旧）**　現存長径0.38m×現存短径0.24m×最大深度0.65m、**柱穴３Ａ**　長径0.4m×短径0.27m×最大深度0.63m、**柱穴３Ｂ（旧）**　現存長径0.42m×現存短径0.22m×最大深度0.61m、**柱穴４Ａ**　長径0.25m×短径0.21m×最大深度0.66m、**柱穴４Ｂ（旧）**　現存長径0.31m×最大深度0.64m、**柱穴５Ａ**　長径0.34m×短径0.15m×最大深度0.67m、**柱穴５Ｂ（旧）**現存長径0.34m×現存短径0.26m×最大深度0.72m、**柱穴６Ａ**　長径0.42m×短径0.37m×最大深度0.51m、**柱穴６Ｂ（旧）**　現存長径0.35m×現存短径0.15m×最大深度0.27m、**柱穴７Ａ**　長径0.25m×短径0.18m×最大深度0.64m、**柱穴７Ｂ（旧）**　現存長径0.3m×現存短径0.28m×最大深度0.75m。　**時期**：形状から中世のものと考えられる。

（２）２号竪穴建物跡

位置：Ｃ区で最も北寄りの調査区の中のほぼ中央。Ｘ490・Ｙ-240。　**主軸方位**：N-110°-W　**重複**：３号竪穴建物跡の北東隅を掘り込んで破壊している。　**規模と形状**：東西に長い長方形状を呈し、しっかりとした掘り込みである。長辺3.05m・短辺2.06m・深さ0.38。　**埋土**：暗黒褐色土をベースとする。　**床面**：地山を削りだして床面を形成している。床面と堀方がほぼ一致している箇所が多い。　**柱穴**：短い方の両辺、すなわち西辺と東辺の中央に１基ずつ検出されている。柱穴は、いずれもそれぞれ近接した位置に２基ずつ検出され、柱の据え換えが行われたことが判明する。柱穴は、いずれも深く、しっかりとした堀方を有している。**柱穴１Ａ（旧）**　長径0.3m×短径0.24m×最大深度0.21m、**柱穴１Ｂ**　長径0.3m×短径0.25m×最大深度0.35m、**柱穴２Ａ（旧）**　長径0.36m×短径0.37m×最大深度0.57m、**柱穴２Ｂ**　長径0.34m×短径0.24m×最大深度0.65m。　**時期**：出土遺物が皆無のため詳細は不明ながら、形状から中世のものと考えられる。

（３）３号竪穴建物跡

位置：Ｃ区で最も北寄りの調査区の中の南端付近。Ｘ490・Ｙ-240。　**主軸方位**：N-10°-W　**重複**：南東隅約1/5を１号竪穴建物跡に、北東隅を２号竪穴建物跡に、それぞれ掘り込まれて破壊されている。北西隅を近代の攪乱によって破壊される。　**規模と形状**：南北に長い均整がとれた長方形状を呈し、しっかりと

１～３号竪穴建物跡

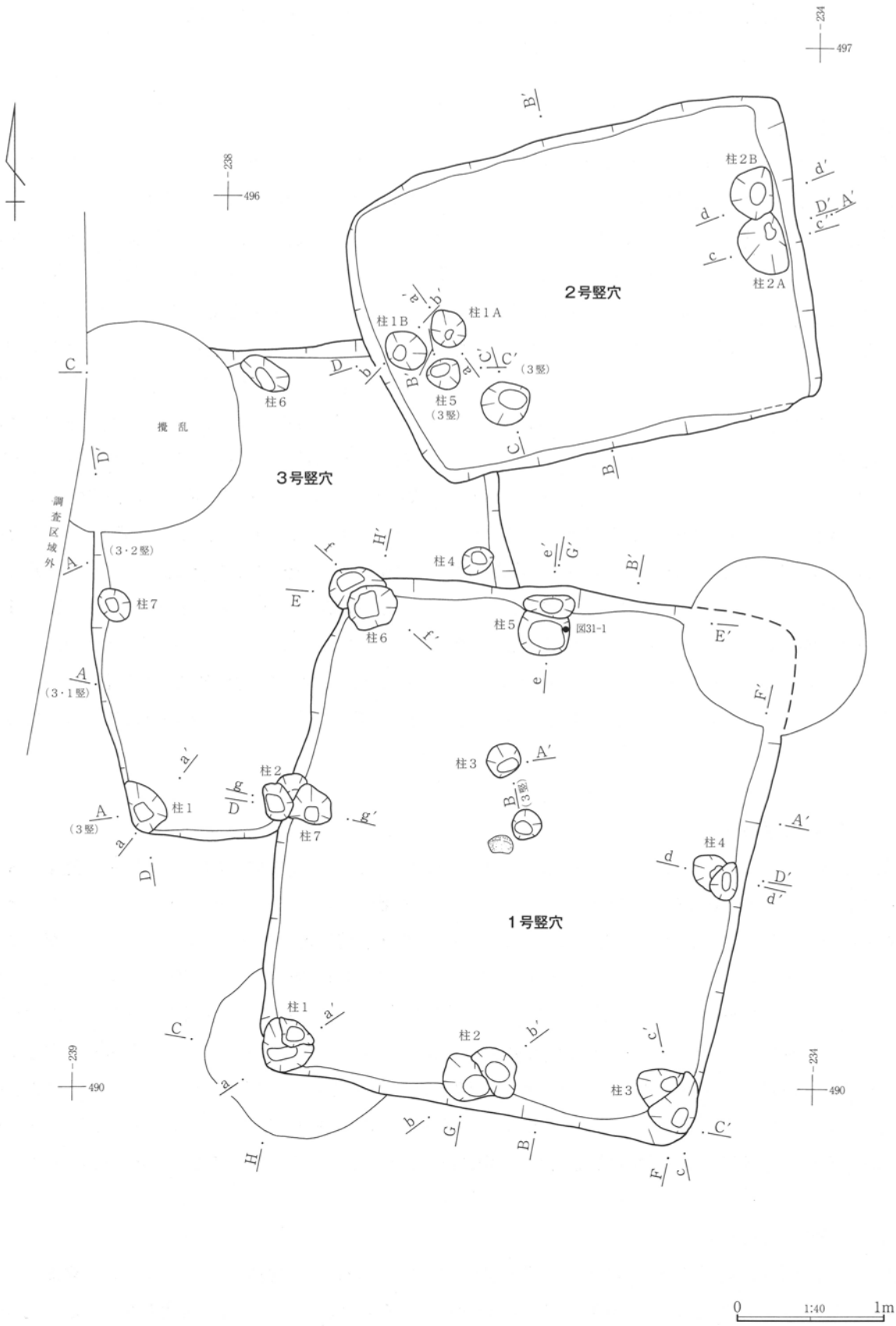
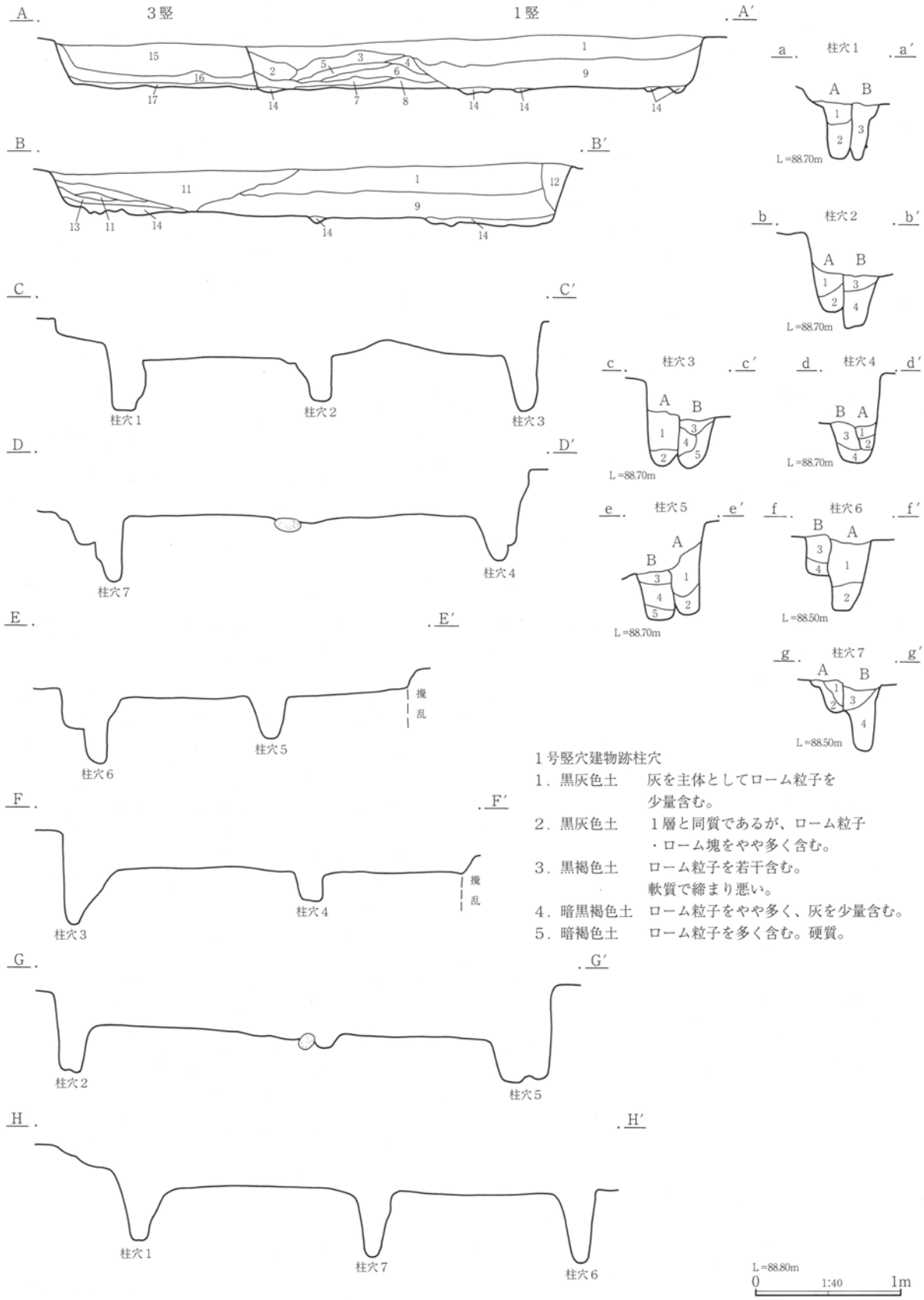


図28　C区１～３号竪穴建物跡　平面図

１号竪穴建物跡



１号竪穴建物跡柱穴

1．黒灰色土　灰を主体としてローム粒子を少量含む。

2．黒灰色土　１層と同質であるが、ローム粒子・ローム塊をやや多く含む。

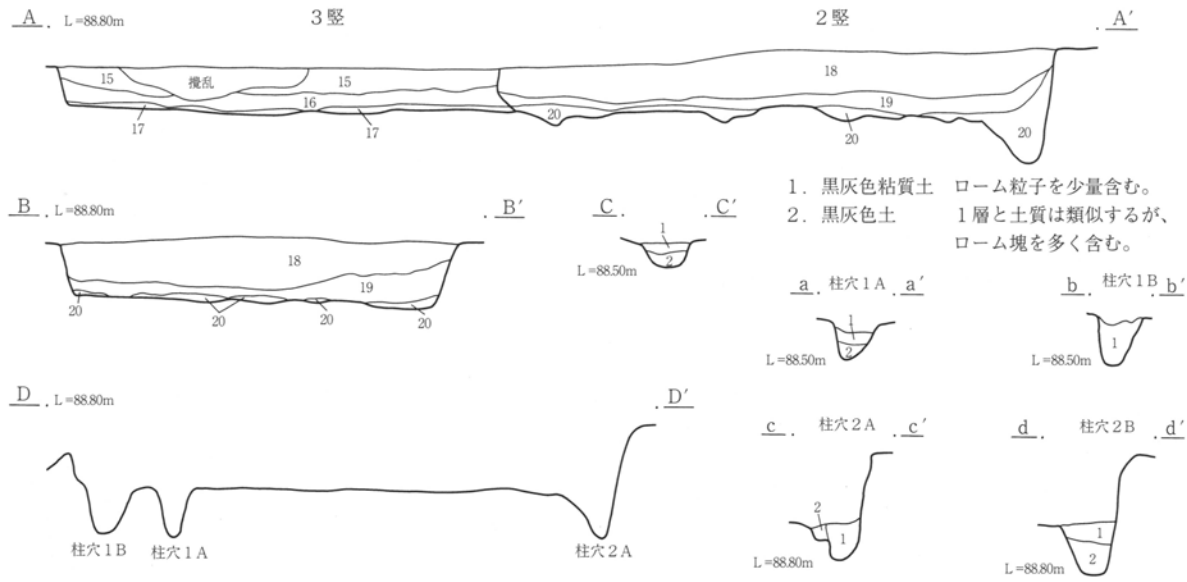
3．黒褐色土　ローム粒子を若干含む。軟質で締まり悪い。

4．暗黒褐色土　ローム粒子をやや多く、灰を少量含む。

5．暗褐色土　ローム粒子を多く含む。硬質。

図29　Ｃ区１号竪穴建物跡　土層断面図・柱穴土層断面図・エレベーション図

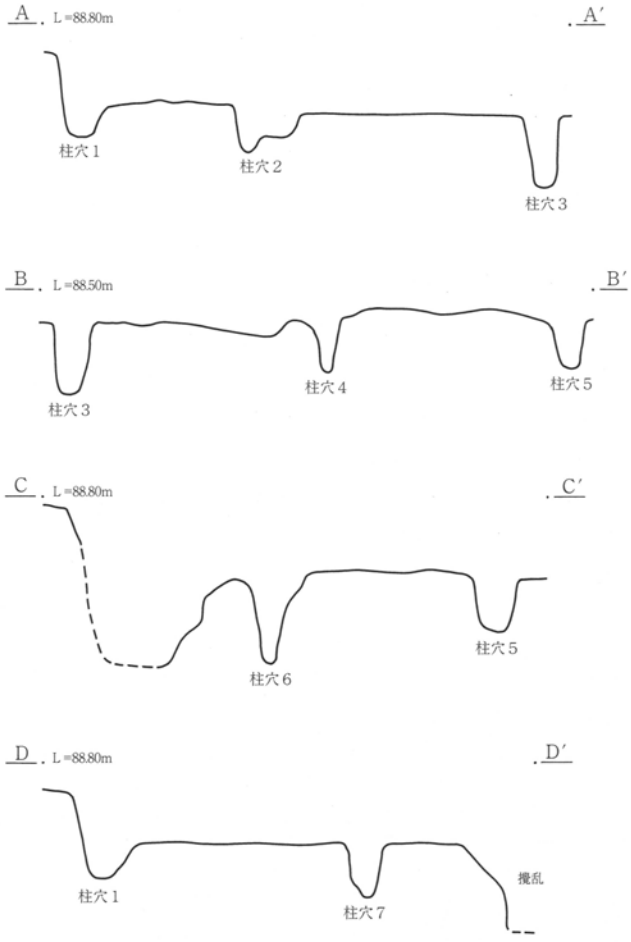
２号竪穴建物跡

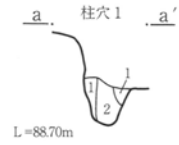


1．黒灰色粘質土　ローム粒子を少量含む。
2．黒灰色土　　１層と土質は類似するが、ローム塊を多く含む。

1．暗黄褐色土　ローム粒子・ローム塊を多く含む。
2．暗褐色土　　ローム粒子を少量含む。

３号竪穴建物跡





1．暗褐色土　　ローム粒子を多く含む。やや硬質。
2．暗黒褐色土　ローム粒子を微量含む。

１・２号竪穴建物跡
1．黒褐色土　　径１～15㎜程度のローム粒子を少量含む。
2．黒褐色土　　１層の土をベースとし、暗灰色の粘土が全体的に混入。
3．暗灰褐色土　粘土を多く含み、１層の土が少量混。
4．黒褐色土　　ローム粒子・ローム塊をやや多く含む。
5．暗褐色土　　ローム粒子、灰白色粘土を少量含む。踏み固められており硬質。
6．黒褐色土　　ローム粒子、灰褐色粘質土を共に微量含む。
7．暗褐色土　　５層とほぼ同一。ローム粒子、灰白色粘質土を含み、硬質。
8．黒褐色土　　ローム粒子を微量含む。軟質で締まり悪い。
9．黒褐色土　　土質は１層と類似するが、ローム粒子・ローム塊の混入がやや多い。軟質でしまり悪い。
10．暗褐色土　　ローム粒子を少量含む。5・8層と同一で、踏み固められた貼床のように硬質である。
11．暗褐色土　　ローム粒子を多く、暗灰白色粘質土を微量含む。
12．明黒褐色土　ローム粒子を全体に多く含む。
13．暗黄褐色土　ローム塊、ローム粒子を主体とする。硬質。
14．黒灰色土　　灰をやや多く含む。軟質。1号竪穴建物跡堀方堆積土。
15．暗黒褐色土　10㎜大のローム塊を少量含む。
16．暗褐色土　　全体的にローム粒子をやや多く含む。
17．暗黒灰色土　ローム塊を多く含み、硬質。3号竪穴建物跡堀方堆積土。
18．暗黒褐色土　ローム塊混粒子を少量含む。軟質で締まり悪い。
19．暗褐色土　　ローム粒子・ローム塊を多く含む。２号竪穴建物跡堀方堆積土。
20．暗褐色土　　ローム塊粒子を少量含む。やや硬質。

0　1:40　1m

図30　C区２・３号竪穴建物跡　土層断面図・柱穴土層断面図・エレベーション図

した掘り込みである。長辺3.3m・短辺2.85m・深さ0.33m。この調査区で検出された３棟の竪穴建物跡のうち、最も古い遺構である。　**埋土**：暗黒褐色土をベースとする。　**床面**：地山を削りだして床面を形成している。床面と堀方がほぼ一致している箇所が多い。　**柱穴**：後世の攪乱によって破壊されたため検出できなかった北西隅部を除いて、他の３隅及び各辺の中央に１基ずつ検出されている。元来は４隅及び各辺のほぼ中央の壁際の計８箇所に設けられていたものと考えられる。南東隅及び北東隅の柱穴は、それぞれ本遺構を破壊して造られた１号竪穴建物跡、２号竪穴建物跡の床下から検出されている。

柱穴は、いずれもそれぞれ一箇所ずつであり、隣接する１号竪穴建物跡のような据え換えの痕跡は本遺構では確認出来ない。いずれも深く、しっかりとした堀方を有している。**柱穴１**　長径0.48m×短径0.26m×最大深度0.45m、**柱穴２**　１号竪穴建物跡柱穴７とほぼ同位置に当たっており、それに大部分を破壊されている。最大深度0.63m、**柱穴３**　径0.24m×最大深度0.75m、**柱穴４**　長径0.2m×短径0.15×最大深度0.5m、**柱穴５**　長径0.2m×短径0.15m×最大深度0.54m、**柱穴６**　長径0.35m×短径0.2m×最大深度0.75m、**柱穴７**　長径0.25m×短径0.19m×最大深度0.39m。　**時期**：形状から中世のものと考えられる。

上植木光仙房遺跡Ｃ区１号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴、備考
C-１竪-１	円筒埴輪	埋土 底部付近小破片	推定底径 13、残存器高 7.4、器厚 1.5	① 10YR6/3 にぶい黄褐色　②良好　③径１㎜以下の白色粒子・灰白色粒子を少量含む。	体部外面縦方向刷毛目・内面指頭による縦及び斜め方向撫で。底部撫で。

上植木光仙房遺跡Ｃ区３号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴、備考
C-３竪-１	円筒埴輪	埋土 体部小破片	残存長 5.6、器厚 1.3	① 5YR5/6 明赤褐色　②良好　③径１㎜以下の白色粒子・灰白色粒子・砂礫をやや多く含む。	体部内外面縦方向刷毛目。

図31　Ｃ区１・３号竪穴建物跡　出土遺物

第４項　溝跡

Ｃ区では、溝跡は９条検出されている。Ａ区と同様、東西方向に流れるものが比較的に多く、調査区が東西方向に狭いため、両端とも調査区外に続いているものが少なくない。現在の主要地方道伊勢崎・大間々線を東に越えたＤ区で、西側の継続部分が検出されているものもあるが、Ｃ・Ｄ区両区ともＡ・Ｂ区と同様、調査区の東西幅が狭いために、結局、全貌が明らかにしがたい部分が少なくない。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの溝跡の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは溝跡自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（１）39号溝跡

位置：Ｃ区最北の調査区の北寄り、X500・Y-230～-235。　**重複**：40号溝跡を破壊する。　**規模と形状**：確認全長7.22m・最大上幅1.62m・最大下幅0.54m・深さ0.52m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。東北東～西南西方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝。南縁・東寄りの一部を攪乱によって破壊される。両端ともに調査区外に出る。規模や形状、走向方向からみて、Ｄ区で検出された　47号溝跡の西側の続きと考えられる。47号溝跡の東端は調査区外にさらにのびている。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（２）40号溝跡

位置：Ｃ区最北の調査区の北寄り、X495・Y-230～-235。　**重複**：39・41号溝跡に破壊される。　**規模と形状**：確認全長5.56m・最大上幅0.61m・最大下幅0.38m・深さ0.38m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。東～西方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝であるが、中央部の大部分と東端を攪乱によって、また、北縁を39号溝跡によって、南縁を41号溝跡によってそれぞれ破壊され、不明な部分が多い。両端ともに調査区外に出るが、Ｄ区での東側接続部分は未検出。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（３）41号溝跡

位置：Ｃ区最北の調査区の北寄り、X495・Y-230～-235。　**重複**：40号溝跡を破壊する。　**規模と形状**：確認全長6.2m・最大上幅0.7m・最大下幅0.56m・深さ0.32m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。東～西方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝であるが、西端を攪乱によって破壊され、不明な部分が多い。両端ともに調査区外に出るが、規模や形状、走向方向からみて、Ｄ区での東側接続部分は未検出。
埋土：黒褐色土ベース。

（４）42号溝跡

位置：Ｃ区最北の調査区の北寄り、X495・Y-230～-235。　**重複**：43号溝跡に破壊される。　**規模と形状**：確認全長5.69m・最大上幅0.49m・最大下幅0.28m・深さ0.35m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。東南東～西北西方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝であるが、東端を43号溝跡によって、また、西端を攪乱によって破壊され、不明な部分が多い。両端ともに調査区外に出るが、規模や形状、走向方向からみて、Ｄ区での東側接続部分は未検出。

（5）43号溝跡

位置：Ｃ区最北の調査区の北寄り、X495・Y-230～-235。　**重複**：42号溝跡を破壊する。　**規模と形状**：確認全長6.42m・最大上幅0.76m・最大下幅0.38m・深さ0.58m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。東～西方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝。両端ともに調査区外に出るが、規模や形状、走向方向からみて、Ｄ区で検出された46号溝跡が東側接続部分と考えられる。46号溝跡の東端はさらに調査区外に出る。　**埋土**：暗黒褐色土ベース。

39・40・41・42・43号溝跡

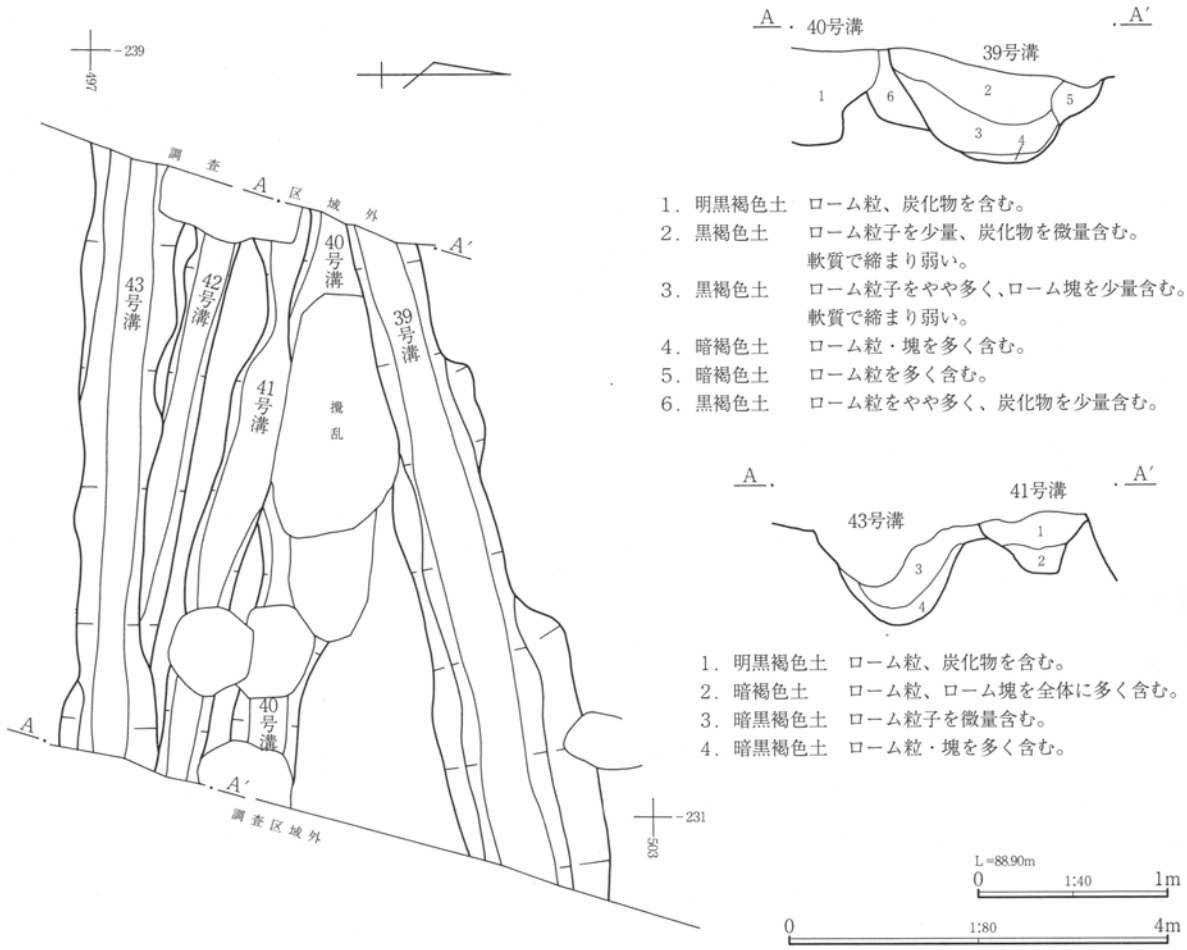


図32　Ｃ区39～43号溝跡　平面図・土層断面図

上植木光仙房遺跡Ｃ区 39 号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴、備考
C-39溝-1	土錘	埋土 ほぼ完形	長さ 7.2、幅 4.2、器厚 3.75、孔径 2、重量 95g	① 10YR6/3 にぶい黄橙色　②良好　③径 1 ㎜以下の白色粒子・灰白色粒子を微量含む。	体部内外面篦削り後撫で。
C-39溝-2	灰釉陶器 長頸壺	埋土 底部～体部約 1/4 残存	残存器高 4.4、推定底径 8.9、器厚 0.9	① 2.5Y7/1 灰白色　②良好　③径 1 ㎜ 以下～ 1 ㎜大の黒色・褐色粒子を少量含む。	轆轤整形。底部回転篦削り後高台貼付、釉薬漬け掛け。

上植木光仙房遺跡Ｃ区 43 号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴、備考
C-43溝-１	円筒埴輪	埋土 体部小破片	残存長 8.4 、器厚 1.5 、	① 7.5YR7/6 橙色	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で、突帯部貼り付け後突帯部上下横撫で。

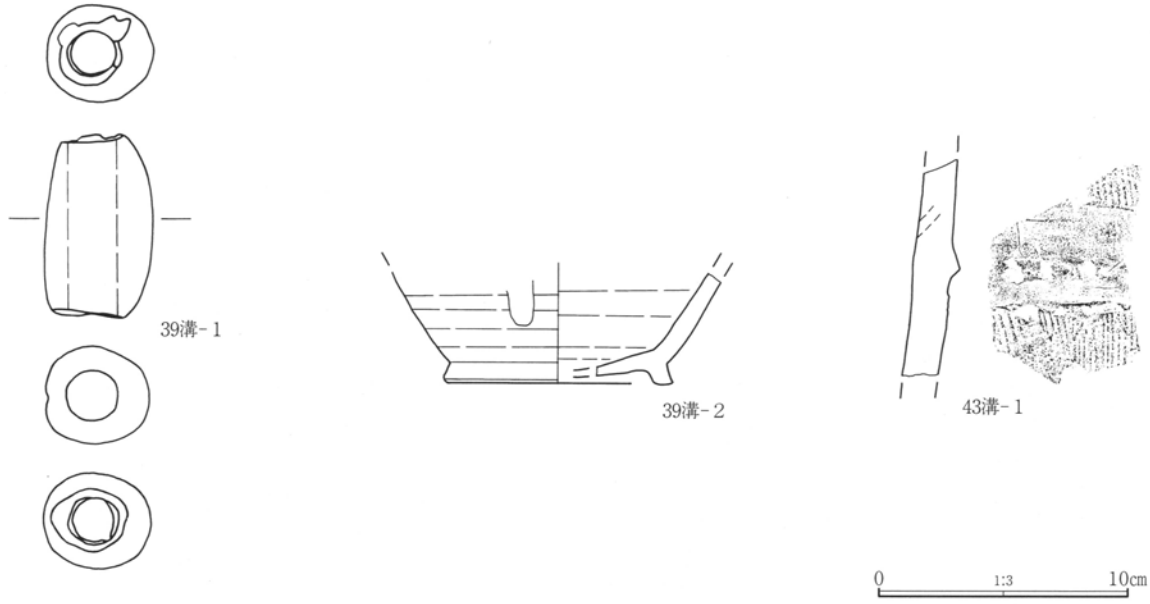


図33　Ｃ区39・43号溝跡　出土遺物

（６）49号溝跡

位置：Ｃ区の中央。北から三番目の調査区画の北寄りの位置、X465～475・Y-240～-250。　**重複**：51号溝跡を破壊する。　**規模と形状**：確認全長2.84m・最大上幅0.44m・最大下幅0.26m・深さ0.18m、断面は逆台形状を呈する。北西～南東方向に流れ、東南端がX 473.5・Y-247Gr.付近で止まる狭い溝。51号溝跡の中を掘り抜いて、51号溝跡にすっぽり入るような方向で流れる。西北端は調査区外に出る。　**埋土**:暗灰色土ベース。

（７）51号溝跡

位置：Ｃ区の中央。北から三番目の調査区画の北寄りの位置、X465～475・Y-240～-250。　**重複**：49号溝跡に破壊される。　**規模と形状**：確認全長9.42m・最大上幅0.81m・最大下幅0.56m・深さ0.19m、断面は扁平な逆台形状を呈する。北西～南東方向に流れる浅い溝。西北端を49号溝跡に掘り抜かれる。東南端は調査区外に出て、規模や形状からみて、県道を挟んだ東側のＤ区で検出された38号溝跡に繋がるものと考えられる。38号溝跡の東南端は、D区の東端付近で止まっている。　**埋土**：暗褐色土ベース。

49・51号溝跡

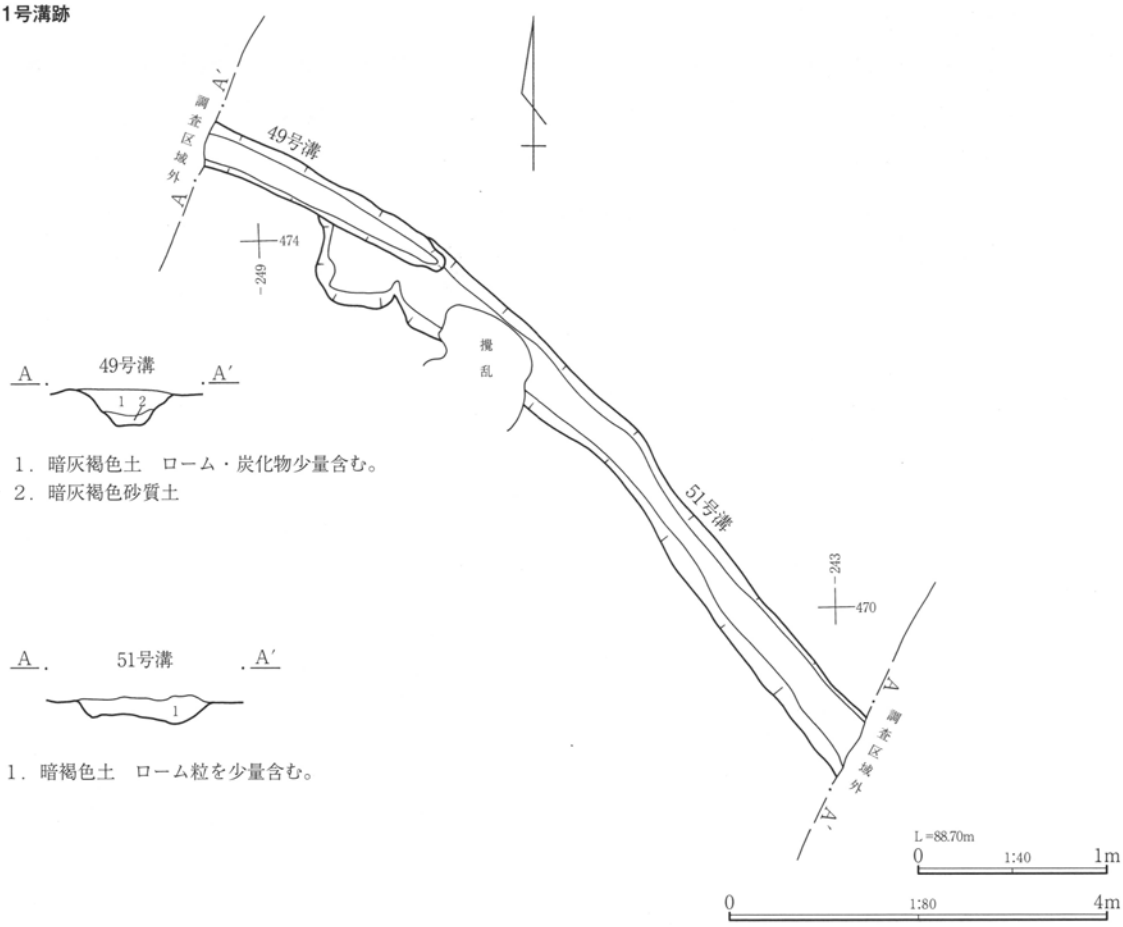


図34　Ｃ区49・51号溝跡　平面図・土層断面図

（8）50号溝跡

位置：Ｃ区の中央。北から三番目の調査区画の南寄り、東端の位置、X460～470・Y-245。　**重複**：１号掘立柱建物跡との前後関係は不明。　**規模と形状**：確認全長4.18m・最大上幅0.42m・最大下幅0.28m・深さ0.18m、断面は逆台形状を呈する。北東～南西方向に流れ、東南端がX470・Y-245Gr.付近で止まる狭い溝。西南端は調査区外に出るが、隣接する調査区では継続部分は全く検出されていない。

50号溝跡

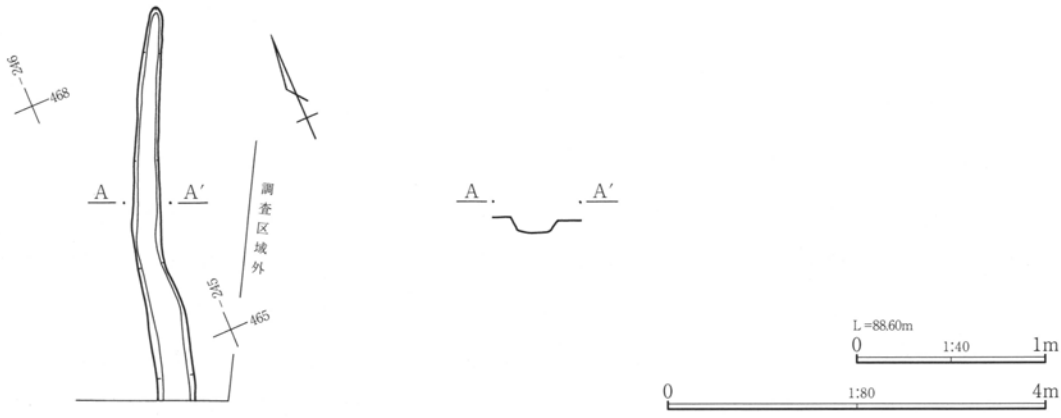


図35　Ｃ区50号溝跡　平面図・エレベーション図

（９）56号溝跡

位置：Ｃ区の南端。南端の調査区の北寄りの位置、X455～460・Y-250～-255。　**重複**：92号土坑跡を破壊。北東縁を攪乱によって、また南西縁を88・96号土坑跡に破壊される。　**規模と形状**：確認全長8.89m・最大上幅0.72m・最大下幅0.42m・深さ0.34m、断面はやや緩やかな逆台形状を呈する。北西～南東方向に流れるしっかりとした堀方を有する溝。西北端・東南端ともに調査区外に出るが、東南端は、規模や形状、走向方向などからみて、県道を挟んだＤ区で検出された36号溝跡に繋がるものと考えられる。　**埋土**:暗褐色土ベース。

56号溝跡

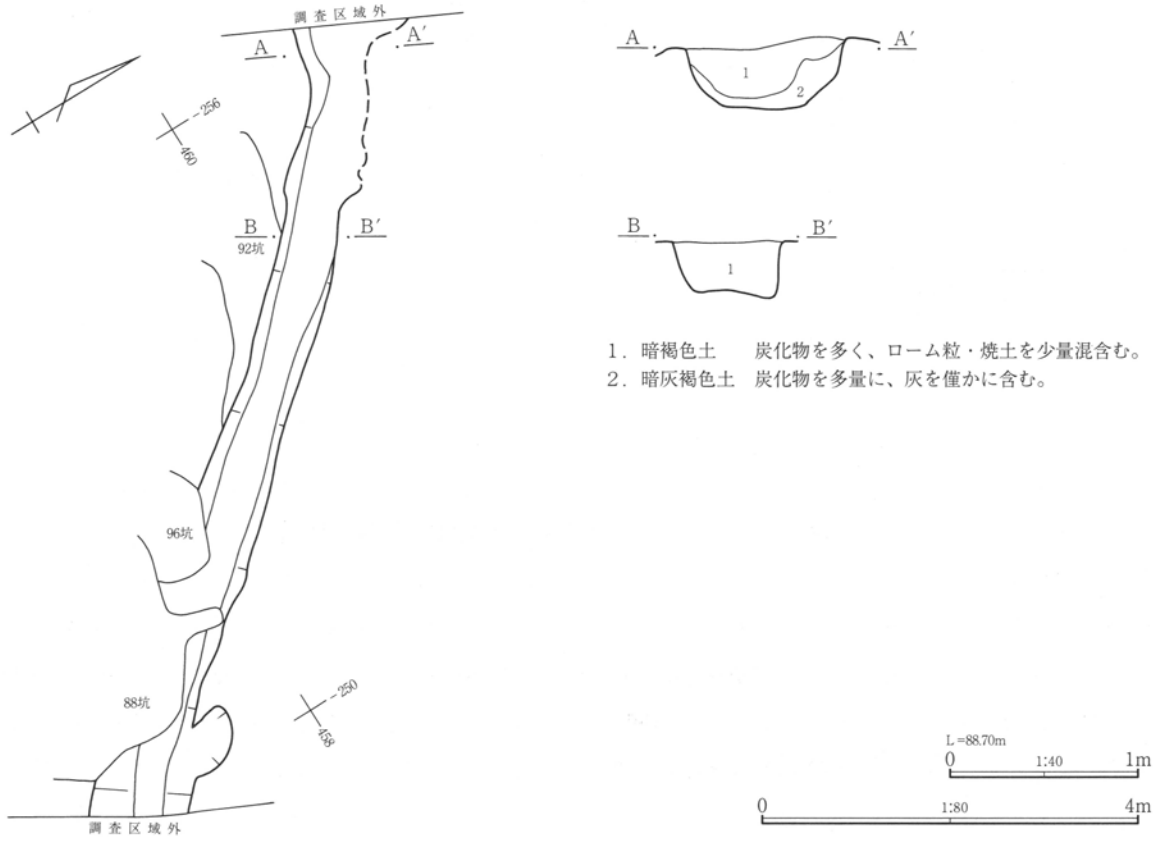


図36　Ｃ区56号溝跡　平面図・土層断面図

第５項　井戸跡

・３号井戸跡

位置：Ｃ区の最も南の調査区のほぼ中央部、西際寄りの位置。X455・Y-250。　**重複**：２号掘立柱建物跡の南辺を破壊する。　**規模と形状**：平面図形態円形状を呈し、口径0.82m・深さ4.42m。東西の断面には約0.5mおきに、井戸掘削時に地山を断面くさび状に掘り込んだ昇降用足場痕跡が明瞭に検出できた。

現状では深さ約3.8～４mのところに位置する褐色火山灰砂層から１分あたり５Lの湧水がみられた。

埋土：上層には黒色火山灰含有砂質土ベース。中層～下層は井壁崩落土を含む灰色軽石含有黒褐色土。

出土遺物：自然遺物のみ。　**時期**：自然遺物以外の出土遺物が皆無。形状等から類推して近世末～近代。

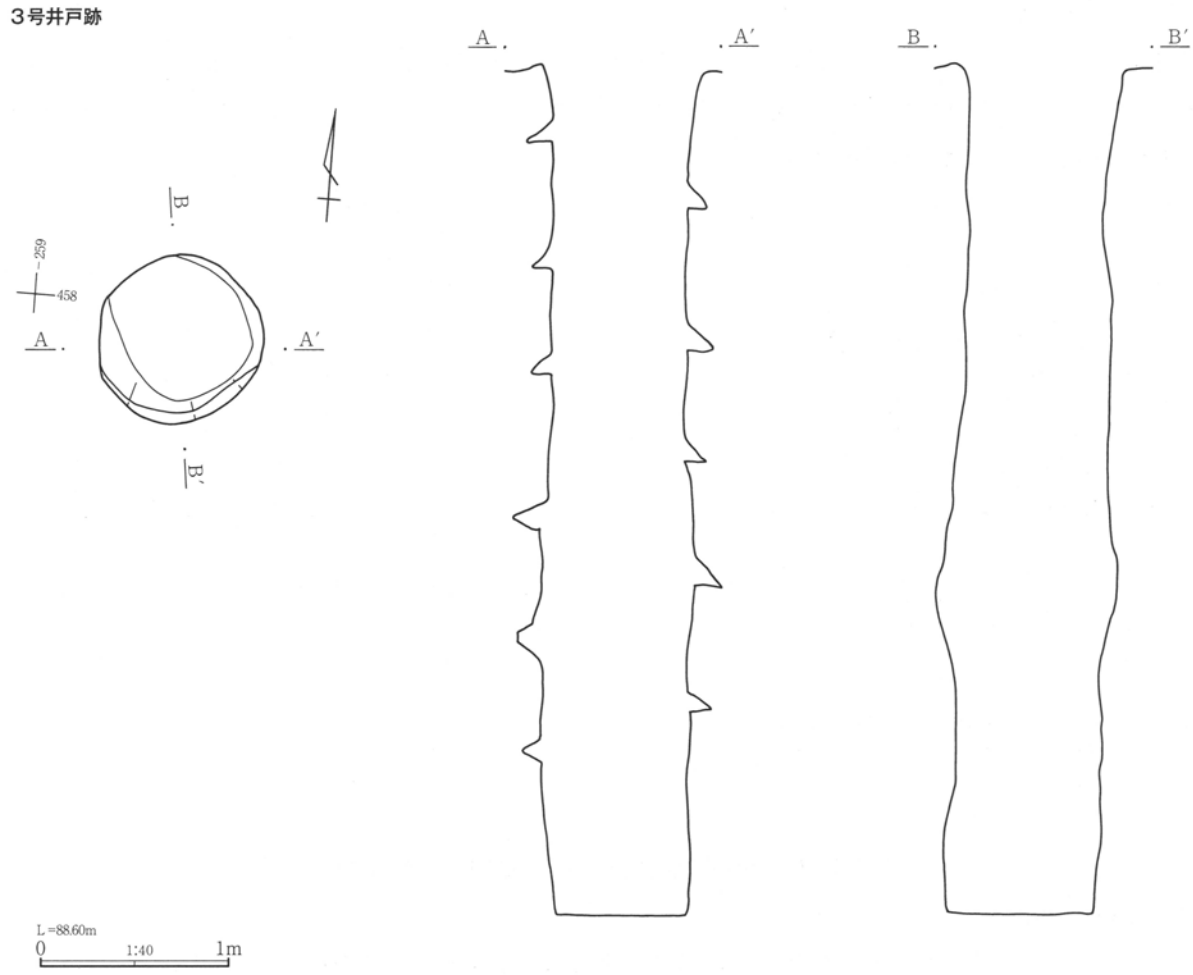


図37　Ｃ区３号井戸跡　平面図・エレベーション図

第６項　土坑跡

Ｃ区では、土坑跡は32基検出されている。いずれも用途不明の穴である。調査区の南半分、南端の調査区画と中央の調査区からのみ検出され、中央の調査区画から10基、南端の調査区画から22基検出されている。最北端と北から二番目の調査区からは全く検出されていない。また、特に、中央の調査区画の真ん中付近では、隅丸長方形状の土坑跡が集中している。ただし、こうした分布の理由は、不明である。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの土坑の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは土坑自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（１）59号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画のほぼ中央北東寄り、51号溝跡のすぐ北側。X470・Y-240。　**重複**：なし。　**規模と形状**：ほぼ正方形状を呈し、確認最大長1.1m・幅1m・深さ0.54m・検出面積1.072㎡。中央部が若干深く堀り窪められているが、顕著な落ち込みではない。下場の周囲にピット状の穴が巡るが、非常に浅く、柱穴のようなものかどうかは不明。　**埋土**：灰色土ベース。

（２）60号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画のほぼ中央北東寄り、51号溝跡のすぐ北、59号土坑跡の西側。X470・Y-245。　**重複**：なし。　**規模と形状**：不整円形状を呈し、。最大長1m・幅0.72m・深さ0.14m・検出面積0.528㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

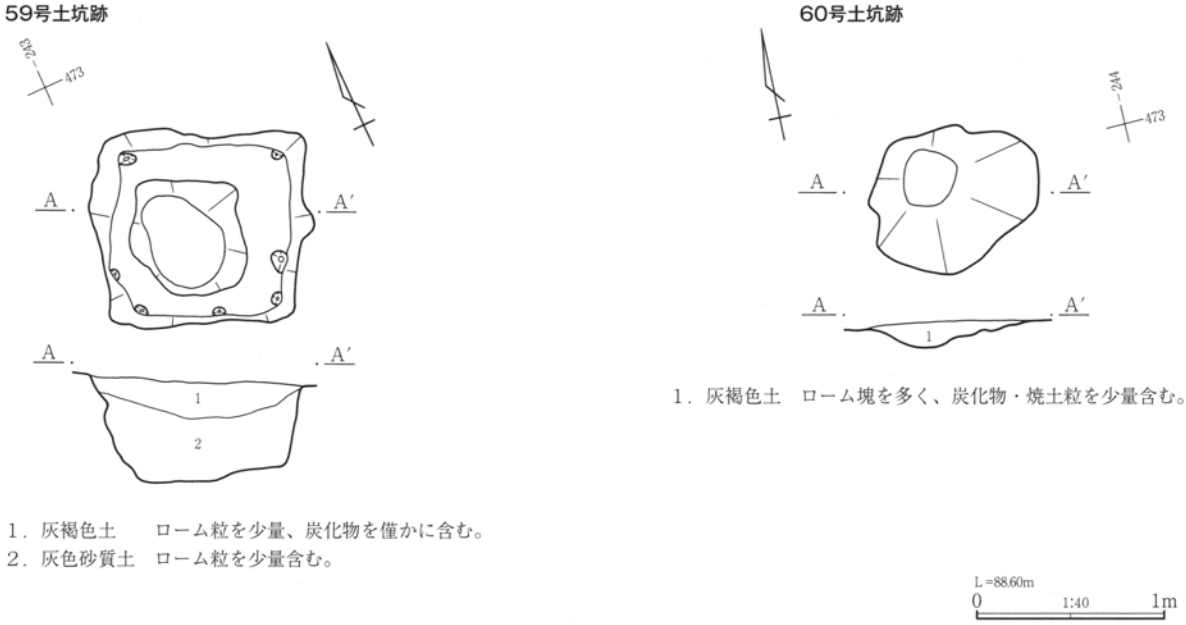


図38　Ｃ区59・60号土坑跡　平面図・土層断面図

（３）61号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画の南端やや西寄り。１号掘立柱建物跡・62・63号土坑跡のすぐ南側に接して、X465・Y-250。　**重複**：１号掘立柱建物跡の柱穴に北縁の一部を破壊される。　**規模と形状**：南北に長い不整円形状を呈し、南端は調査区外に出る。確認長径1.21m・短径1.14m・深さ0.44m・確認面積1.067㎡。　**埋土**：暗灰色土ベース。

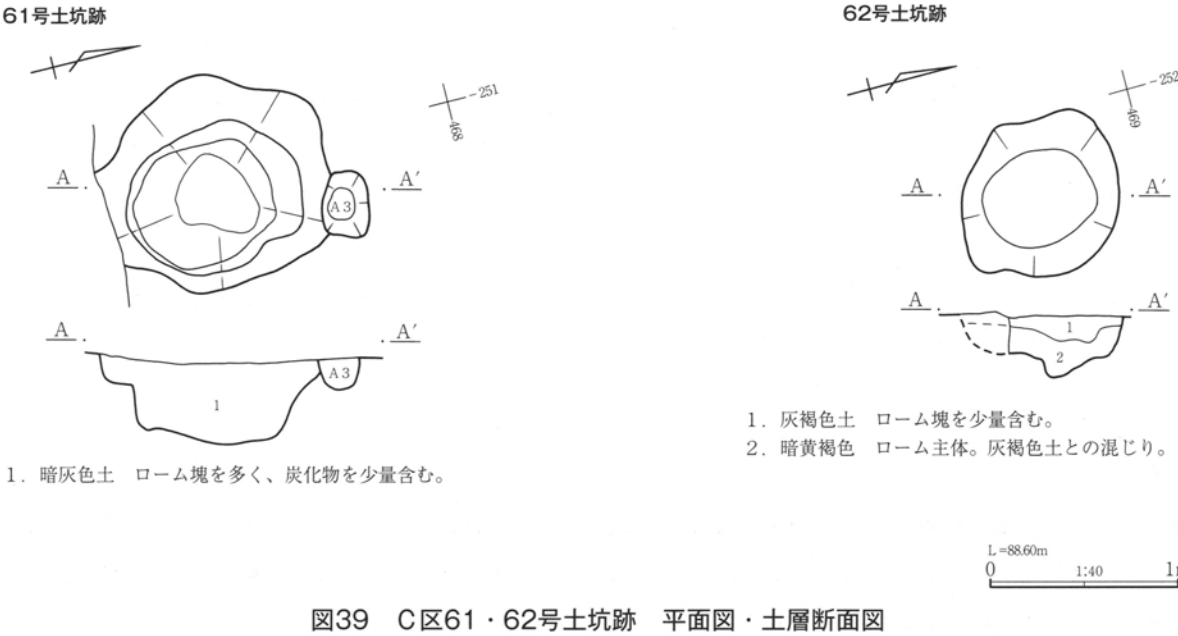


図39　Ｃ区61・62号土坑跡　平面図・土層断面図

（4）62号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画の南西端寄り。１号掘立柱建物跡と重複。63号土坑跡のすぐ西側、61号土坑跡のすぐ北側に接して、X465・Y-250。　**重複**：１号掘立柱建物跡と重複するが、掘立柱建物跡の柱穴との直接の切り合い関係は認められないので、新旧関係は不明。　**規模と形状**：不整円形状を呈し、長径1.01m・短径0.84m・深さ0.32m・確認面積0.596㎡。　**埋土**：暗黄褐色土ベース。

（5）63号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画の南西端寄り。62号土坑跡のすぐ西側、61号土坑跡のすぐ北側に接して、X465・Y-250。　**重複**：１号掘立柱建物跡の柱穴によって北西隅を破壊される。　**規模と形状**：西北－東南に長い隅丸長方形状を呈し、長径1.01m・短径0.65m・深さ0.22m・確認面積0.596㎡。

（6）64号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画の中央西端寄り。65号土坑跡のすぐ南側、66・67号土坑跡のすぐ西側、X470・Y-245。　**重複**：１号掘立柱建物跡と重複するが、１号掘立柱建物跡の柱穴と直接の切り合い関係にはないので、それとの新旧関係は不明。　**規模と形状**：東北－西南に長い隅丸長方形状を呈し、長径2.15m・短径1.16m・深さ0.34m・確認面積2.171㎡。

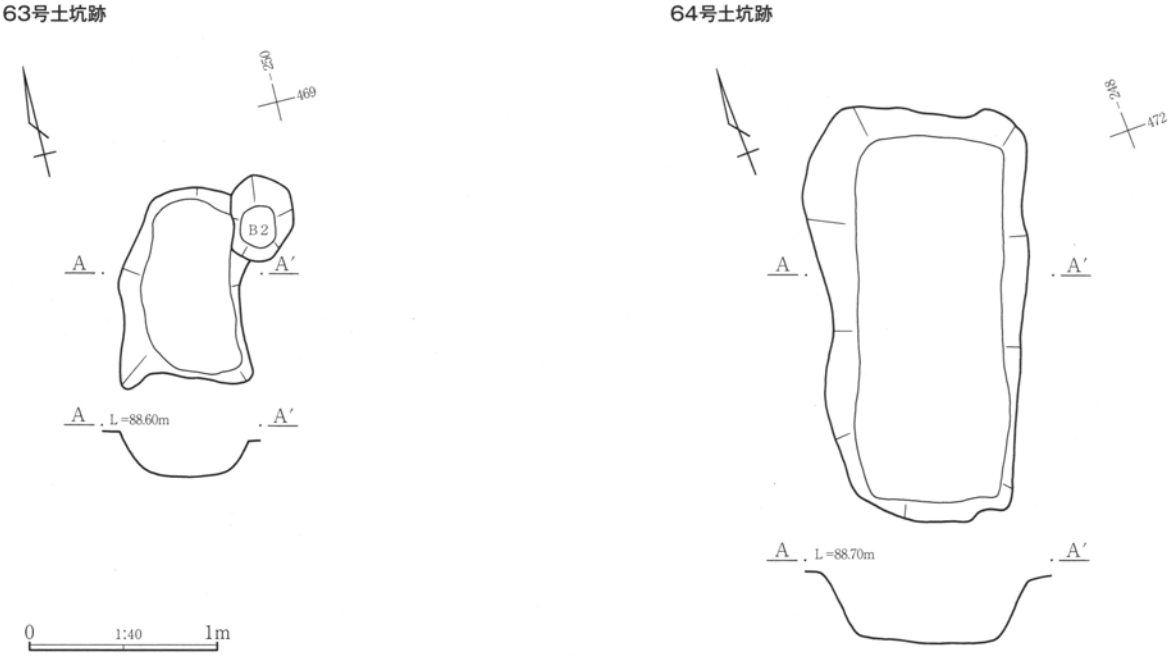


図40　Ｃ区63・64号土坑跡　平面図・エレベーション図

（7）65号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画の中央西端寄り。64号土坑跡のすぐ北側、66・67号土坑跡のすぐ西側、X470・Y-245。　**重複**：１号掘立柱建物跡と重複するが、１号掘立柱建物跡の柱穴と直接の切り合い関係にはないので、それとの新旧関係は不明。　**規模と形状**：西北西～東南東に長い隅丸長方形状を呈し、長径1.96m・短径1.14m・深さ0.38m・確認面積1.645㎡。64号土坑跡とよく類似した形状。

（8）66号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画の中央西端64・65号土坑跡のすぐ東側、X470・Y-245。　**重複**：１号掘立柱建物跡の柱穴によって北東端部を破壊される。67号土坑跡の北隅部を掘り込んで破壊する。　**規模と形状**：東北東－西南西に長い隅丸長方形状を呈し、長径1.71m・短径0.64m・深さ0.34m・確認面積1.02㎡。64・65号土坑跡とよく類似した縦長の形状を呈する。

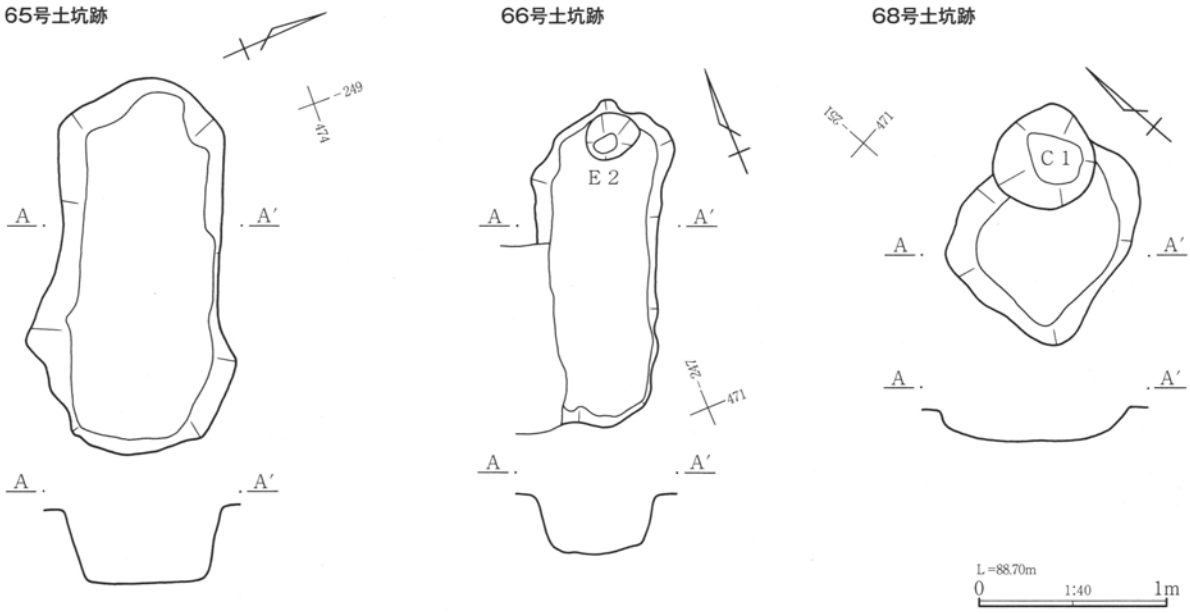


図41　Ｃ区65・66・68号土坑跡　平面図・エレベーション図

（9）67号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画の中央。64・65号土坑跡のすぐ東側、北隅を66号土坑跡によって堀り込まれる。X470・Y-245。　**重複**：１号掘立柱建物跡の柱穴によって東縁と西南縁のごく一部を破壊される。66号土坑跡に北端部を掘り込まれ破壊される。　**規模と形状**：東北東～西南西に長い楕円状を呈し、長径2.82m・短径１m・深さ0.61m・確認面積2.208㎡。64・65・66号土坑跡とよく類似した縦長の形状を呈する。

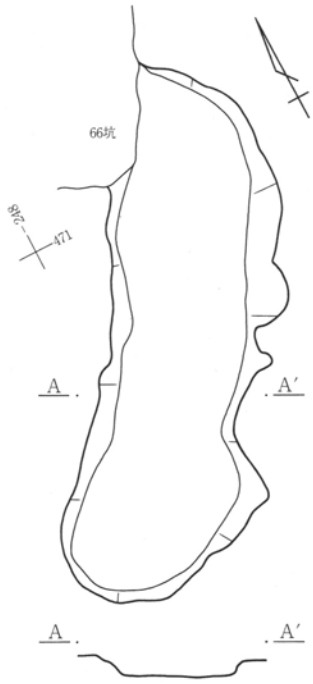
（10）68号土坑跡

位置：Ｃ区の中央部。真ん中の調査区画の中央からやや南西寄り、61・62号土坑跡のすぐ北側。64号土坑跡のすぐ南側。X465・Y-250。　**重複**：１号掘立柱建物跡の柱穴によって北縁の一部を破壊される。　**規模と形状**：東西にやや長い楕円状を呈し、長径1.04m・短径0.89m・深さ0.18m・確認面積0.624㎡。64・65・66号土坑跡とよく類似した縦長の形状を呈する。

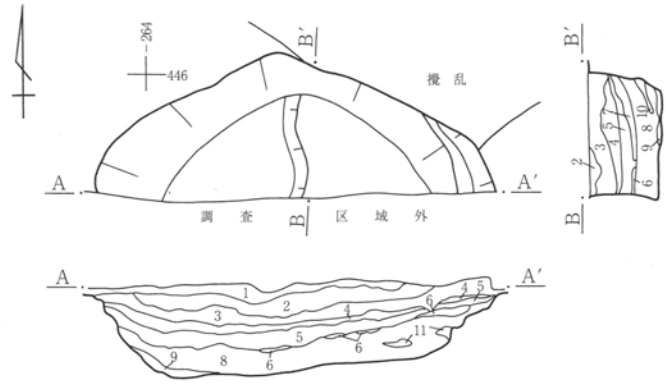
（11）77号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の最南端の中央、78・80号土坑跡の東、X440・Y-260。　**重複**：北縁の一部を攪乱によって破壊されている。　**規模と形状**：現状では東西に長い楕円形状を呈しているが、南側が調査区外に出るため本来の形状は不明である。現存長径4.25m・深さ0.96m・確認面積4.416㎡。　**埋土**：暗褐色土ベース。

67号土坑跡



77号土坑跡



1．黒色シルト質土　　しまりあり。
2．暗灰褐色土　　軽石を少量含む。
3．暗灰褐色土　　２層よりやや明るく、焼土・炭化物をごく少量含む。
4．黒褐色土　　炭化物を多量に、焼土を少量含む。
5．暗灰褐色シルト質土　炭化物を少量含む。
6．暗灰褐色砂質土
7．黒褐色土　　４層によく類似。炭化物を少量含む。
8．暗灰褐色シルト質土　５層によく類似するが炭化物の含有は少ない。
9．暗黄褐色土　　ロームと黒色土の混じり。
10．黒褐色土　　炭化物を多く含む。
11．暗灰褐色砂質土　　６層とよく類似。砂質土の度合いが６層より更に高い。

L=88.70m
0　1:40　1m

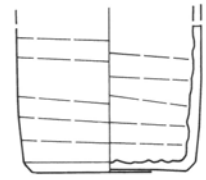
L=88.40m
0　1:80　4m

図42　Ｃ区67・77号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

上植木光仙房遺跡Ｃ区 77 号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴、備考
C-77坑-1	土師器	埋土 口縁部小破片	器厚 0.3	① 5YR7/7 赤褐色 ②良好　③緻密	轆轤整形、内面に墨書（判読不能，呪符・呪文か？）、近世。
C-77坑-2	陶器・笠間焼 爛徳利	埋土 底部から 5.7cm 分のみ 残る。底部は 2/3 残存	残存器高 5.7 、器厚 0.4 底径 6.15	① 5Y7/2 灰白色 ②良好　③緻密	轆轤整形、底部回転糸切り後、篦削り。底部角面取回転篦削り調整。外面は底部間近まで釉薬がけ。底部には釉薬がかからず。底部に墨書(判読不能、呪文か？)。明治～昭和初期

1



2

0　1:3　10cm

図43　Ｃ区77号土坑跡　出土遺物

（12）78号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の最南端の西寄り、77号土坑跡の西、79号土坑跡の東、80号土坑跡の南に隣接。X445・Y-265。　**重複**：北縁の一部を80号土坑跡に掘り込まれ、破壊されている。　**規模と形状**：現状では東西に長い楕円形状を呈しているが、南側が調査区外に出るため本来の形状は不明である。現存長径2.24m・現存短径0.56m・深さ0.34m・確認面積1.024㎡。　**埋土**：暗褐色土ベース。

（13）79号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の最南端の西寄り、77号土坑跡の西、79号土坑跡の東、80号土坑跡の南に隣接。X440・Y-270。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南側が調査区外に出るため、全体の形状は不明であるが、現状では南北に長い隅丸長方形状を呈するようにみえなくはない。現存長径1.17m・深さ0.32m・面積1.221㎡。　**埋土**：暗灰褐色土ベース。

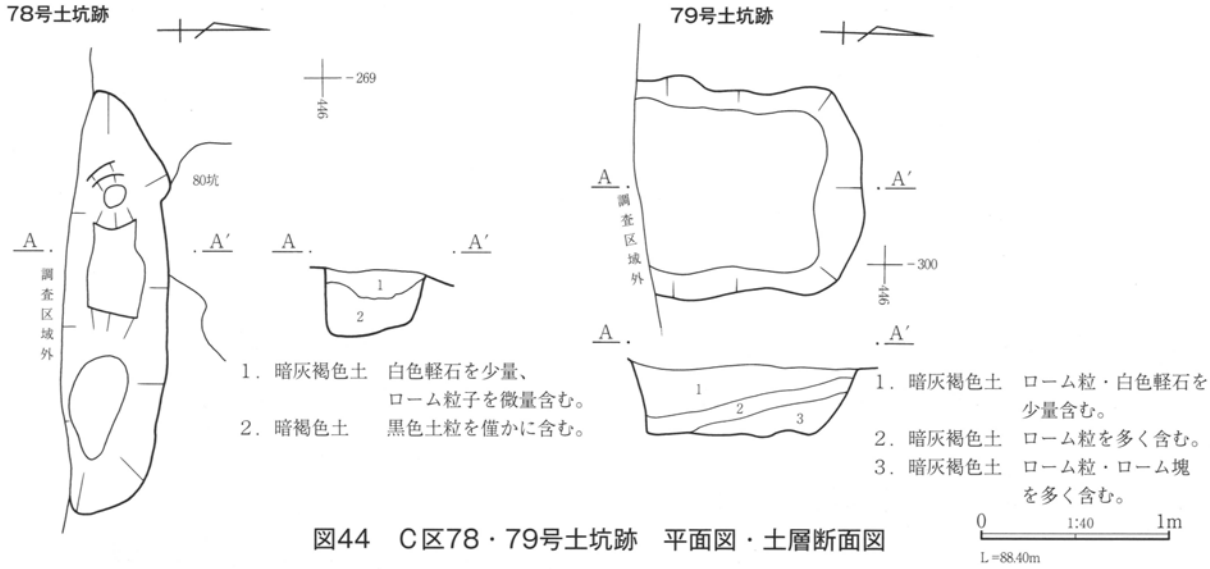


図44　Ｃ区78・79号土坑跡　平面図・土層断面図

（14）80号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の最南端の西寄り、78号土坑跡の北、81・97号土坑跡の南。X445・Y-265。　**重複**：北西隅を81号土坑跡に掘り込まれて破壊される。南西隅が南側に隣接する78号土坑跡を破壊する。　**規模と形状**：不整形で広く大きいが非常に浅い土坑。長径3.16m・短径2.18m・深さ0.08m・面積6.48㎡。

（15）81号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の最南端の西寄り、80号土坑跡の北、97号土坑跡の西。X445・Y-265。**重複**：南側81号土坑跡を、東側97号土坑跡を掘り込んで破壊する。　**規模と形状**：不整円形で、長径1.17m・短径1.14m・深さ0.32m・面積1.468㎡。　**埋土**：暗灰褐色土ベース。

（16）97号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の最南端の西寄り、80号土坑跡の北、81号土坑跡の東。X445・Y-265。**重複**：西側を81号土坑跡に破壊される。　**規模と形状**：東西に長い長円形で、現存長径0.94m・短径0.54m・

深さ0.19m・面積0.357㎡。

(17) 98号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の最南端の西寄り、81号土坑跡の北、82号土坑跡の南。X445・Y-265。**重複**：北側を82号土坑跡に掘り込まれて破壊される。　**規模と形状**：北側を82号土坑跡に掘り込まれて破壊されているため、全体の形状は不明であるが、残存している部分は不整円形状を呈しており、現存最大長径0.94m・深さ0.13m・面積0.5㎡。　**埋土**：暗灰褐色土ベース。

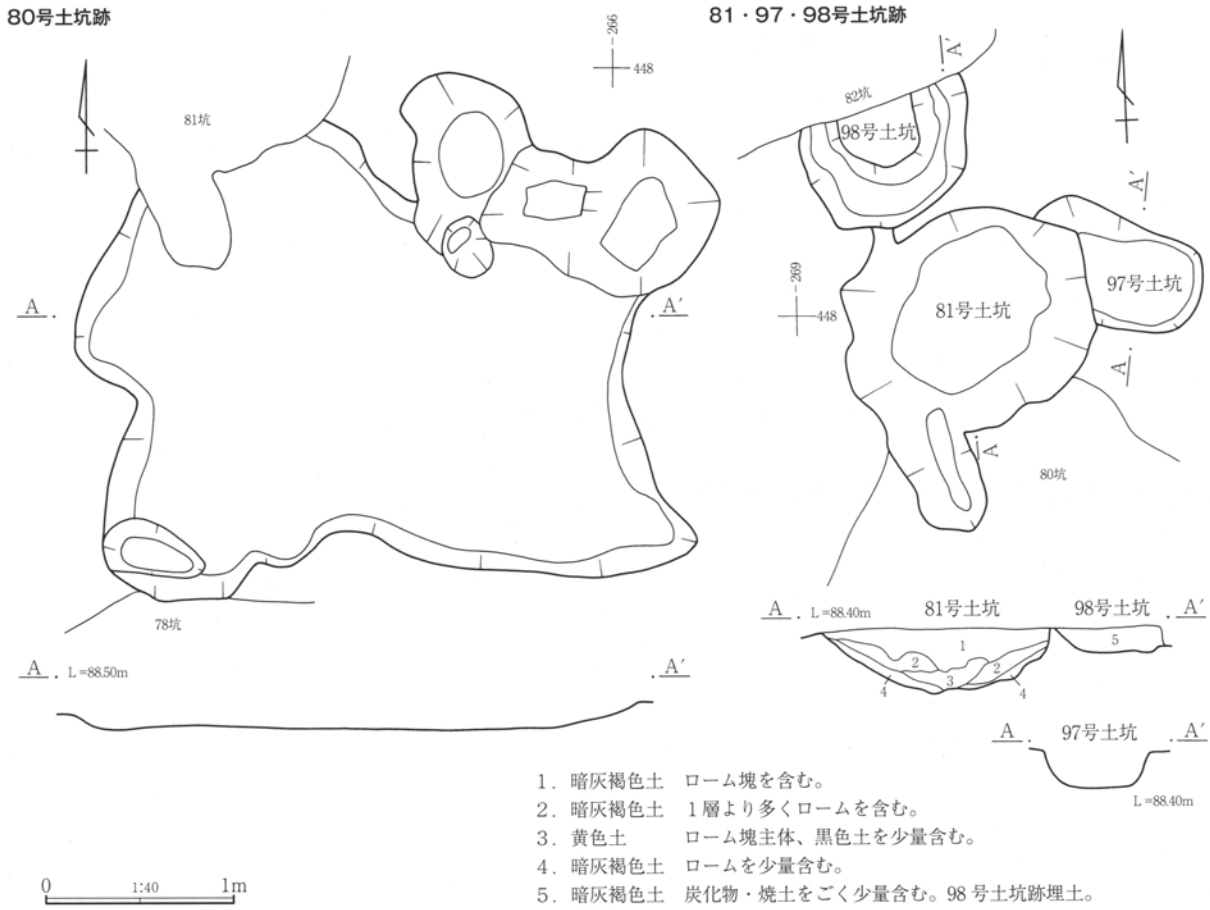


図45　Ｃ区80・81・97・98号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

(18) 82号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の南端・西端寄り、86号土坑跡の南、98号土坑跡の北。X445・Y-265。**重複**：南側98号土坑跡を掘り込んで破壊する。　**規模と形状**：北西側が調査区外に出るため全体の形状は不明であるが、残存している部分は東西に長い不整長円形状を呈しており、現存最大長径2.51m・深さ0.21m・面積2.688㎡。

(19) 83号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の南端・ほぼ中央、84号土坑跡の南、80号土坑跡の北。X445・Y-265。**重複**：なし。　**規模と形状**：東西にやや長い円形状を呈しており、浅い。長径1.36m・短径1.22・深さ0.24m・

面積1.307㎡。　**埋土**：暗褐色土ベース。

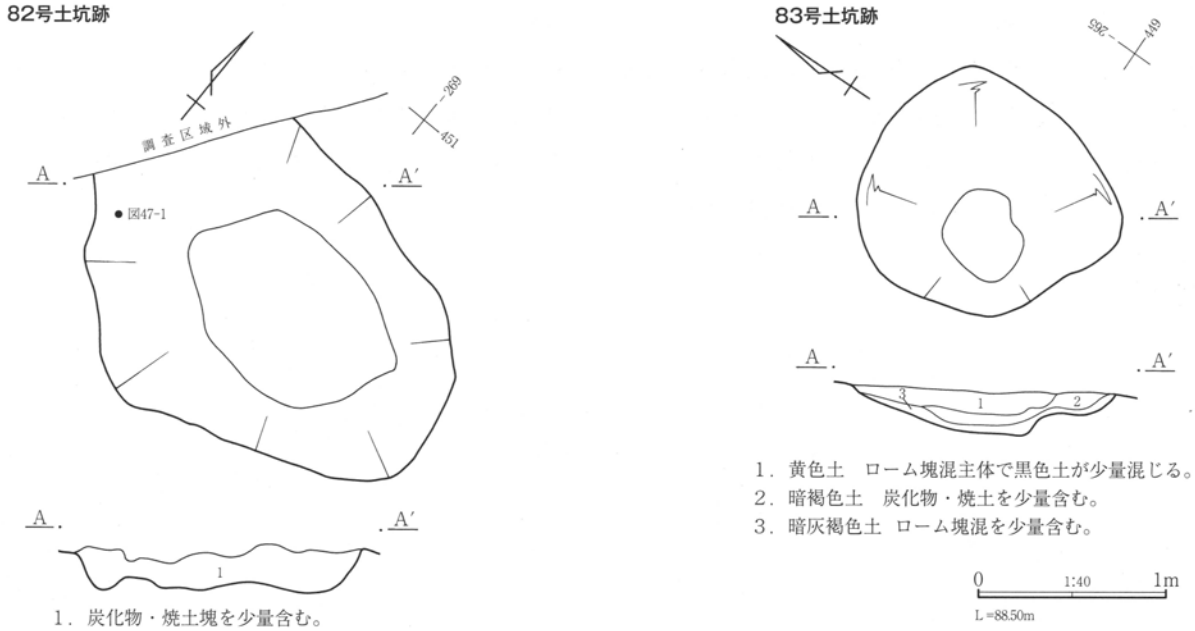


図46　C区82・83号土坑跡　平面図・土層断面図

上植木光仙房遺跡C区 82 号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴、備考
C-82坑-1	磁器瀬戸美濃 染付高台付皿	埋土 約 2/3 破片	推定口径 11、器高 2.8、底径 5.9、器厚 0.8	①白色　②良好　③緻密	轆轤整形、貼付高台、内外面に文様、19 世紀後半。

図47　C区82号土坑跡　出土遺物

(20) 84号土坑跡

位置：C区最も南寄りの調査区の中の南西端寄り、85号土坑跡の南。X445・Y-260。　**重複**：北側の85号土坑跡の南縁を掘り込んで破壊する。　**規模と形状**：東側を攪乱によって破壊される。大きくて広く、不整形を呈する。浅い。現存最大長径　4.28m・深さ0.2m・確認面積8.884㎡。　**埋土**：暗褐色土ベース。

(21) 85号土坑跡

位置：C区最も南寄りの調査区の中の南、西端、84号土坑跡の北。X450・Y-260。　**重複**：南側の84号土

坑跡に南縁を掘り込まれ破壊される。　**規模と形状**：東南側を攪乱によって、南側を84号土坑跡によって破壊される。大きくて広く、不整形を呈する。現存最大長径　2.96m・深さ0.51m・確認面積3.168㎡。　**埋土**：暗褐色土ベース。

(22) 86号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の南、西端、82号土坑跡の北、87号土坑跡の西。X445・Y-265。

重複：東側87号土坑跡に破壊される。　**規模と形状**：西側が調査区外に出、東縁を87号土坑跡によって破壊され、さらにその上を攪乱によって破壊されているため全容は全く不明。深さ0.41m。　**埋土**：灰褐色土ベース。

(23) 87号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の南、西端、82号土坑跡の北、86号土坑跡の東。X445・Y-265。

重複：西側86号土坑跡を破壊する。　**規模と形状**：西北側が調査区外に出、中央を攪乱によって破壊される。全容は不明。確認最大長4.11m・深さ0.56m。　**埋土**：灰褐色土ベース。

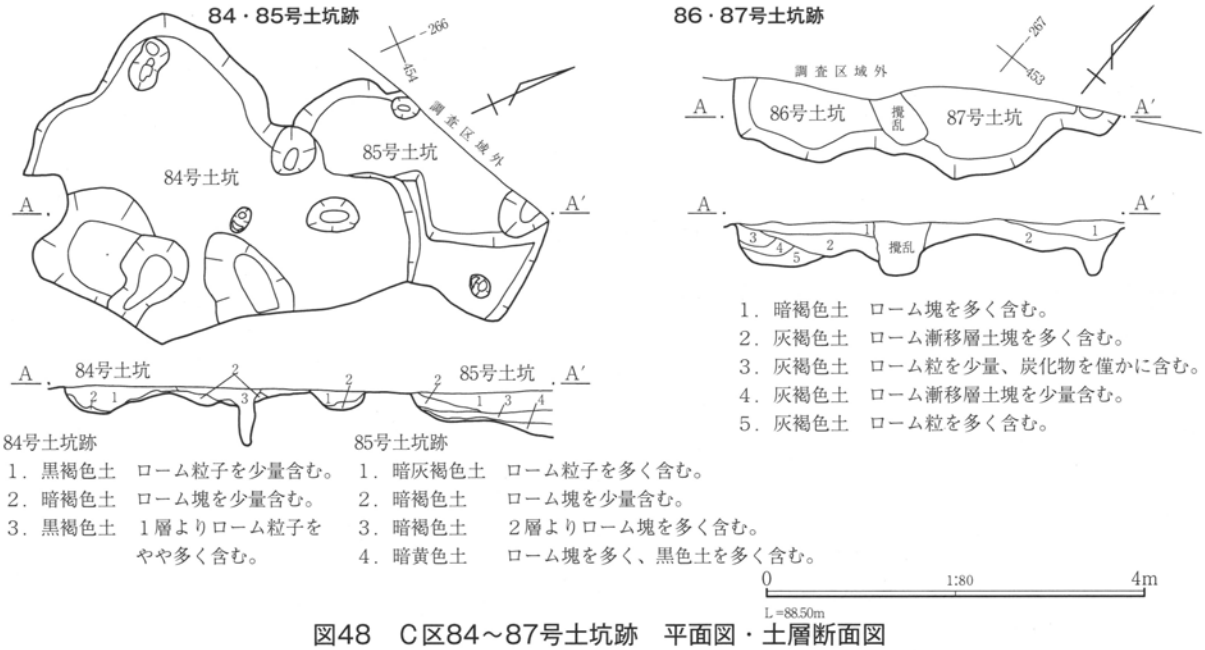


図48　Ｃ区84～87号土坑跡　平面図・土層断面図

上植木光仙房遺跡Ｃ区 85 号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴、備考
C-85坑-1	土師器	埋土 小破片	器厚 0.3	① 2.5Y7/2 灰黄褐色 ②良好　　③緻密	外面に墨書（C-77 坑 -1 に類似。呪符・呪文か？、判読不能）

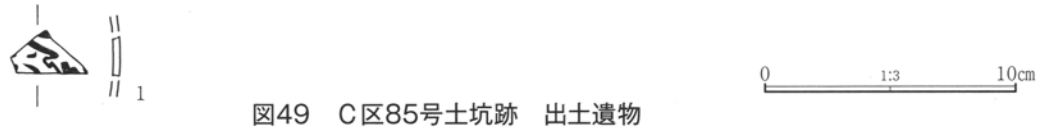


図49　Ｃ区85号土坑跡　出土遺物

(24) 89号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中のほぼ中央、88・90号土坑跡の北、96号土坑跡の南。X450・Y-250。

重複：東縁を88号土坑跡に破壊される。　**規模と形状**：不整形を呈し、比較的浅い。確認最大長4.49m・深さ0.18m。

(25) 91号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の北西端付近。X460・Y-250 ～ -255。　**重複**：南西側を56号溝跡に破壊される。　**規模と形状**：北西側が調査区外に出、南西側が大きく攪乱によって破壊されているため全容は全く不明。現存最大長径2.91m・深さ0.79m・面積0.893㎡。　**埋土**：暗褐色・黒褐色土ベース。

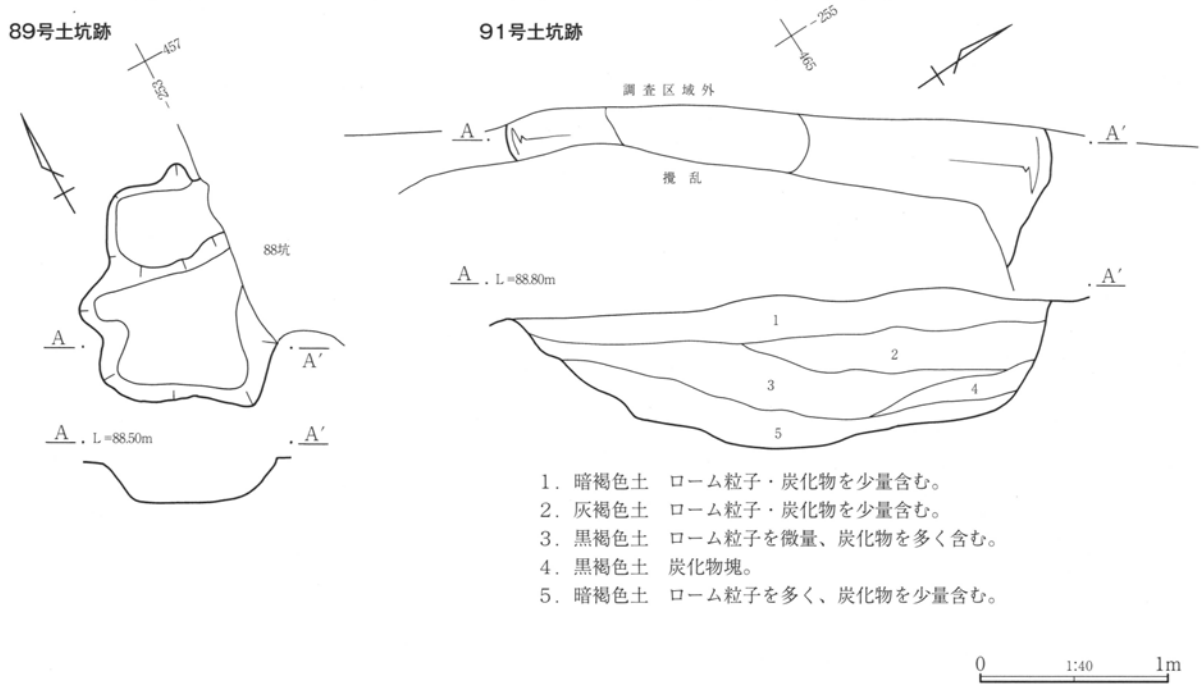


図50　Ｃ区89・91号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

上植木光仙房遺跡Ｃ区９１号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴
C-91坑-1	瀬戸美濃磁器染付猪口	埋土 口縁～体部一部欠損	口径6.7、底径3.2、器高4.6、器厚0.5	①白色　②良好　③緻密	轆轤整形、高台貼り付け、体部外面～底部に銅版転写印刷文様。明治～昭和初期。
C-91坑-2	肥前磁器染付皿	埋土 底部約3/5残存、体部完全に欠損	推定底径7.2、残存器高1.9、器厚1	①白色　②良好　③緻密	轆轤整形、蛇の目高台削り出し、底部内面に文様。19世紀中葉～後半。
C-91坑-3	肥前磁器染付鉢	埋土 口縁～体部約1/5破片、底部は全く欠損	推定口径20.4、器厚0.4	①白色　②良好　③緻密	轆轤整形、口縁部折り返し、口縁部内面に雷文、体部外面及び底部内面に文様。焼継あり。19世紀前半～中葉。

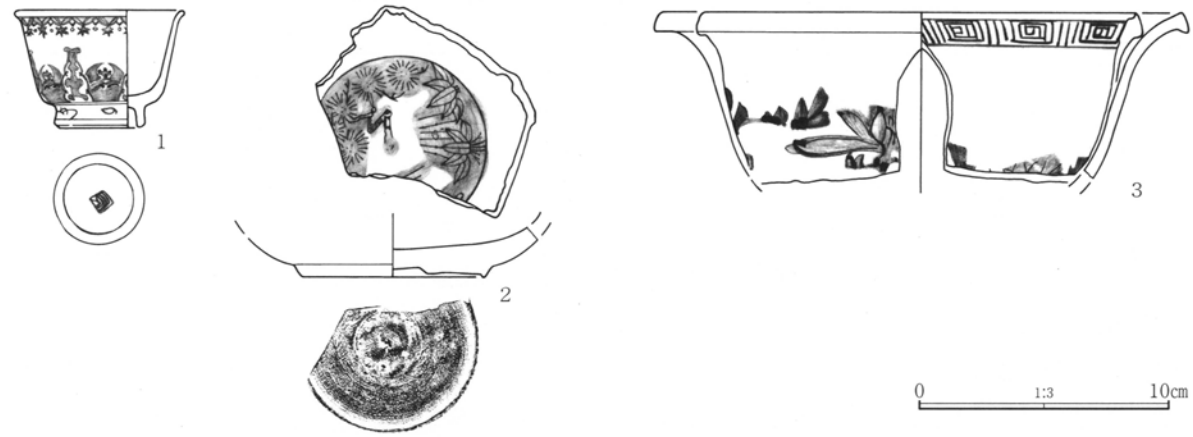


図51　Ｃ区91号土坑跡　出土遺物

(26) 88号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中のほぼ中央、東端付近。89・96号土坑跡の東、56号溝跡の南。X450・Y-250。　**重複**：90号土坑跡の中にすっぽりと収まる。90号土坑跡が完全に埋没した後に、同じ場所に掘り込んで形成されている。底部は、もともとあった90号土坑跡の底部より深く、90号土坑跡の底面をさらに掘り抜いている。　**規模と形状**：南南西－東北東に長い長円形状を呈する。長径2.31m・短径0.94m。　**埋土**：黄褐色土ベース。

(27) 90号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中のほぼ中央、東端付近。89・96号土坑跡の東、56号溝跡の南。X450・Y-250。　**重複**：88号土坑跡が90号土坑跡の中にすっぽりと収まる。56号溝跡の西縁を破壊。　**規模と形状**：南北にやや長い不整形を呈する。西北端は、細長く張り出す。最大長径4.49m・短径2.7m・深さ0.75m・面積6.504㎡。　**埋土**：暗褐色土ベース。

上植木光仙房遺跡Ｃ区８８号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴、備考
C-88坑-１	瀬戸美濃陶器・染付皿	埋土 口縁部小片	残存器高3.2、器厚0.5	①白色　②良好　③緻密	轆轤整形。内外面文様あり。18～19世紀。

上植木光仙房遺跡Ｃ区８８・９０号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴
C-88・90坑-１	陶器皿（灯火器）	埋土 ほぼ完形	口径8.4、底径3.5、器高1.9、器厚0.6	①2.5YR7/3浅黄色　②良好　③緻密	轆轤整形、内面釉薬がけ、底部外面回転糸切り。口縁外面に煤が付着、灯火器。口縁から芯がはみ出す部分が一部意図的に欠け割られている。19世紀。

図52　Ｃ区88・90号土坑跡　出土遺物

(28) 92号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中のほぼ中央。X455・Y-250～-255。　**重複**：東側を56号溝跡に破壊され、２号掘立柱建物跡の柱穴に掘り込まれる。　**規模と形状**：東側が56溝跡に破壊されるため全容は不明であるが、残存状況をみる限り東西に長い隅丸長方形状を呈すると考えられる。現存最大長径2.3m・深さ0.18m・面積1.495㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

(29) 93号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の北東端。X460・Y-245。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南側を攪乱によって破壊される。残存状況をみる限り、ほぼ平面円形状を呈する、やや深くしっかりとした掘方を有する土坑。壁面に沿って底面にあさい溝状の掘り込みがみられるが、その用途は不明。現存最大長径1.6m・深さ0.64m・面積1.643㎡。

88・90号土坑跡

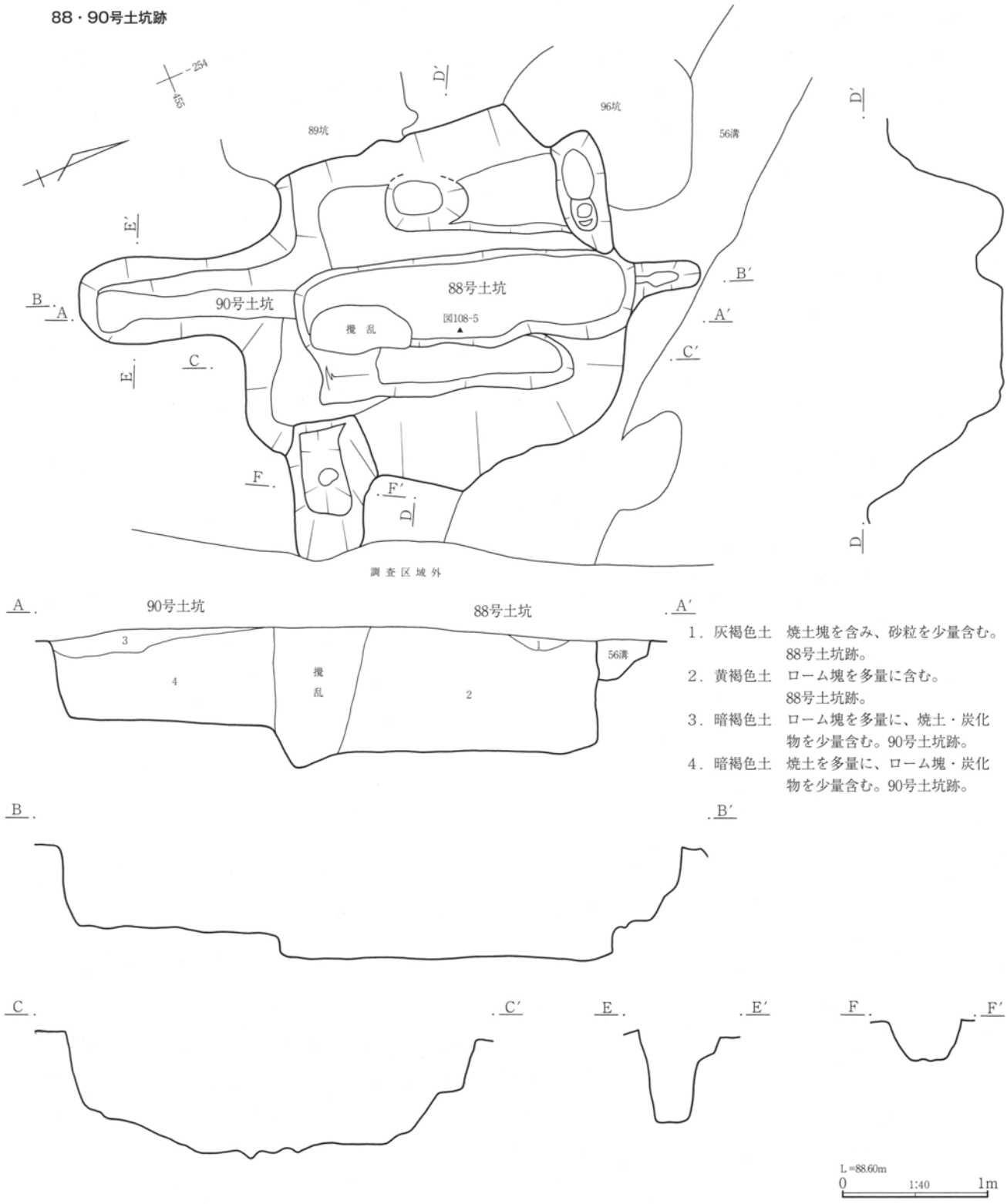


図53　Ｃ区88・90号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

上植木光仙房遺跡Ｃ区９３号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
C-93 坑-1	陶器皿（灯火器）	埋土 完形	口径10.8、底径4.6、器高2.4、器厚0.6	①5Y7/3浅黄色　②良好 ③緻密	轆轤整形、内面釉薬がけ、嵌入が顕著。底部外面回転糸切り後篦削り。内面内区に芯置きの窪みが形成される。

図 54　Ｃ区 93 号土坑跡　出土遺物

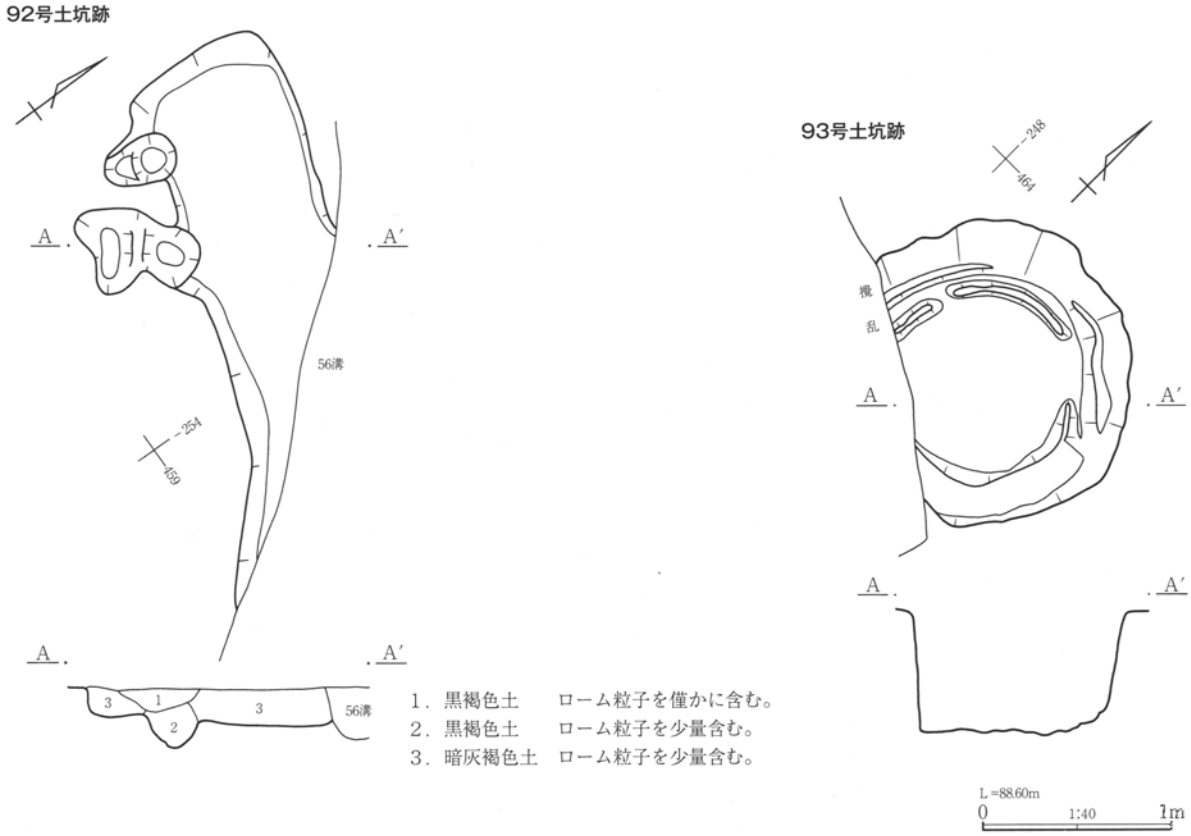


図 55　Ｃ区 92・93 号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

(30) 94号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の北端、西寄り。X465・Y-250。　**重複**：なし。　**規模と形状**：北側が調査区外に出、南縁と西縁のごく一部を攪乱によって破壊される。ほぼ楕円形状を呈する浅い堀方を有する土坑。現存最大長径1.68m・深さ0.29m・面積2.432㎡。　**埋土**：砂質土をベースとする。

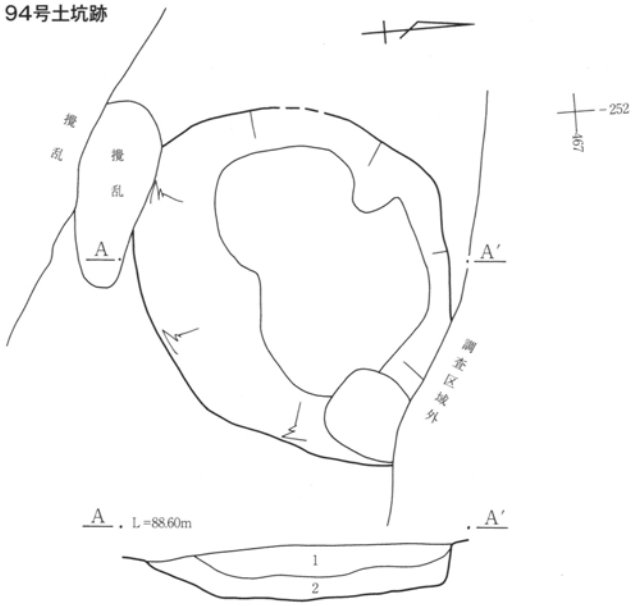
(31) 95号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中の北寄り、東端。X455・Y-245。　**重複**：なし。　**規模と形状**：北側が及び西側を攪乱によって破壊される。ほぼ楕円形状を呈する、深くしっかりとした堀方を有する土坑。現存最大長径1.21m・深さ0.64m・面積0.777㎡。

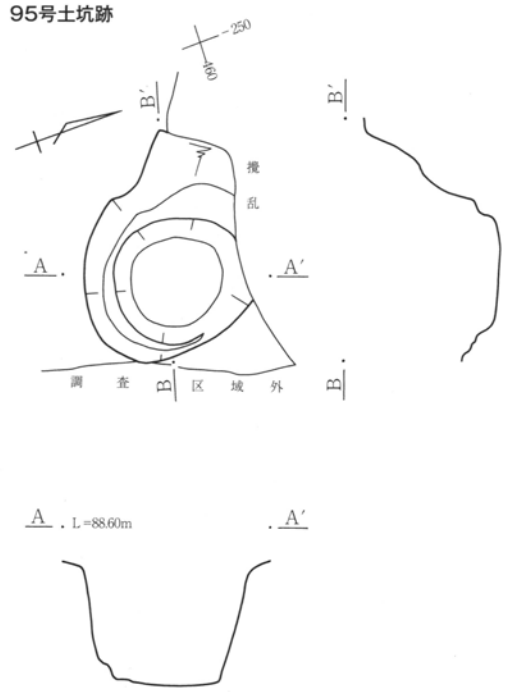
(32) 96号土坑跡

位置：Ｃ区最も南寄りの調査区の中央、やや西寄り。X455・Y-250。　**重複**：なし。北西側56号溝跡を掘り込んで破壊、南西側を88号土坑跡に掘り込まれて破壊される。　**規模と形状**：南西側が88号土坑跡に掘り込まれて破壊されるため、全体の形状は不明である。現状では不整円形状を呈する。現存最大長径1.34m・深さ0.52m・面積1.08㎡。　**埋土**：黒褐色土をベースとする。

94号土坑跡

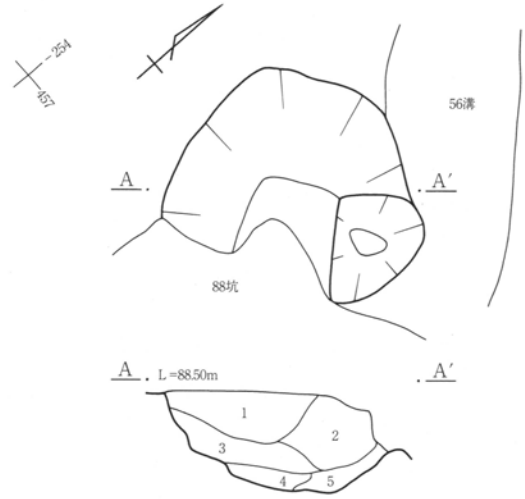


95号土坑跡



1．にぶい黄褐色砂質土　粒子細かく締まり弱い。
　　径１～５cmのローム塊を斑状に含む。
2．暗褐色砂質土　　１層と同質であるが、径２～５cm程度のローム塊の含有が更に多い。

96号土坑跡



1．黒褐色土　　ローム粒・橙色軽石を僅かに含む。粒子細かい。
2．暗黄褐色土　ローム漸移層土塊主体、灰褐色土を多く含む。
3．灰褐色土　　ローム塊を少量含む。
4．灰褐色土　　ローム粒を僅かに含む。
5．黄褐色土　　ローム漸移層土とローム漸移層塊とローム塊の混土。

0　1:40　1m

図56　Ｃ区94～96号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

上植木光仙房遺跡Ｃ区表土出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴
C-表-１	肥前磁器染付 高台付鉢	表土 ほぼ完形	口径12.2、底径5.8、器高5.1、器厚0.5	①白色　②良好　③緻密	轆轤整形。底部は削り出し蛇の目高台状に整形し、さらにその外縁に高台を貼り付けてある。口縁部が外反し広がる器形。口縁部及び底部内面に文様。体部内面下部に線状文。口縁部外面に文様、体部外面下部及び高台貼り付部２重線状文。19世紀。
C-表-２	肥前（波佐見） 磁器染付皿	表土 底部と体部の僅かな立ちあがりのみ残存	残存器高2.2、底径8.3、器厚0.8	①白色　②良好　③緻密	轆轤整形、底部削り出し蛇の目高台。体部内面見込み部笹文様。18世紀後半～19世紀前半。
C-表-３	肥前（波佐見） 磁器染付皿	表土 底部約1/2片	推定底径5.7、器厚1.5、残存器高4.3、	①若干緑がかった乳白色②良好　③緻密	轆轤整形。底部貼付高台。底部内面中央見込み部に五弁花文様（蒟蒻版）、重圏線。体部外面に文様。底部外面広大内渦福崩れ文様及び重圏線。18世紀後半。

C-表-４	肥前磁器染付角皿	表土 口縁部小片	器厚0.5、残存器高6.2	①白色　②良好　③緻密	轆轤整形。口縁部内面及び体部内外面に文様。明治期。
C-表-５	益子笠間陶器絵付皿	表土 約1/2残存	口径13、器高2.4、底径8.4、器厚0.4	①5Y7/2灰色　②良好　③緻密	轆轤整形。底部回転糸切り、高台部粘土紐貼り付け。内面及び口縁部～体部上位釉薬がけ、底部内面には呉竹文様描画。みこみ部に重焼痕跡残る。明治～昭和初期。

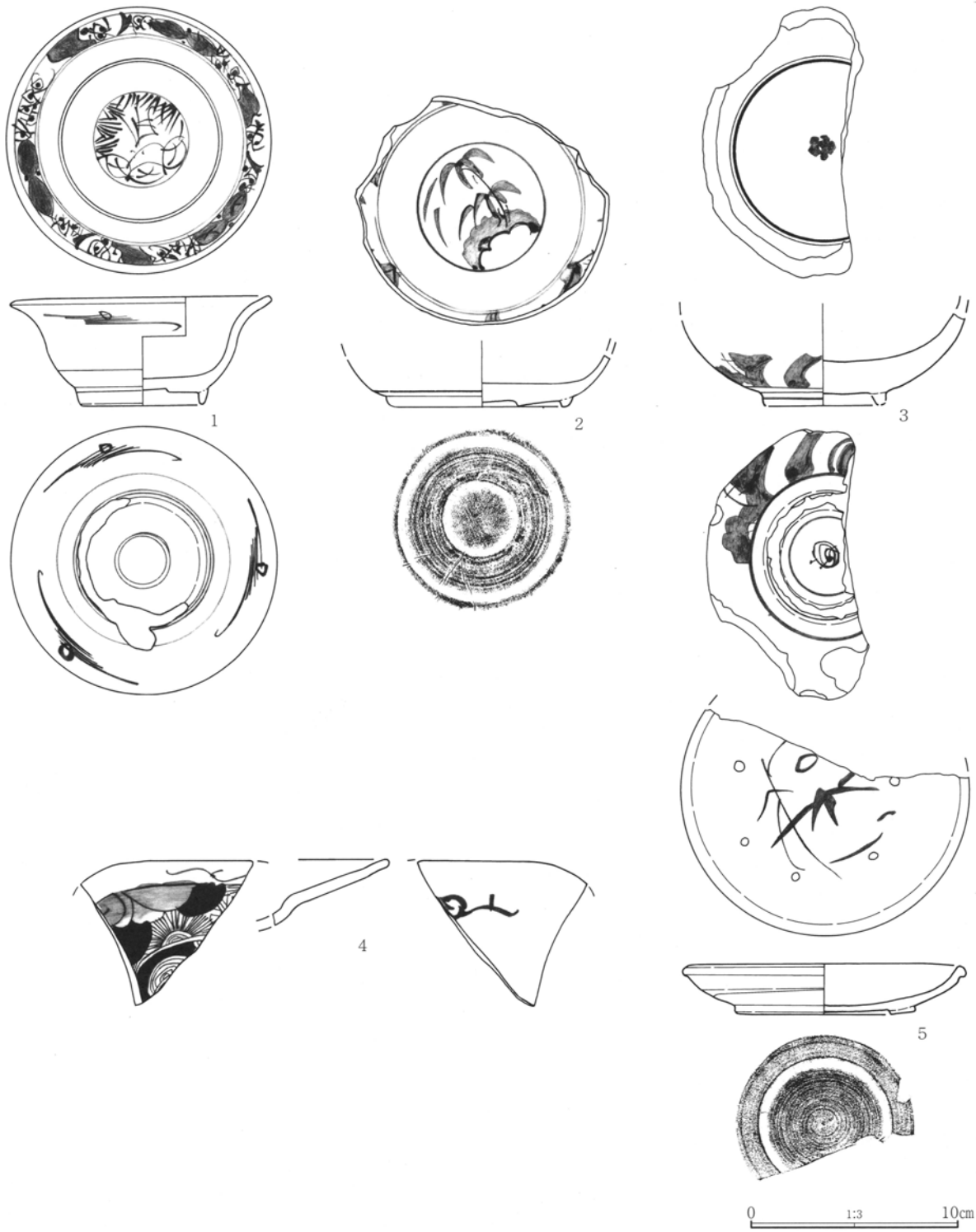


図57　Ｃ区表土　出土遺物

第４節　Ｄ区で検出された遺構と遺物

Ｄ区は、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線を挟んだＣ区とともに調査区域の北から二番目の大調査区である。現在の県道伊勢崎・大間々線に直角に交わる生活道路によって、３箇所の小区画に分かれており、平成13年度に調査している。

本調査区からは、微小な縄文土器の破片、中世の竪穴建物跡１棟、溝跡６条、井戸跡１基、土坑跡14基が検出された。本調査区において検出された溝跡のうちのいくつかはＣ区で検出された溝跡に繋がるものである。

第１項　竪穴建物跡

・４号竪穴建物跡

位置：Ｄ区で最も北寄りの調査区の中の南端付近。Ｘ490・Ｙ-205。　**主軸方位**：N-19°-E　**重複**：北辺側を46号溝跡に掘り込まれて破壊する。　**規模と形状**：北辺を46号溝跡に破壊され、南側は約半分以上が、また東辺も約半分以上がそれぞれ調査区外に出るため、全体の形状は不明である。後世の攪乱によって調査区東南隅に当たる部分が大きく破壊されている。掘り込みはしっかりとしている。北辺2.62m・深さ0.33m。**埋土**：黒褐色砂質土をベースとする。　**床面**：地山を削りだして床面を形成している。床面と堀方が一致している。　**柱穴**：５基検出されている。北側46号溝跡に接する部分で北辺の柱穴列と考えられる柱穴跡が３基（２～４号柱穴）、調査区の南端付近の床面上から２基（１・５号柱穴）検出された。Ｃ区で検出された１～３号竪穴建物跡同様、各辺の壁際に、４隅と各辺の中央部に１箇所ずつ設けられていたものと考えられる。検出できたのは、それらのうちの北西隅（２号柱穴）・北壁中央（３号柱穴）・北西隅（４号柱穴）の北壁際の３基と、西壁中央の柱穴とみられる１号柱穴で、５号柱穴は本竪穴建物跡に伴う物であるかどうかは正確には不明である。もし５号柱穴が本竪穴建物跡の柱穴の一つであるならば、Ｃ区１～３号竪穴建物跡の構造とは異なり、竪穴建物跡中央部に床束を有する構造であったということになる。ただ、検出できた限りでの全体の形状はＣ区で検出された１～３号竪穴建物跡とよく類似しており、同時期のものと考えられる。なお、柱穴は、いずれもそれぞれ一箇所ずつであり、Ｃ区１号竪穴建物跡でみられたような据え換えの痕跡は本遺構では確認出来ない。いずれも深く、しっかりとした堀方を有している。

柱穴１　長径0.21m×短径0.19m×最大深度0.14m、**柱穴２**　長径0.32m×短径0.21m×最大深度0.16m、**柱穴３**　長径0.29m×短径0.24m×最大深度0.36m、**柱穴４**　長径0.3m×短径0.2m×最大深度0.2m、**柱穴５**　長径0.4m×短径0.28m×最大深度0.14m。　**時期**：出土遺物が皆無のため詳細は不明ながら、形状がＣ区１～３号竪穴建物跡によく類似しており、それらとほぼ同じ時期である中世のものと考えられる。

第２項　溝跡

（１）36号溝跡

位置：Ｄ区最南の調査区の南端寄り、X445・Y-225～-240。　**重複**：なし。部分的に攪乱によって破壊されている。　**規模と形状**：確認全長13.04m・最大上幅1m・最大下幅0.22m・深さ0.46m、断面は逆台形状を呈する。西北西～東南東方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝。調査区内東寄りの一部と東

４号竪穴建物跡

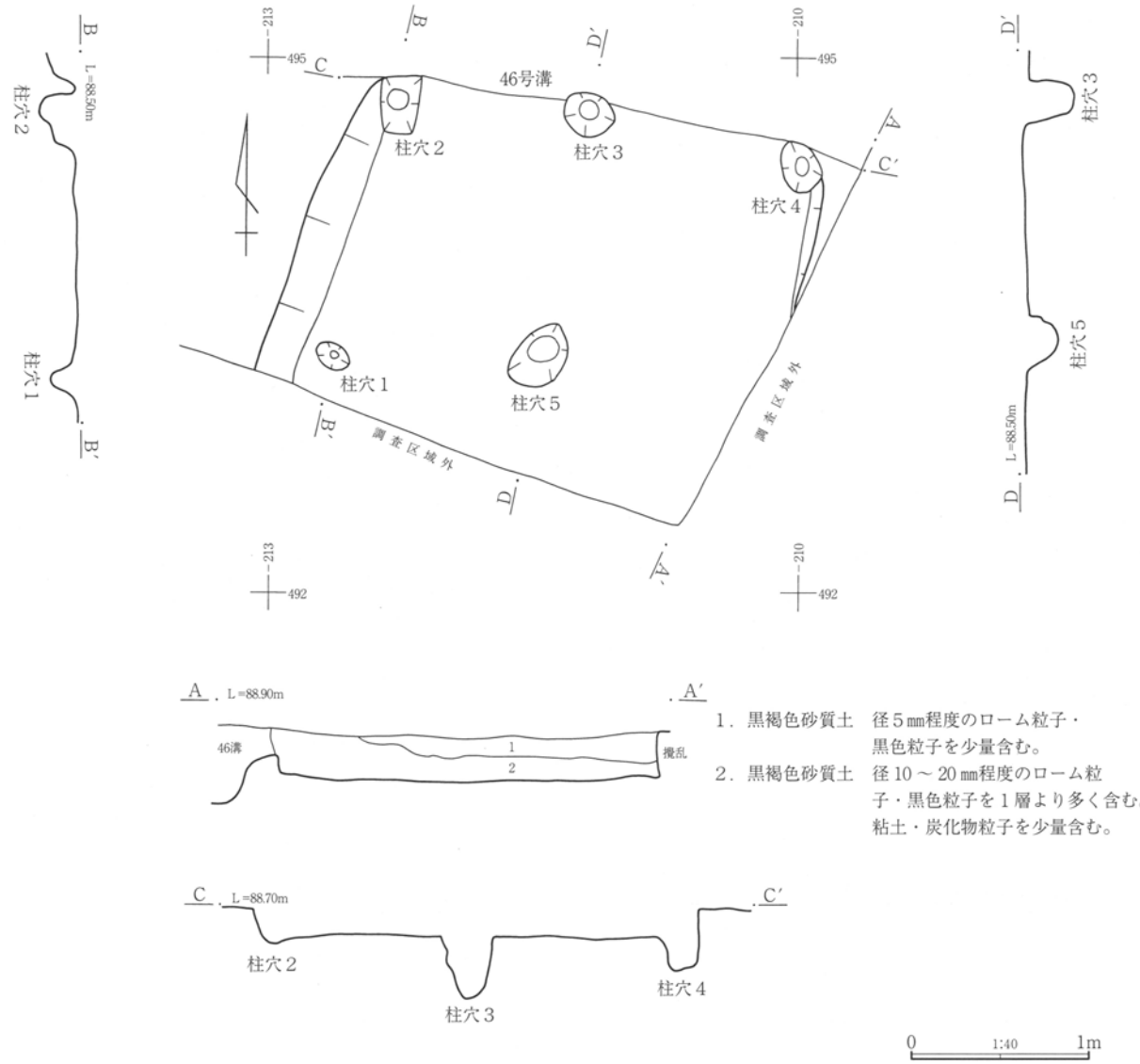


図58　Ｄ区４号竪穴建物跡　平面図・土層断面図・柱穴エレベーション図

端を攪乱によって破壊され、両端ともに調査区外に出る。規模や形状、走向方向からみて、県道を挟んだ西側Ｃ区で検出された56号溝跡の東側の続きで、56号溝跡の西端は調査区外にさらにのびている。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（２）37号溝跡

位置：Ｄ区最南の調査区の南端、X455・Y-230～-235。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長5.59m・最大上幅0.52m・最大下幅0.29m・深さ0.18m、断面は半円形状を呈する。36号溝跡の約0.5m南側をほぼ同じ走向方向で並行して西北西～東南東方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝。西端は調査区西壁際からはじまり、南端は調査区の南壁外に続いている。　**埋土**：黒褐色土ベース。

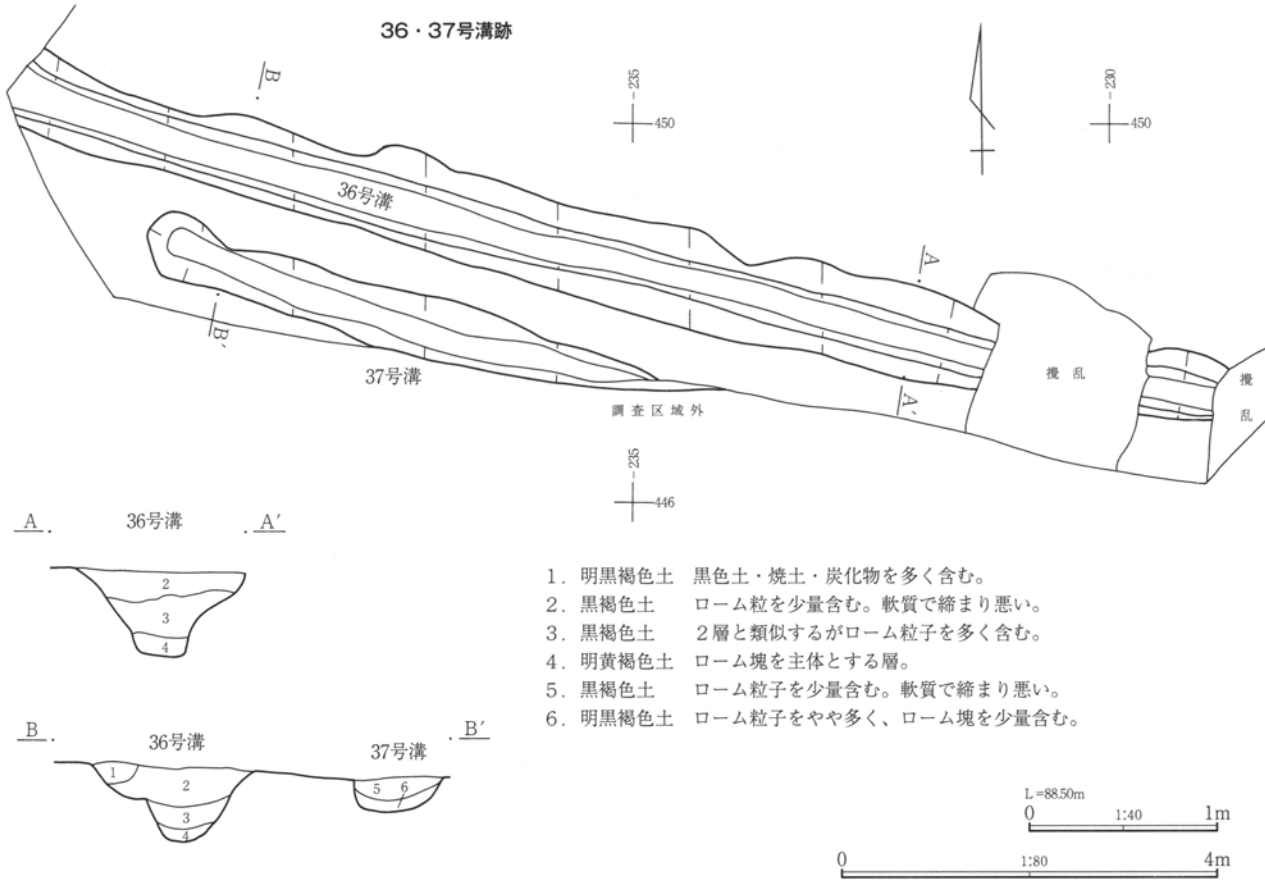


図59　Ｄ区36・37号溝跡　平面図・土層断面図

上植木光仙房遺跡Ｄ区３７号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴
D-37 溝-1	円筒埴輪	埋土 体部小片	器厚1.4	①2.5YR6/8橙色　②良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色粒子を少量含む。	体部外面突帯貼り付け後撫で。体部内面斜め方向の撫で。

図60　Ｄ区37号溝跡　出土遺物

（３）38号溝跡

位置：Ｄ区最南の調査区のほぼ中央、X450～455・Y-230～-235。　**重複**：なし。撹乱による破壊によって寸断されている。　**規模と形状**：確認全長12.74m・最大上幅0.78m・最大下幅0.44m・深さ0.11m、断面不整形。西北～東南方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝。東端は調査区東壁際で止まる。西端は調査区の西壁外に続いている。規模や形状、走向方向からみて、県道を挟んだ西側Ｃ区で検出された49号溝跡の東の続きと考えられる。　**埋土**　暗黒褐色土ベース。

38号溝跡

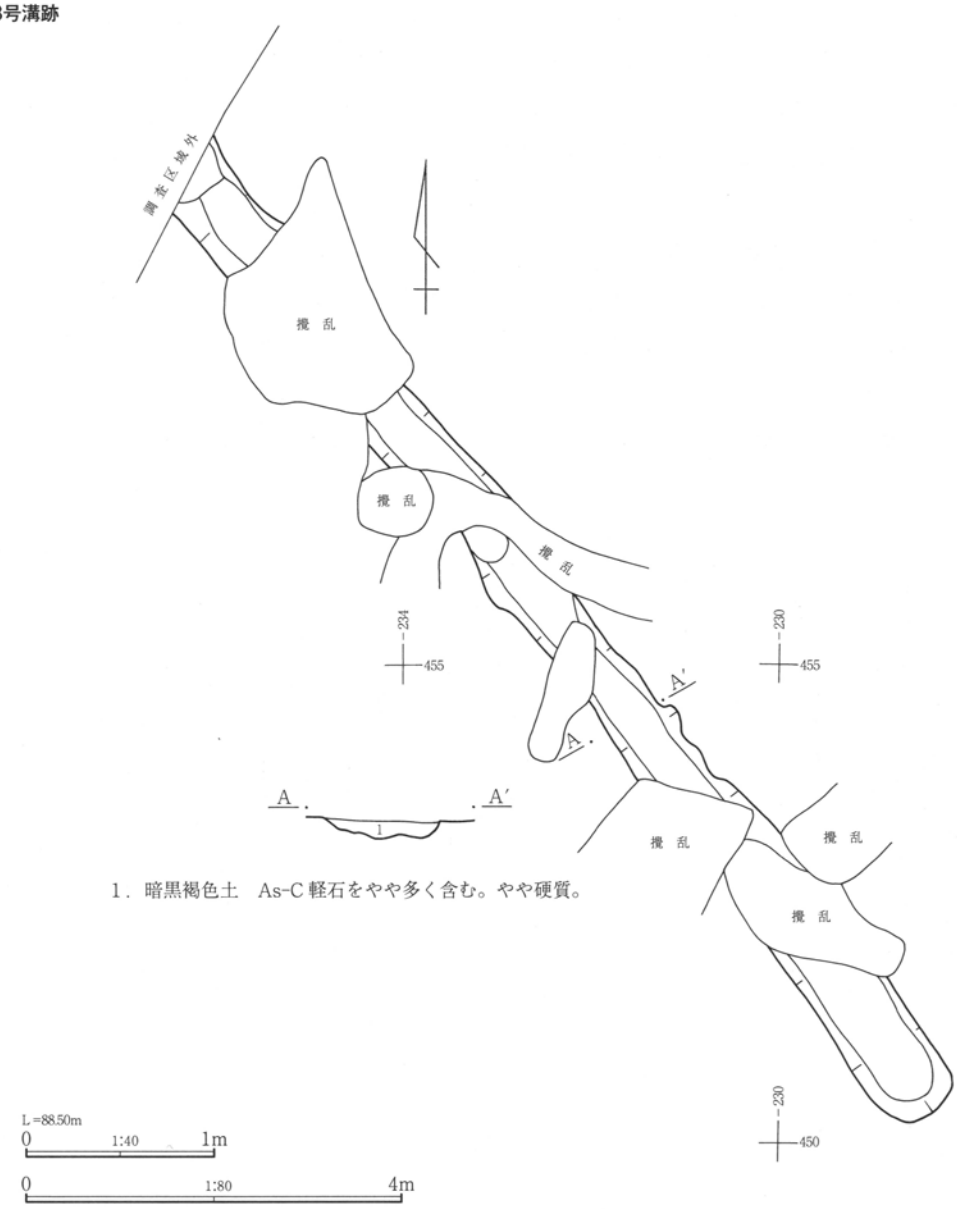


図61　Ｄ区38号溝跡　平面図・土層断面図

（4）46号溝跡

位置：Ｄ区最北の調査区の南寄り、X500・Y-205～-210。　**重複**：南辺が4号竪穴建物跡の北辺を破壊。

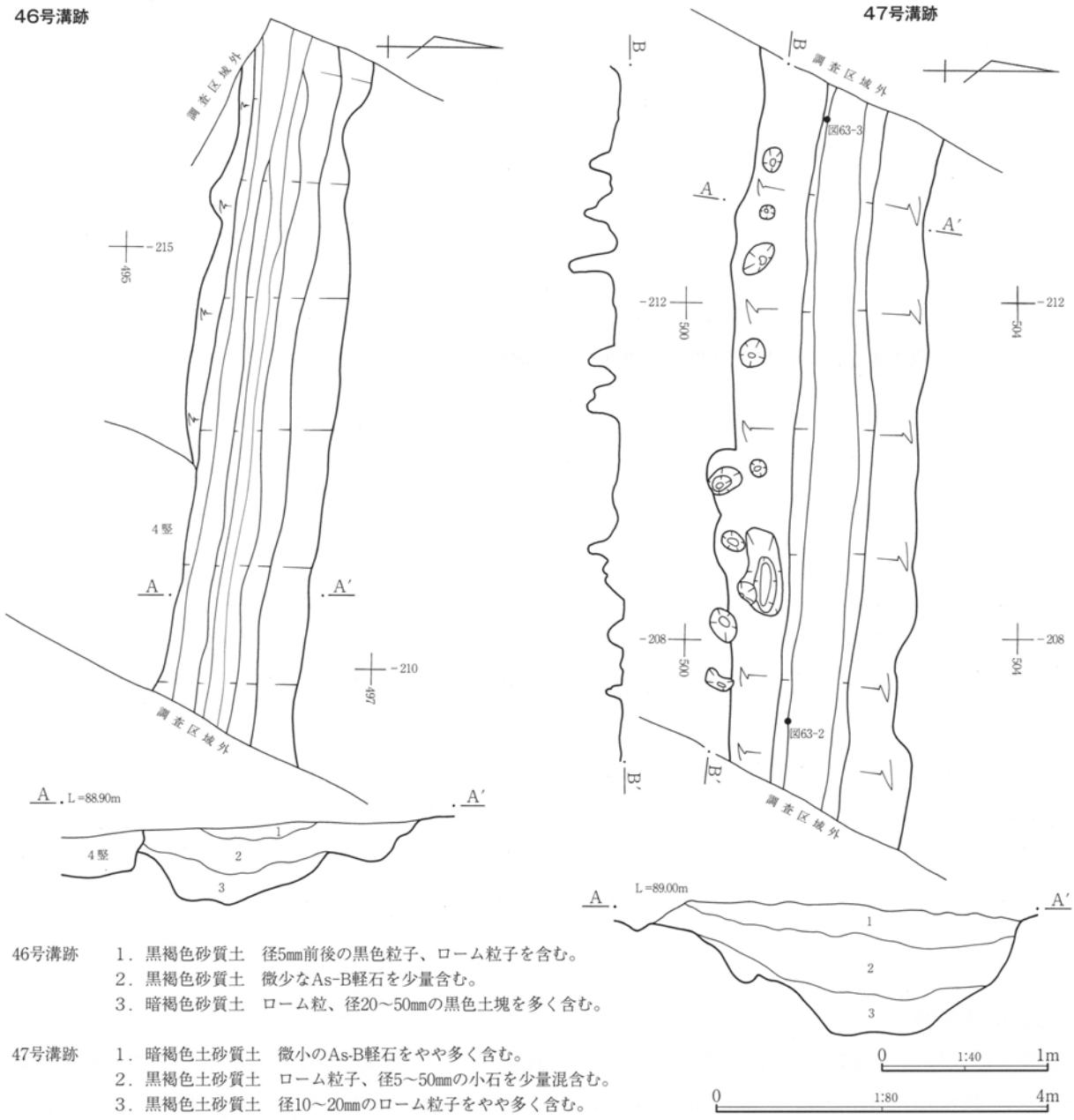
規模と形状：確認全長8.14m・最大上幅1.94m・最大下幅0.2m・深さ0.45m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。ほぼ東西方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝で、両端は調査区外に続いている。規模や形状、走向方向からみて、県道を挟んだ西側Ｃ区39号溝跡に続くものと考えられる。　**埋土**：黒褐色砂質土ベース。

（5）47号溝跡

位置：Ｄ区最北の調査区の南端、X490～495・Y-210～-215。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長9.42m・最大上幅2.46m・最大下幅0.56m・深さ0.74m、断面は逆台形状を呈する。46号溝跡の南側約５mの位置を並行して東西方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝。南側の溝の縁際に、溝と並行し

て径0.2～0.8m程度の小さなピットが並列して８基検出されたが、溝に並行して造られた柵列の柱穴である可能性が考えられる。両端ともに調査区外に出るが、規模や形状、走向方向からみて、西側は、県道を挟んだ西側Ｃ区で検出された43号溝跡に続くものと考えられる。43号溝跡の西端はさらに調査区外に出る。

なお、Ｄ区内での検出状況から見れば、本溝跡と46号溝跡とは並行しており、また、本溝の南側に柵列らしき柱穴列が附属するところから、居館等の堀跡とみて、柵列が付随する本溝跡を外堀、北側に並行する46号溝跡を内堀と、それぞれ解釈することができなくもない。しかしながら西側県道を挟んだＣ区での接続部分の検出状況をみると、Ｃ区39号溝跡と43号溝跡の走向方向は、並行しておらず、Ｃ区43号溝跡が、Ｄ区47号溝跡の走向方向とほぼ変わらずに直線的に接続しているのに対して、Ｃ区39号溝跡は接続するＤ区46号溝跡よりも大きく南側に振れ、南西～東北方向の走向となっている。このことからみれば、46号溝跡と47号溝跡を並行する2重の堀跡と解釈することは難しいように思われる。　**埋土**：暗褐色土ベース。



46号溝跡　1．黒褐色砂質土　径5㎜前後の黒色粒子、ローム粒子を含む。
　　2．黒褐色砂質土　微少なAs-B軽石を少量含む。
　　3．暗褐色砂質土　ローム粒、径20～50㎜の黒色土塊を多く含む。

47号溝跡　1．暗褐色土砂質土　微小のAs-B軽石をやや多く含む。
　　2．黒褐色土砂質土　ローム粒子、径5～50㎜の小石を少量混含む。
　　3．黒褐色土砂質土　径10～20㎜のローム粒子をやや多く含む。

図62　Ｄ区46・47号溝跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

上植木光仙房遺跡Ｄ区47号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴
D-47 溝-１	円筒埴輪	埋土 小片	器厚1.4	①7.5YR5/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下の白色粒子を少量含む。	体部外面刷毛目、体部内面斜め方向撫で。
D-47 溝-２	常滑陶器　鉢	埋土 体部最末端小片	器厚1.3	①10YR6/2灰黄褐色 ②良好　③径１㎜以下の灰白色粒子をごく少量含む。	轆轤整形。体部下位内外面横撫で。 13～14世紀。D-47溝-3と同一個体か？。
D-47 溝-3	常滑陶器　鉢	埋土 口縁～体部小片	器厚0.9	①5YR4/4 にぶい赤褐色 ②良好　③径１㎜以下～１㎜程度の灰白色粒子を多量含む。	轆轤整形。体部内外面横撫で。13～14世紀。 D-47溝-2と同一個体か？。

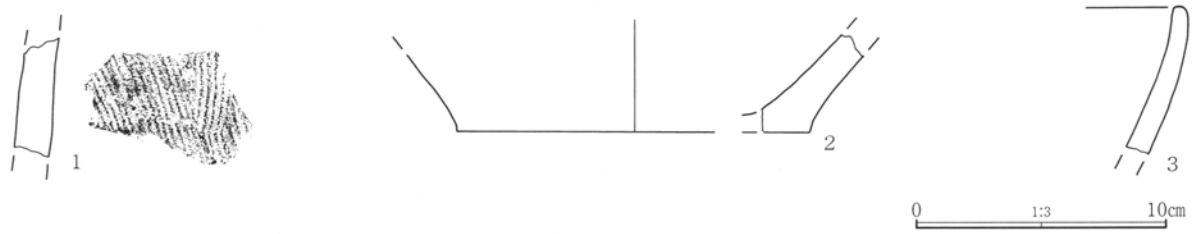


図63　Ｄ区47号溝跡　出土遺物

（6）48号溝跡

位置：Ｄ区の北端の調査区の北端壁際、X520 ～ 530・Y-205 ～ -195。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長11.54m・確認最大幅0.54m・深さ0.36m。D区北端調査区の北端壁に沿って北東～南西方向に流れる。北西側が半分以上調査区外に出、北東端・南西端とも調査区外に出るため、全体の形状は全く不明である。

埋土：黒褐色土ベース。

48号溝跡

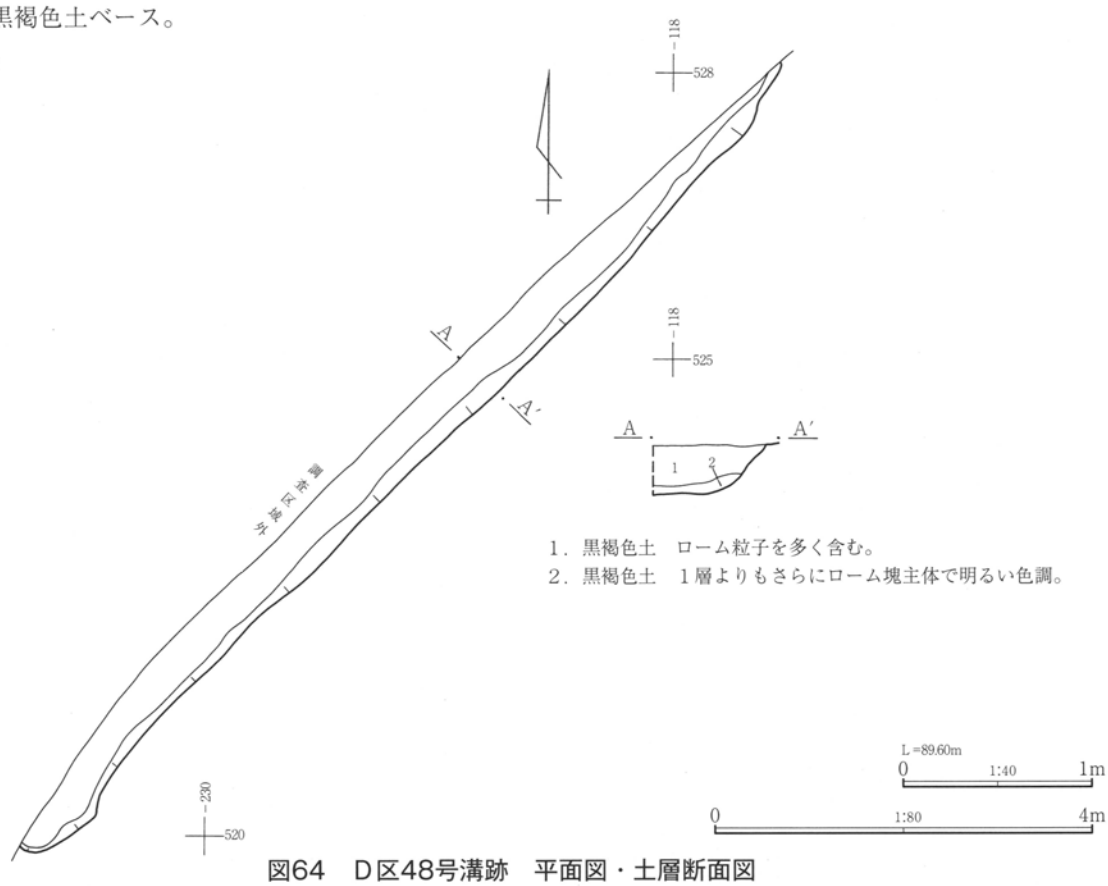


図64　Ｄ区48号溝跡　平面図・土層断面図

第３項　井戸跡

・２号井戸跡

位置：Ｄ区の北側調査区のほぼ中央部、調査区の西際。X505・Y-215。　**重複**：なし。　**規模と形状**：平面図形態円形、断面は円筒形状を呈し、口径0.74m・深さ4.05m。現状では深さ約3.4mのところに位置する灰褐色火山灰砂層から１分あたり15Ｌの湧水がみられた。

埋土：上層には暗褐色火山灰含有砂質土ベース。中層は黒褐色土。下層にいくに従って砂礫の含有が多くなり、下層の堆積土はローム塊を少量含む黒褐色土。底部には黒褐色泥土が堆積している。　**出土遺物**：自然遺物か近代の廃棄物（ガラス片・鉄片・木片）のみ。　**時期**：自然遺物以外の出土遺物が皆無であるため不明であるが、遺構の新旧関係や形状等から類推して近世末～近代にかけてのものと考えられる。

２号井戸跡

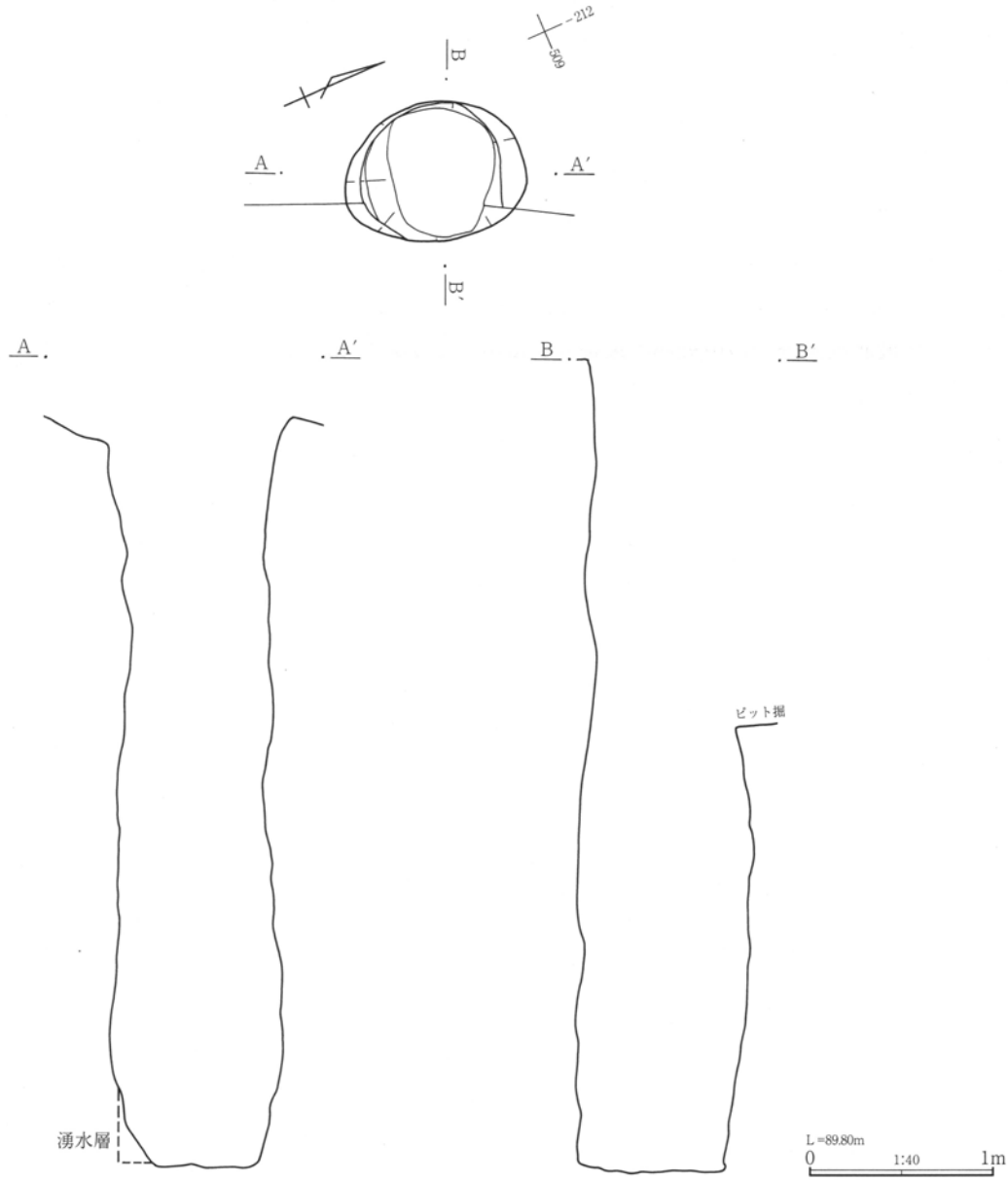


図65　Ｄ区２号井戸跡　平面図・エレベーション図

第４項　土坑跡

Ｄ区では、土坑跡は14基検出されている。いずれも用途不明の穴である。中央の調査区で40号土坑跡が１基検出された他は、いずれも北端の調査区の北半分からのみ検出された。最南端の調査区からは全く検出されていない。出土遺物が皆無なので、これらの土坑の時期も不明である。

（１）40号土坑跡

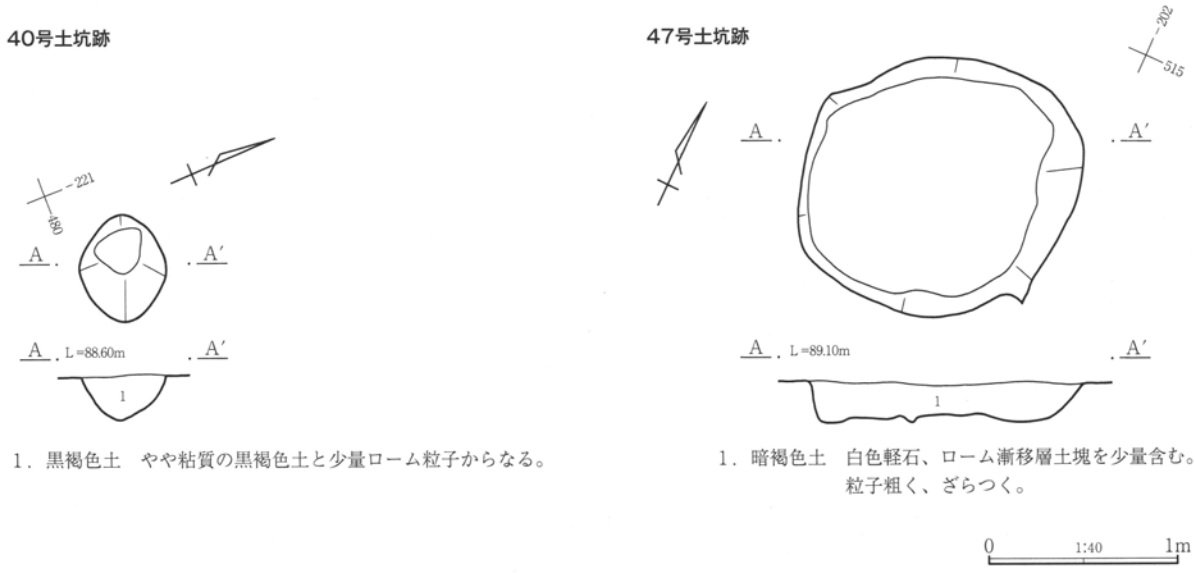
位置：Ｄ区の中央の調査区のほぼ真ん中の位置。X475・Y-210～-215。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈し、長径0.55m・短径0.45m・深さ0.24m・面積0.186㎡。中央部が深く堀りくぼめられている。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（２）46号土坑跡

位置：Ｄ区の北端調査区の中央部やや北寄り、西壁際。X515・Y-245。　**重複**：なし。　**規模と形状**：北西－南東に長い楕円形状を呈し、南東側に長さ約2.2m・勾配50°・４段の階段が取り付く。階段部を含めた北西－南東方向の径は3.72m。土坑部分のみでは東北－西南方向に長い長方形状を呈しており、長径２m・短径0.95m・深さ1.84m・面積4.772㎡。近世～近代の地下式坑と考えられる。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（３）47号土坑跡

位置：Ｄ区最北端調査区の中央部。東寄り。X510・Y-200。　**重複**：なし。　**規模と形状**：不整円形状を呈する浅い土坑。径1.82m・深さ0.22m・面積1.62㎡。　**埋土**：暗褐色土。

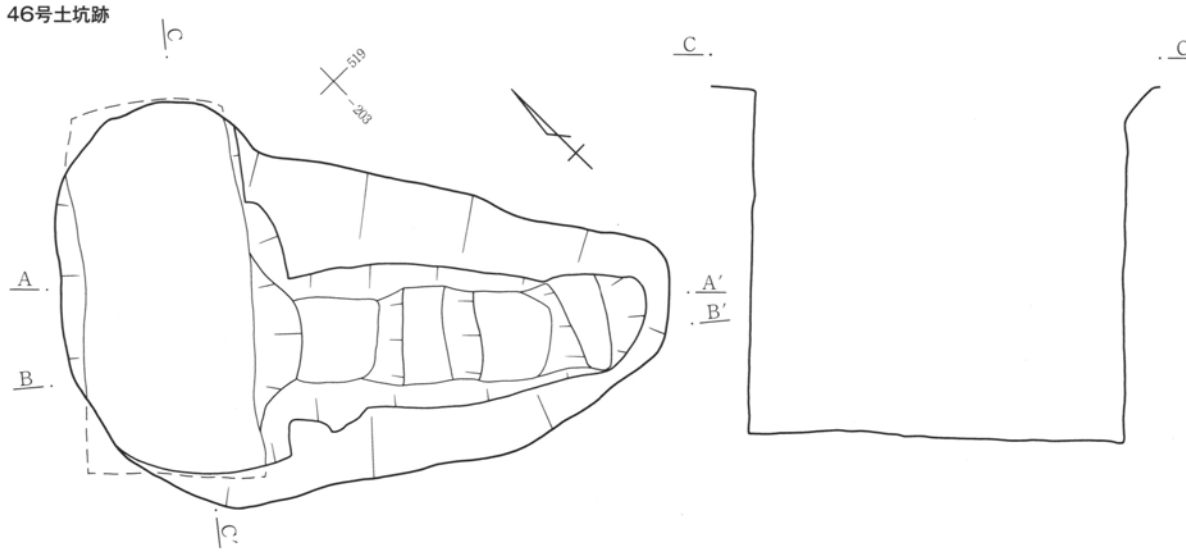


1．黒褐色土　やや粘質の黒褐色土と少量ローム粒子からなる。

1．暗褐色土　白色軽石、ローム漸移層土塊を少量含む。粒子粗く、ざらつく。

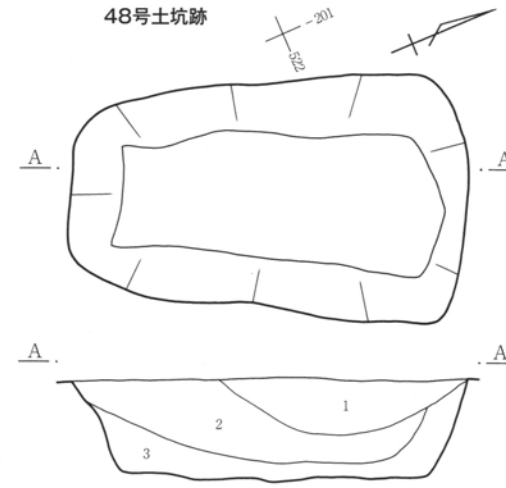
図66　Ｄ区40・47号土坑跡　平面図・土層断面図

46号土坑跡



1．暗灰褐色土　ローム粒子を少量含む。
2．黒褐色土　　ローム粒子をほとんど含まない。
3．黒褐色土　　ローム粒子を少量含む。
4．黒色土塊。
5．黄色土　　ローム主体で黒色土を少量含む。
　　地下式坑の天井や壁が崩落した土と考えられる。
6．黒褐色土　　ローム粒子を多く含む。
7．黒褐色土　　褐色土塊、ローム粒子を少量含む。
8．暗黄色シルト質土　階段土の崩落土。

48号土坑跡



1．灰褐色土　ローム、黒色土粒子を少量含む。
2．灰褐色土　ローム粒子を多く含む。
3．灰褐色土　ローム粒子を少量、黒色土粒子を僅かに含む。

L=89.10m
0　1:40　1m

図67　D区46・48号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

（4）48号土坑跡

位置：Ｄ区最北端調査区の中央部から北寄り。X520・Y-200。　**重複**：なし。　**規模と形状**：北東－南西に長い隅丸長方形状を呈し、長径2.64m・短径1.3m・深さ0.56m・確認面積2.387㎡。　**埋土**：灰褐色土をベースとする。

（5）49・50号土坑跡

位置：Ｄ区最北端調査区の北寄り。54号土坑跡のすぐ南西側、51号土坑跡のすぐ北側。X525・Y-195。

重複：49号土坑跡と50号土坑跡とが重複。49号土坑跡の上に50号土坑跡が掘り込まれている。

規模と形状：50号土坑跡は北東－南西方向に長い隅丸長方形状を呈し、長径2.65m・短径1.12m・深さ0.38m・確認面積2.744㎡。49号土坑跡は、50号土坑跡の南西側半分の下から検出され、50号土坑跡よりもさらに0.2mほど深いが平面形状は50号土坑跡による破壊を受けているため不明である。　**埋土**：ともに灰褐色土をベースとする。

（6）51号土坑跡

位置：Ｄ区最北端調査区の北端寄り、東壁際。49・50号土坑跡のすぐ南側。X520・Y-200。　**重複**：なし。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形状を呈し、深くしっかりとした堀方を有する。長径3.08m・短径1.37m以上・深さ0.75m・確認面積3.024㎡。東辺の半分以上と南東隅が調査区外に出る。　**埋土**：茶褐色土ベース。

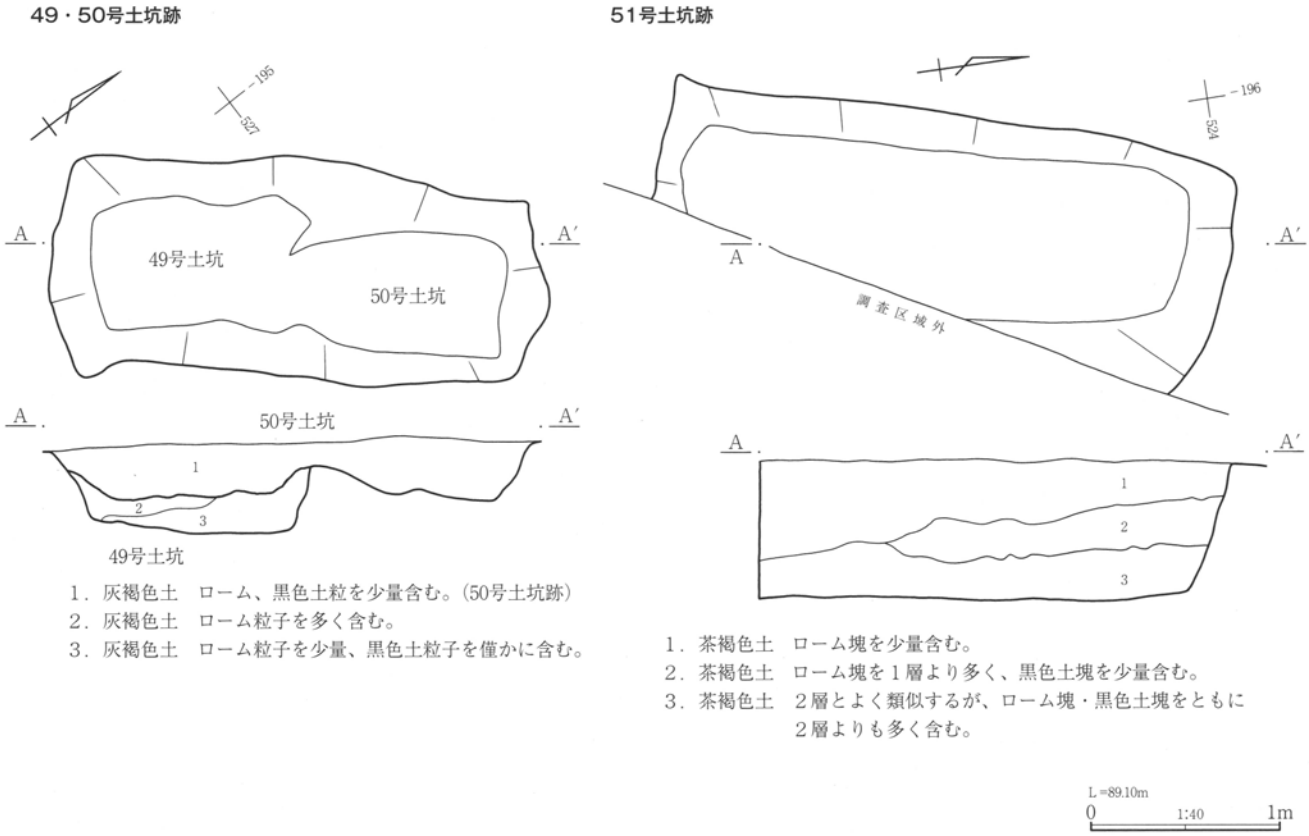


図68　Ｄ区49～51号土坑跡　平面図・土層断面図

（7）52号土坑跡

位置：Ｄ区の最北端の調査区の中央部、西壁際。47号土坑跡の西。X510・Y-205。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈し、一見すると溝跡のようにもみえなくはない。北端及び西辺及び東辺の一部が調査区外に出る。確認最大長径3.94m・短径1.1m・深さ0.62m・現状確認面積3.292㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（8）53号土坑跡

位置：Ｄ区最北端の調査区の中央部。東壁際。51号土坑跡の南側。X525・Y-195。　**重複**：なし。　**規模と形状**：北西－南東に長い隅丸長方形状を呈し、長径1.25m・短径0.77m・深さ0.4m・面積0.86㎡。　**埋土**：暗灰褐色土をベースとする。

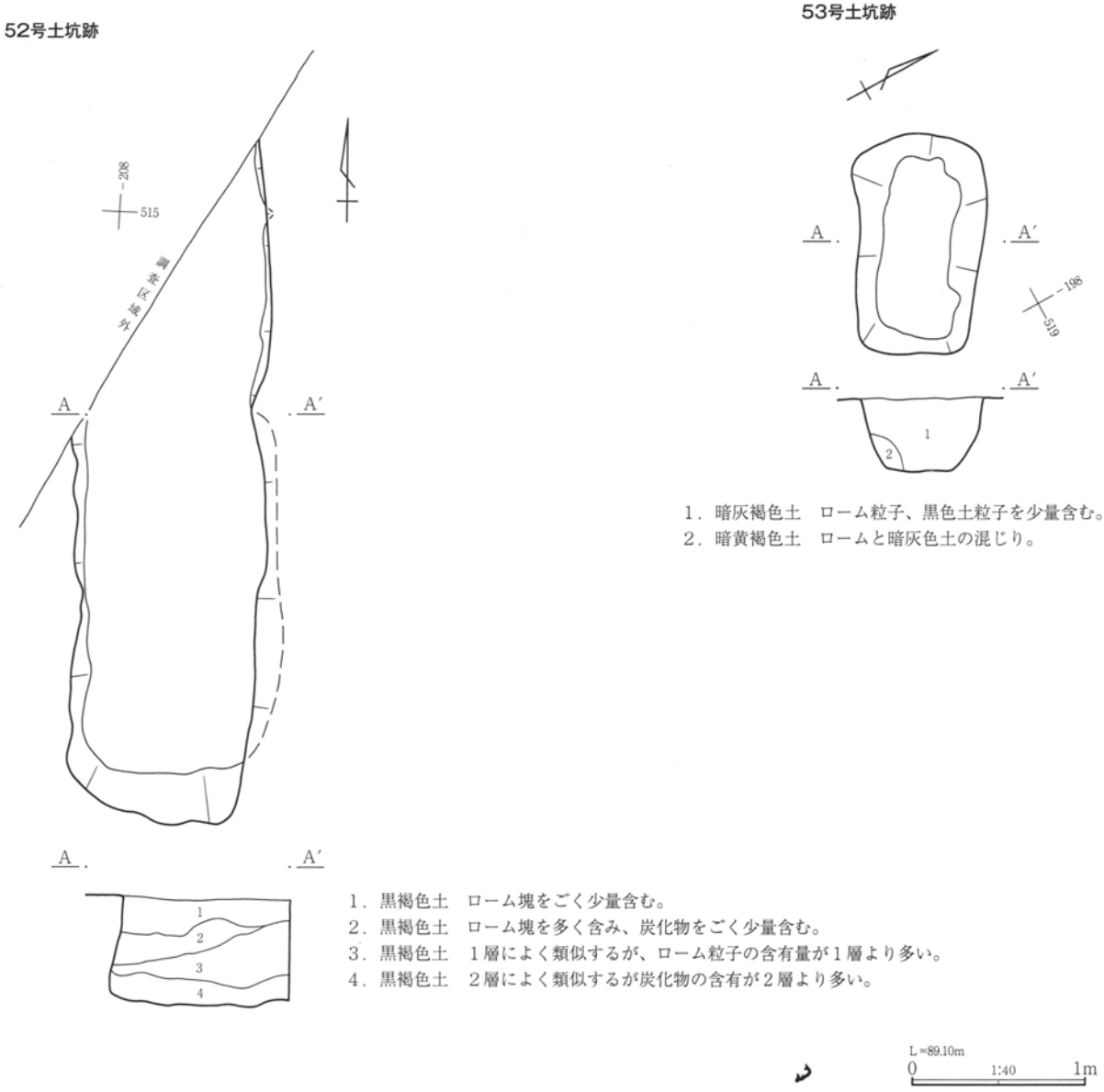


図69　Ｄ区52・53号土坑跡　平面図・土層断面図

（9）54号土坑跡

位置：Ｄ区最北端の調査区の北端、西壁際。49・50号土坑跡のすぐ北側。X515・Y-190。　**重複**：なし。**規模と形状**：東側が調査区外にかかっているため全体の形状は不明。　確認面積1.44㎡。　**埋土**：灰褐色土をベースとする。

（10）56号土坑跡

位置：Ｄ区最北端の調査区の北端寄り。東壁際。57号土坑跡の南に隣接。X515・Y-190。　**重複**：なし。**規模と形状**：現状では北西－南東に長い溝状を呈しているが、南東側が調査区外に出るため本来の形状は不明である。近代の耕作による痕跡か？。確認最大長2.52m・短径0.91m・深さ0.27m・確認面積1.864㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

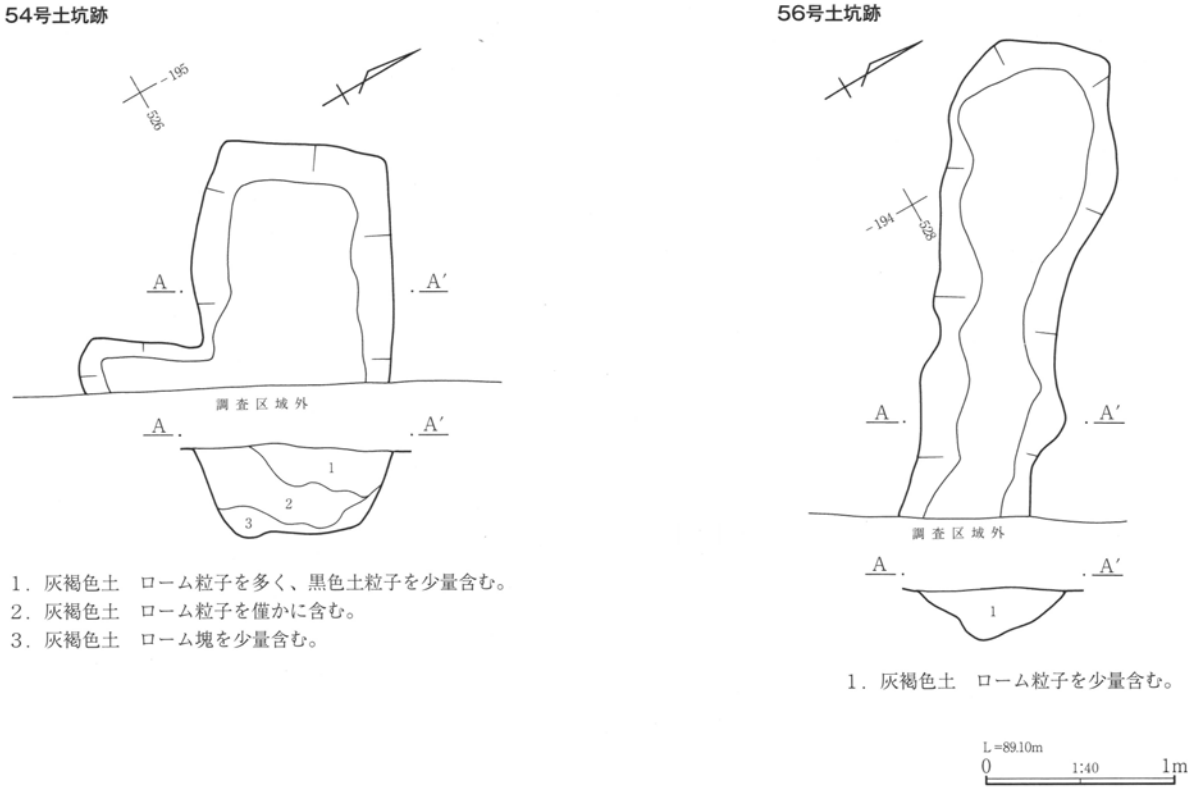


図70　Ｄ区54・56号土坑跡　平面図・土層断面図

（11）57号土坑跡

位置：Ｄ区最北端調査区の北端寄り。東壁際。56号土坑跡の北、58号土坑跡の南に隣接。X515・Y-190。**重複**：なし。　**規模と形状**：南東端が調査区外に出るため本来の形状は不明。現存長径2.54m・短径2.2m・深さ0.35m・確認面積4.304㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

（12）58号土坑跡

位置：Ｄ区最北端調査区の北端寄り。西壁際。57号土坑跡の北側に隣接、70号土坑跡の南。X510・Y-180。**重複**：なし。　**規模と形状**：南東側が調査区外に出るため、全体の形状は不明。現存最大長1.06m・短径0.96m・深さ0.16m・面積0.817㎡。　**埋土**：灰褐色土ベース。

（13）70号土坑跡

位置：Ｄ区最北端調査区の北端。X530・Y-185。　**重複**：なし。　**規模と形状**：北・西端が調査区外に出るため、形状は不明。確認最大長1m・深さ1.06m・面積0.4㎡。

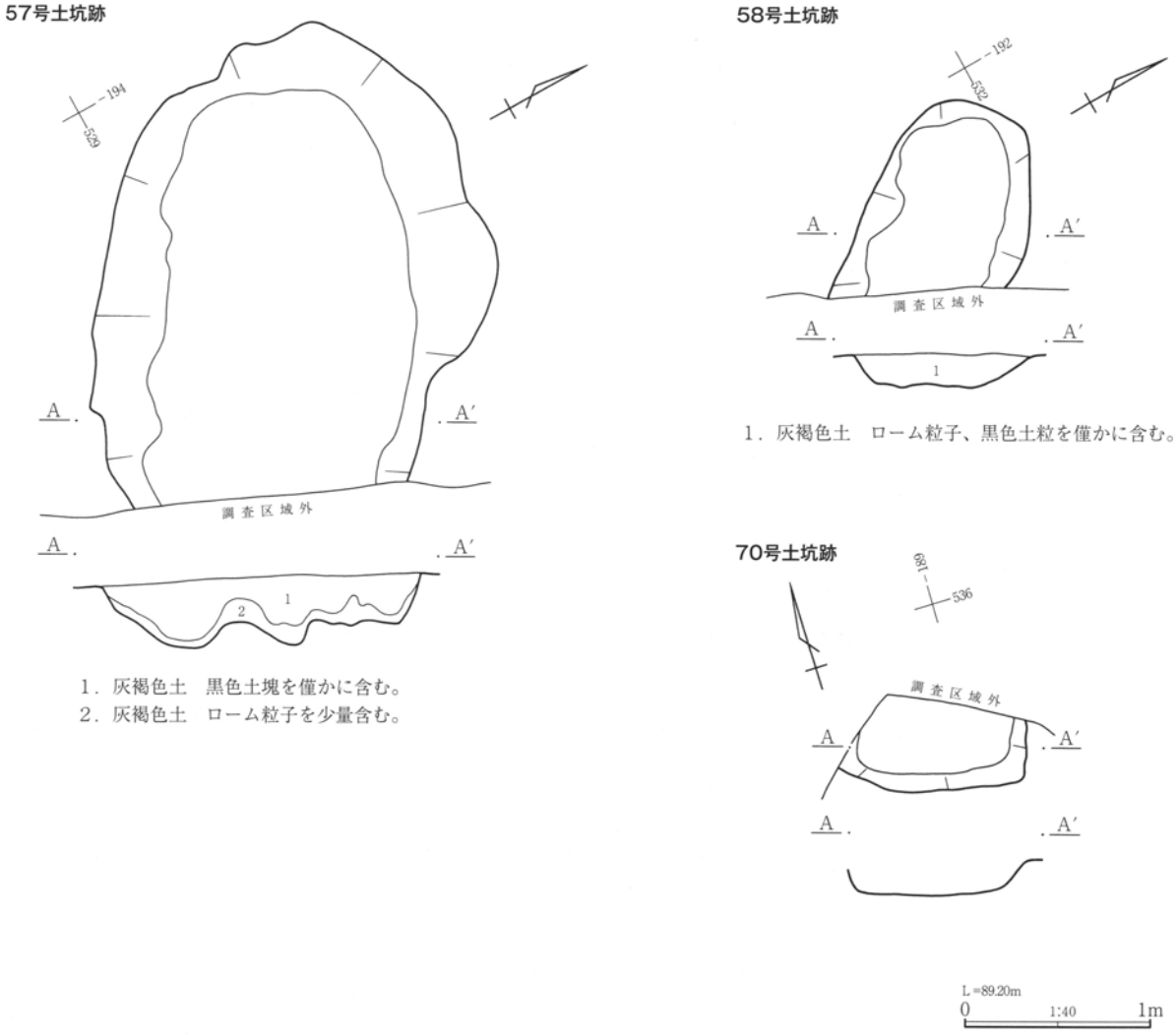


図71　Ｄ区57・58・70号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

第５節　Ｅ区で検出された遺構と遺物

Ｅ区は、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線を挟んだＦ区とともに調査区域の北から三番目の大調査区である。現在の県道伊勢崎・大間々線に直角に交わる生活道路によって、４箇所の小区画に分かれている。このうち北側三箇所の区画は平成15年度に、最南端の区画を平成16年度に調査している。

北から２番目の調査区は、最近まで宅地であったために近現代の攪乱が著しく、遺構の残存状況は悪い。本調査区からは、古墳周溝跡１、溝跡５条、墓壙跡１基、土坑跡６基が検出された。

第１項　古墳跡

・２号墳跡（Ｅ・Ｆ区）

調査区の最南端と南から二番目の区画、及びＦ区の南から二番目と三番目の区画において大規模な古墳の周溝跡が検出された。位置的にみて、『上毛古墳綜覧』所載の「殖蓮村62号墳」と称される　前方後円墳にあたるものと考えられる。Ｅ区では古墳周溝の南側の弧と北側の弧のごく一部が検出され、Ｆ区では、周溝の東側の弧の一部が検出されている。形状から見れば、今回の調査においては、後円部の約東側半分に相当する部分が県道を挟んだ両側で検出されたということになろう。

墳丘はＥ区で検出された周溝の南側の弧と北側の弧とに挟まれた部分と、後円部墳丘東半分の大部分は現・県道下にかかる部分にあたり、墳丘の封土及び主体部は完全に削平されており、墳丘周辺や周溝内から、墳丘に貼られた葺石の痕跡や残骸、あるいは埴輪片は全く出土しておらず、周溝内の遺物も少ない。

また、主体部も、痕跡を含めて全く見つかっていない。また、後円部の西側約半分と後方部は、Ｅ区の西側に隣接する調査対象区域外に当たるものと考えられるが、Ｅ区西側の調査区外でも、現状では墳丘の痕跡と考えられるような高まりは全く存在していない。

このように本古墳は、圧倒的大部分が西側の調査区外に出ていたり、現・県道の下に入ってしまっていたりして、古墳の全容は全く不明であると言わざるを得ない。周溝の最大上幅は7.2m・下幅は3.5m・現状での深さ1.2mで、外径は47m・内径は32mほどであった。

周溝を埋めていた土は黒色土をベースとし、底から約40～50cmの位置からAs-B軽石をやや多く混入した土層の堆積が顕著である。周溝の埋土からは埴輪片が少量出土した。埴輪の年代から見れば６世紀の物と考えられる。

本遺跡の上武道路調査箇所では、現・伊勢崎・大間々線の西側の調査区から４基、東側の調査区から６基の計10基の古墳が検出されている。いずれも円墳で、墳丘の封土は完全に削平されていたが、主体部の一部や痕跡を調査できた古墳が７基あり、それらはいずれも輝石安山岩の川原石や割石を用いた横穴式石室か箱式棺状竪穴式石室である。また、これらの古墳には、いずれにも墳丘部の葺石や埴輪等は認められなかった。また、北関東自動車道調査区では、現・伊勢崎・大間々線の東側と西側で１基づつ計２基の古墳が検出されている。Ａ１号墳では埋土中から埴輪片が出土しているが、Ｂ１号墳からは埴輪は全く出土していない。

本古墳を含めたこれらの古墳は、前述したように粕川左岸の段丘上に展開する本関町古墳群の一画を形成していた。

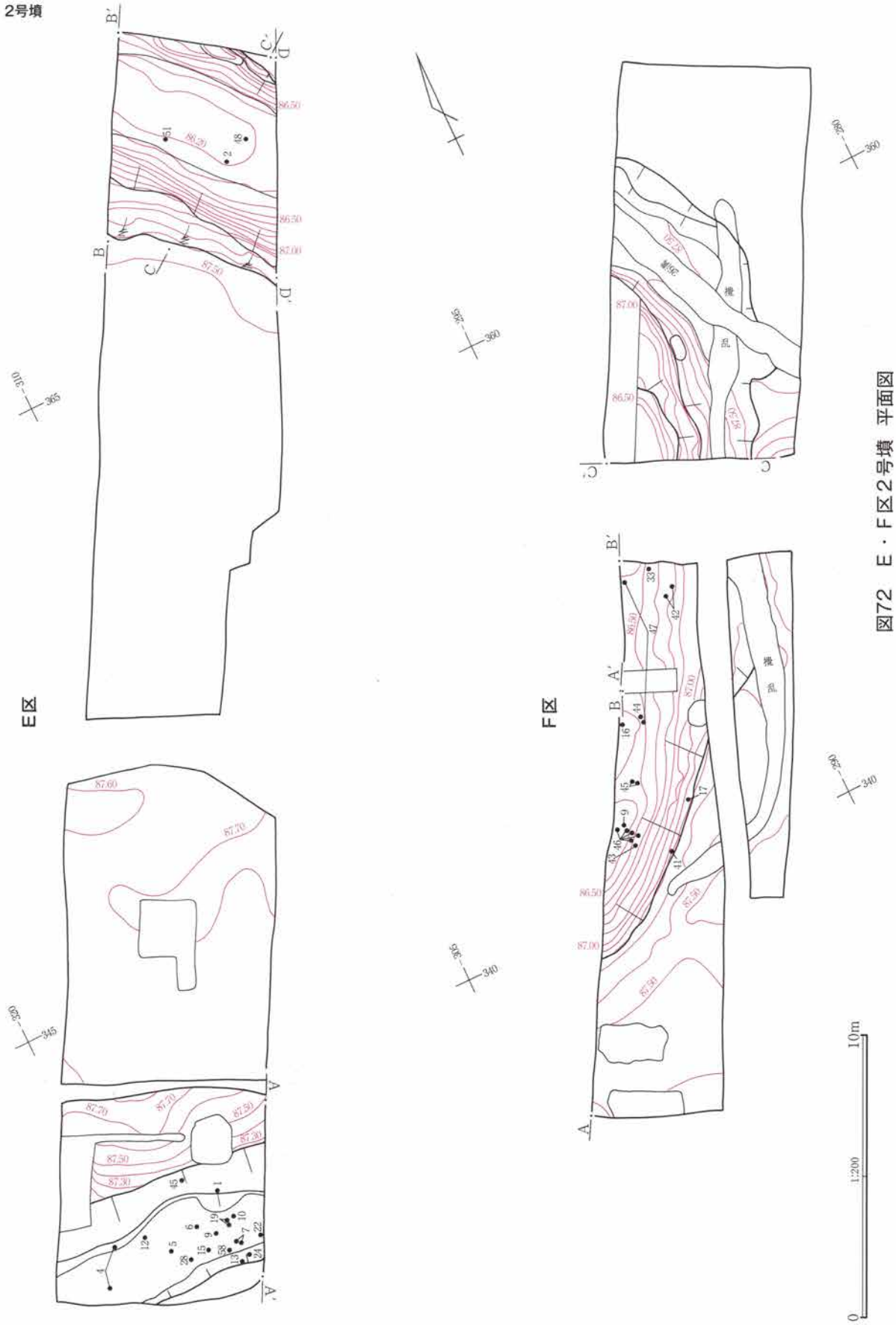
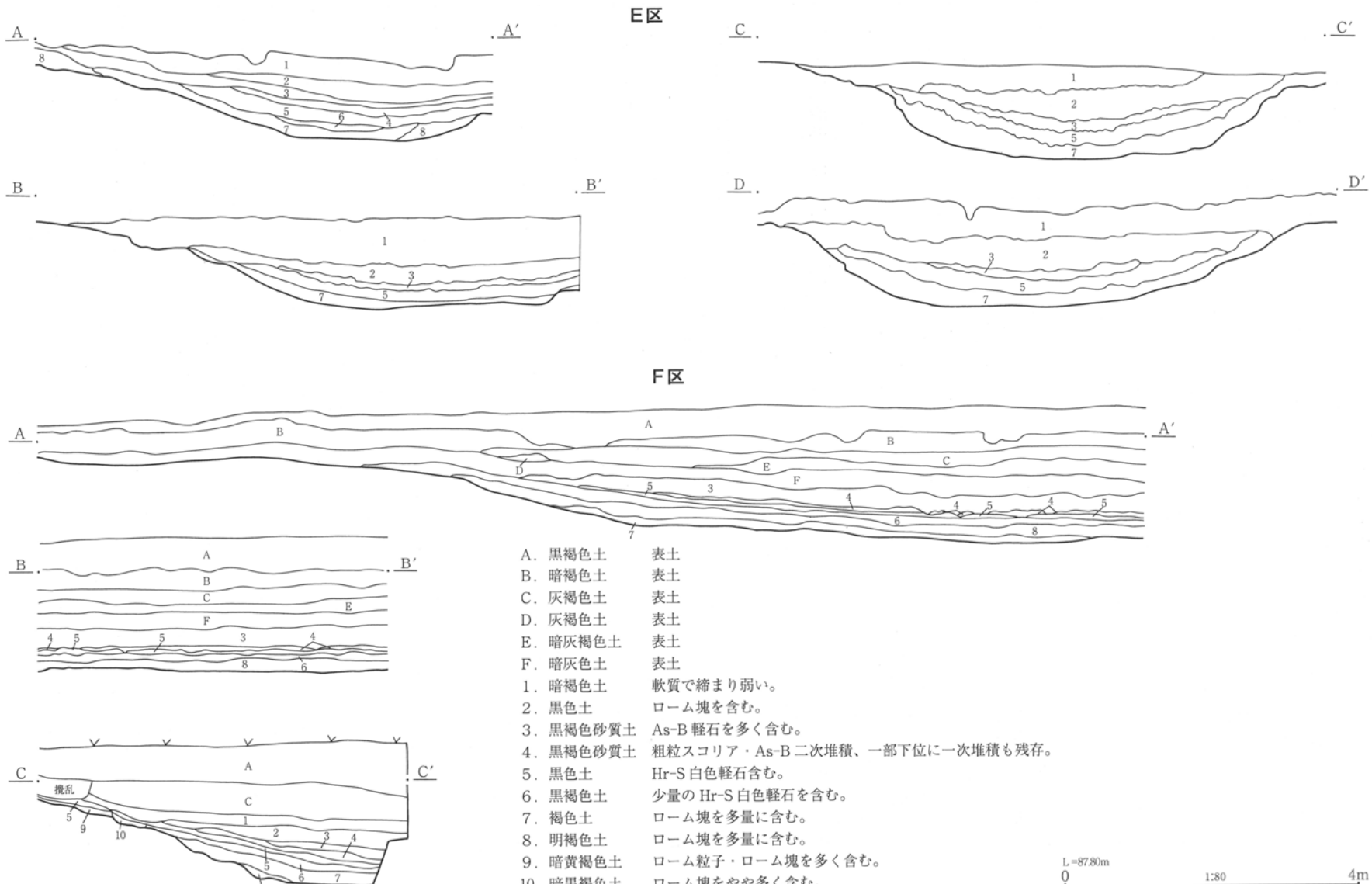


図72　E・F区2号墳 平面図



A．黒褐色土　表土
B．暗褐色土　表土
C．灰褐色土　表土
D．灰褐色土　表土
E．暗灰褐色土　表土
F．暗灰色土　表土
1．暗褐色土　軟質で締まり弱い。
2．黒色土　ローム塊を含む。
3．黒褐色砂質土　As-B 軽石を多く含む。
4．黒褐色砂質土　粗粒スコリア・As-B 二次堆積、一部下位に一次堆積も残存。
5．黒色土　Hr-S 白色軽石含む。
6．黒褐色土　少量の Hr-S 白色軽石を含む。
7．褐色土　ローム塊を多量に含む。
8．明褐色土　ローム塊を多量に含む。
9．暗黄褐色土　ローム粒子・ローム塊を多く含む。
10．暗黒褐色土　ローム塊をやや多く含む。
11．暗黄褐色土　ローム塊を多く含む。

図73　E・F区2号墳　土層断面図

上植木光仙房遺跡Ｅ・Ｆ区２号墳跡（Ｅ区部分）出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
E-２墳-１	円筒埴輪	周溝埋土 口縁部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を含む。緻密。	口縁部内外面撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-２墳-２	円筒埴輪	周溝埋土 口縁部小片	器厚1.1	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～10㎜大の白色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	口縁部横撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-２墳-３	円筒埴輪	周溝埋土 口縁部小片	器厚1.3	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を含む。緻密。	口縁部横撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-２墳-４	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.4	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-２墳-５	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.1	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下の白色粒子・灰白色粒子・砂粒を大量に含む。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向刷毛目。
E-２墳-６	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.1	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下の白色・赤褐色粒子・砂粒をごく少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向刷毛目。
E-２墳-7	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～５㎜程度の白色粒子・砂粒を多量に含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
E-２墳-8	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜の黒色・白色粒子・砂粒を多量に含む。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向刷毛目。
E-２墳-９	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-２墳-10	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.4	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下の極めて微細な白色粒子・砂粒を非常に少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向刷毛目。
E-２墳-11	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～２㎜の砂粒を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。体部内面縦方向刷毛目、後縦方向撫で。
E-２墳-12	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜～10㎜の砂礫をごく多量に含む。 やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。体部内面縦方向刷毛目、後縦方向撫で。
E-２墳-13	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚１.4	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～10㎜の砂礫を多く含む。 やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。体部内面縦方向刷毛目、後縦方向撫で。

E-２墳-14	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～10㎜大の白色・黒褐色・赤褐色粒子・砂粒をごく少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。内面縦・斜め方向撫で。
E-２墳-15	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～20㎜の砂礫を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯下横撫で。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-２墳-16	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～３㎜程度の白色・赤褐色・黒褐色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-２墳-17	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜前後の白色粒子・灰白色粒子・砂粒を大量に含む。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯下横撫で。体部内面縦・斜め方向刷毛目。
E-２墳-18	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜前後の白色・赤褐色・黒褐色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。体部内面縦･斜め方向刷毛目。
E-２墳-19	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①5YR7/6橙色　②良好 ③径１㎜以下３㎜程度の白色粒子・砂粒を含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向撫で。
E-２墳-20	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.9	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜の黒色・白色粒子・砂粒を多量に含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-２墳-21	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚2.2	①5YR7/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～10㎜の白色・赤褐色・黒褐色粒子、砂粒を含む。やや緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦方向撫で。
E-２墳-22	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚2.4	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜程度の白色・赤褐色・黒褐色粒子を砂粒を少量含む。緻密。	体部内外面斜め方向刷毛目。
E-２墳-23	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～10㎜の赤・茶褐色粒子や砂粒を多く含むが、緻密。	体部内外面縦方向刷毛目。
E-２墳-24	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜～10㎜の砂礫をごく多量に含む。 やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。
E-２墳-25	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜～10㎜前後の白色・赤褐色・黒褐色粒子、砂粒をやや多く含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向撫で。

E-２墳-26	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚3.0	①5YR7/6橙色　②良好　③径１㎜以下～10㎜の赤・茶褐色粒子や砂粒を多量に含む。やや粗い。	体部外面縦・斜め方向刷毛目。体部内面縦方向撫で。
E-２墳-27	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①5YR6/7褐灰色　②やや不良　③径１㎜～10㎜の灰白色粒子・砂礫を多量に含む。粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-２墳-28	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①5YR6/7褐灰色　②やや不良　③径１㎜～　10㎜の灰白色粒子・砂礫を多量に含む。粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
E-２墳-29	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①5YR7/6橙色　②良好　③径１㎜以下の白色・赤褐色・黒褐色粒子、砂粒を含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向撫で。
E-２墳-30	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下～10㎜の赤・茶褐色粒子や砂粒を少量含む。緻密。	体部内面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向撫で。
E-２墳-31	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜の白色・黒褐色粒子、砂礫を少量含む。 緻密。器面摩耗激しい。	体部外面縦方向刷毛目、体部内面斜め・横方向撫で。
E-２墳-32	円筒埴輪	周溝埋土 口縁部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下～２㎜の白色・赤褐色・黒褐色粒子・雲母粒・砂粒を含む。緻密。	口縁部横撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-２墳-33	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.0	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下の白色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け後、上下横撫で。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-２墳-34	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/4にぶい橙色　②良好　③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向刷毛目。
E-２墳-35	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.4	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下の白色粒子・砂粒をごく少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-２墳-36	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/2灰褐色　②良好　③径１㎜以下の白色粒子・灰白色粒子・砂粒を多く含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向刷毛目。
E-２墳-37	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下の白色・赤褐色粒子・砂粒を多量に含む。やや粗い。	体部内外面縦方向刷毛目。
E-２墳-38	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.2	①5YR6/4にぶい橙色　②良好　③径１㎜以下～５㎜程度の白色粒子・砂粒を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向刷毛目。

E-２墳-39	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.4	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③径１㎜以下の黒色・白色粒子・砂粒を微量含む。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
E-２墳-40	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5YR6/3にぶい橙色 ②やや良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
E-２墳-41	形象埴輪？ 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜～10㎜程度の白色・黒褐色粒子・砂粒を含む。やや緻密。	体部内外面縦方向刷毛目。
E-２墳-42	形象埴輪？ 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒をやや多く含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
E-２墳-43	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①5YR7/6橙色 ②良好 ③径１㎜～10㎜の砂礫を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向撫で。
E-２墳-44	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚１.7	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色粒子・砂礫を少量含む。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦方向撫で。
E-２墳-45	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～10㎜大の白色・黒褐色・赤褐色粒子・砂粒をやや多く含むが、緻密。	体部内外面縦方向刷毛目。
E-２墳-46	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚2.1	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③径１㎜以下～20㎜の砂礫をやや多く含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-２墳-47	形象埴輪？ 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚2.0	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色・赤褐色・黒褐色粒子・砂粒を少量含む。概ね緻密。	体部内外面撫で。
E-２墳-48	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③径１㎜以下～２㎜前後の白色粒子・灰白色粒子・砂粒を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-２墳-49	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～２㎜前後の白色・赤褐色・黒褐色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	外面縦方向刷毛目。内面縦・斜め方向撫で。
E-２墳-50	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.1	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色粒子・砂粒を多量に含む。粗い。	外面縦方向刷毛目。内面撫で。
E-２墳-51	円筒埴輪	周溝埋土 口縁部小片	器厚2.0	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜の白色・黒褐色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	口縁部～外面撫で。内面横方向刷毛目。

E-２墳-52	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚3.5	①5YR7/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～10㎜の白色粒子、砂粒を微量含む。緻密。	外面縦方向刷毛目。内面縦方向撫で。
E-２墳-53	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 円柱棒状付属物小片 両端欠損	径1.6	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜程度の白色・赤褐色・黒褐色粒子を砂粒を少量含む。緻密。	表面撫で。
E-２墳-54	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 円柱棒状付属物小片両端欠損	径1.5	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜程度の白色・赤褐色・黒褐色粒子を砂粒を少量含む。緻密。	表面撫で。
E-２墳-55	土師器　杯 ８世紀初頭～前半	周溝埋土 口縁部～体部 約1/4片	推定口径10、器高2.8、器厚0.4	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下の砂礫・黒褐色粒子を少量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。
E-２墳-56	土師器　杯 ８世紀初頭～前半	周溝埋土 口縁部～体部 約1/4片	推定口径 10.9、器高 3.0、器厚 0.6	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径1㎜以下の砂礫・黒褐色粒子を少量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で。体部～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。
E-２墳-57	土師器　杯 ９世紀中葉	周溝埋土 底部片	推定底径5.6、器厚0.8	①10YR7/2にぶい黄橙色　②良好　③径1㎜以下～3㎜前後の黒褐色粒子・砂礫を少量含む。緻密。	底部回転糸切り。体部外面下位横方向篦削り。
E-２墳-58	須恵器　提瓶	周溝埋土 口縁部～頸部片	推定口径7.6、頸高5.5、器厚0.9	①5Y7/2灰白色　②良好 ③径1㎜以下の黒色粒子をごく微量含む。緻密。	轆轤整形。口縁部撫で。頸部外面に櫛書波状紋。口縁部～頸部裾にかけて顕著な自然釉。

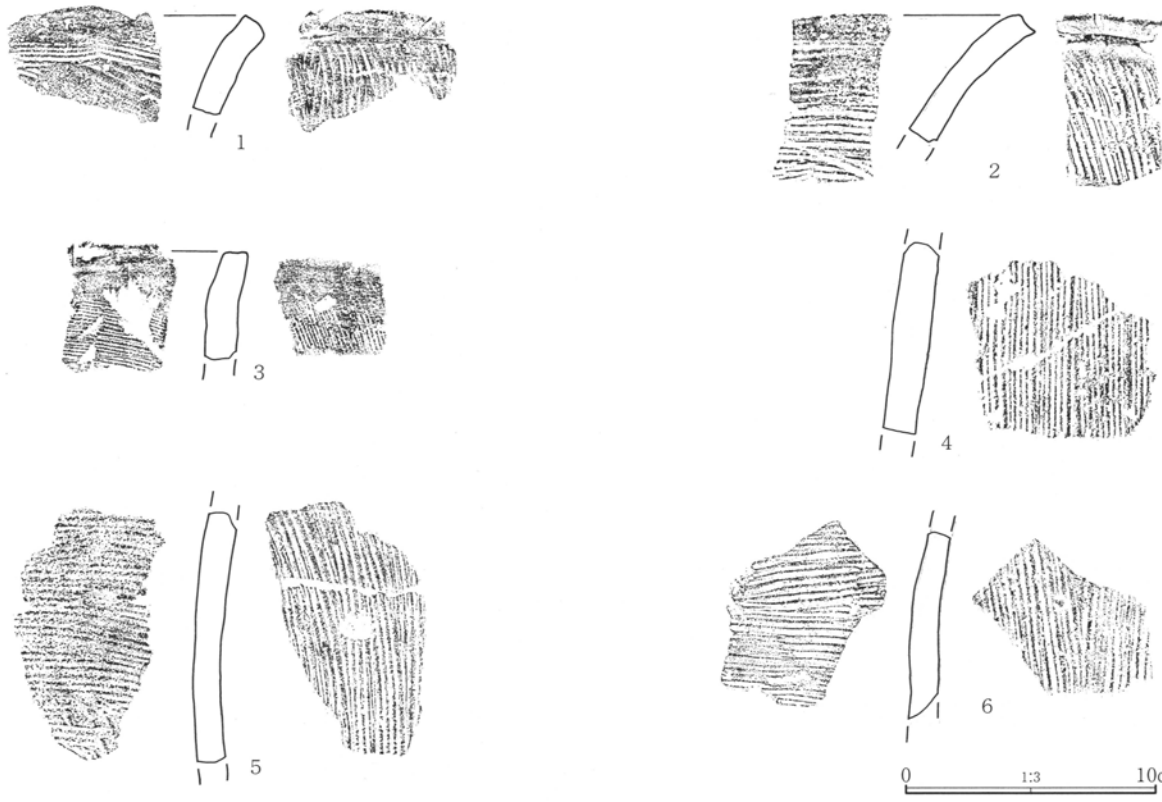


図74　Ｅ・Ｆ区２号墳　出土遺物（Ｅ区－１）

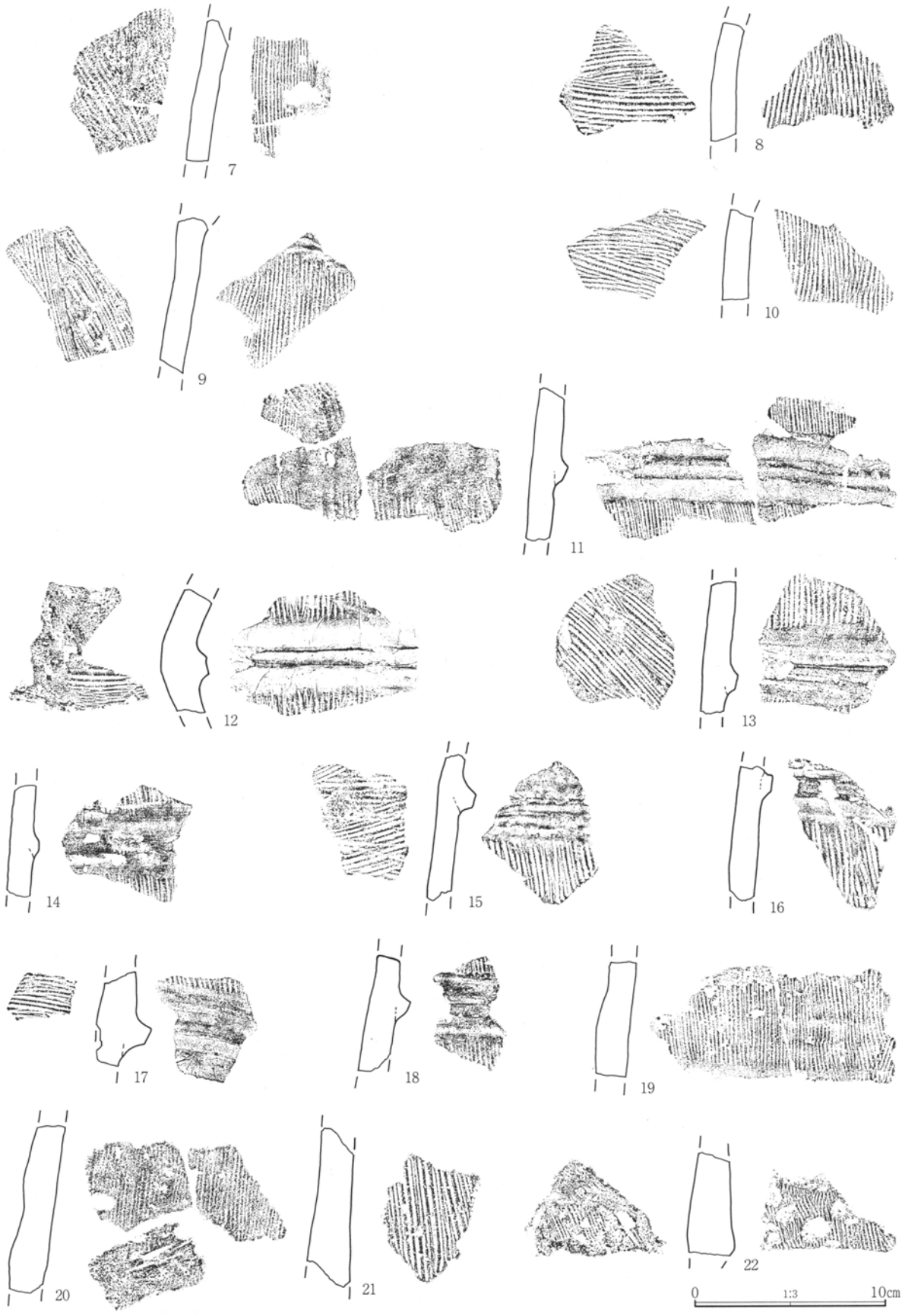


図75　Ｅ・Ｆ区２号古墳　出土遺物（Ｅ区－２）

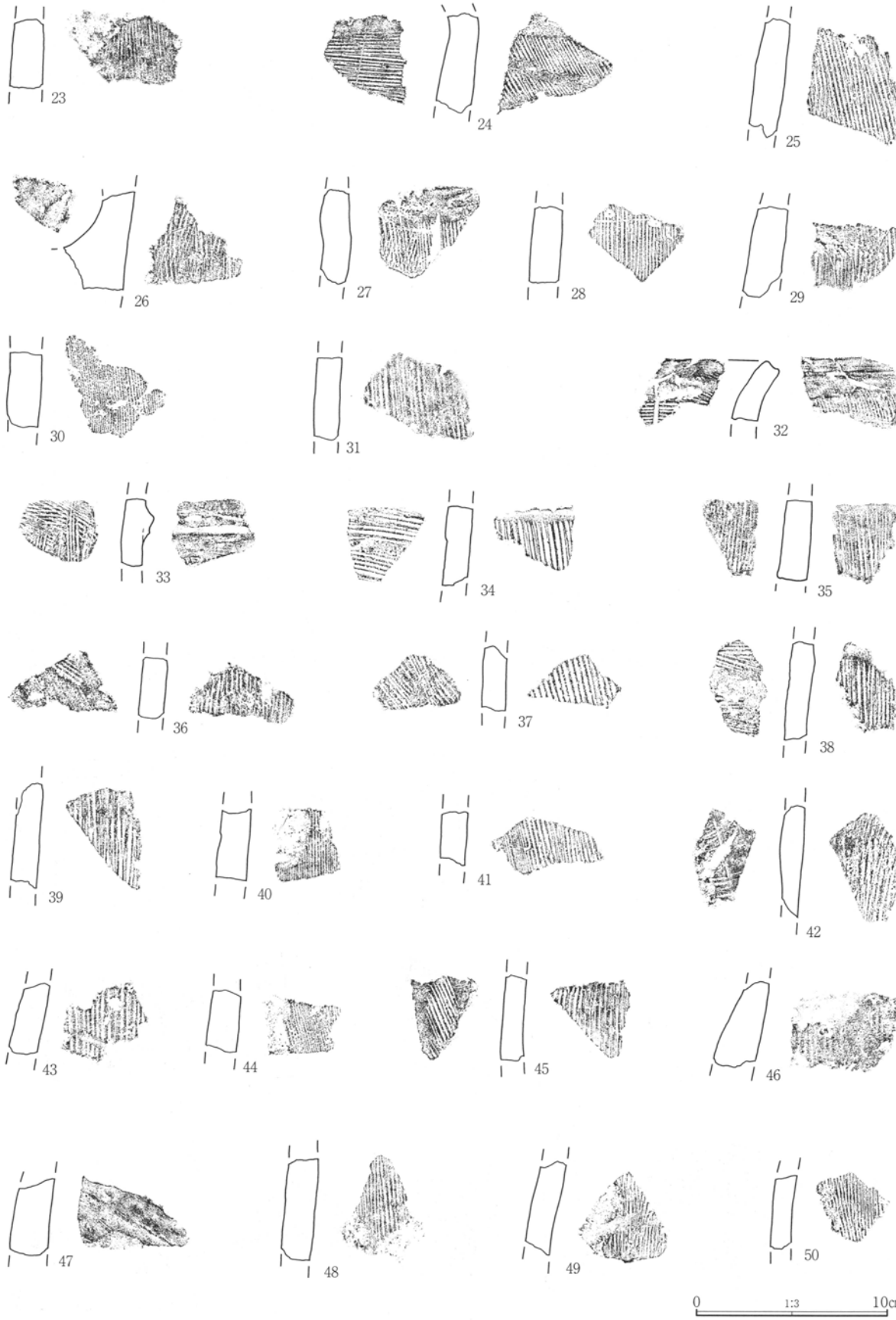


図76　Ｅ・Ｆ区２号墳 出土遺物（Ｅ区－３）

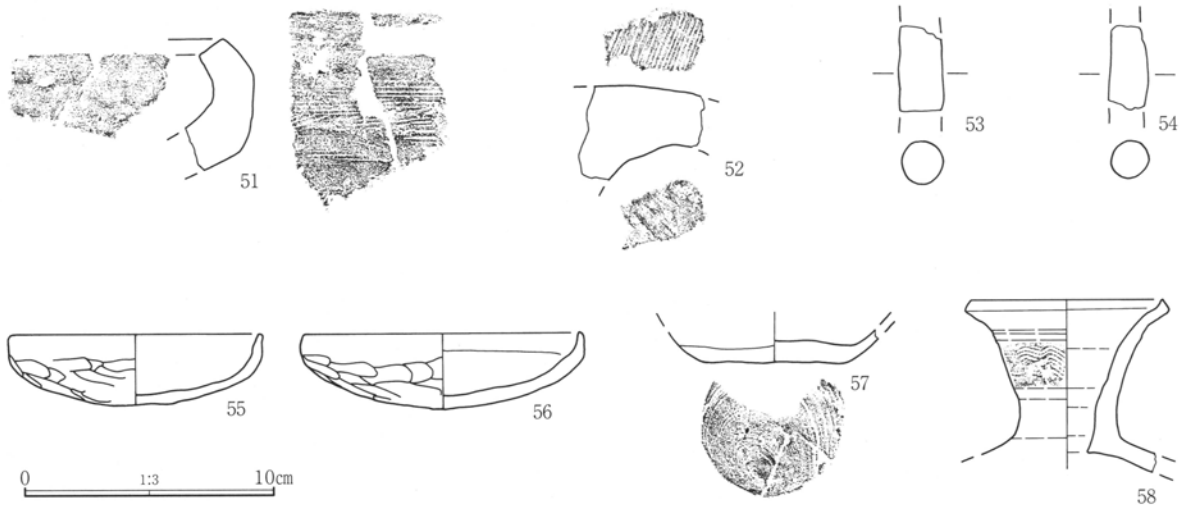


図77　Ｅ・Ｆ区２号墳 出土遺物（Ｅ区－４）

上植木光仙房遺跡Ｅ・Ｆ区２号墳跡（Ｆ区部分）出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
F-２墳-１	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向撫で。
F-２墳-２	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜大の白色・赤褐色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け、突帯部上下横方向撫で。体部内面横・斜め方向撫で。
F-２墳-３	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向撫で。
F-２墳-４	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.1	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色粒子・砂粒を含む。やや緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
F-２墳-５	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下の白色粒子・灰白色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
F-２墳-６	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①10YR5/2灰黄褐色 ②やや不良 ③径１㎜以下の白色・赤褐色粒子・砂粒を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
F-２墳-７	円筒埴輪	周溝埋土 底部～体部下 小片	器厚1.8	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～５㎜程度の白色粒子・砂粒を含む。やや粗い	底部撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
F-２墳-８	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚2.1	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜の白色・赤褐色・茶褐色粒子・砂粒を少量含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け、突帯部上下横撫で。体部内面横方向刷毛目。

F-２墳-９	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
F-２墳-10	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
F-２墳-11	円筒埴輪	周溝埋土 底部～体部下位片	底径21.8、残存器高28.8、器厚2.2	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～15㎜の赤褐色・茶褐色・灰褐色粒子、砂粒をやや多く含むが概ね緻密。	底部撫で。体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。体部内面縦・斜め方向撫で。
F-２墳-12	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①2.5YR4/6橙色　②良好 ③径１㎜～３㎜の白色粒子、砂礫をごく少量含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。内面斜め方向撫で。
F-２墳-13	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚１.6	①2.5YR5/6明赤褐色 ②良好　③径１㎜以下～10㎜の白色・灰褐色粒子、砂礫を少量含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。体部内面斜め方向撫で。
F-２墳-14	円筒埴輪	周溝埋土 口縁部小片	器厚1.2	①2.5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～10㎜大の白色・黒褐色・赤褐色粒子・砂粒を多く含む。やや粗い。	口縁部内外面横撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向刷毛目。
F-２墳-15	円筒埴輪	周溝埋土 口縁部小片	器厚1.1	①2.5YR5/4にぶい赤褐色　②良好　③径１㎜以下～３㎜の白色粒子、砂礫を微量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向刷毛目。
F-２墳-16	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①5YR6/8橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色・赤褐色・黒褐色粒子・砂粒を含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付、突帯上下横撫で。体部内面横・斜め方向撫で。
F-２墳-17	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚0.8	①5YR6/8橙色　②良好 ③径１㎜以下～２㎜前後の白色粒子・灰白色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯粘土紐貼付。突帯上下横撫で。体部内面横・斜め方向撫で。
F-１墳-18	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜前後の白色・赤褐色・黒褐色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。突帯粘土紐貼付。突帯上下横撫で。体部内面縦･斜め方向刷毛目。
F-２墳-19	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.1	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下５㎜程度の白色・赤褐色粒子、砂粒を含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け、突帯部上下横撫で。体部内面横･斜め方向撫で。
F-２墳-20	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜の黒色・白色粒子・砂粒を多量に含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け、突帯部上下横撫で。体部内面横･斜め方向撫で。

F-２墳-21	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.4	①2.5YR5/6明赤褐色 ②良好 ③径１㎜以下の白色・赤褐色・黒褐色粒子、砂粒を含む。やや緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け。体部内面横・斜め方向刷毛目。
F-２墳-22	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①2.5YR5/6明赤褐色 ②良好 ③径１㎜～15㎜程度の砂粒を多量に含む。粗い。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け。体部内外面斜め方向撫で。
F-２墳-23	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①2.5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～５㎜の赤・茶褐色粒子や砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
F-２墳-24	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.9	①2.5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜～10㎜の白色・赤褐色・茶褐色粒子、砂礫を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦方向撫で。
F-２墳-25	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.4	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③径１㎜以下～２㎜前後の白色・赤褐色・黒褐色粒子、砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦方向撫で。
F-２墳-26	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.4	①2.5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色・赤褐色・茶褐色粒子や砂粒をやや多く含むが緻密。	体部外面縦方向刷毛目。内面斜め方向撫で。
F-２墳-27	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.1	①2.5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～ ５㎜の灰白色・赤褐色・黒褐色粒子、砂礫をやや多く含むが緻密。	体部外面縦・斜め方向刷毛目。体部内面横方向刷毛目。
F-２墳-28	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.5	①2.5YR5/6明赤褐色 ②やや不良 ③径１㎜以下～２㎜前後の白色・赤褐色・黒褐色粒子、砂粒を含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向撫で。
F-２墳-29	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①2.5YR7/8橙色 ②良好 ③径１㎜以下の砂粒を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向撫で。
F-２墳-30	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚2.2	①5YR7/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜の白・赤・茶褐色粒子や砂粒を多く含むが緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
F-２墳-31	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.1	①5YR7/6橙色 ②良好 ③径１㎜～５㎜の白色・赤褐色・黒褐色粒子・雲母粒・砂粒を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向撫で。
F-２墳-32	円筒埴輪	周溝埋土 底部小片	器厚2.0	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜～５㎜の白色・赤褐色・黒褐色粒子・雲母粒・砂粒をやや多く含む。概ね緻密。	底部外面撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦方向撫で。

F-２墳-33	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 端部小片	器厚2.7	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～５㎜の白色・赤褐色・茶褐色粒子、砂粒を多く含む。やや粗い。	端部内外面撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向撫で。
F-２墳-34	円筒埴輪	周溝埋土 底部～体部下位小片	器厚2.2	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下の白色粒子、 径１～５㎜の赤褐色・茶褐色粒子、砂粒をやや多く含む。概ね緻密。	底部撫で。体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け、突帯部上面横撫で。体部内面縦・斜め方向撫で。
F-２墳-35	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚2.0	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～15㎜の白色・赤褐色・茶褐色粒子、砂粒を少量含む。緻密。	体部内外面撫で。
F-２墳-36	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下の白色粒子・灰白色粒子、径１～15㎜の黒褐色・赤褐色・茶褐色粒子、砂粒をやや多く含むが、概ね緻密。	外面縦方向刷毛目。内面斜め方向撫で。
F-２墳-37	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①10YR5/3にぶい黄褐色 ②良好　③径１㎜～10㎜の白色・赤褐色・茶褐色・灰褐色粒子、砂粒をやや多く含むが概ね緻密。	外面縦方向刷毛目。内面横・斜め方向撫で。
F-２墳-38	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①7.5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～10㎜程度の白色・灰白色・灰褐色・茶褐色粒子、砂粒を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
F-２墳-39	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 円柱棒状付属品小片	径1.8	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜前後のの白色・灰白色粒子、砂粒を微量含む。	表面撫で。
F-２墳-40	形象埴輪 器形不明	周溝埋土 円柱棒状付属品小片	径1.65	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜前後の白色・灰白色粒子、砂粒を微量含む。緻密。	表面撫で。
F-２墳-41	土師器　杯 ７世紀前半	周溝埋土 完形	口径12.2、器高4.1、器厚0.4	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜～５㎜程度の白色・黒褐色・赤褐色・茶褐色粒子、砂粒をやや多く含む。概ね緻密。	口縁部～体部上位内外面撫で。体部下位～底部篦削り。鬼高式。
F-２墳-42	土師器　杯 ６世紀後半	周溝埋土 底部・口縁部一部欠損	口径12.6、器高4.5、器厚0.4	①10YR7/4にぶい黄橙色　②良好　③径１㎜以下～２㎜の白色粒子、砂粒を微量含む。極めて緻密。	口縁部～体部上位内外面撫で。体部下位～底部篦削り。典型的な鬼高式須恵器模倣杯。
F-２墳-43	須恵器　杯 ９世紀中葉	周溝埋土 底部完存、体部約1/3	推定口径13、底径7.5、器高3.8、器厚1.0	①5YR7/6橙色　②良好 ③径１㎜～　10㎜の砂礫を多く含む。やや粗い。	轆轤成形、底部外面回転糸切り。

F-２墳-44	土師器　杯 ６世紀末	周溝埋土 体部小片	推定口径13、残存器高4.0、器厚0.5	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色粒子・砂礫を少量含む。	口縁部～体部上位内外面撫で。体部下位～底部篦削り。典型的な鬼高式須恵器模倣杯。
F-２墳-45	須恵器　杯 ９世紀中葉	周溝埋土 底部3/4片	底径7.2、器厚0.7	①5Y7/1灰白色　②良好 ③径１㎜以下～１㎜程度の黒褐色・灰褐色粒子･砂粒を含むが、緻密。	轆轤成形、底部回転糸切り。
F-２墳-46	須恵器　大甕	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5Y4/1灰色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色・灰白色粒子を少量含む。緻密。	体部外面叩き、内面青海波文叩き。 F-2墳-47と同一個体か？
F-２墳-47	須恵器　大甕	周溝埋土 体部小片	器厚1.6	①5Y4/1灰色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色・灰白色粒子を少量含む。	体部外面叩き、内面青海波文叩き。 F-2墳-46と同一個体か？

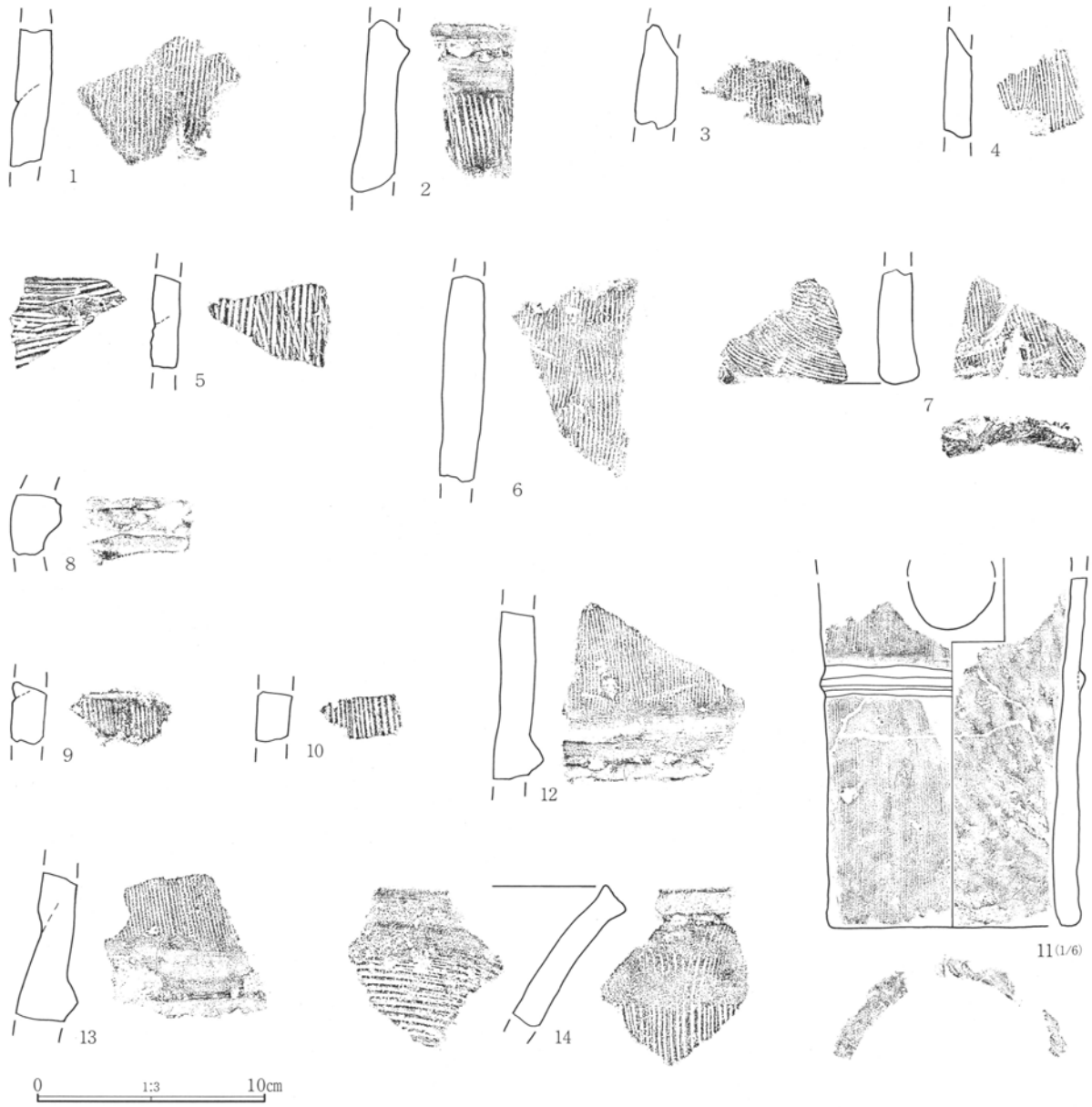


図78　Ｅ・Ｆ区２号墳 出土遺物（Ｆ区－１）

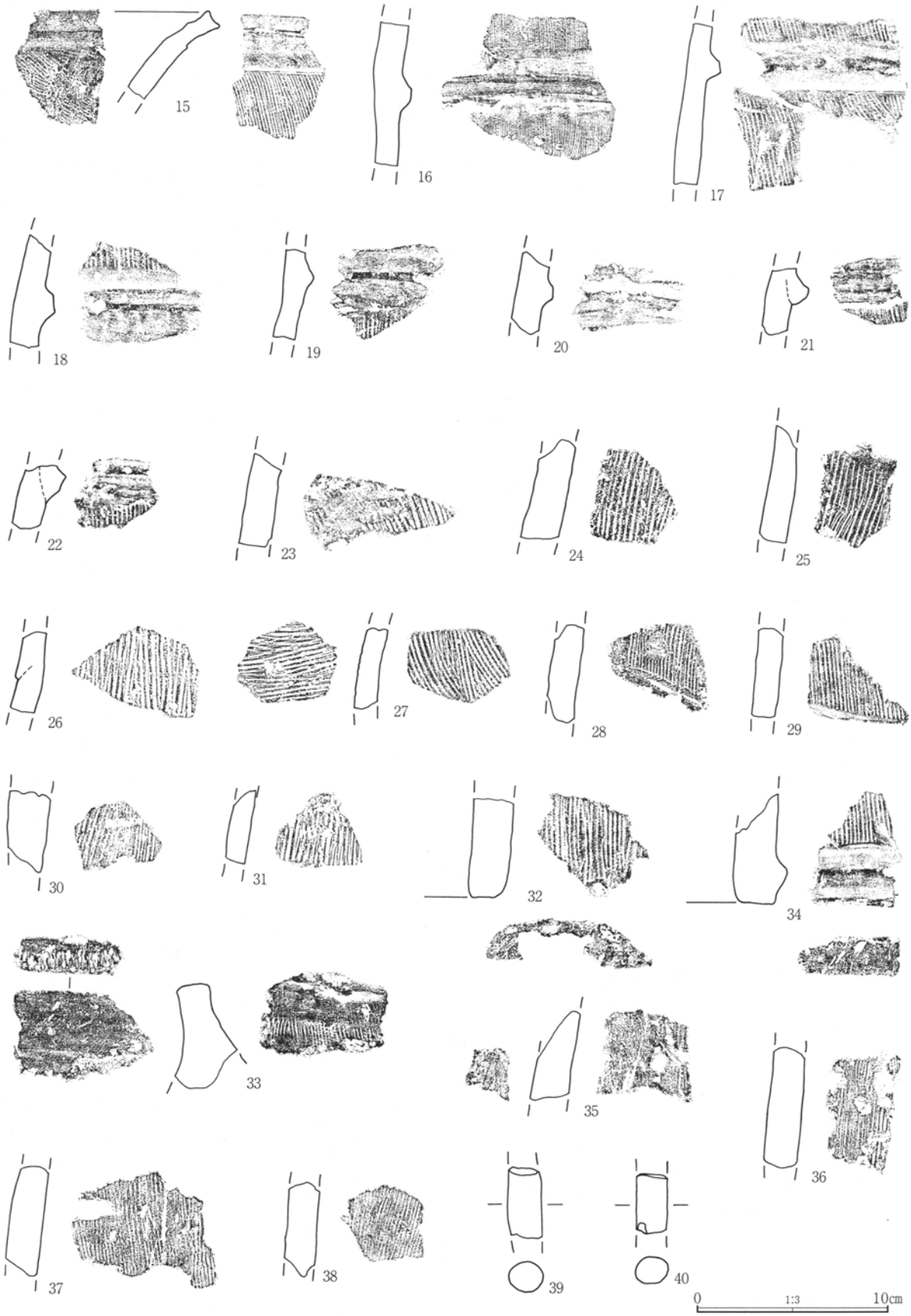


図79　E・F区２号墳 出土遺物（F区－２）

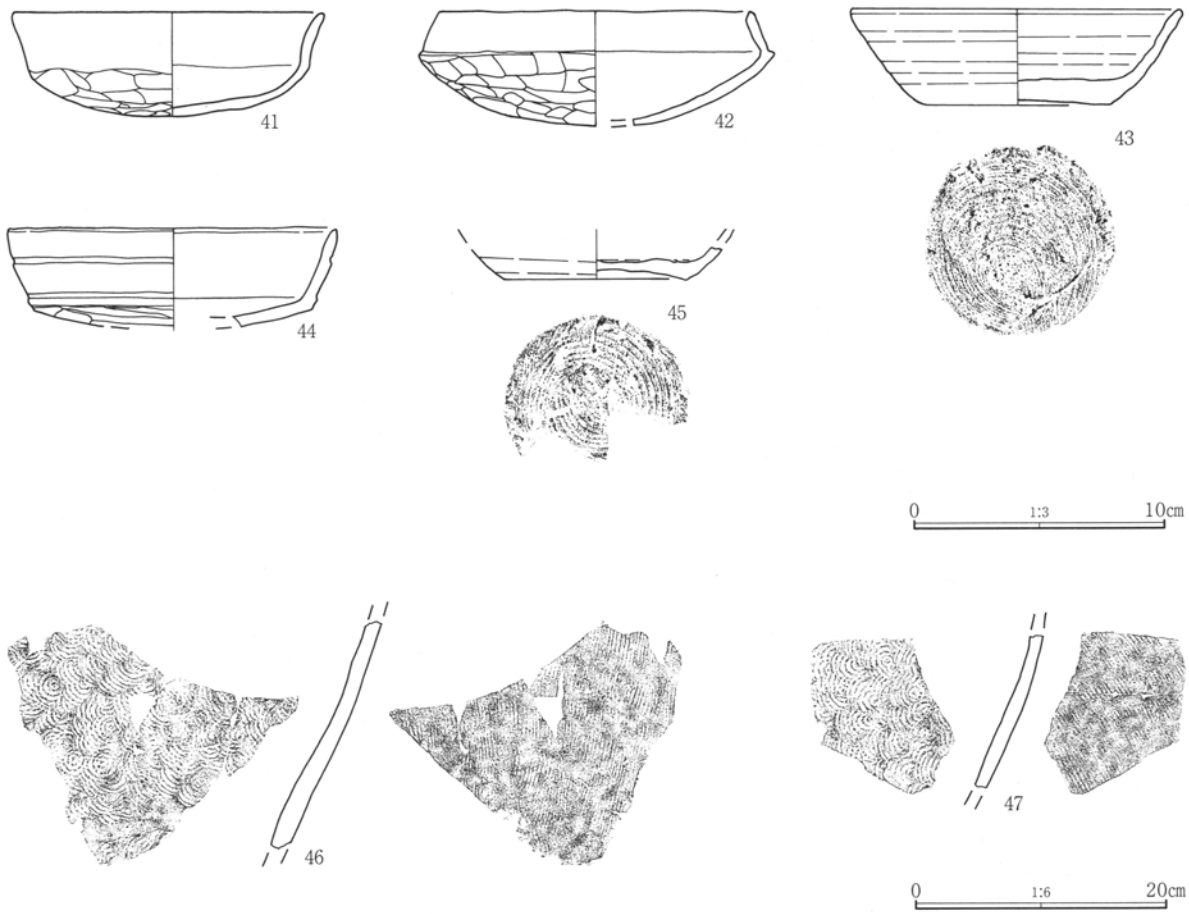


図80　Ｅ・Ｆ区２号墳　出土遺物（Ｆ区－３）

第２項　溝跡

Ｅ区では、溝跡は5条検出されている。Ａ～Ｄ区では東西方向に流れるものが圧倒的に多く、調査区が東西方向に狭いため、両端とも調査区外に続いているものが少なくない。Ｅ・Ｆ区では南北方向に流れるものがほとんどである。微地形の変化によるものであろう。本調査区も東西幅が狭いために、結局、全貌が明らかにしがたい部分が少なくない。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの溝跡の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは溝跡自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（１）１号溝跡

位置：Ｅ区北から2番目の調査区の南西隅。X380～390・Y-290～-295。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長9.5.m・最大上幅0.9m・最大下幅0.52m・深さ0.38m、断面は緩やかな蒲鉾型状を呈する。南北方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝。両端ともに調査区外に出る。　**埋土**　黒褐色土ベース。

（2）２号溝跡

位置：Ｅ区北から２番目の調査区の南西隅。X380 ～ 385・Y-295。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長5.92m・最大上幅0.69m・最大下幅0.22m・深さ0.36m、断面は緩やかな蒲鉾型状を呈する。E区1号溝跡の約0.3m西側を並行して南北方向に流れるしっかりとした堀方を有する溝。両端ともに調査区外に出る。**埋土**：黒褐色土ベース。

1・2号溝跡

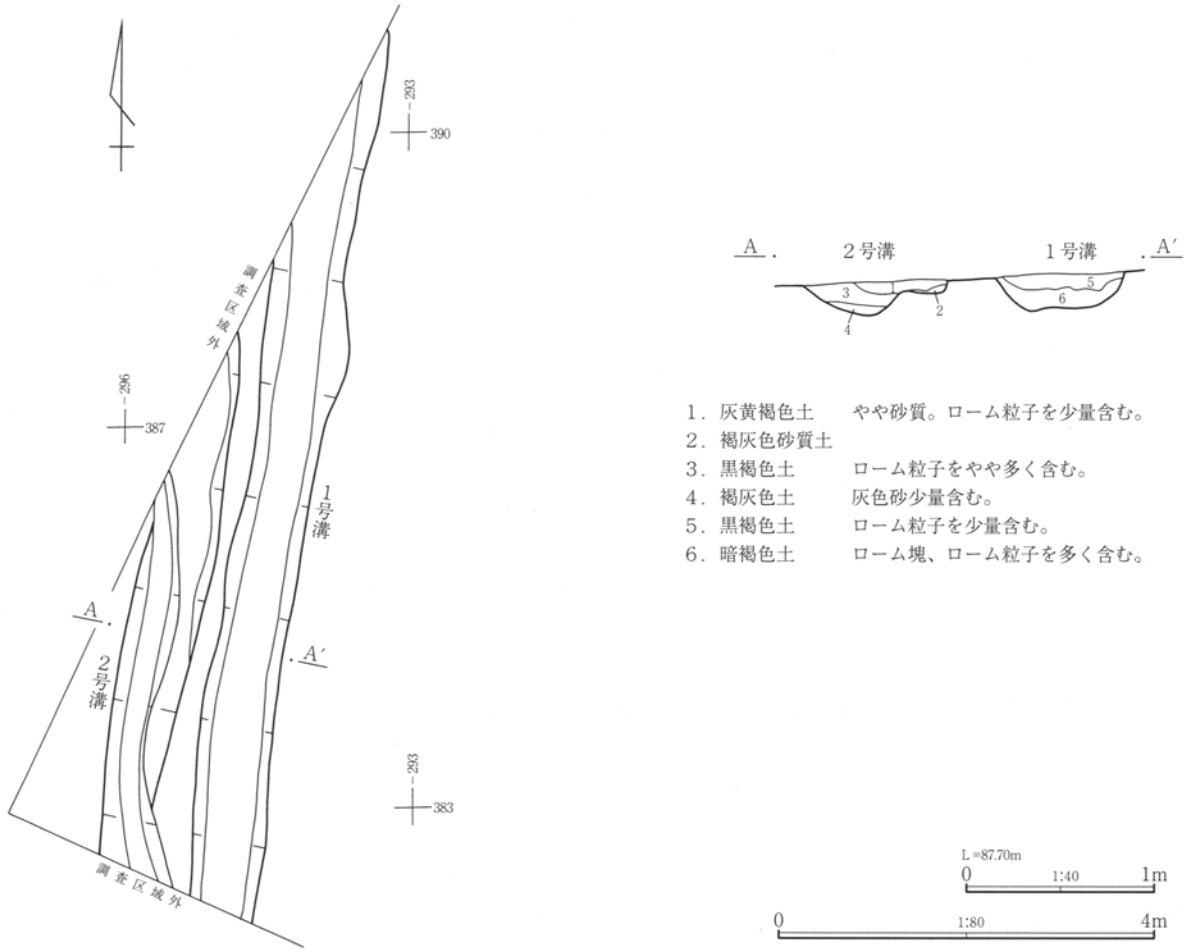


図81　Ｅ区１・２号溝跡　平面図・土層断面図

（3）52号溝跡

位置：Ｅ区最北の調査区の中央より南半分。X415 ～ 420・Y-270 ～ -275。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長10.71m・最大上幅1.05m・最大下幅0.54m・深さ0.21m、断面は緩やかな窪み状を呈する。南北方向に流れる不整形の浅い溝。南端及び西辺の一部を攪乱によって破壊される。

（4）53号溝跡

位置：Ｅ区最北の調査区の中央より南半分。X415 ～ 420・Y-270 ～ -275。　**重複**：北側を75号土坑跡に掘り込まれて破壊される。　**規模と形状**：確認全長6.91m・最大上幅1m・最大下幅0.92m・深さ0.14m、断面は緩やかな窪み状を呈する。52号溝跡の約１m西を並行して南北方向に流れる不整形の浅い溝。北端は75号土坑跡によって破壊され、南端は調査区外に出るが、Ｅ区北から２番目の調査区で接続する溝跡は検出されていない。

（5）54号溝跡

位置：Ｅ区最北の調査区の中央より南半分、南西隅。X410・Y-275 ～ -280。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長5.7m・深さ0.24m、断面は緩やかな窪み状を呈する。調査区の西壁にほぼ沿って南北方向に流れる浅い溝。溝の西側半分と南北両端が調査区外に出るため、全体の形状は全く不明である。

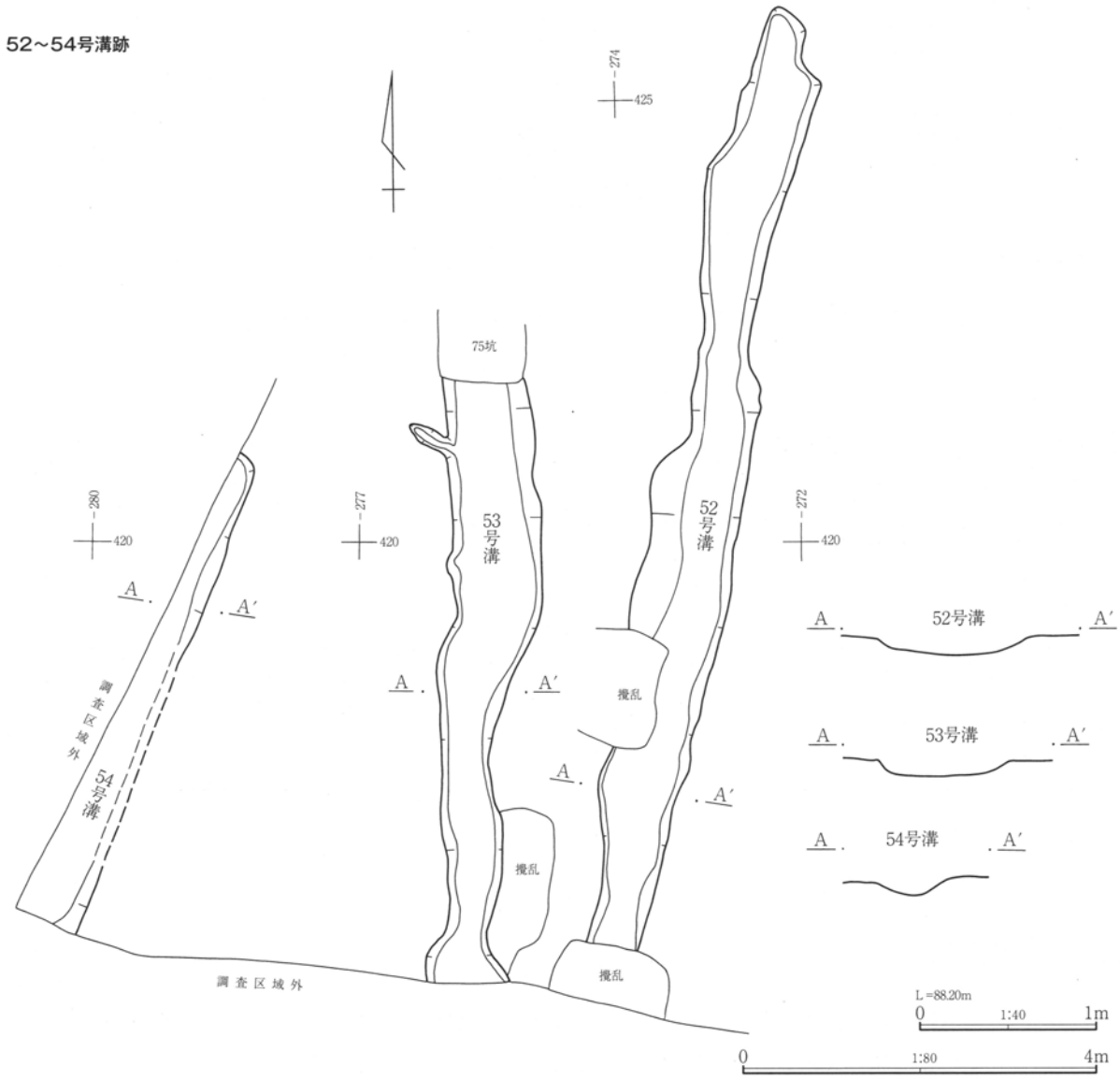


図82　Ｅ区52 ～ 54号溝跡　平面図・エレベーション図

第３項　墓壙跡

・１号墓壙跡

位置：Ｅ区の北から2番目の調査区のほぼ中央からやや北寄りの位置。X400・Y-280。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い長円形状を呈し、長径18.4m・短径0.96m・深さ0.2m・検出面積1.391㎡。北寄り壁際近くの位置から土師器高台杯が２点、東西に並列しておかれていた。人骨・骨粉等は全く検出されていないが、形状からみて墓壙跡と考えられる。出土遺物からみて10世紀初頭頃。　**埋土**：褐色土ベース。

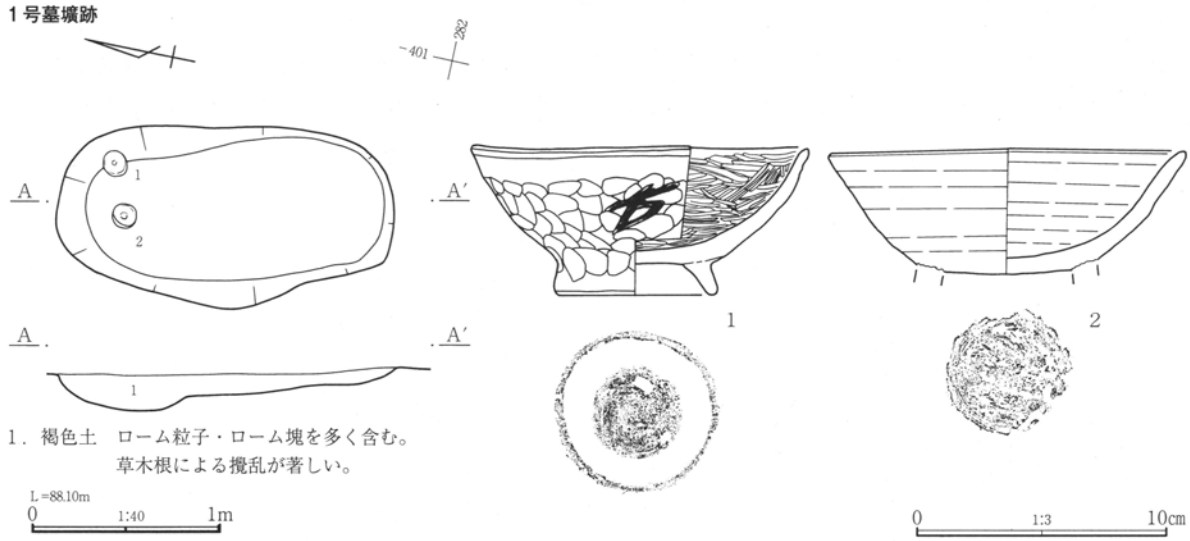


図83　Ｅ区１号墓壙跡　平面図・土層断面図・出土遺物

上植木光仙房遺跡Ｅ区１号墓壙跡遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴
E-１墓壙-１	土師器　碗	埋土 完形	口径13.3、底径6.3、器高5.9、器厚0.8	①10YR7/4にぶい黄橙色 ②良好　③径１㎜前後の白色・茶褐色・黒褐色粒子を多く含むが緻密。	口縁部外面横撫で。体部外面篦削り。 体部内面炭素吸着黒色処理後、篦磨き。底部外面篦削り後撫で。高台部貼り付け。 体部外面正位墨書文字「万」。墨書された文字をさらに釘か篦のような突起物で刻書し、なぞっている（焼成後刻書）。
E-１墓壙-２	土師器　碗	埋土 高台部欠損	口径14.1、底径7.2、残存器高5、器厚0.7	①10YR7/3にぶい黄橙色 ②良好　③径１㎜以下～５㎜の白色・赤褐色粒子・砂粒を多量に含む。やや粗い。	轆轤整形。口縁部内外面横撫で。体部内外面横撫で、底部内面斜方向撫で、底部外面撫で後高台部貼り付け。全体に調整が粗い。

第４項　土坑跡

Ｅ区では、土坑跡は６基検出されている。いずれも最北の調査区から検出された。２号墳が検出された最南端と南から二番目の調査区からは全く検出されていない。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの土坑の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは土坑自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（１）71号土坑跡

位置：Ｅ区の最北端の調査区の中央部、東壁際。72・74号土坑跡のすぐ東側。X420・Y-265。　**重複**：なし。　**規模と形状**：北側が一部突出した南北に長い長方形状を呈し、張り出し部分を含めた最大南北長は5.15m・坑部分の南北長は3.3m・東西幅2.65m・深さ0.98m・検出面積10.655㎡。底面の北西隅、北辺中央、

北側張り出し部との接点、南辺中央、および底面の真ん中に川原石が据え置かれており、上屋構造物の礎石であった可能性が考えられる。北側の張り出し部分の断面はあまり顕著ではないが、形状からみてＤ区46号土坑跡と同様な、近世末～近代の地下式あるいは半地下式の坑と考えられる。　**埋土**：黒褐色土ベース。

71号土坑跡

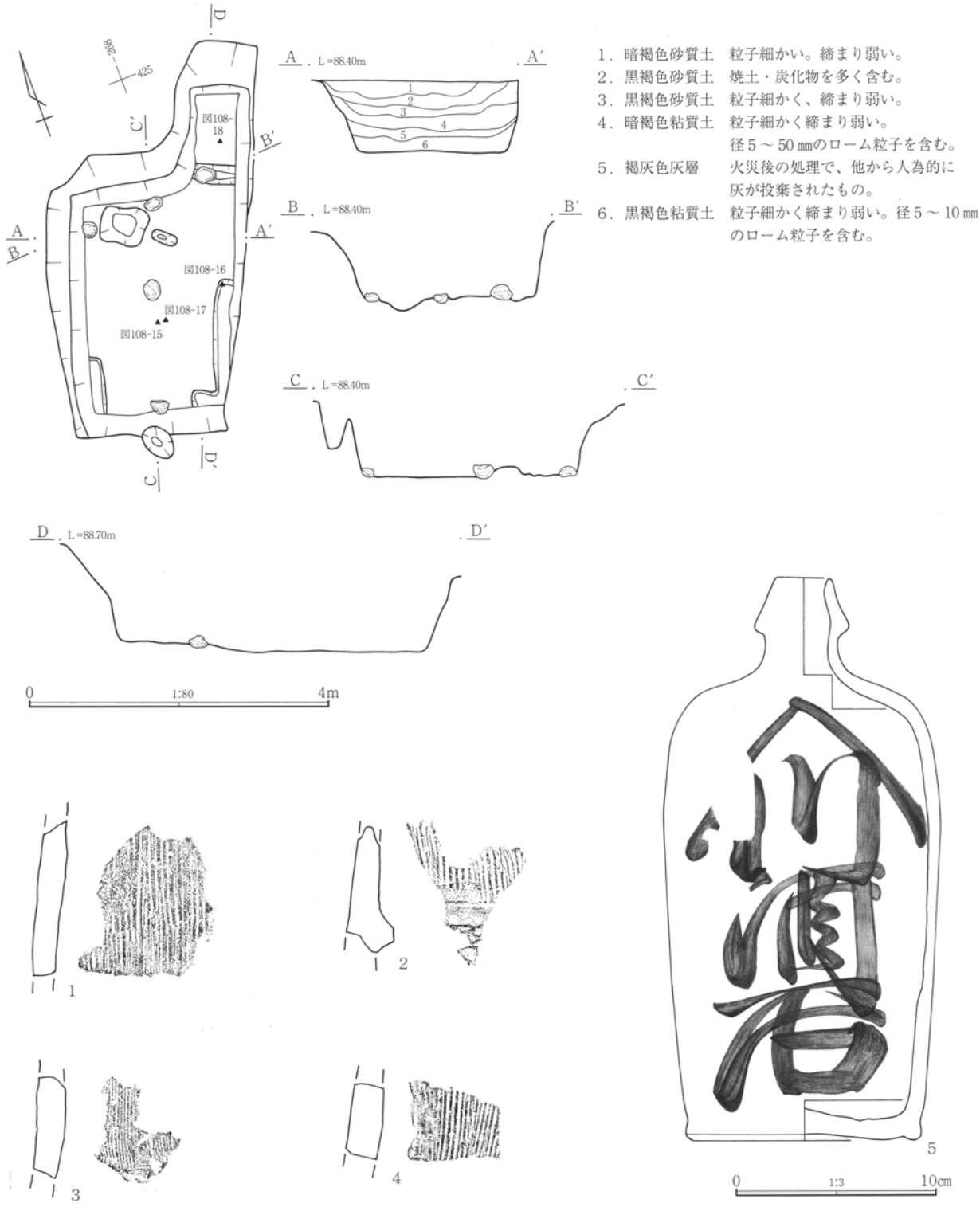


図84　Ｅ区71号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図・出土遺物

上植木光仙房遺跡Ｅ区７１号土坑跡遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴
E-71坑-1	円筒埴輪	埋土 体部小片	器厚1.9	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜前後の白色粒子・灰白色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	外面縦方向刷毛目、内面縦・斜め方向撫で。
E-71坑-2	円筒埴輪	埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～２㎜前後の白色・赤褐色・黒褐色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	突帯部貼り付け、 外面縦方向刷毛目。内面縦・斜め方向撫で。
E-71坑-3	円筒埴輪	埋土 体部小片	器厚1.5	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の白色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	外面縦方向刷毛目。内面縦･斜め方向刷毛目。
E-71坑-4	円筒埴輪	埋土 体部小片	器厚2.1	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜の白色・黒褐色・赤褐色粒子・砂粒を含む。概ね緻密。	外面縦方向刷毛目。内面縦・斜め方向撫で。
E-71坑-5	瀬戸美濃陶器 通徳利	埋土 4/5残存	口径2.9、底径11.4、器高27.7、器厚0.6	①10YR8/1 灰白色　②良好　③緻密	轆轤成形。底部回転糸切り後撫で調整。全面釉薬がけ。体部に「＜川酒店」「□□屋」「□□□」の文字あり。明治～昭和前期。

（２）72号土坑跡

位置：Ｅ区の最北端の調査区の中央部、やや南寄りの位置。52号溝跡のすぐ西。X415・Y-270。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い隅丸長方形状を呈する。最大長2.25m・幅0.8m・深さ0.34m・検出面積1.619㎡。

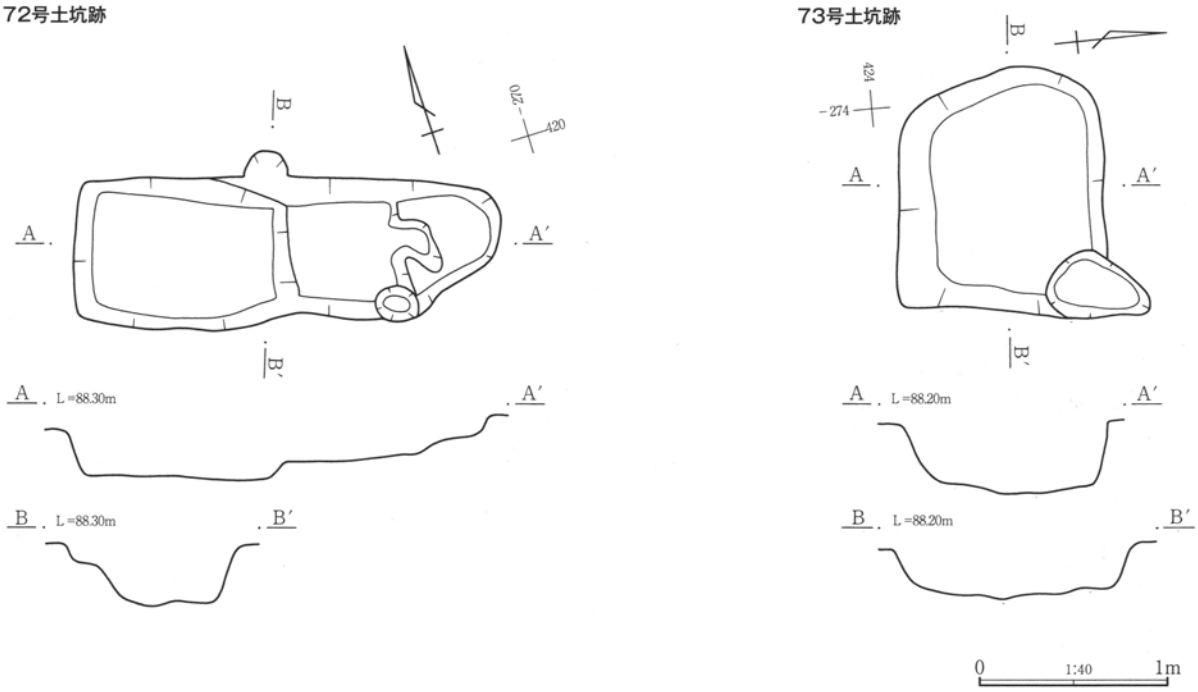


図85　Ｅ区　72・73号土坑跡　平面図・エレベーション図

（3）73号土坑跡

位置：Ｅ区の最北端の調査区の中央部、やや西寄り。52・53号溝跡に挟まれた位置。X420・Y-270。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西にやや長い隅丸正方形状を呈し、長径1.28m・短径1.14m・深さ0.41m・確認面積1.36㎡。

（4）74号土坑跡

位置：Ｅ区の最北端の調査区の中央部。52号溝跡の東、72号土坑跡の北。X420・Y-270。　**重複**：なし。**規模と形状**：隅丸正方形状を呈し、東側がやや張り出す。長径1.54m・短径1.3m・深さ0.4m・確認面積1.616㎡。

（5）75号土坑跡

位置：E区の最北端の調査区の中央部、東壁際。X420～425・Y-270～-275。　**重複**：53号溝跡の北端を破壊。　**規模と形状**：南北に細長い隅丸長方形状を呈するが部分的に張り出した箇所があり、不整形状を呈している。長径4.45m・短径1m・深さ0.62m・確認面積5.465㎡。

（6）76号土坑跡

位置：E区の最北端の調査区の南東寄りの位置。X415・Y-270。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈し、南東隅を攪乱によって破壊されている。深くしっかりとした堀方を有する。長径1m・短径0.6m・深さ0.81m・確認面積0.6㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

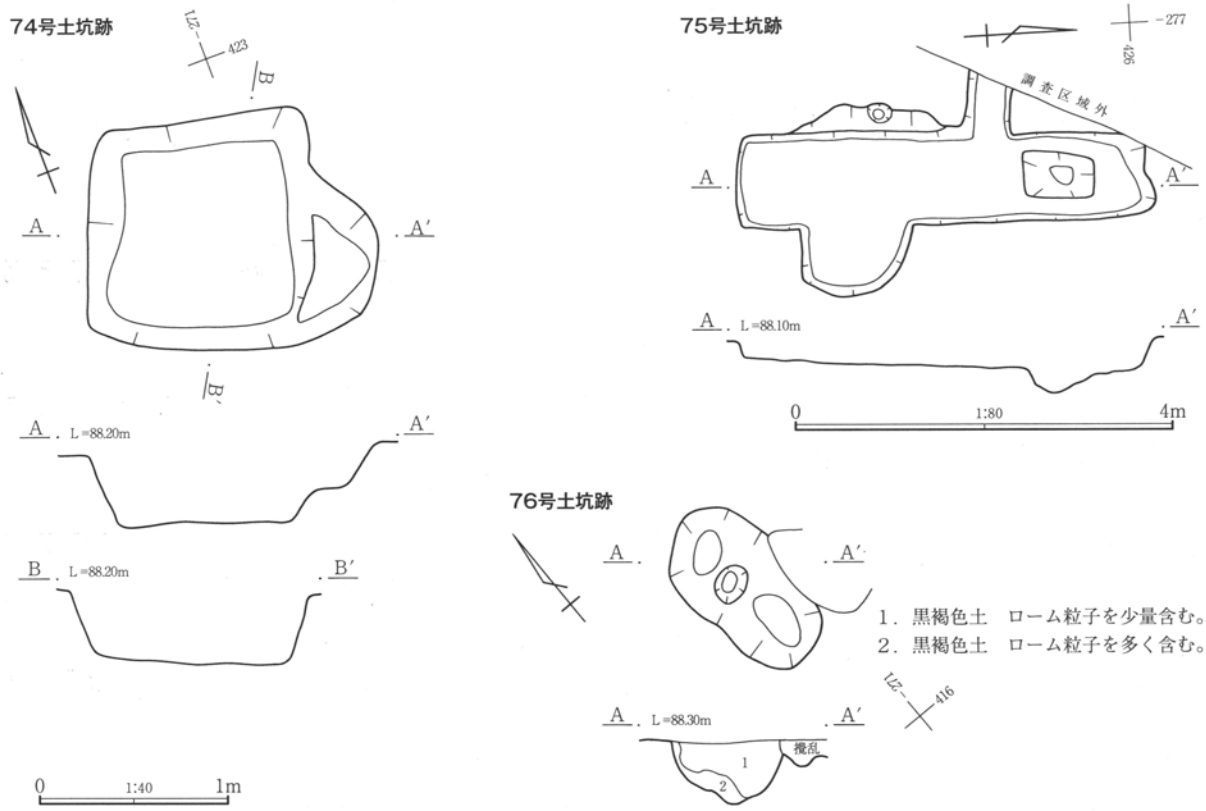


図86　Ｅ区74～76号土坑跡　平面図・土層断面図・エレベーション図

上植木光仙房遺跡Ｅ区表採遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
E-表採-1	円筒埴輪	表採 口縁部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	口縁部横撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-表採-2	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.5	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～10㎜大の白色・赤褐色粒子・砂粒を多量に含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向撫で。
E-表採-3	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.4	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～20㎜の白色粒子・砂粒をやや多く含む。粗い。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け後、突帯部上下横撫で。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-表採-4	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.2	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜程度の白色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け後、突帯部上下横撫で。体部内面縦・斜め方向刷毛目。
E-表採-5	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.2	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下の白色粒子・灰白色粒子・砂粒をやや多く含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け後、突帯部上下横撫で。体部内面横方向刷毛目。
E-表採-6	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.2	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下の白色粒子・砂粒をごく少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向刷毛目。
E-表採-7	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.3	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下～２㎜程度の白色粒子・砂粒を含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け後、突帯部上下横撫で。体部内面斜め方向撫で。
E-表採-8	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.6	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～５㎜の黒色・白色粒子・砂粒を含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦方向撫で。
E-表採-9	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.5	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～10㎜の白色・赤褐色・黒褐色粒子・砂粒をやや多く含む。粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向撫で。
E-表採-10	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.6	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～10㎜の白色・赤褐色・茶褐色粒子・砂粒を含む。概ね緻密。表面の摩耗が顕著。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-表採-11	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.5	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色・赤褐色粒子、砂粒を含む。緻密。表面の摩耗が顕著。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-表採-12	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.5	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜～５㎜の白色・赤褐色・茶褐色・黒褐色粒子、砂礫を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向撫で。

E-表採-13	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚１.4	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③径１㎜以下～10㎜の砂礫を少量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-表採-14	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.6	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～５㎜大の白色・黒褐色・赤褐色粒子・砂粒を多量に含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-表採-15	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.4	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③径１㎜以下～５㎜の白色・茶褐色粒子・砂礫を多量に含む。粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向刷毛目。
E-表採-16	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.6	①5YR5/4にぶい赤褐色 ②良好 ③径１㎜以下～10㎜程度の白色粒子・砂粒を多量に含む。粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-表採-17	円筒埴輪	表採 底部～体部下位小片	推定底径10.2、残存器高11、器厚2.1	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下の白色粒子・灰白色粒子・砂粒を含む。緻密。	底部撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
E-表採-18	形象埴輪 器形不明	表採 底部小片	器厚2.0	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～２㎜前後の白色・赤褐色・黒褐色粒子・砂粒を少量含む。緻密。	底部撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。
E-表採-19	形象埴輪 器形不明	表採 端部小片	器厚1.5	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜程度の赤褐色粒子砂粒及び砂粒をやや多く含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向撫で。
E-表採-20	円筒埴輪	表採 底部小片	器厚2.0	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～10㎜の白色・赤褐色・茶褐色粒子、砂粒を含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
E-表採-21	円筒埴輪	表採 底部～体部下位小片	器厚1.8	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～３㎜の白色・赤褐色・黒褐色粒子、砂粒を少量含む。概ね緻密。	底部撫で。体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向撫で。
E-表採-22	形象埴輪？ 器形不明	表採 体部小片	器厚1.6	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１～５㎜砂粒を含む。やや緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め・横方向撫で。
E-表採-23	形象埴輪 器形不明	表採 体部小片	器厚2.1	①5YR6/6橙色 ②良好 ③径１㎜以下～10㎜の赤・茶褐色粒子や砂粒を多く含む。やや粗い。	体部内外面斜め・横縦撫で。
E-表採-24	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.8	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③径１㎜～10㎜前後の赤褐色粒子、砂粒をやや多く含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目、体部内面斜め・横方向撫で。

E-表採-25	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.3	①5YR7/6橙色　②良好　③径１㎜以下～10㎜の赤・茶褐色粒子や砂粒を多量に含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向撫で。
E-表採-26	円筒埴輪	表採 体部小片	器厚1.5	①5YR6/6橙色　②やや不良　③径１㎜以下の白色・灰白色粒子を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面縦・斜め方向撫で。

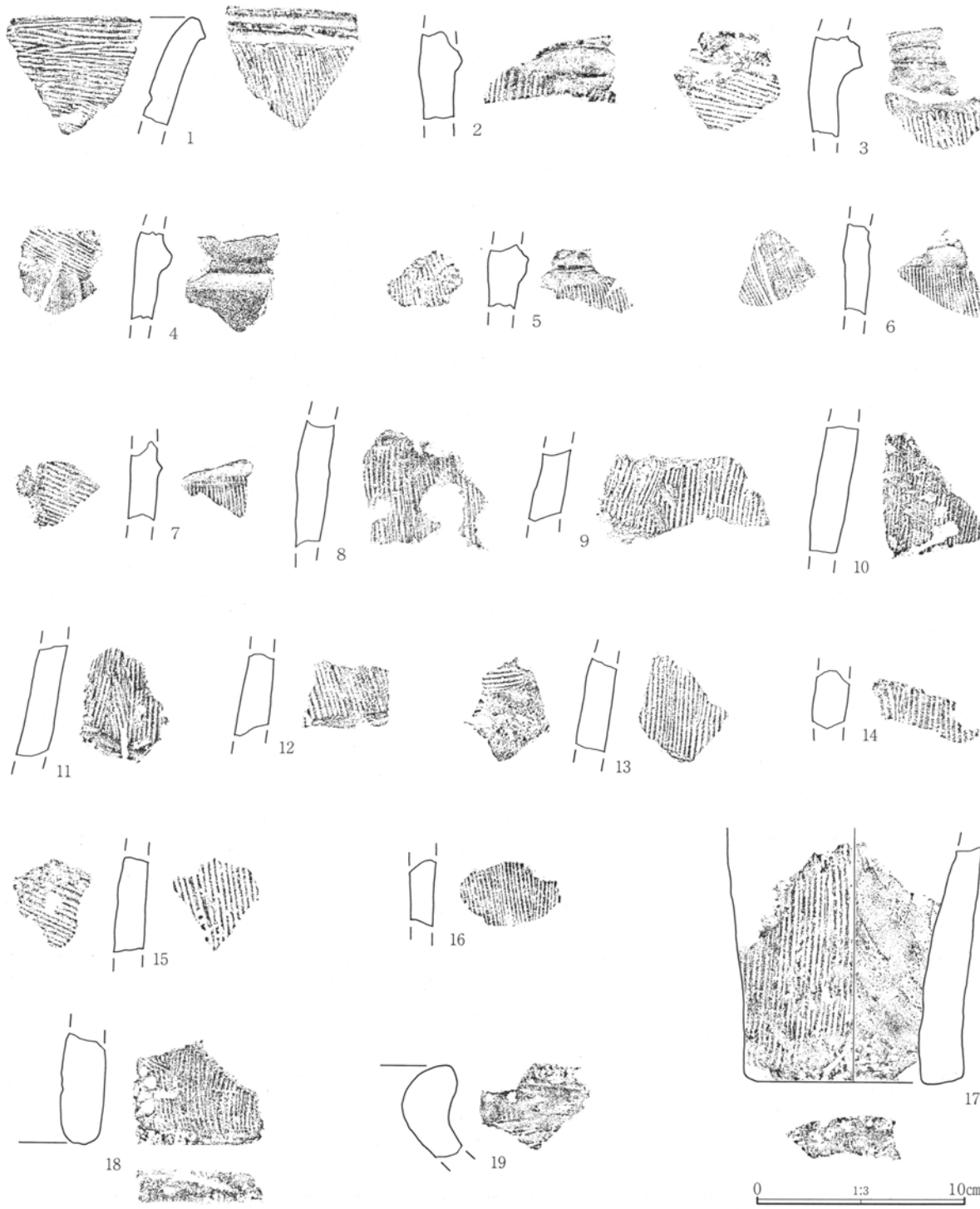


図87　E区表土　出土遺物（1）

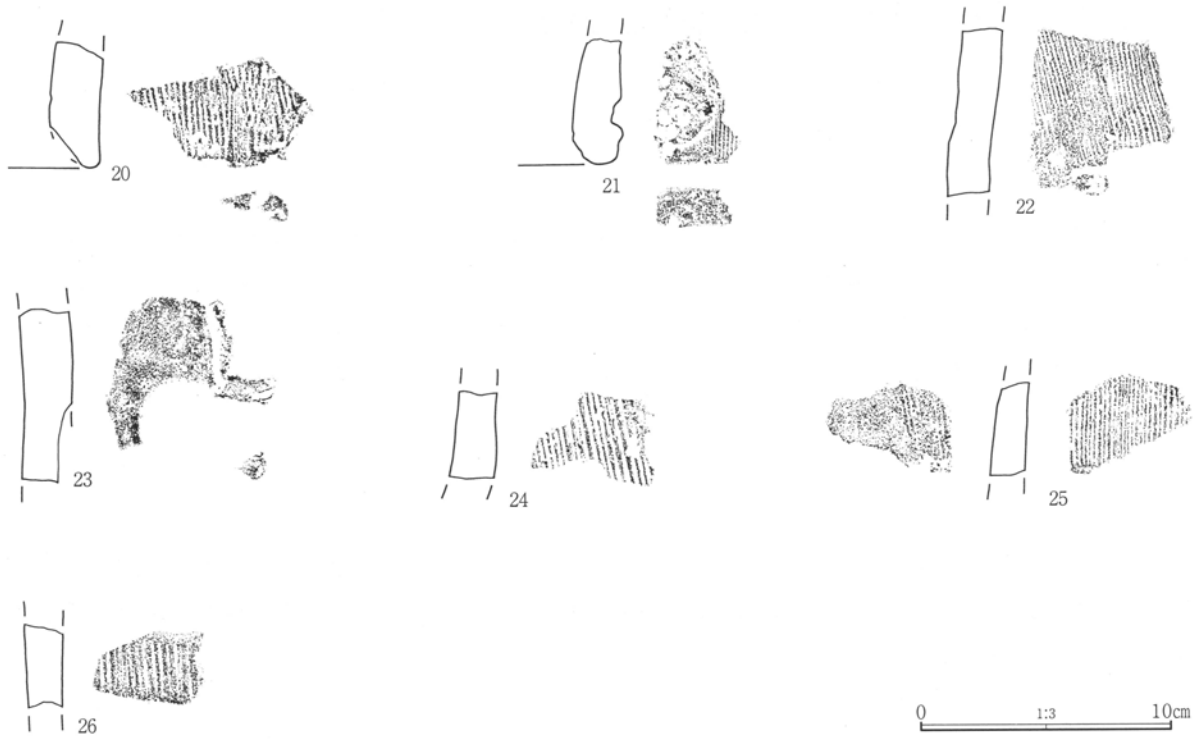


図 88　Ｅ区表土　出土遺物（２）

第６節　Ｆ区で検出された遺構と遺物

Ｆ区は、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線を挟んだ西側のＥ区とともに、調査区域の北から三番目の大調査区である。現在の県道伊勢崎・大間々線に直角に交わる生活道路によって、６箇所の小区画に分かれている。平成11年度から翌12年度にかけて調査している。

本調査区からは、古墳周溝跡１、溝跡５条、土坑跡７基と、中央の調査区から旧石器が検出された。

南から２番目と３番目の調査区から検出された古墳の周溝跡は、ちょうど周溝の東端の部分の弧に当たる部分が検出されている。Ｅ区で検出された『上毛古墳綜覧』所載の「殖蓮村62号墳」と称される　前方後円墳にあたる２号墳であり、これについては、先に第５節で触れたところである。

第１項　溝跡

Ｆ区では、溝跡は５条検出されている。Ｅ・Ｆ区では、ほぼ南北方向に流れるものがほとんどである。微地形の変化によるものであろう。本調査区も東西幅が狭いために、結局、全貌が明らかにしがたい部分が少なく、全体の形状は不明なものが多い。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの溝跡の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは溝跡自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

また、全般的に、水が流れた顕著な痕跡は認めにくいものが多い。

（１）21号溝跡

位置：Ｆ区北から２番目の調査区のほぼ中央、やや南寄りの位置。X400・Y-260～-265。　**重複**：なし。**規模と形状**：確認全長3.6m・最大上幅0.48m・最大下幅0.26m・深さ0.5m、断面は緩やかな半円形状を呈する。Ｅ・Ｆ区では珍しく東西方向に走向する。水が流れた顕著な痕跡は全く認められない。　**埋土**：暗灰褐色土をベースとする。

（２）23号溝跡

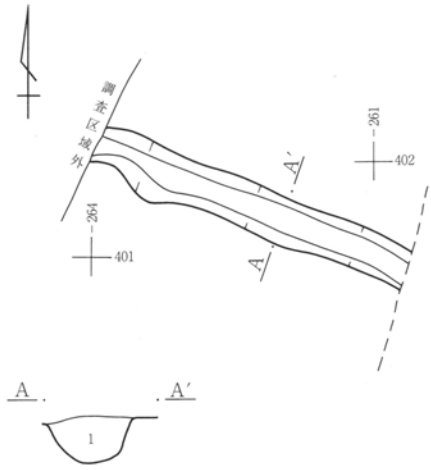
位置：Ｆ区最北の調査区の西壁際。X405～415・Y-250～-255。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長10m・最大上幅1.48m・最大下幅0.69m・深さ0.28m、断面は不整形状を呈し、全般的に浅い。北端と、中央部やや北寄りの２箇所を、大きく攪乱によって破壊されている。24号溝跡と隣接・並行して北東～南西方向に流れる不整形溝。北側では幅が狭く、南にいくに従って幅が広くなる。南端は調査区外に出るが、現道を挟んだＦ区の北から２番目の調査区で接続する溝跡は検出されていない。埋土の状況から見れば、水が流れた顕著な痕跡は認められない。　**埋土**：灰褐色土ベース。

（３）24号溝跡

位置：Ｆ区最北の調査区の西壁際。X405～415・Y-250～-255。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長７m・最大上幅0.56m・最大下幅0.44m・深さ0.1m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。23号溝跡と隣接・並行して北～南西方向に流れる不整形溝。両端とも調査区外に出るが、23号溝跡と同様、現道を挟んだＦ区北

から２番目の調査区で接続する溝跡は検出されていない。　**埋土**：灰褐色土ベース。

21号溝跡



1．暗灰褐色砂質土　白色・黄色粒子、
黄色土塊を少量含む。

23・24号溝跡

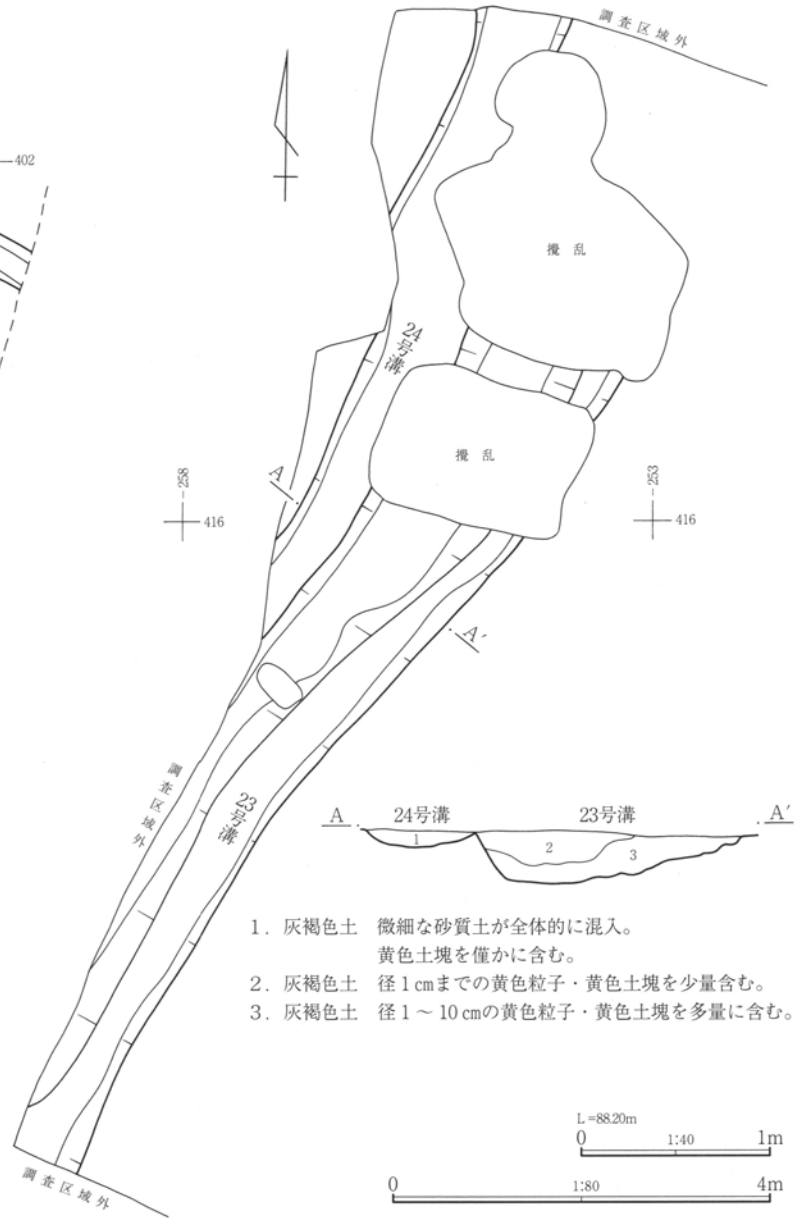


図89　Ｆ区21・23・24号溝跡　平面図・土層断面図

（４）25号溝跡

位置：Ｆ区最南の調査区の中央。X310～320・Y-300。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長13.4m・最大上幅1.04m・最大下幅0.81m・深さ0.28m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。北端を撹乱に掘り込まれて破壊される。24号溝跡と隣接・並行して北～南西方向に流れる不整形溝。南端は調査区外に出るが、現道を挟んだＦ区北から２番目の調査区で接続する溝跡は検出されていない。　**埋土**：黒灰色土ベース。

（5）26号溝跡

位置：Ｆ区北から３番目の調査区の南端寄り。X350～360・Y-275～-290。　**重複**：２号墳の後円部西北端の周溝の一部を掘り込んで破壊する。　**規模と形状**：確認全長8.5m・最大上幅1m・最大下幅0.5m・深さ0.45m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。北西～南東方向に流れるしっかりとした堀方を有する直線的な溝。**埋土**：暗褐色土ベース。

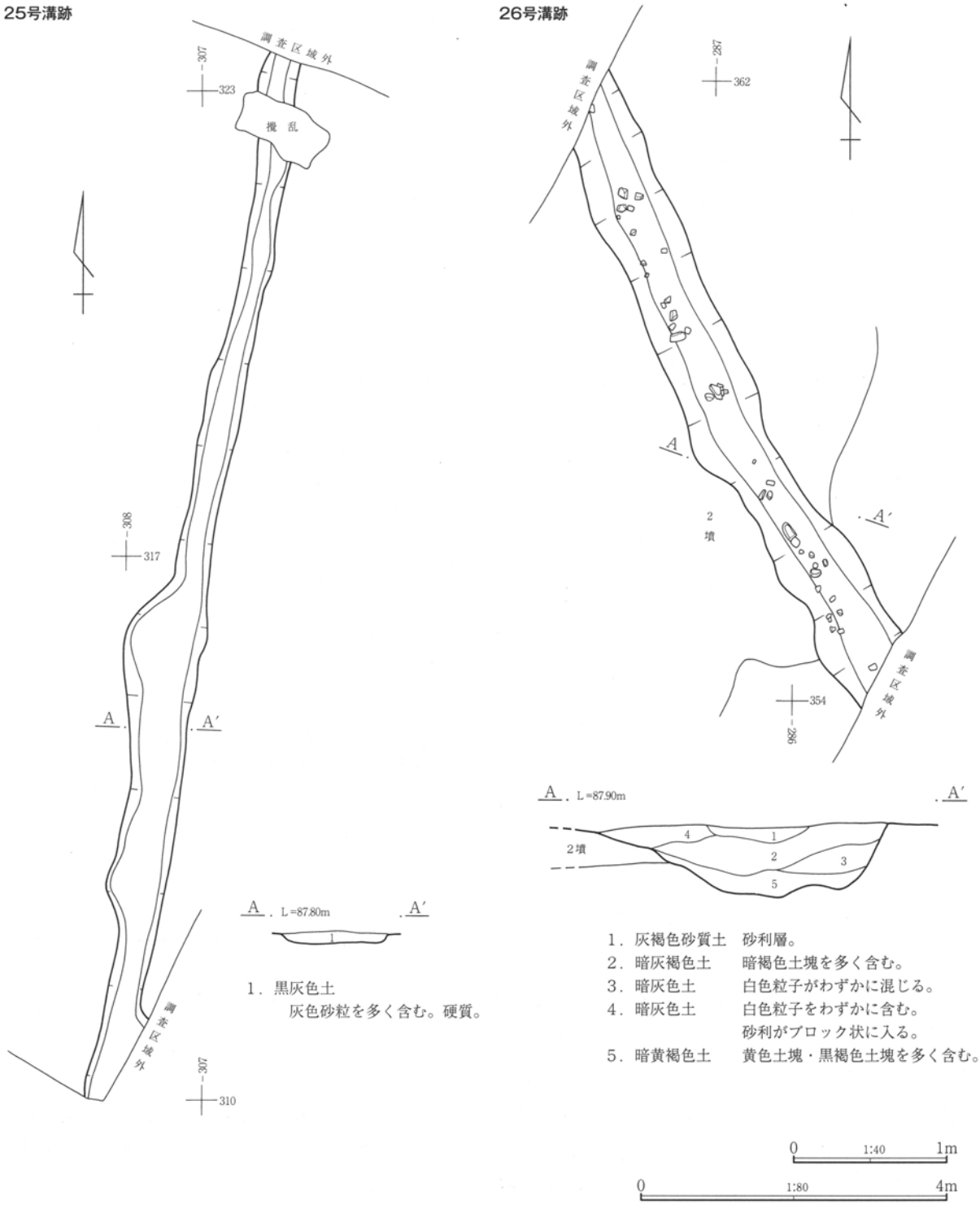


図90　Ｆ区25・26号溝跡　平面図・土層断面図

第２項　土坑跡

Ｆ区では、土坑跡は７基検出されている。北から２番目の調査区から２基、北から３番目の調査区から３基、最南端の調査区から２基、それぞれ検出されており、最北の調査区と、２号墳後円部最西端の周溝が検出された南から２番目の調査区からは検出されていない。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの土坑の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは土坑自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（１）25号土坑跡

位置：Ｆ区の北から２番目の調査区の中央部、やや西寄り。X400・Y-260。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東北-南西に長い楕円形状を呈し、長径0.81m・短径0.54m・深さ0.36m・検出面積0.32㎡。　**埋土**：暗灰褐色土ベース。

（２）26号土坑跡

位置：Ｆ区の北から２番目の調査区の中央部。X400・Y-260。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東南側を攪乱によって大きく破壊されているため、全体の形状は不明。深さ0.18m。　**埋土**：暗黄褐色土ベース。

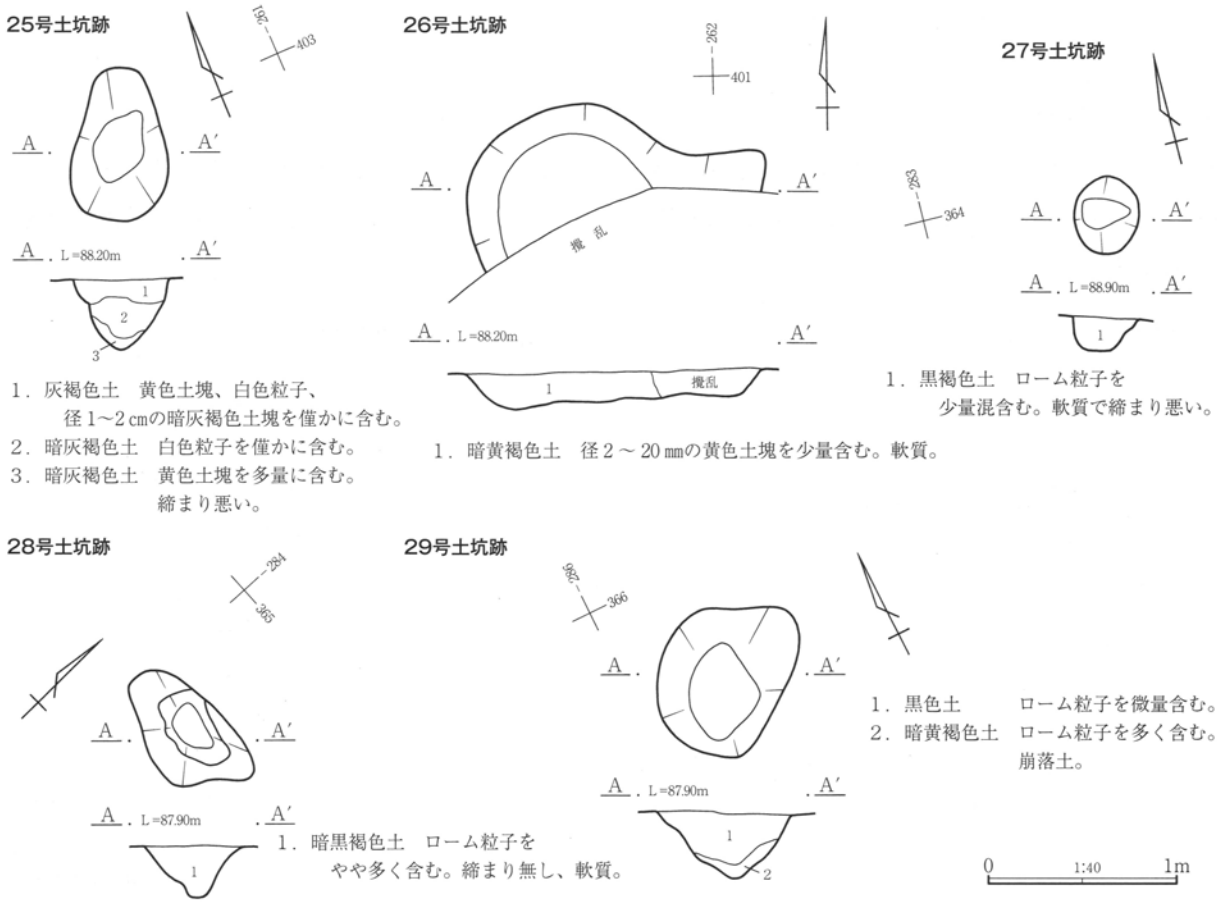


図91　Ｆ区25～29号土坑跡　平面図・土層断面図

（３）27号土坑跡

位置：Ｆ区の北から３番目の調査区の中央部、やや南寄り。28号土坑跡の東。X360・Y-280。　**重複**：なし。 **規模と形状**：不整円形状を呈し、長径0.42m・短径0.34m・深さ0.15m・確認面積0.1㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（４）28号土坑跡

位置：Ｆ区の北から３番目の調査区の中央部。27号土坑跡の西、29号土坑跡の東。X360・Y-275。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い不整円形状を呈し、長径0.8m・短径0.46m・深さ0.25m・確認面積0.256㎡。**埋土**：暗黒褐色土ベース。

（５）29号土坑跡

位置：Ｆ区の北から３番目の調査区の中央部、西壁寄り。28号溝跡の西。X365・Y-280。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い不整円形状を呈し、東側が張り出す。長径0.92m・短径0.84m・深さ0.35m・確認面積0.468㎡。　**埋土**：黒色土ベース。

（６）30号土坑跡

位置：Ｆ区の最南端の調査区の北東隅の位置。X320・Y-300。　**重複**：なし。　**規模と形状**：楕円形状を呈し、西側が調査区外に出る。深くしっかりとした堀方を有する。長径0.45m・深さ0.25m・確認面積：0.124㎡。　**埋土**：黒褐色土ベース。

（７）31号土坑跡

位置：Ｆ区の最北端の北東隅の位置。X320・Y-300。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈し、深くしっかりとした堀方を有する。長径0.88m・短径0.4m・深さ0.22m・面積0.38㎡。　**埋土**：暗褐色土をベースとする。

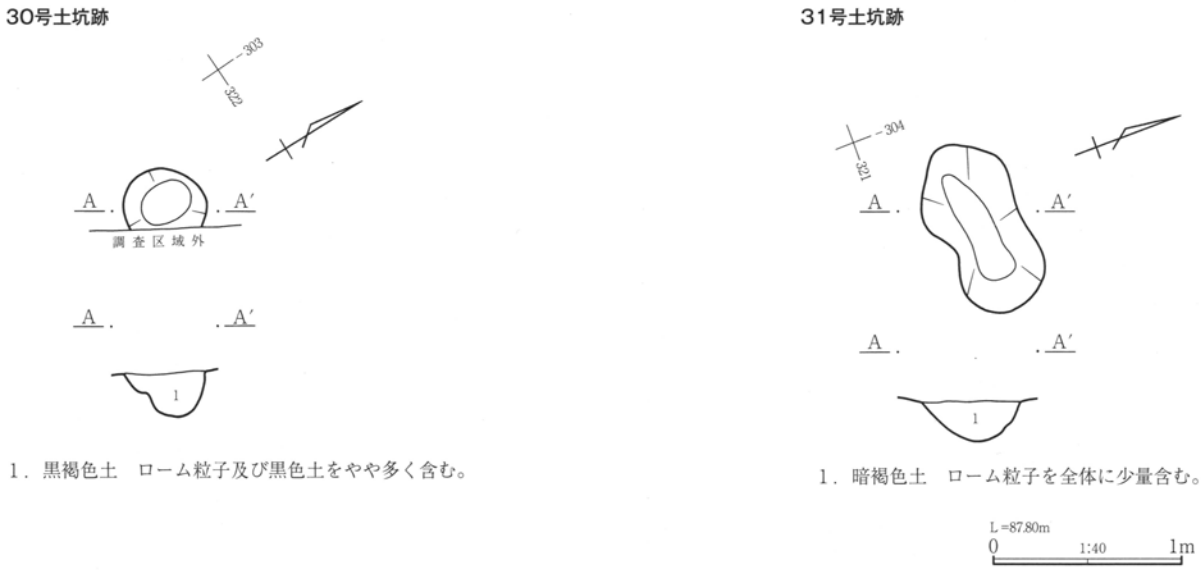


図92　Ｆ区30・31号土坑跡　平面図・土層断面図

第７節　Ｇ区で検出された遺構と遺物

Ｇ区は、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線の西側の調査区域の北から四番目の大調査区で、南端は北関東自動車道との接点までである。現在の県道伊勢崎・大間々線に直角に交わる生活道路によって、南北２箇所の小区画に分かれており、平成12年度に調査を実施した。このうち北側の区画からは全く遺構・遺物は検出・確認できず、南側の調査区から古墳の周溝跡の一部が検出されただけである。

第１項　古墳跡

・４号墳跡

Ｇ区の南側調査区の西壁から南壁際にかけて古墳の周溝跡が検出された。北関東自動車道調査区Ａ区で検出されたＡ１号墳の東側の弧に接続するごく一部である。本調査区で検出されたのは、周溝の東縁のごく一部と周溝の底部であり、西縁はさらに西側調査区外に出てしまうため、周溝の全幅ではない。確認された幅は5.91m・底部幅1.5m・深さは1.11mで、断面は幅広で緩やかな三角形状を呈している。周溝埋土は黒色土・暗褐色土をベースとし、埋土中からは円筒埴輪の破片が若干出土した。

また、本調査区では墳丘に当たる部分は全く検出できなかった。

北関東自動車道にかかる部分での調査では、外径約47m・内径約36m程度の規模の円墳の約2/5程度が検出されており、周溝幅は最大で約７m・最大底部幅2.8m・周溝の深さは約1.4m、周溝の中段、底部から約40～50cmの位置からはAs-B軽石が検出されている。墳丘は完全に削平されており、平坦地となっていたが、墳丘の中央に当たる部分で、主体部と考えられる小礫が敷き詰められた土坑状の浅い窪みが検出されている。主体部は、東西幅が約5.5mの南北に細長い隅丸長方形状の浅い土坑であり、南側約半分が検出されただけで、北側の約半分は調査区外に出る。主体部礫床面の石の隙間からは金銅製の耳環が２点出土している。また、周溝を埋めていた土は暗褐色土をベースとし、周溝の埋土からは土師器・須恵器片が少量と、円筒埴輪・形象埴輪片が多数出土している。現代の攪乱が著しく、出土した埴輪もすべて粉砕された破片である。

埴輪の年代から見れば６世紀の物と考えられる。

本遺跡の上武道路調査箇所では、現・伊勢崎・大間々線の西側の調査区から４基、東側の調査区から６基の計10基の古墳が検出されている。いずれも円墳で、墳丘の封土は完全に削平されていたが、主体部の一部や痕跡を調査できた古墳が７基あり、それらはいずれも輝石安山岩の川原石や割石を用いた横穴式石室か箱式棺状竪穴式石室である。また、これらの古墳には、いずれにも墳丘部の葺石や埴輪等は認められなかった。また、北関東自動車道調査区では、現・伊勢崎・大間々線の東側と西側で１基ずつ計２基の古墳が検出されている。Ａ１号墳では埋土中から埴輪片が出土している。

本古墳を含めたこれらの古墳は、前述したように粕川左岸の段丘上に展開する本関町古墳群の一画を形成していた。

4号墳

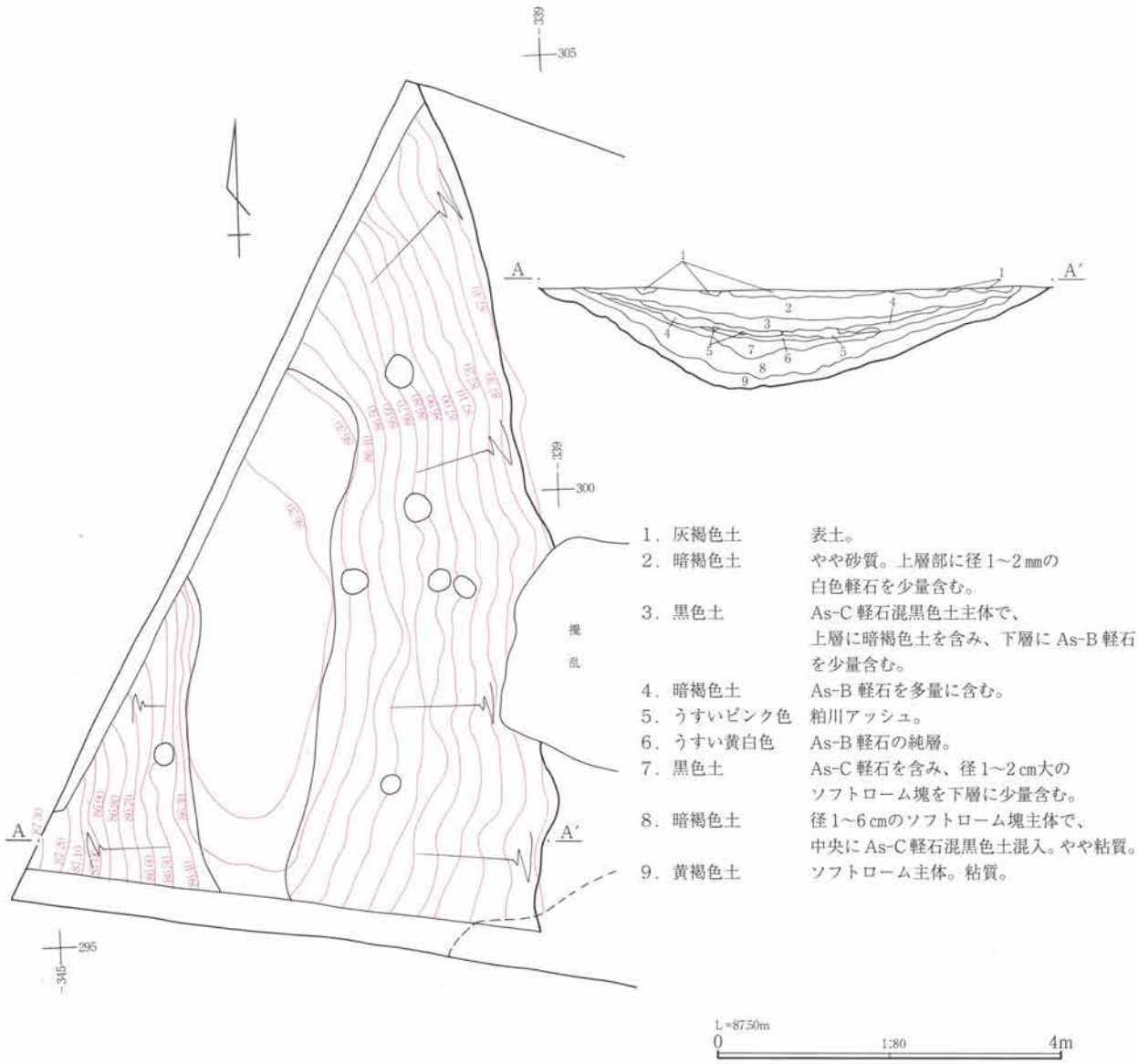


図93　G区４号墳　平面図・土層断面図

上植木光仙房遺跡G区４号墳跡出土遺物観察表

遺物番号	器　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
G-４墳-１	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①10R6/8赤橙色　②良好　③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を多く含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目、突帯部貼り付け後上下横撫で。体部内面横・斜め方向撫で。
G-４墳-２	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下～５㎜大の白色・赤褐色粒子・砂粒を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
G-４墳-３	円筒埴輪	周溝埋土 口縁部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下～１㎜程度の白色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	口縁部外面横撫で。体部外面縦方向刷毛目。口縁部・体部内面横方向刷毛目。

G-４墳-４	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～５㎜程度の砂礫を少量含む。概ね緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向撫で。
G-４墳-５	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.1	7.5YR7/4にぶい橙色 ②良好　③径１㎜以下の微細な白色粒子・灰白色・赤褐色粒子等を微量含む。緻密。	体部外面縦・斜め方向刷毛目。体部内面横・斜め方向刷毛目。
G-４墳-６	円筒埴輪	周溝埋土 体部下位～底部小片	器厚1.5	①7.5YR7/6橙色　②やや不良　③径１㎜以下～10㎜大の灰白色・黒褐色粒子・砂粒を多く含む。やや粗い。	体部外面縦方向刷毛目。内面体部縦方向撫で。底部撫で。
G-４墳-７	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.2	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下程度の白色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。内面横・斜め方向刷毛目。
G-４墳-８	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜の白色・赤褐色・茶褐色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横方向刷毛目。
G-４墳-９	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～３㎜の白色・赤褐色・茶褐色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面斜め方向撫で。
G-４墳-10	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.3	①5YR7/6橙色　②良好 ③径１㎜以下～２㎜の白色粒子・砂粒を微量含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目。内面縦・斜め方向撫で。
G-４墳-11	円筒埴輪	周溝埋土 口縁部小片	器厚2.2	①7.5YR7/4橙色　②良好 ③径１㎜以下の微細な灰白色・褐色粒子、砂粒を微量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で。体部外面斜め方向刷毛目。体部外面横方向撫で。
G-４墳-12	円筒埴輪	周溝埋土 体部小片	器厚1.8	①5YR6/6橙色　②良好 ③径１㎜～３㎜の白色・茶褐色粒子、砂礫を含む。緻密。	体部外面縦方向刷毛目、内面縦・斜め方向撫で。

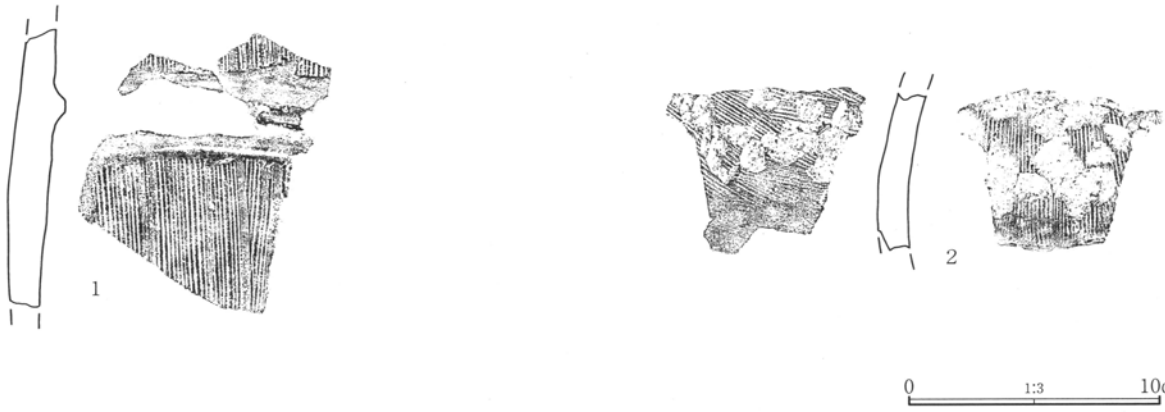


図94　Ｇ区４号墳　出土遺物（１）

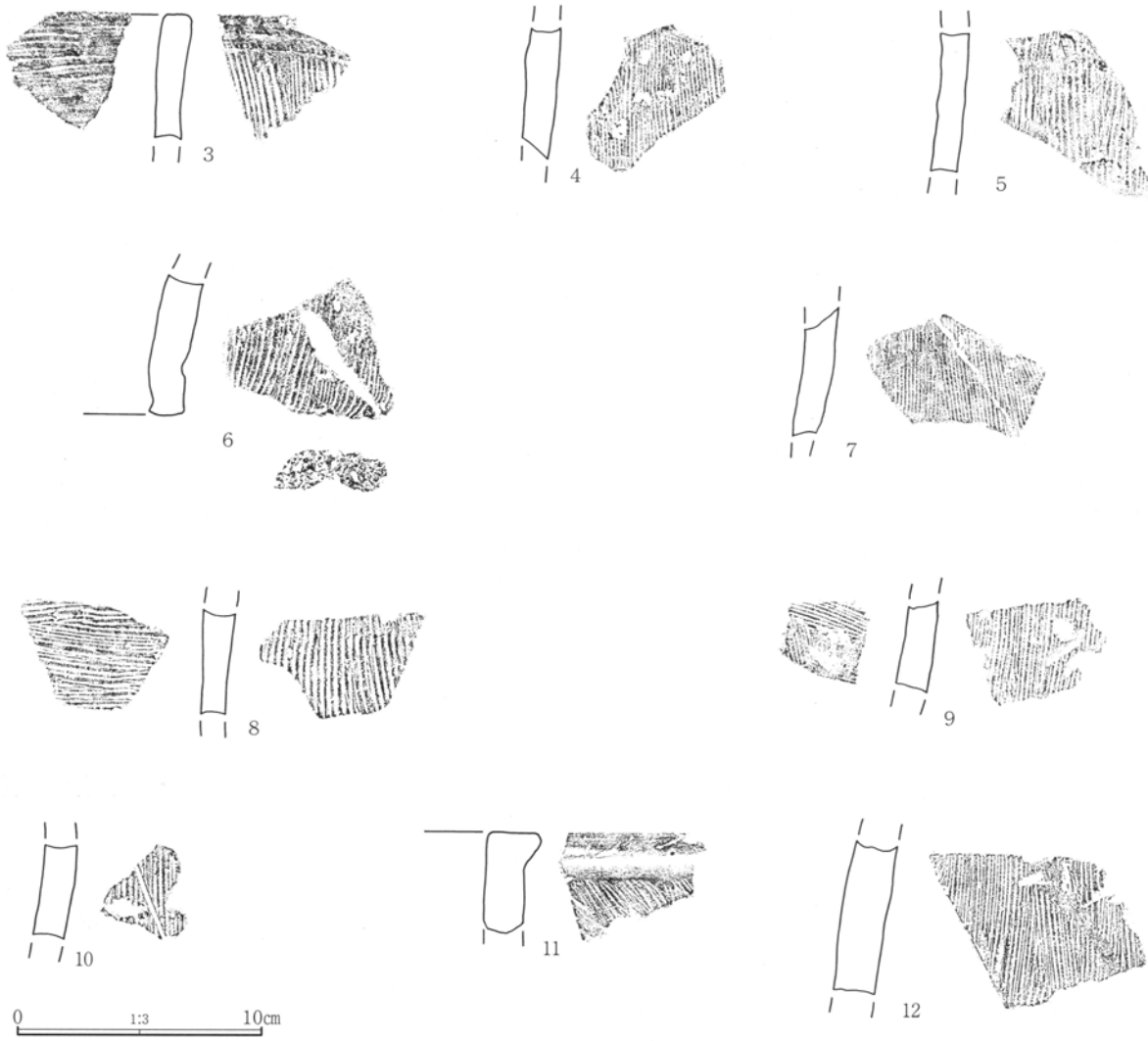


図 95　G区４号墳　出土遺物（２）

第８節　Ｈ区で検出された遺構と遺物

Ｈ区は、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線の西側の、調査区域の北から四番目、南から三番目の大調査区である。北関東自動車道のすぐ南側に位置し、南側に隣接するＩ区とともに北関東自動車道と上武道路に挟まれた調査区で、南北２区画に分かれる。平成12年度に調査を実施した。

本調査区からは、溝跡１条、墓壙跡１基、土坑跡３基と、縄文土器、旧石器が検出された。

縄文時代の遺物包含層は南側の調査区において確認され、調査区の中央部でまとまって早期の土器が集中的に出土した。

旧石器は浅間大窪沢第１軽石（As-OP1）を含むローム層から出土している。

第１項　溝跡

（１）45号溝跡

位置：Ｈ区の北東隅。X260・Y-345～-350。　**重複**：なし。　**規模と形状**：確認全長4.21m・確認最大幅１m・確認最深0.54m。北側調査区の東壁に沿って溝の外縁が約４m分ほど検出された程度であり、溝底も調査区外に出る。形状等を含め詳細は全く不明。　**埋土**：暗黒褐色土をベースとする。

45号溝跡

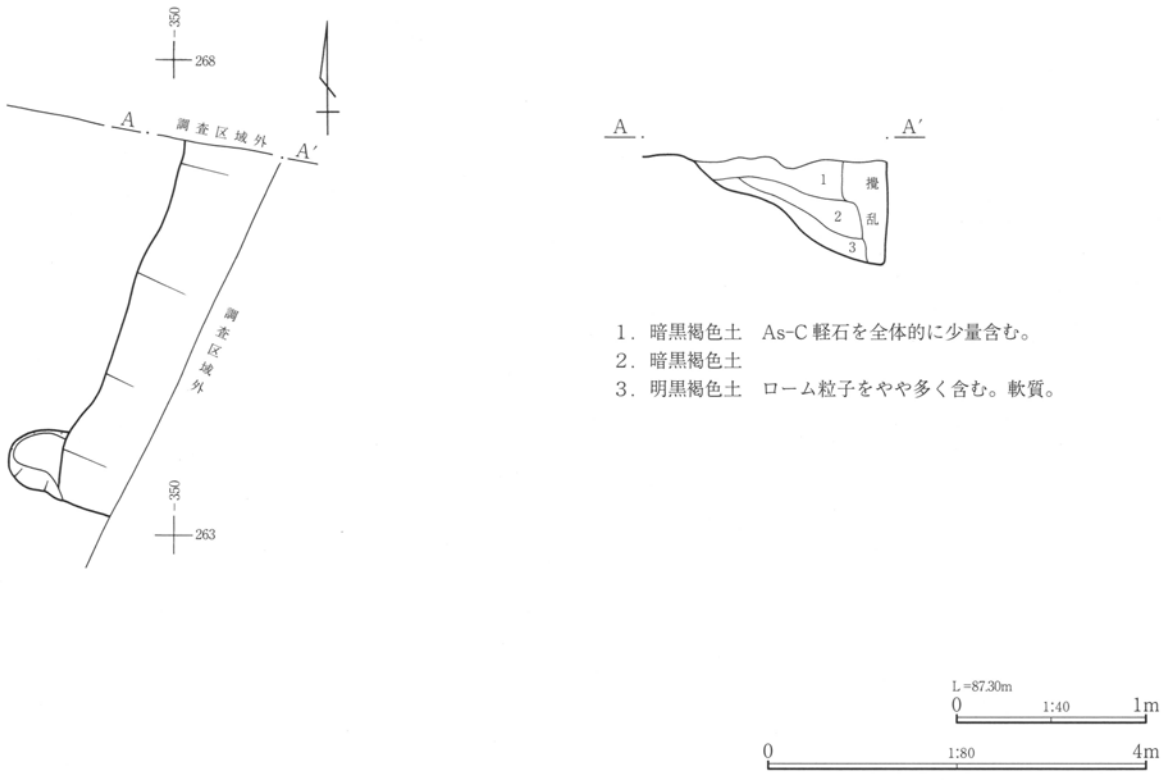


図96　Ｈ区45号溝跡　平面図・土層断面図

第２項　墓壙跡

・２号墓壙跡

位置：Ｈ区の北側調査区のほぼ中央からやや北寄りの位置。X260・Y-355。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い長円形状を呈し、長径1.05m・短径0.5m・深さ0.13m・検出面積0.488㎡。北寄り壁際近くの位置から土師器杯が２点、東西に並列して置かれる。人骨・骨粉等は全く検出されていないが、形状からみて墓壙跡と考えられ、２点の杯は遺体の頭部に置かれたものであろう。Ｅ区１号墓壙跡に較べてやや小振りながら、形状や土師器杯の据え置き方までよく類似している。据え置かれた土師器のうち、１点には底部内面に焼成前の刻書「舎」が１文字記されている。出土遺物からみて９世紀前半。　**埋土**：黒灰褐色土ベース。

２号墓壙跡

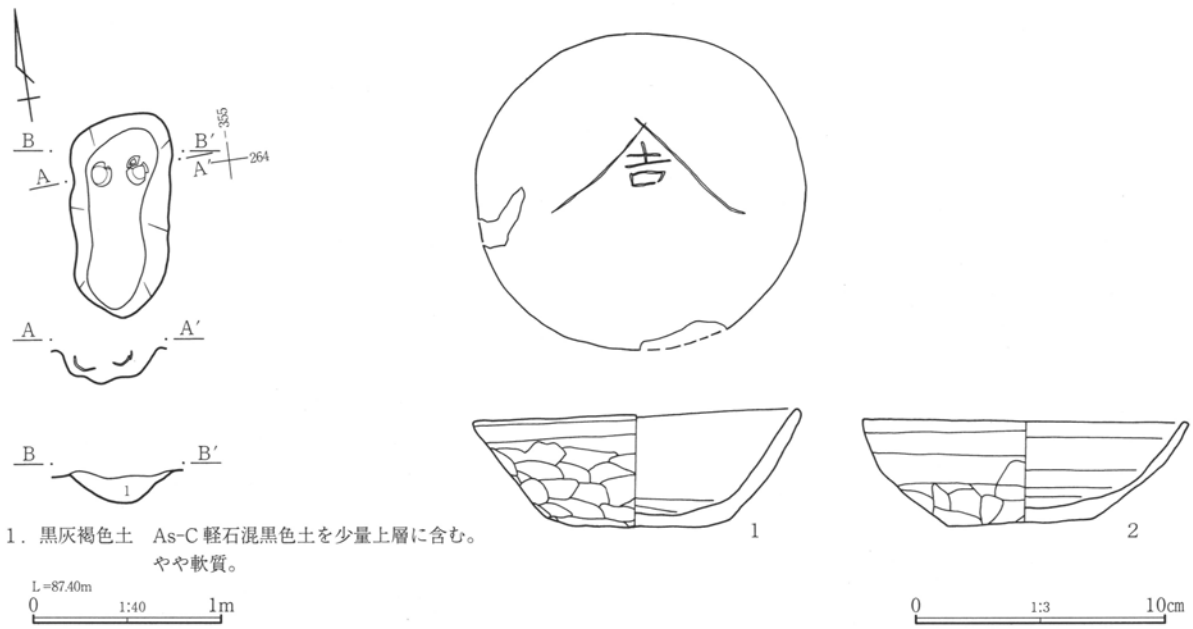


図97　Ｈ区２号墓壙跡　平面図・土層断面図・エレベーション図・出土遺物

上植木光仙房遺跡 Ｈ区２号墓壙跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴
H-２墓壙-１	土師器　　杯 9世紀前半	埋土 口縁部一部微細欠損	口径12.8、器高4.4、底径5.7、器厚0.8	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下～１㎜程度の灰白色粒子、砂粒をごく少量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。底部内面見込み部に焼成前刻書「舎」。
H-２墓壙-２	土師器　　杯 9世紀前半	埋土 口縁部一部微細欠損	口径12.8、器高4、底径5.6、器厚1.2	①10YR7/3にぶい黄橙色　②良好　③径１㎜以下～５㎜程度の灰白色粒子、茶褐色・赤褐色粒子、砂粒を少量含む。概ね緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。

第３項　土坑跡

Ｈ区では、土坑跡は３基検出されている。北側調査区から２基、南側調査区から１基、それぞれ検出されている。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの土坑の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは土坑自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（1）41号土坑跡

位置：Ｈ区の北側調査区の南西寄り。X255・Y-360。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東北-南西に長い楕円形状を呈し、長径1.71m・短径1.01m・深さ0.5m・検出面積1.332㎡。底部には南北に３箇所にわたって小さな掘り込みがみられる。　**埋土**：暗黒灰色土ベース。

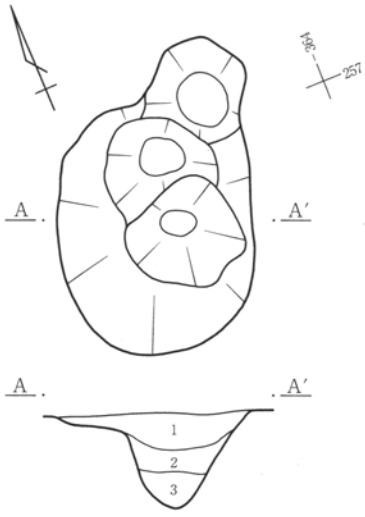
（2）42号土坑跡

位置：Ｈ区の北側調査区の南東寄り。X250～255・Y-355。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈する。東南側と北側とを大きくを攪乱によって破壊されている。長径３m・短径2.2m・深さ0.5m。**埋土**：暗褐色土ベース。

（3）44号土坑跡

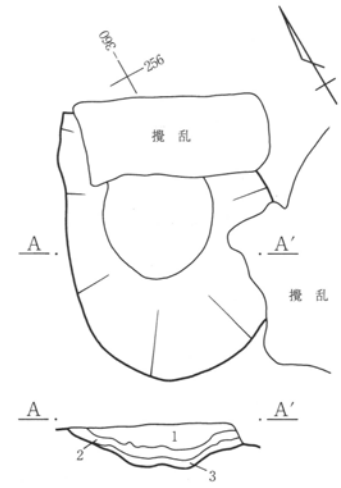
位置：Ｈ区の南側調査区の北端寄り、中央部。X250・Y-365。　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い楕整円形状を呈し、長径1.45m・短径0.84m・深さ0.35m・確認面積0.993㎡。　**埋土**：暗褐色土ベース。

41号土坑跡



1．暗黒灰色土　As-C 軽石を少量含む。緻密。
2．暗褐色土　　ローム粒子を全体的に多く含む。
3．暗黒灰色土　ローム粒子をやや多く含む。軟質で締まり悪い。

42号土坑跡



1．暗黒褐色土　As-C 軽石を全体的にやや多く含む。
2．暗褐色土　　１層と３層の混合層。
3．暗黄褐色土　ローム粒子を多く含む。

L=87.00m
0　1:40　1m

L=87.00m
0　1:80　4m

図98　Ｈ区41・42号土坑跡　平面図・土層断面図

上植木光仙房遺跡 Ｈ区42号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
H-42坑-１	円筒埴輪	埋土 体部小片	器厚1	①2.5YR5/6明赤褐色 ②良好 ③非常に微細な灰白色・灰色・茶褐色粒子、砂礫をやや多く含むが緻密。	体部外面縦方向刷毛目。体部内面横・斜め方向撫で。

上植木光仙房遺跡 Ｈ区４４号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
H-44坑-１	土師器　杯 9世紀前半	埋土 底部一部欠損	口径12、器高3.8、器厚0.5	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③径１㎜以下～１㎜程度の灰白色粒子、砂粒をごく少量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。

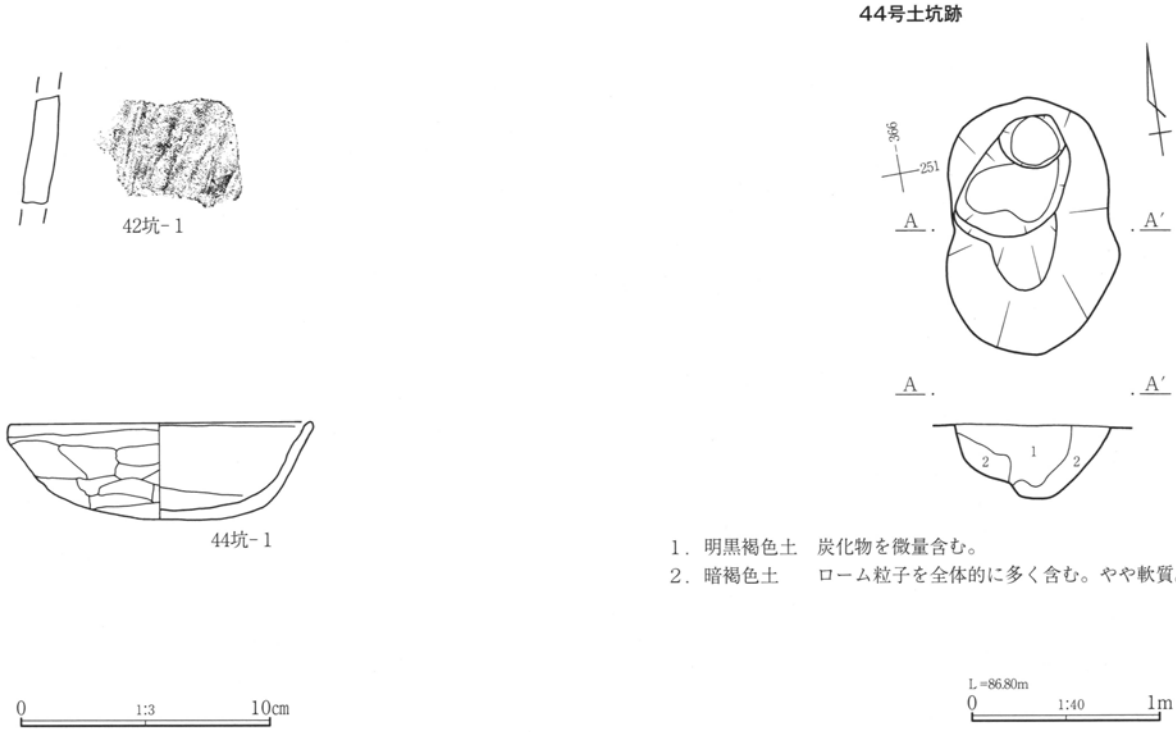


図99　Ｈ区42・44号土坑跡　出土遺物・Ｈ区44号土坑跡　平面図・土層断面図

上植木光仙房遺跡 Ｈ区表土出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
H-表土-１	須恵器　大甕	表土 口縁部～体部	推定口径23.8、器高42以上、器厚1	①5Y5/1灰色 ②良好 ③径１㎜以下～１㎜程度の灰白色粒子、砂粒をごく少量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面叩き。体部内面青海波文様叩き。
H-表土-２	須恵器　大甕	表土 体部小片	器厚0.5	①5Y5/1灰色 ②良好 ③径１㎜以下～１㎜程度の灰白色粒子、砂粒をごく少量含む。緻密。	体部外面叩き。体部内面青海波文様叩き。

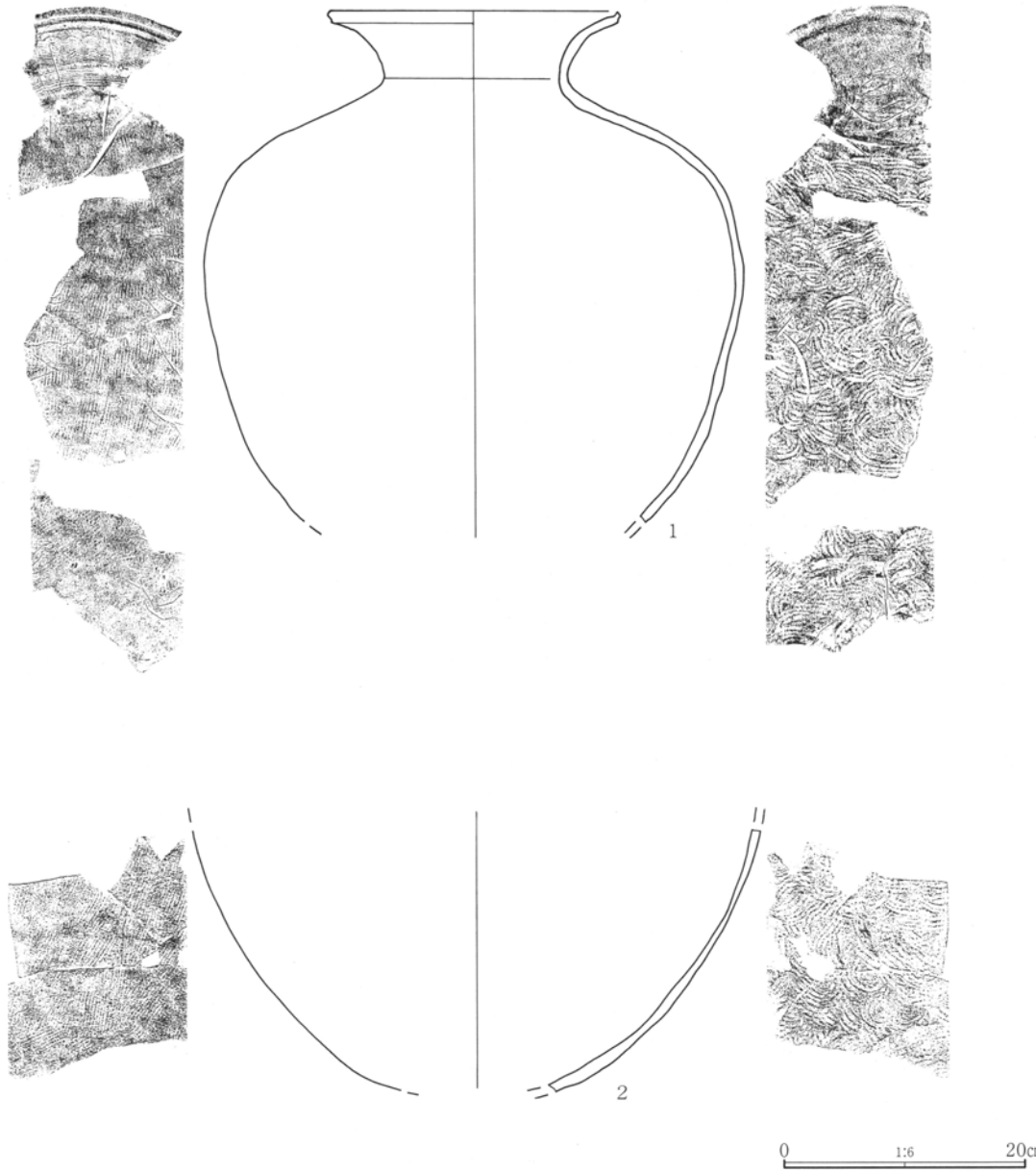


図100　Ｈ区表土　出土遺物

第９節　Ｉ区で検出された遺構と遺物

Ｉ区は、現在の主要地方道伊勢崎・大間々線の西側の調査区域の最南端の大調査区で、南端は上武道路との接点までで、平成13年度に調査を実施した。古墳跡が２基と小規模な土坑跡が２基検出されている。他に、包含層から縄文土器片がわずかに出土した。

第１項　古墳跡

（１）５号墳跡

Ｉ区の南西隅壁際に周溝跡の一部が検出された。円形に巡る周溝の北端の弧の外縁の一部である。溝幅1.4m分・深さ0.9m分のみが確認できただけで、内縁や墳丘に当たる部分はすべて調査区外にかかってしまっているため、規模や形状は全く不明である。周溝埋土は暗褐色粘質土をベースとする。

（２）６号墳跡

Ｉ区の北端から中央にかけて南北両側の周溝と主体部が検出された。本事業に関わる調査において検出された６基の古墳のうち、唯一、主体部が検出された古墳である。

外周径20.5m・内周（墳丘）径15.1m・南側周溝上幅3.14m・同底幅0.71m・同最大深度0.81m・北側周溝上径2.5m・同底幅1.1m・同最大深度0.61m。断面は幅広で緩やかな逆台形状を呈している。周溝埋土は黒褐色土をベースとし、埋土中からは遺物がほとんど出土しなかった。

墳丘は、全く削平され、攪乱を受けており、葺石や埴輪列は全くみられなかった。

主体部は、人頭大の小振りの自然石を両袖型に組んでいる横穴式石室で、攪乱によって、部分的に虫喰い状に石が抜き取られている箇所が少なくなく、やや不鮮明な点があるが、玄文部分には改修された痕跡が認められた。玄門外側の西側の前庭部分からは土師器片がやや集中して出土している。

主体部の堀方は、北東－南西方向に長い長円形状を呈し、長径7.3m・短径3.04mで、墳丘部分が削平されているため深さはほとんど検出できなかった。また、攪乱は主体部にも部分的に及んでおり、残存状態は極めて良くない。主体部及び主体部堀方からの遺物の出土は皆無である。

出土遺物や古墳そのものの形態から、７世紀前半頃の古墳と考えられる。

本遺跡の上武道路調査箇所では、現・伊勢崎・大間々線の西側の調査区から４基、東側の調査区から６基の計10基の古墳が検出されている。いずれも円墳で、墳丘の封土は完全に削平されていたが、主体部の一部や痕跡を調査できた古墳が７基あり、それらはいずれも輝石安山岩の川原石や割石を用いた横穴式石室か箱式棺状竪穴式石室である。また、これらの古墳には、いずれにも墳丘部の葺石や埴輪等は認められなかった。また、北関東自動車道調査区では、現・伊勢崎・大間々線の東側と西側で１基づつ計２基の古墳が検出されている。Ａ１号墳では埋土中から埴輪片が出土している。

本古墳を含めたこれらの古墳は、前述したように粕川左岸の段丘上に展開する本関町古墳群の一画を形成していた。

５号墳

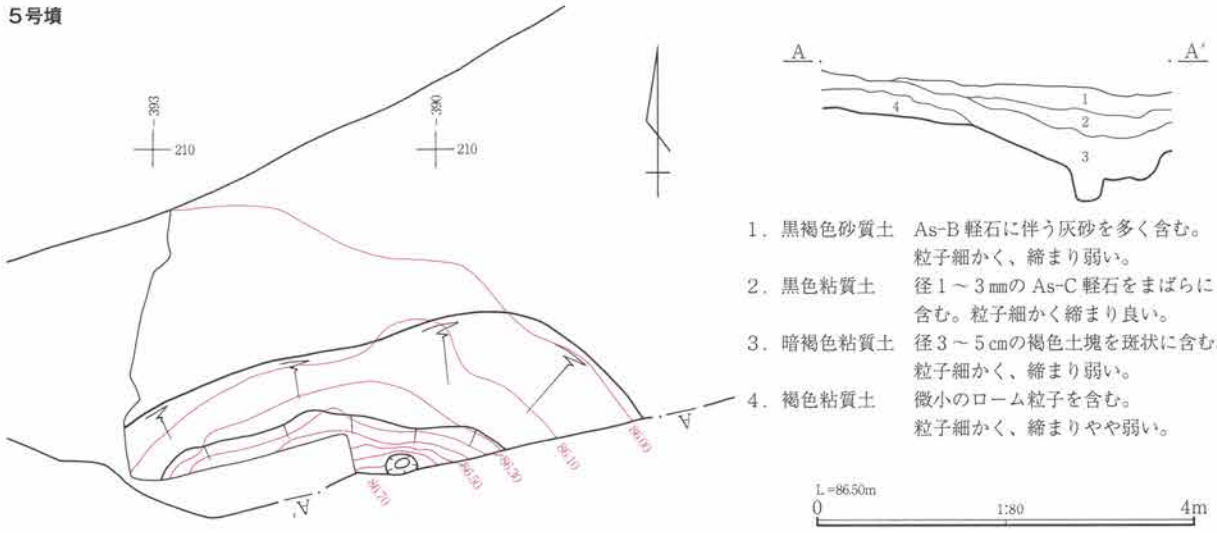


図101　Ⅰ区５号墳　平面図・土層断面図

６号墳

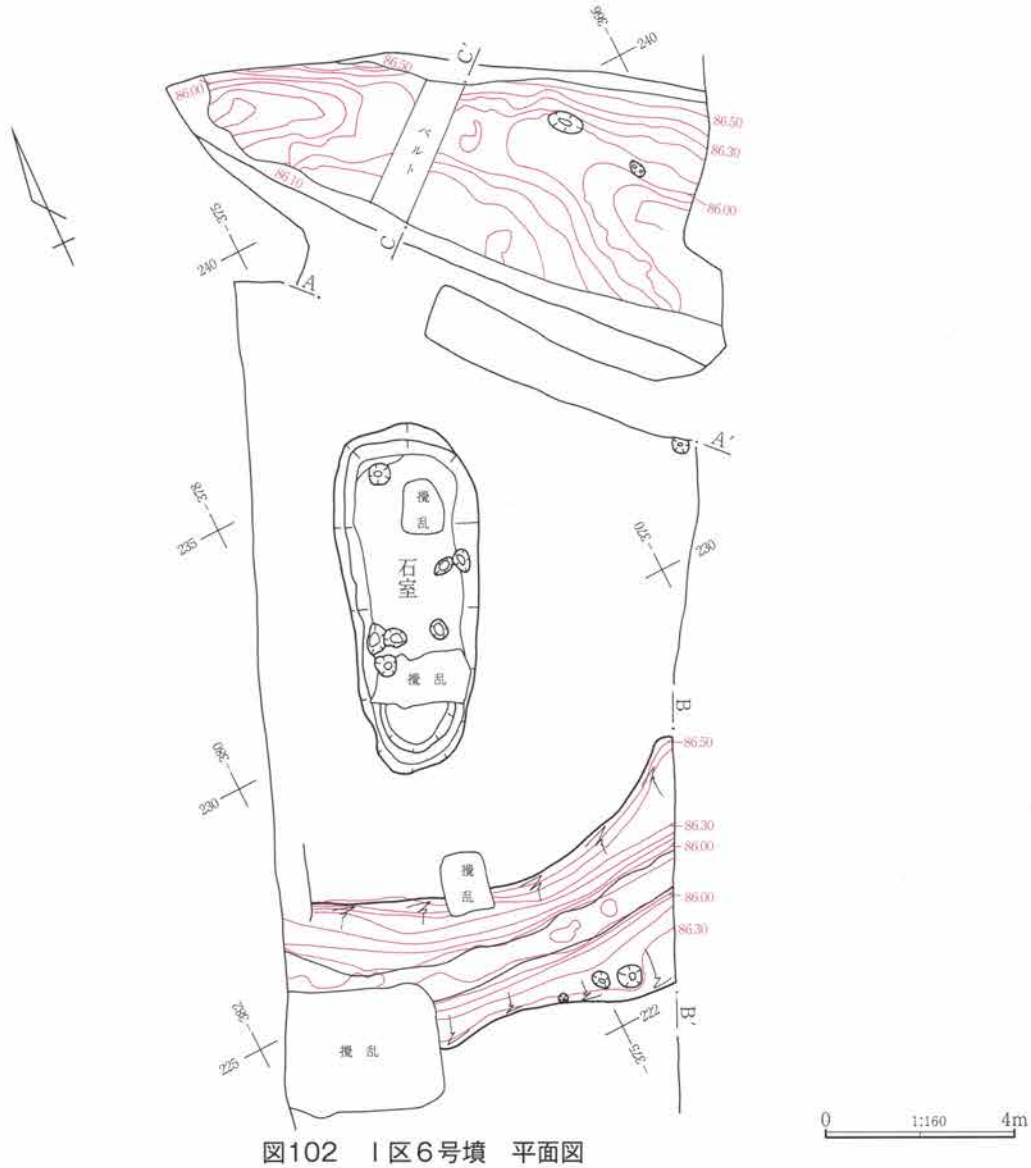
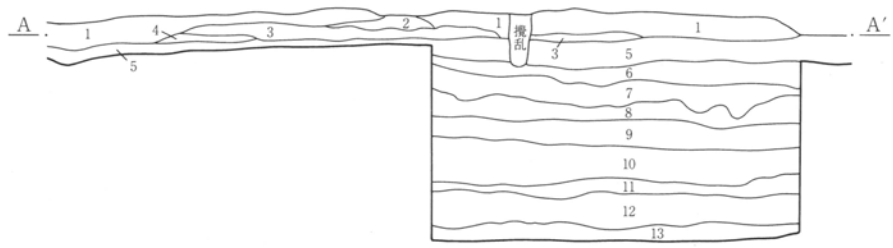
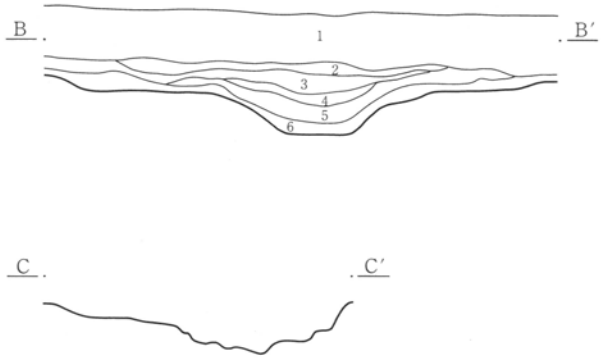


図102　Ⅰ区６号墳　平面図



1．暗褐色砂質土　微小のローム粒子を多く含む。粒子細かく、締まりよい。表土。
2．灰黄褐色粘質土　径３～５cmのローム塊を含む。
3．黒褐色粘質土　径１～２cmのローム塊混在。粒子細かく、締まり弱い。
4．暗褐色粘質土　径１～２cmのローム塊を含む。粒子細かく締まりやや弱い。
5．黒褐色粘質土　径１～２mmの As-C 軽石を含む。粒子細かく、やや粗い。
6．黒褐色粘質土　微小のローム粒子が漸移的に混じる。粒子細かく、締まり良い。
7．褐色粘質土　ローム主体だが、わずかに黒褐色土が混じる。
8．褐色粘質土　ローム主体で僅かに径５mm大の YP を含む。
9．黄褐色粘質土　径１～２mmの YP を僅かに含む。
10．黄褐色粘質土　９層に類似するが As-YPの混入なし。
11．褐色粘質土　粒子細かく、締まりやや弱い。
12．灰黄褐色土　径1～2cmの白色砂粒を多く含む。粒子細かく、締まりよい。
13．褐色粘質土　径1～2cmの白色砂粒を多く含む。粒子細かく、締まりよい。



1．灰褐色土　黒色土を少量含む。表土。
2．黒褐色土　砂を含む。
3．黒褐色土　軽石を全体に含む。
4．黒褐色土　３層よりも褐色土を多く含む。
5．黒褐色土　ローム少量含む。
6．黒褐色土　ローム多量に含む。

L=86.90m
0　1:80　4m

図103　Ⅰ区６号墳　土層断面図・エレベーション図

図104　Ⅰ区６号墳　石室平面図・展開図・エレベーション図

上植木光仙房遺跡　Ⅰ区６号墳出土遺物観察表

遺物番号	器　　種	出土状況 残存状態	法　量 (cm)	①色調　②焼成　③胎土	器形・整形の特徴
I-６墳-１	土師器　杯 ７世紀後半	前庭部埋土 口縁部一部欠損	口径11、器高3.2、器厚0.6	①2.5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下～１㎜程度の灰白色・黒褐色粒子、砂粒をやや多く含む。概ね緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。
I-６墳-２	土師器　杯 ７世紀前半	前庭部埋土 口縁部約1/4 体部約2/3残存	推定口径11.2、器高3.2、器厚0.6	①5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下の黒褐色粒子、砂粒を少量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。
I-６墳-３	土師器　杯 ７世紀前半	前庭部埋土 口縁部約1/6、底部約2/3残存	推定口径10.8、推定器高2.9、器厚0.5	①5YR6/4にぶい赤褐色　②良好　③径１㎜以下の砂粒を微量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。
I-６墳-４	土師器　杯 ８世紀前半	前庭部埋土 口縁部～底部約1/3残存	推定口径13、推定器高3.7、器厚0.4	①2.5YR6/6橙色　②良好　③径１㎜以下の砂粒をごく微量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。
I-６墳-５	土師器　杯 ７世紀後半	前庭部埋土 口縁部約1/3、底部約9/10残存	口径12.3、器高4、器厚0.8	①10YR7/3にぶい黄橙色　②やや良好　③径１㎜以下の灰白色粒子、砂粒を少量含む。概ね緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面～底部外面篦削り。体部～底部内面撫で。
I-６墳-６	土師器　甕 ９世紀後半	周溝埋土 口縁部一部微細欠損	推定口径26.2、残存器高6.5、器厚0.6	①7.5YR7/3にぶい橙色　②良好　③径１㎜以下の非常に微細な灰白色粒子、茶褐色・砂粒等をやや多く含む。概ね緻密。	口縁部内外面横撫で。頸部～体部外面上位篦削り。頸部～体部上位内面横方向から縦方向への撫で。

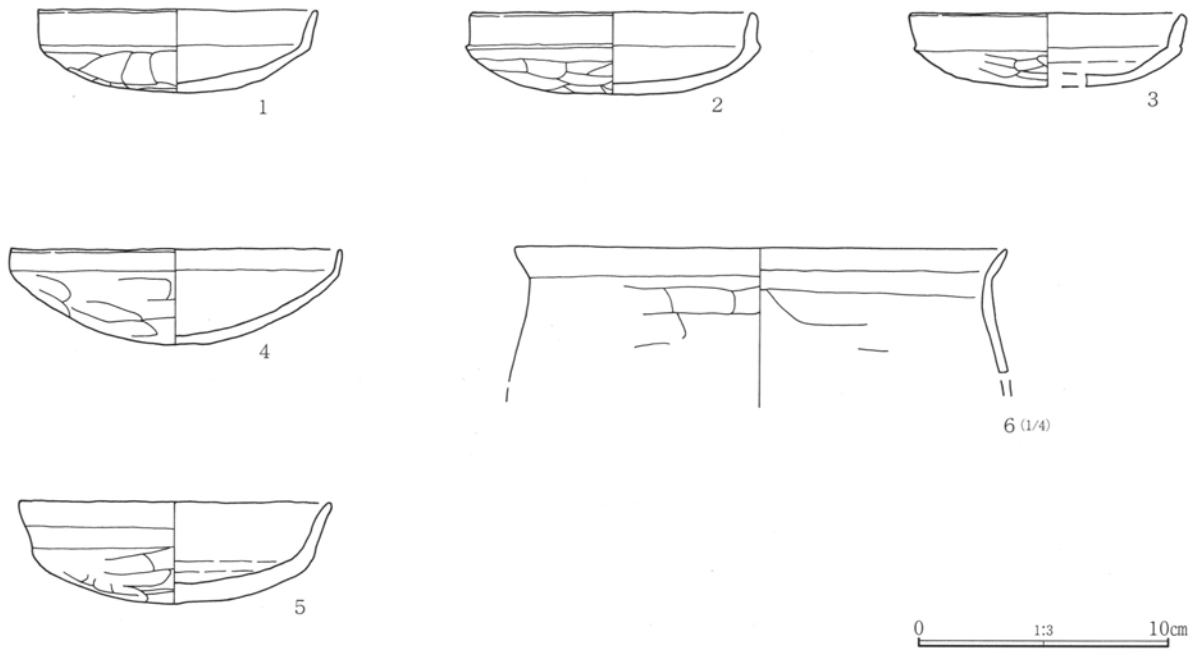


図105　Ⅰ区６号墳　出土遺物

第２項　土坑跡

Ｉ区では、小規模な土坑跡が２基検出されている。いずれも６号墳跡周溝外縁の南側から検出されている。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの土坑の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは土坑自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

（1）99号土坑跡

位置：Ｉ区の中央部から南寄り。X220・Y-375。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈し、しっかりとした堀方を有する。長径0.92m・短径0.65m・深さ0.32m・面積0.416㎡。　**埋土**：暗灰褐色土ベース。

（2）100号土坑跡

位置：Ｉ区の中央部から南寄り。東壁際。X220・Y-370。　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西にやや長い不整円形状を呈する。長径0.61m・短径0.52m・深さ0.27m・面積0.244㎡。　**埋土**：暗黄褐色土ベース。

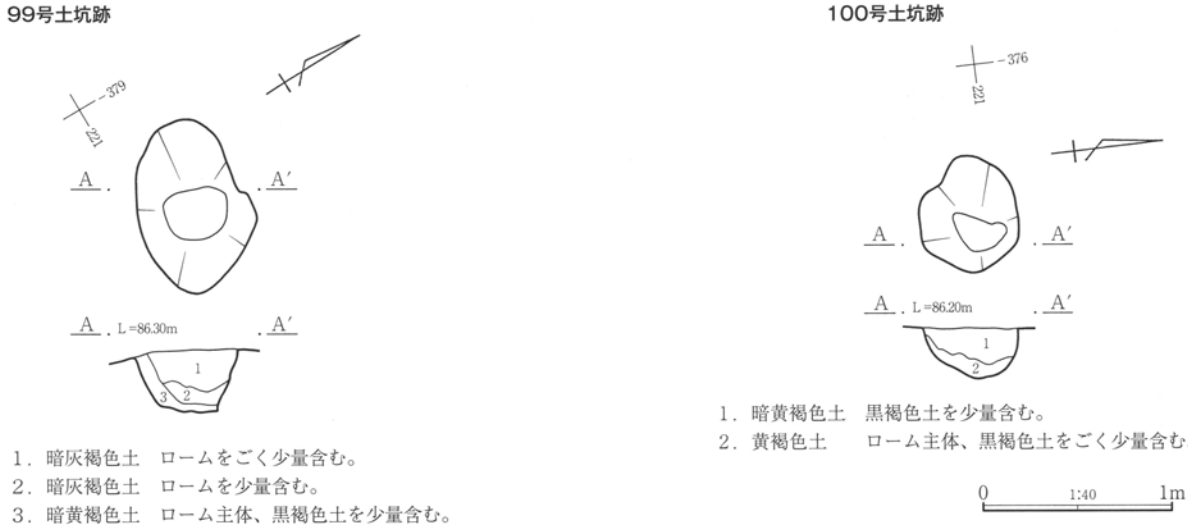


図106　Ｉ区99・100号土坑跡　平面図・土層断面図

第10節　J区

Ｊ区は、平成14年度（2002）に調査された、現・県道伊勢崎大間々線西側の調査区で、北関東自動車道のすぐ南側、上武道路のすぐ北側に位置する最南端の調査区である。

平成12年度（2000）に行われたＨ区における調査で旧石器が確認され、また、本調査区南隣における三和工業団地の建設予定地における調査の際にも旧石器時代の遺物が確認されているので、Ｊ区の調査時にも旧石器の出土は予想され、As-YP（浅間－岩鼻黄色軽石）ないしAs-SP（浅間－白糸軽石）を混入する上部ローム層中から暗色帯下位層まで確認調査を実施したが、今回の調査では旧石器は一点も出土しなかった。

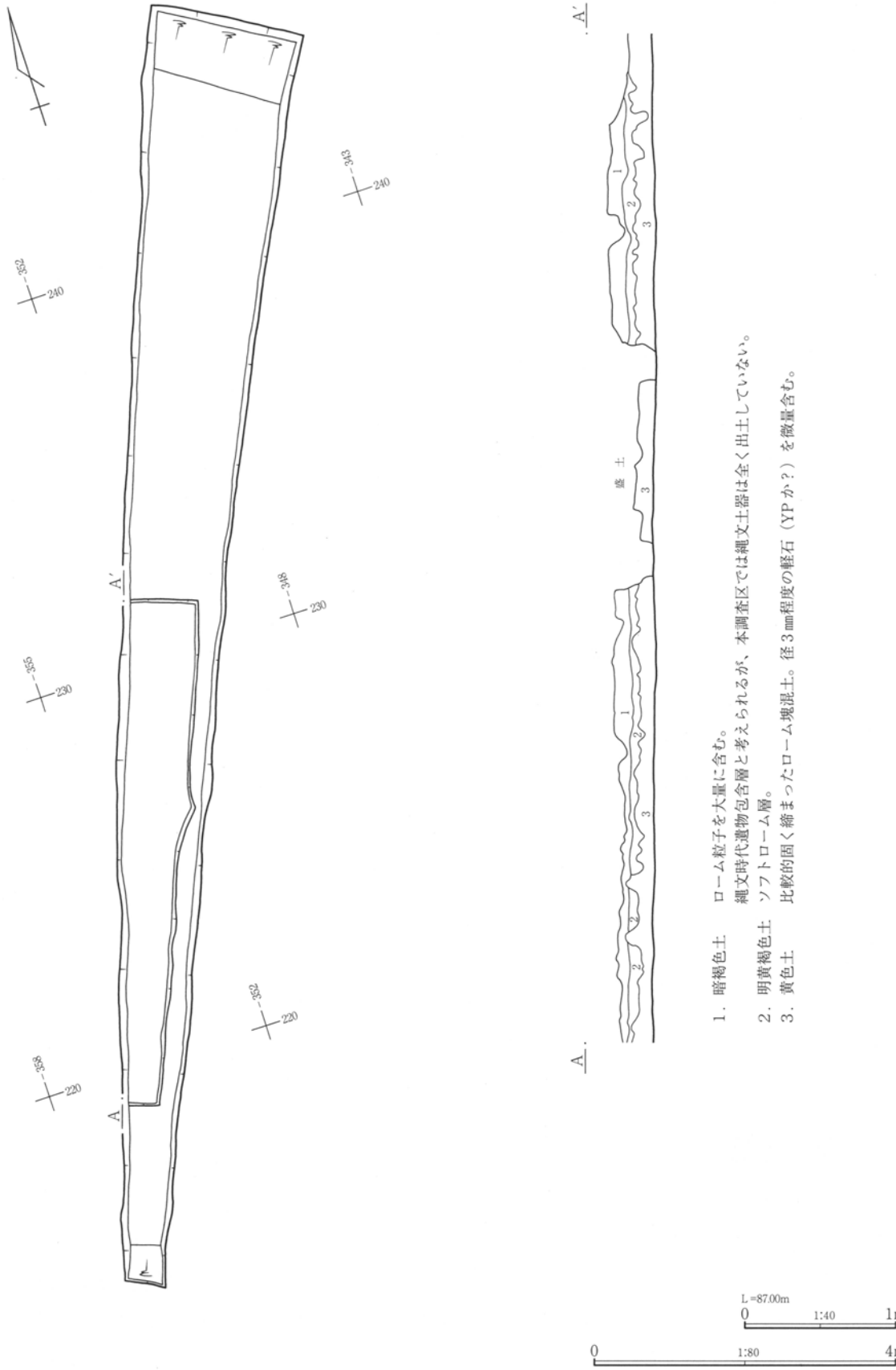


図107　Ｊ区平面図・土層断面図

第11節　金属製品

本調査区域からは近世～近代のものを中心とした金属製品が多数出土している。ここでは近世までの19点を取り上げることにした。

古墳時代のものと考えられる耳環と鉄鏃が１点ずつ出土しているが、双方とも表土からの出土なので、正確な年代は不明である。残る17点は、いずれも近世のものである。

Ｅ区71号土坑跡出土の刀装具には、表面に銀象嵌による唐草文様がほどこされており、特異な性格が伺える。それ以外はいずれも古銭である。

各遺物の詳細は、下記の遺物観察表を参照されたい。

上植木光仙房遺跡 出土金属製品遺物観察表

番号	器　　種	出土位置・出土状況・残存状態	法　量（cm）／重さ（g）	特　　徴
金１	金銅製耳環	D区グリッド表土・完形	外径2.5、内径1.5、器厚0.6、重さ12.1	
金２	鉄製刀装具	E71土坑埋土・完形	外径4.1、内径3.5、外幅2.5、内幅1.6、厚1.2、重さ13.6	横面に銀象嵌紋様。近世。
金３	鉄鏃	Ｆ２墳前庭部埋土・完形	全長11.3、刃長8.7、刃部最大幅3.1、茎厚0.8、重さ36.5	鍛造。
金４	銭・天保通宝	Ａ区表土	全長4.9、幅3.3、厚さ0.25、重さ19.6	天保６年（1835）初鋳。
金５	銭・天保通宝	Ｃ区88・90土坑埋土	全長4.85、幅3.2、厚さ0.21、重さ19.3	天保６年（1835）初鋳。
金６	銭・天保通宝	C区90土坑埋土	全長4.85、幅3.2、厚さ0.21、重さ20.9	天保６年（1835）初鋳。
金７	銭・寛永通宝	C区90土坑埋土	径2.2、孔径0.7、厚さ0.1、重さ2.5	寛永13年（1636）初鋳。裏無紋（１文）
金８	銭・淳化元宝	C区２号竪穴埋土	径2.4、孔径0.6、厚さ0.1、重さ2.8	北宋・淳化元年（990）初鋳。
金９	銭・寛永通宝	C区表土	径2.8、孔径0.7、厚さ0.1、重さ4	寛永13年（1636）初鋳。裏青海波紋（４文）
金10	銭・寛永通宝	C区表土	径2.3、孔径0.7、厚さ0.1、重さ2.1	寛永13年（1636）初鋳。裏無紋（１文）
金11	銭・嘉熙通寳	Ｃ区表土	径2.3、孔径0.6、厚さ0.1、重さ3.3	南宋・嘉熙元年（1237）初鋳。
金12	銭・寛永通宝	Ｅ区71土坑埋土	径2.4、孔径0.6、厚さ0.1、重さ3.6	寛永13年（1636）初鋳。裏無紋「文」字、（１文）
金13	銭・寛永通宝	Ｅ区71土坑埋土	径2.2、孔径0.7、厚さ0.1、重さ1.6	寛永13年（1636）初鋳。裏無紋（１文）
金14	銭・寛永通宝	Ｅ区71土坑埋土	径2.2、孔径0.7、厚さ0.1、重さ2.3	寛永13年（1636）初鋳。裏無紋（１文）
金15	銭・寛永通宝	Ｅ区71土坑埋土	径2.3、孔径0.6、厚さ0.1、重さ3.2	寛永13年（1636）初鋳。裏無紋（１文）
金16	銭・文久永宝	Ｅ区71土坑埋土	径2.7、孔径0.8、厚さ0.1、重さ2.9	文久３年（1863）初鋳。裏青海波紋（４文）
金17	銭・寛永通宝	Ｅ区71土坑埋土	径2.2、孔径0.8、厚さ0.1、重さ1.6	寛永13年（1636）初鋳。裏無紋（１文）
金18	銭・寛永通宝	Ｅ区71土坑埋土	径2.8、孔径0.7、厚さ0.1、重さ5.2	寛永13年（1636）初鋳。裏青海波紋（４文）
金19	銭・至和通宝	Ｆ区26溝埋土	径2.3、孔径0.8、厚さ0.1、重さ1.7	北宋・至和元年（1054）初鋳。篆書。

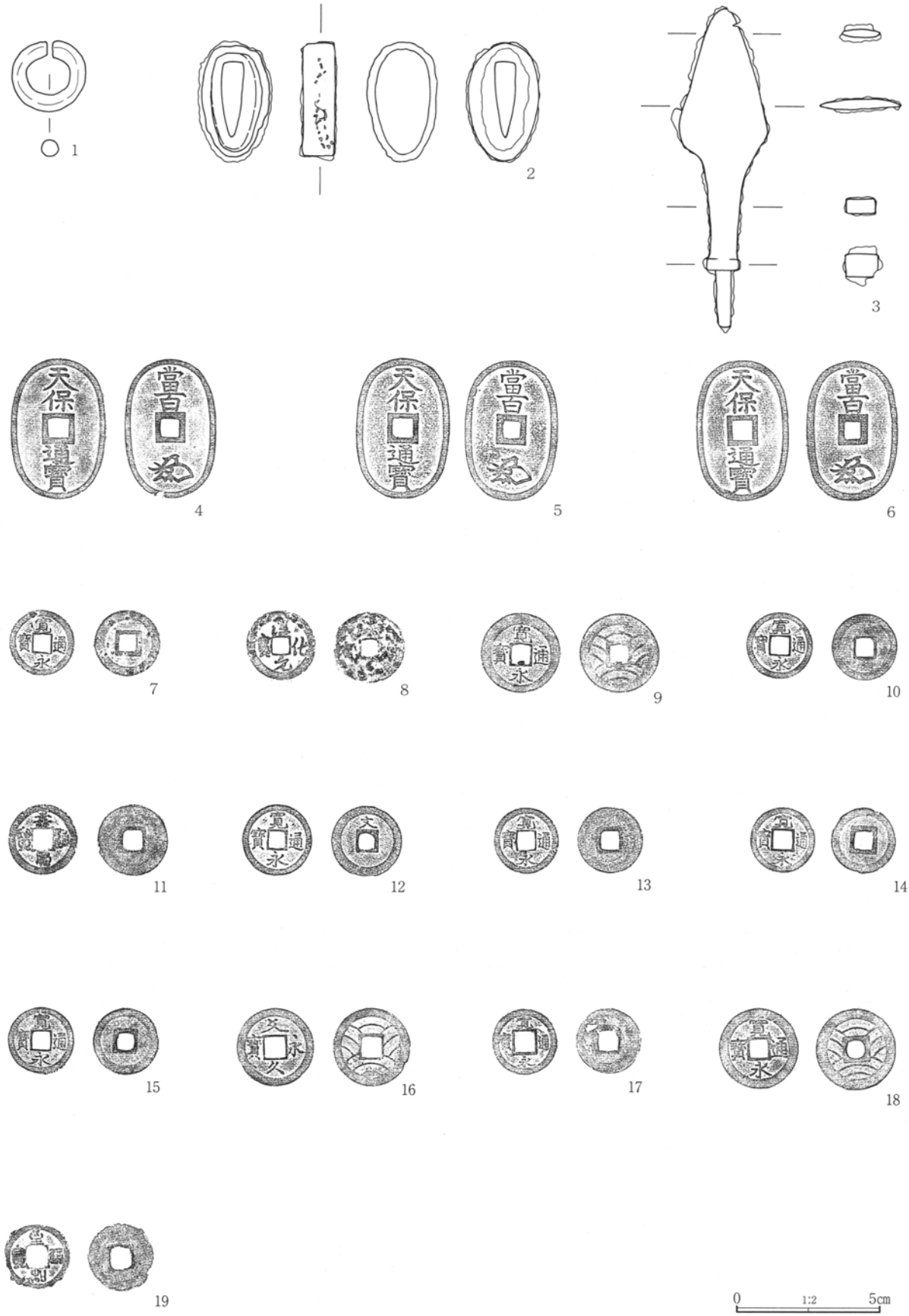


図 108　出土金属製品集成図

第 12 節　縄文土器

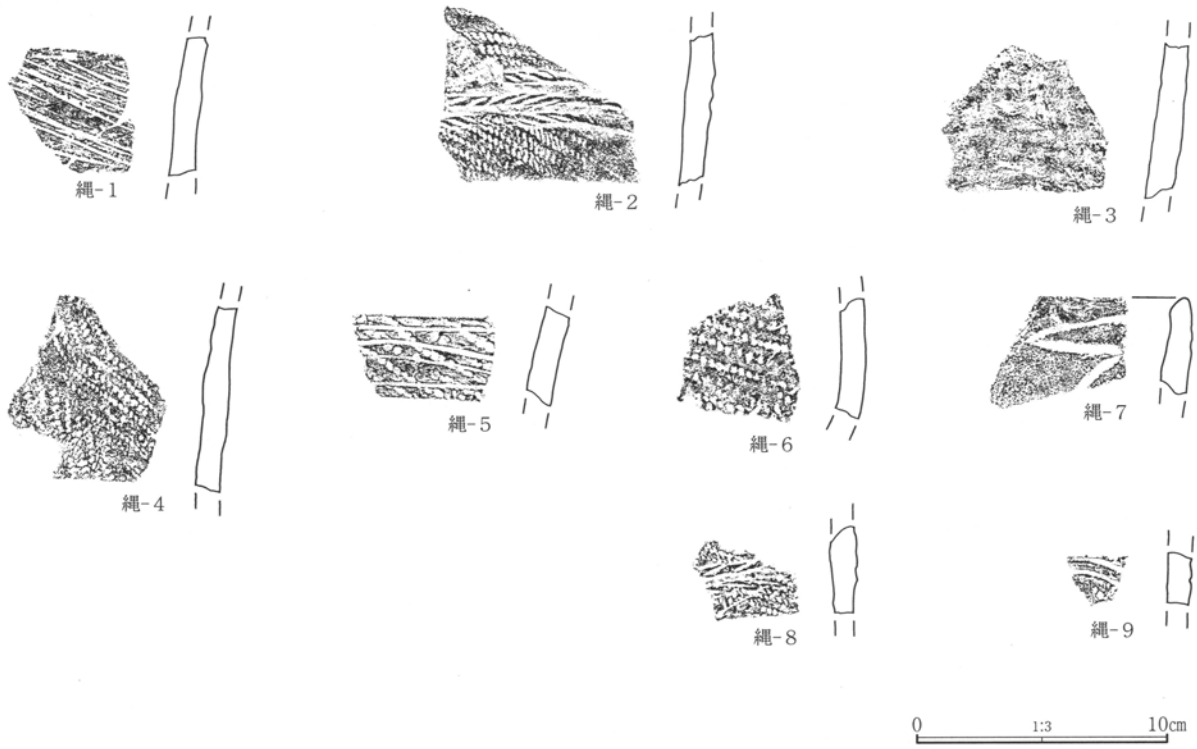


図109　A・B区出土縄文土器

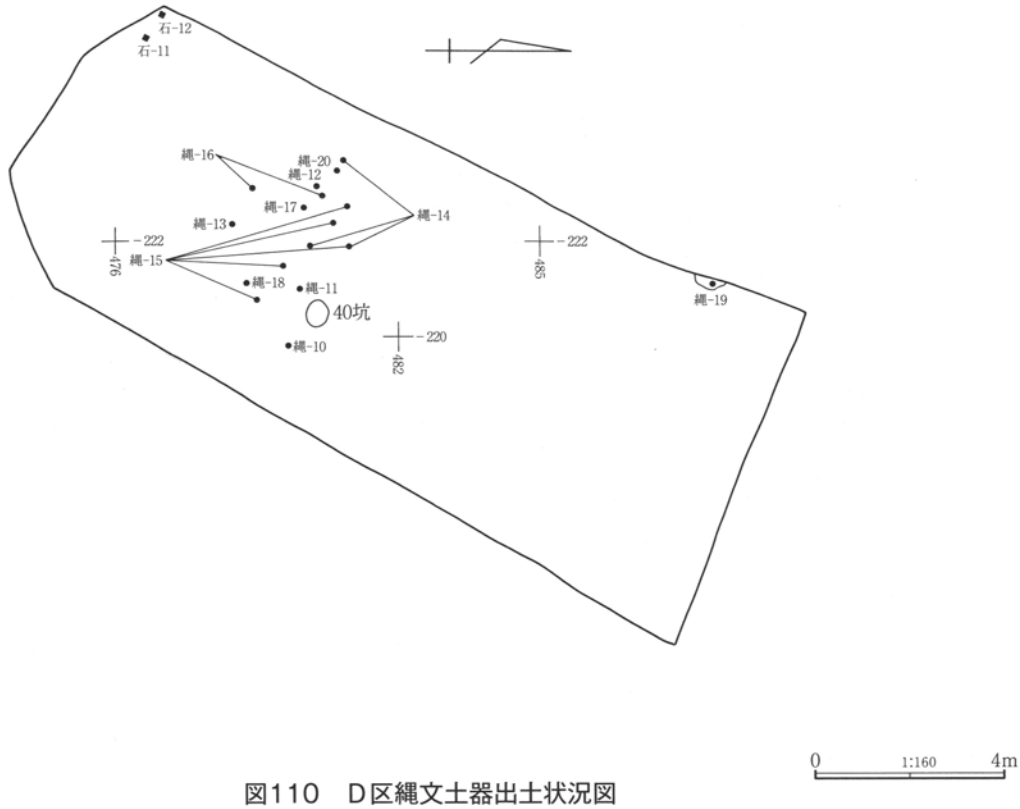


図110　D区縄文土器出土状況図

図111　Ｄ区出土縄文土器

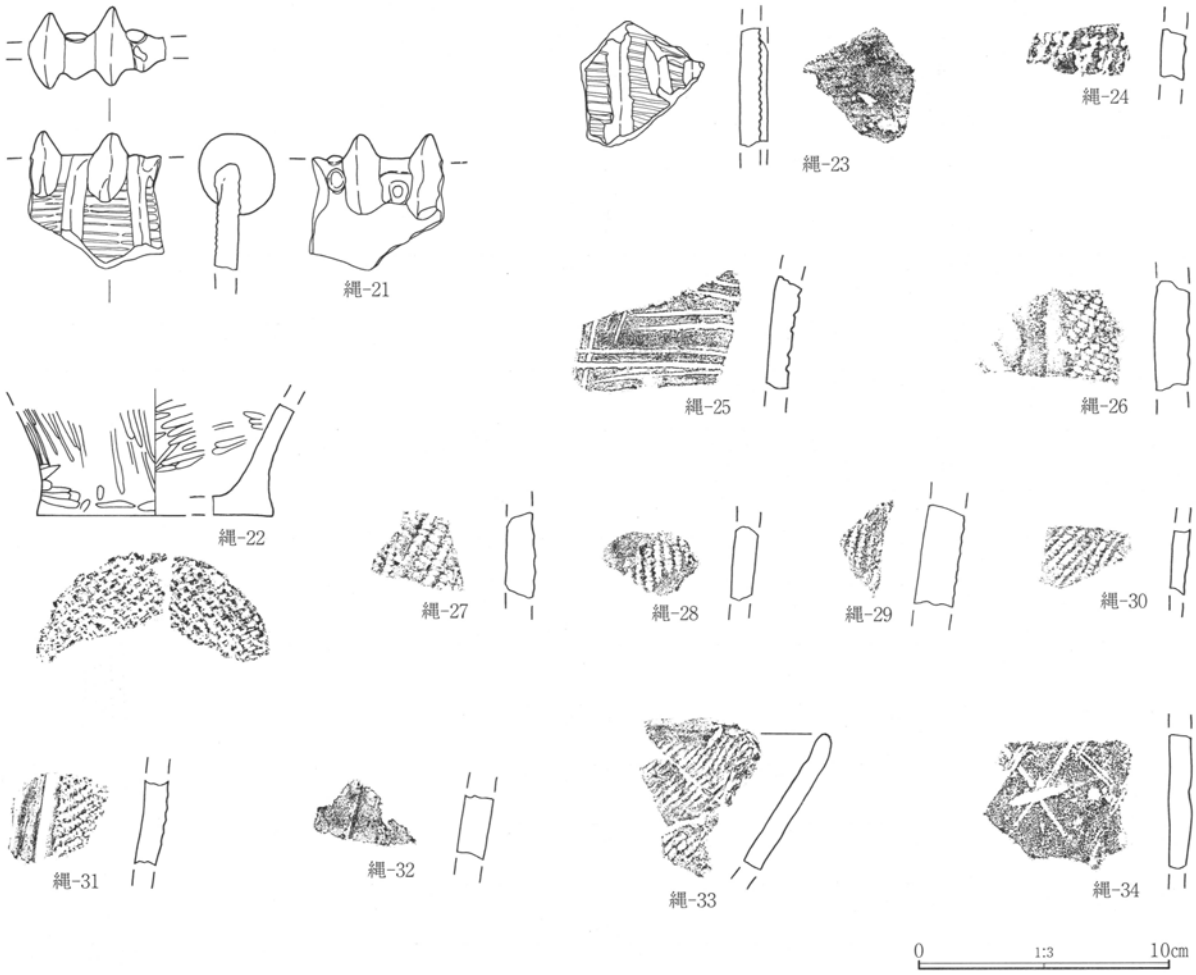


図112　D・E・G区出土縄文土器

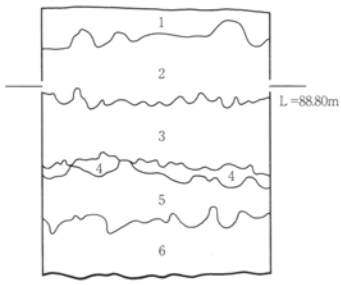
上植木光仙房遺跡 出土縄文土器観察表

遺物番号	種類・部位	出土位置	型　式	器厚 cm	胎　土	色　調	原体・施文方向・ほか
縄1	深鉢・胴部	A区16号溝埋土	諸磯b式	1	径1㎜以下の白色粒子を多量に含む。	5Y4/1 灰色	横～斜
縄2	深鉢・胴部	B3区包含層	諸磯b式	1	径1㎜以下の白色粒子を少量含む。	10YR4/1褐灰色	
縄3	深鉢・胴部	B3区包含層	諸磯式？	1	径1㎜以下の白色粒子・砂礫を少量混含む。	5YR5/4にぶい赤褐色	無文
縄4	深鉢・胴部	B3区包含層	諸磯a式？	1	径1㎜以下の白色・黒色粒子を含む。	7.5YR7/4にぶい橙色	RL横
縄5	深鉢・胴部	B3区包含層	諸磯b式	1.1	径1㎜以下の微細な黒色粒子を多量に含む。	10YR8/3浅黄色	RL横
縄6	深鉢・胴部	B3区包含層	諸磯a式？	1	径1㎜以下の白色・黒色粒子を多量に含む。	10YR8/2 灰白色	RL横
縄7	深鉢・口縁部	B3区包含層	中期初頭？	1	径1㎜以下の黒色・黒褐色・灰褐色粒子を多量に含む。	7.5YR7/4にぶい橙色	
縄8	深鉢・胴部	B3区包含層	諸磯b式	1	径1㎜以下の黒色粒子を少量含む。	5YR8/4浅黄橙色	RL横
縄9	深鉢・胴部	B3区包含層	諸磯b式	0.9	径1㎜以下の黒色粒子を少量含む。	7.5YR3/2黒褐色	
縄10	深鉢・口縁部	D2区X479.7・Y-219.87・L.88.545	加曽利E3式	1.2	径1㎜以下の黒色粒子を含む。	10YR5/2灰黄褐色土	RL横～斜め
縄11	深鉢・口縁部	D2区X479.83・Y-220.99・L.88.385	加曽利E3式	1.1	径1㎜以下の黒色粒子を含む。	10YR8/3浅黄色	RL横～斜め
縄12	深鉢・口縁部	D2区X480.22・Y-223.07・L.88.515	加曽利E3式	0.6	径1㎜以下の白色粒子を含む。	10YR8/3浅黄色	LR横～斜め

縄13	深鉢・口縁部	D２区 X478.45・Y-222.35・L.88.455	加曽利E3式	0.8	径１㎜以下の白色粒子を含む。	10YR8/3浅黄色	
縄14	深鉢・胴部	D２区X480.82・Y-223.7・L.88.545+X480.1・Y-221.9・L.88.545＋X480.9・Y-221.8・L.88.495	加曽利E3式	0.8	径１㎜以下の白色粒子を含む。	10YR8/3浅黄色	LR横
縄15	深鉢・胴部	D２区X480.9・Y-222.71・L.88.54+X480.6・Y-222.25・L.88.505+X480.82・Y-223.7・L.88.545+X479.55・Y-221.9・L.88.475＋X479・Y-220.8・88.505	加曽利E3式	1.5	径１㎜以下の白色粒子を多量に含む。	10YR7/4にぶい黄橙色	LR横
縄16	深鉢・口縁部	D2区X478.94・Y-224・L.88.535＋X480.24・Y-223.96・L.88.36	加曽利E3式	1	径２㎜以下の褐色粒子を含む。	10YR8/3浅黄色	RL横
縄17	深鉢・胴部	D2区X480.05・Y-222.34・L.88.455	加曽利E3式	1	径３～１㎜以下の黒色粒子を含む。	10YR8/3浅黄色	LR横
縄18	深鉢・胴部	D2区X478.75・Y-221.16・L.88.4	加曽利E4式	1	径１㎜以下の白色・黒色・灰色粒子を含む。	10YR8/3浅黄色	
縄19	深鉢・胴部	D2 区 X488.64・Y-221・L.88.545	加曽利E3式	1.2	径１㎜以下の黒色粒子を多量に含む。	10YR8/3浅黄色	
縄20	浅鉢・胴部	D 区 X480.7・Y-223.5・L.88.54	加曽利E3～4式	1.1	径１㎜以下の黒色粒子を含む。	10YR8/3浅黄色	塗彩
縄21	深鉢・口縁部	D区51号土坑跡埋土	諸磯c式	0.9	径３㎜以下の白色粒子を含む。	10YR5/2暗灰黄色	
縄22	深鉢・底部	D区X505・Y-200Gr.	後期前半	0.8	径１㎜以下の微細な白色・黒色粒子を多量に含む。	7.5YR7/3にぶい褐色	表裏面共に篦磨き
縄23	深鉢・胴部	D区X510・Y-209Gr.	諸磯c式	0.8	径１㎜以下の黒色・白色粒子を含む。	7.5YR6/4にぶい橙色	
縄24	深鉢・胴部	D区X510・Y-209Gr.	浮島Ⅱ式	0.9	径１㎜以下の白色粒子を少量混含む。	7.5YR7/2明褐灰色	
縄25	深鉢・胴部	D１区表土	諸磯b式	1	径１㎜以下の白色・黒色粒子を含む。	7.5YR7/4にぶい橙色	
縄26	深鉢・胴部	D２区表土	加曽利E3式	1.4	径１㎜以下の白色・黒色・褐色粒子を含む。	10YR8/3浅黄橙色	
縄27	深鉢・胴部	D２区表土	加曽利E3式	1.2	径１㎜以下の黒色粒子を多量に含む。	10YR8/3浅黄橙色	LR横
縄28	深鉢・胴部	D２区表土	加曽利E4式	0.9	径１㎜以下の黒色粒子を含む。	10YR8/3浅黄橙色	多条RL横
縄29	深鉢・胴部	D２区表土	加曽利E3式	1.5	径2㎜以下の灰色粒子を含む。	10YR8/3浅黄橙色	RL斜め
縄30	深鉢・胴部	D２区表土	加曽利E4式	0.6	径1㎜以下の黒色粒子を含む。	10YR8/3浅黄橙色	LR横
縄31	深鉢・胴部	D１区包含層	加曽利E3式	1	径1㎜以下の白色粒子を含む。	10YR7/4にぶい黄橙色	LR横
縄32	深鉢・胴部	D１区包含層	加曽利E4式	1.1	径1㎜以下の白色粒子を多量に含む。	2.5Y7/4浅黄色	
縄33	深鉢・口縁部	E区表土	諸磯式?	0.8	径1㎜以下の白色・黒色粒子を含む。	5YR6/4にぶい橙色	LR斜め？
縄34	深鉢・胴部	G区表土	堀之内Ⅰ式	0.9	径1㎜以下の白色・黒色粒子を含む。	10YR7/3にぶい黄橙色	

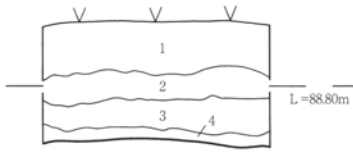
第13節　石器

A区（トレンチ）

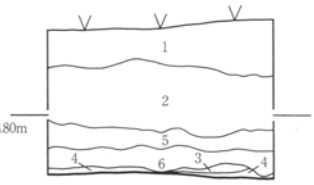


1．灰黄褐色土　YP漸移層。
2．明黄褐色土　白色粒子を多量に含む。As-OK
3．明黄褐色土　白色粒子を僅かに含む。BP
4．にぶい黄橙色土　径1～5㎜の白色軽石を均質に含む。MP
5．にぶい黄橙色土　4層よりやや黒みがかる。やや粘性を帯びる。MP
6．灰黄褐色土　粘質土。径1～10㎜の黄色粒子と白色粒子を少量混含む。暗色帯。

B区（西壁）

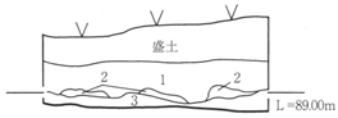


B区（北壁）



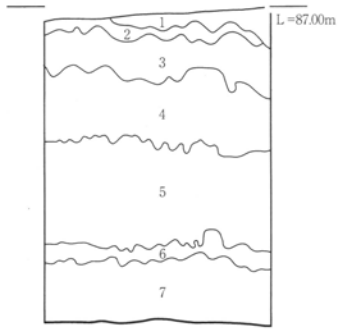
1．表土
2．灰褐色土　白色粒子を多く含む。
3．黒褐色土　As-c、Hr-iなどの白色粒子を多量に含む。
4．黒褐色土　白色粒子が3層より少ない。褐色の度合いが3層より強い。
5．褐灰色土　白色粒子を多く含む。
6．灰褐色土　白色粒子を多く、径5～10㎜の3層の塊を下部に少量含む。

D区（西壁）



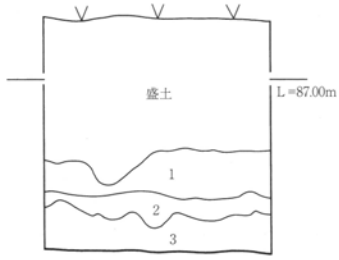
1．灰黄褐色砂質土　径2～5㎜の砂粒、微小なAs-b軽石を含む。
2．暗褐色シルト質土　Hr-s、微小なAs-c軽石を含む。
3．黒褐色粘質土　径1～3㎜のAs-C軽石を含む。

H区（西壁）



1．暗黒褐色土　縄文包含層。
2．YP漸移層
3．As-OK層　YP当層だが、下層の混じりが激しい。旧石器出土層。
4．As-OK層　旧石器出土層。
5．BP層
6．MP層
7．暗色帯

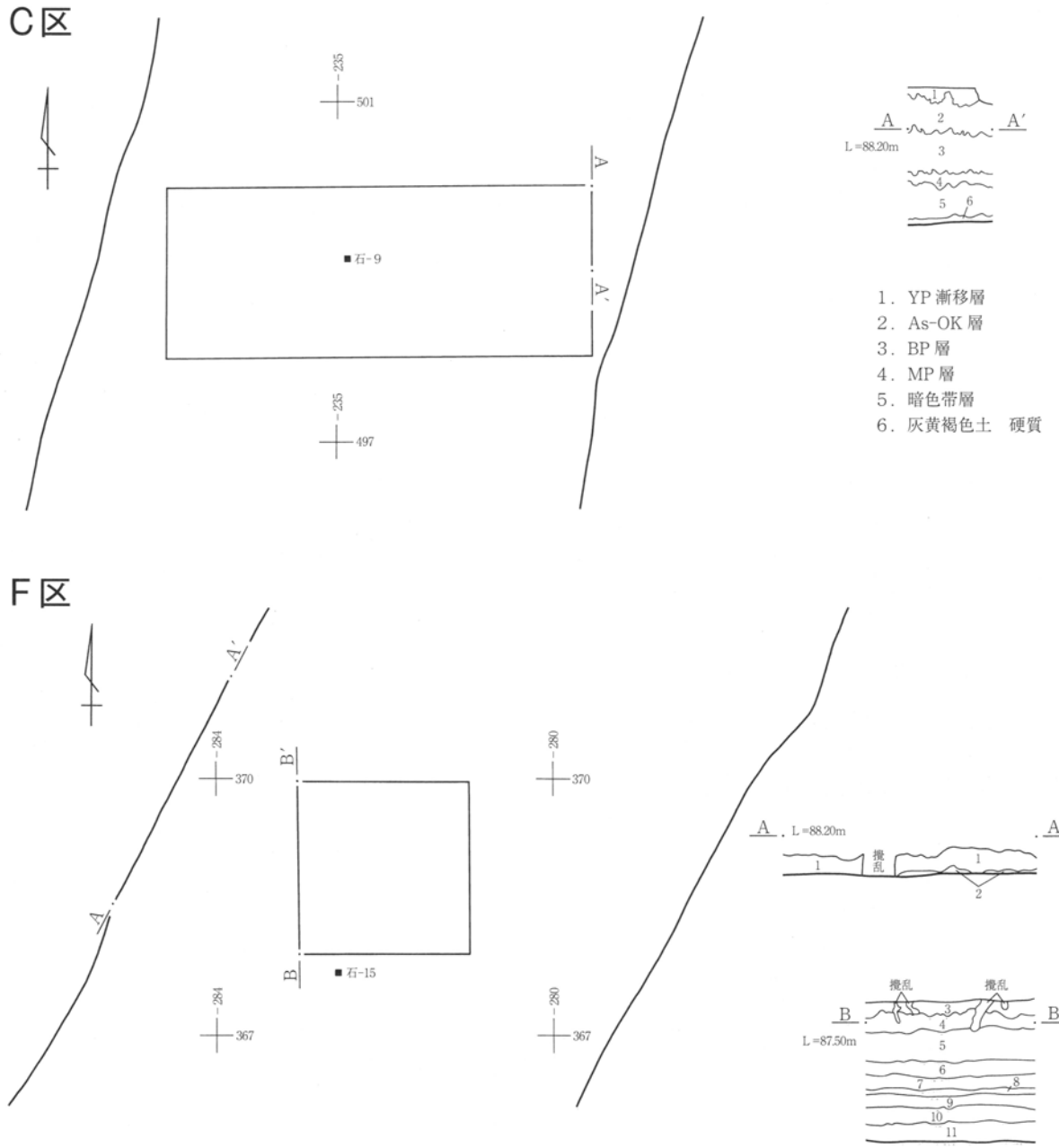
J区（東壁）



1．暗褐色土　ローム粒子を大量に含む。縄文時代遺物包含層と考えられるが、本調査区では縄文土器は全く出土してい ない。
2．明黄褐色土　ソフトローム層。
3．黄色土　比較的固く締まったローム塊混土。径3㎜程度の軽石（YPか？）を微量含む。

0　1:40　1m

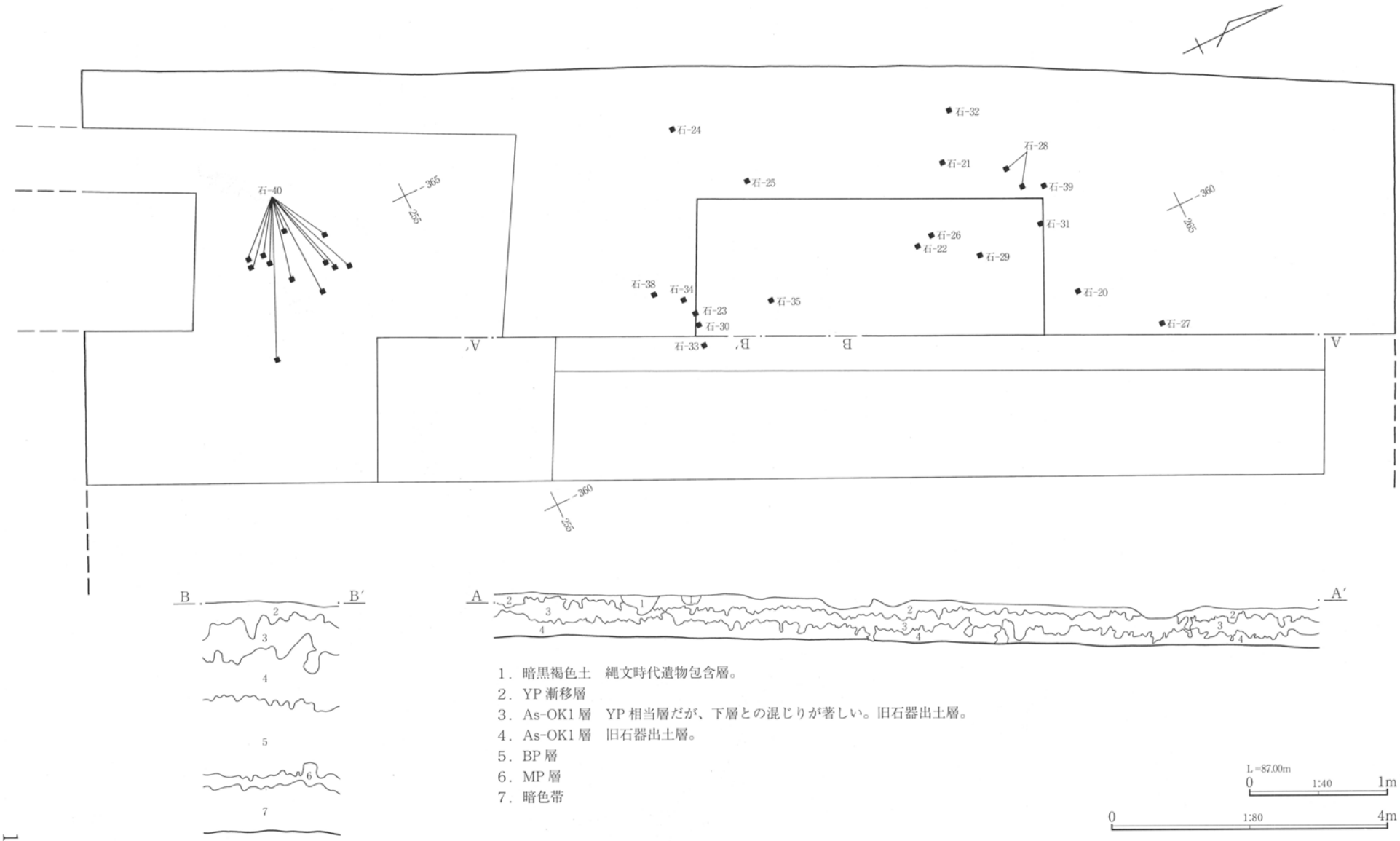
図113　調査区基本土層



1．暗褐色土　ローム粒をかなり多く含むローム漸移層。縄文時代遺物包含層。
2．暗黄褐色土　ローム土を主体とするが１層の暗褐色土を含む。
3．明黄褐色土　上位が固く締まったブロックが多く、下位は軟質。
4．黄色土　白色がかった軽石が微量に混在するが、５層ほどではない。固く締まる。
5．黄色土　層全体に計１～３㎜程度の白色軽石（As-YP）が混じる。上位ほど多く混入。固く締まる。
6．黄色土　５層に比してやや暗い。５層よりもやや軟質、締まり弱い。
7．黄褐色土　層全体が軟質、締まり弱い。やや赤みが強い褐色系の色調を呈する。
径１㎜前後の粒子を微量含む。
8．淡黄色土　層全体軟質で締まり弱い。
9．暗黄褐色土　暗色帯。層上位にATを多く含む。
10．暗黄褐色土　暗色帯。暗褐色土と淡黄色土とが斑に混在し、９層よりも固く締まっている。
11．淡黄色土　小礫を多く含む。かなり固く締まる。

0　1:80　4m

図114　C・F区旧石器出土状況



1．暗黒褐色土　縄文時代遺物包含層。
2．YP 漸移層
3．As-OK1 層　YP 相当層だが、下層との混じりが著しい。旧石器出土層。
4．As-OK1 層　旧石器出土層。
5．BP 層
6．MP 層
7．暗色帯

図115　H区旧石器出土状況

上植木光仙房遺跡 出土石器遺物観察表

遺物番号	種類	出土位置	大きさ(最大・最大幅・厚さcm/重量g)	時　代	石　材	備　考
石１	打斧	A区1号墳周溝埋土	9.1×7.15×2.1 ／ 151	縄文	黒色頁岩	再生加工
石２	削器	A区1号墳周溝埋土	5.1×5.05×1.1 ／ 90	縄文	黒色頁岩	
石３	石鏃	A区6号溝跡埋土	2.45×1.35×0.45 ／ 5	縄文	黒色安山岩	茎部欠損 アスファルト付着
石４	石鏃	A区16号溝跡埋土	2.1×1.15×0.2 ／ 1	縄文	黒曜石	
石５	削器	A区16号土坑跡埋土	6.85×4.85×0.8 ／ 20	縄文	黒色頁岩	
石６	石鏃	A区19号土坑跡埋土	1.9×2×0.4 ／ 1	縄文	チャート	
石７	削器	A区X550・Y-200Gr.表土	8.7×6.15×1.2 ／ 60	縄文	黒色頁岩	刃部一部欠損
石８	剥片	A区X540・Y-210Gr.表土	7.85×4.65×0.9 ／ 30	縄文	黒色頁岩	
石９	石匙	C区X499.18・Y-234.89・ L.88.135As-YP混土中	3.75×1.7×0.8 ／ 10	縄文	チャート	摘み部欠損
石10	打斧	D区 X520・Y-200Gr.表土	12.5×4.7×1.7 ／ 120	縄文	ホルンフェルス	
石11	削器	D区 X520・Y-195Gr.表土	6.92×3.1×0.7 ／ 20	縄文	桂質頁岩	
石12	剥片	D区 X505・Y-200Gr.表土		縄文	黒曜石	
石13	剥片	D区表土	11.2×6.3×2.1 ／ 190	縄文	黒色頁岩	
石14	削器	D区表土	8.8×7.5×1.6 ／ 113	縄文	黒色頁岩	
石15	有舌尖頭器	F区北から三番目の調査区 X367.79・Y-282.31・L.87.78、ローム層上面	8.5×1.6×0.7 ／ 10	縄文・草創期	黒色頁岩	
石16	削器	G区4号墳周溝埋土	5.7×3.5×1.5 ／ 30	縄文	黒色頁岩	
石17	削器	G区表土		縄文	黒色頁岩	
石18	削器	G区表土	7.4×3.9×1.1 ／ 450	縄文	黒色頁岩	
石19	削器	G区表土	5.1×3.5×0.8 ／ 210	縄文	黒色頁岩	
石20	石核	H区X263.34・Y-361.65・L.86.58	7.5×5.2×2.2 ／ 100	縄文	黒色頁岩	
石21	石核未製品	H区X264.7・Y-362.07・L.86.53	7.3×2.45×2.7 ／ 55	旧石器	黒色頁岩	
石22	石核	H区X263.25・Y-361.53・L.86.89	6.85×3.85×2.3 ／ 65	旧石器	黒色頁岩	
石23	剥片	H区X263.4・Y-361.38・L.86.52	6.9×4.4×2.1 ／ 60	旧石器	黒色頁岩	
石24	石斧	H区X263.9・Y-361.43・L.86.77	4.7×3.8×2.3 ／ 49	縄文	黒色頁岩	
石25	削器	H区X263.52・Y-361.48・L.86.32	6.2×3.9×1.3 ／ 30	旧石器	黒色頁岩	
石26	削器	H区X263.03・Y-361.25・L.86.58	6.4×3.95×1.2 ／ 40	旧石器	黒色頁岩	
石27	削器	H区X263.03・Y-360.67・L.86.57	6.1×4.9×1.4 ／ 30	旧石器	黒色頁岩	
石28	削器	H区X263.18・Y-361.72・L.86.65	10.45　4.8×2.4 ／ 97	旧石器	黒色頁岩	
石29	剥片	H区X262.6・Y-361.04・L.86.59	10.15　5.75×1.2 ／ 70	旧石器	黒色頁岩	
石30	削器	H区X262.04・Y-360.68・L.86.55	10.8×3.3×1.4 ／ 60	旧石器	黒色頁岩	
石31	剥片	H区X263.32・Y-361.13・L.86.62	9.65×3×1.4 ／ 45	旧石器	黒色頁岩	
石32	剥片	H区X263.95・Y-358.64・L.86.75	8.4×2.95×1.1 ／ 29	旧石器	黒色頁岩	
石33	剥片	H区X262.58・Y-362.72・L.86.55	8×3.2×1.2 ／ 39	旧石器	黒色頁岩	
石34	削器	H区X265・Y-359.38・L.86.66	8.9×2.85×1 ／ 49	旧石器	黒色頁岩	
石35	削器	H区X258.2・Y-362.3・L.86.36	7.1×3.2×0.8 ／ 21	旧石器	黒色頁岩	刃部一部欠損
石36	削器	H区X257.59・Y-362.15・L.86.55	7.35×2.7×1.2 ／ 25	旧石器	黒色頁岩	刃部一部欠損
石37	削器	H区X257.76・Y-362.1・L.86.51	7.3×2.15×0.9 ／ 17	旧石器	黒色頁岩	刃部一部欠損
石38	削器	H区X259.11・Y-362.48・L.86.37	7.4×2.45×0.8 ／ 13	旧石器	黒色頁岩	刃部一部欠損
石39	剥片	H区X260.94・Y-368.9・L.86.43	6.5×2.05×1.3 ／ 16	旧石器	黒色頁岩	刃部一部欠損
石40	石核		12.45×6.9×6.75 ／ 667	旧石器	チャート	
－１	剥片	H区X253.64・Y-364.51・L.86.05	10.4×6.7×3.1 ／ 238	旧石器	〃	
－２	剥片	H区X253.55・Y-364.71・L.85.99	9.3×6.3×6.4 ／ 233	旧石器	〃	
－３	剥片	H区X253.73・Y-365・L.86.22	5.6×3.1×2.8 ／ 50	旧石器	〃	
－４	剥片	H区X253.3・Y-365.32・L.86.2	5.4×3.5×1.8 ／ 25	旧石器	〃	
－５	剥片	H区X252.96・Y-365.05・L.86.1	3.6×2.8×0.9 ／ 11	旧石器	〃	
－６	剥片	H区X252.85・Y-355.03・L.86.21	6×3.2×2.4 ／ 60	旧石器	〃	
－７	剥片	H区X252.64・Y-365.02・L.86.09	3.4×1.8×1.6 ／ 12	旧石器	〃	
－８	剥片	H区X256.8・Y-364.63・L.86.12	4.1×2.5×1.1 ／ 11	旧石器	〃	
－９	剥片	H区X253.34・Y-364.33・L.86.04	3.6×2.4×1.1 ／ 11	旧石器	〃	
－10	剥片	H区X251.96・Y-364.82・L.86.08	1.7×1.4×0.5 ／ 4	旧石器	〃	
－11	剥片	H区X252.39・Y-363.68・L.86.17	3.6×2.3×0.9 ／ 11	旧石器	〃	
－12	剥片	H区X252.86・Y-365・L.86.17	2.1×0.8×0.5 ／ 1	旧石器	〃	
石41	石鏃	H区X250・Y-365Gr.	2.7×1.6×0.2 ／ 2	縄文	チャート	
石42	削器	I区縄文包含層	6×3.8×0.9 ／ 16	縄文	黒色頁岩	
石43	剥片	I区表土	2.7×1.8×0.6 ／ 3	旧石器	黒色頁岩	
石44	石鏃	I区表土	1.5×1.3×0.4 ／ 1	縄文	チャート	

本遺跡出土の石器　本遺跡では、A区から８点、C区から１点、D区から５点、F区から１点、G区から４点、H区から22点、Ｉ区から３点の、合計44点の石器が出土している。縄文時代の石器が24点、旧石器が20点である。本遺跡出土の石器は、縄文時代・旧石器を問わず、黒色頁岩製のものが大半を占めている。

縄文時代の石器　これらのうちA・C・D・F・G区から出土した石器はいずれも縄文時代の石器である。中でもF区のローム層上面から出土した有舌尖頭器は、特筆すべき資料である。

A・C・D・F・G区出土の縄文時代石器の内、C区出土の石匙９及びF区出土の草創期有舌尖頭器15以外は、いずれも後世の遺構の埋土や表土中からの出土であり、遺構に伴って出土したものではない。

C区26トレンチから出土した石匙９は、浅間板鼻軽石層（As-BP.）を含むローム層中からの出土であるが、形態的には縄文時代の石器と考えられる。

これらの他、H区から縄文時代の石核が１点（20）、石斧が１点（24）、石鏃が１点（41）、Ｉ区から石鏃が１点（44）出土している。

本遺跡出土の縄文時代石器に類似した石斧や石鏃は、隣接する北関東自動車道調査区からも数点出土している（「第５章縄文時代」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団編『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第308集　北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第17集　光仙房遺跡　集落編』 2003 、日本道路公団・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）。

旧石器　旧石器は、H区から19点とＩ区から１点が出土している。Ｉ区出土の旧石器は表土中から出土したものであり、層位に伴う資料は、H区出土の19点のみである。

H区出土の旧石器は、浅間大窪沢第１軽石（As-OP.1）を含むローム層中からの出土で、南北２ブロックが検出された。南ブロックからは、チャート石核の接合資料40が出土しているが、この一連の接合資料中に製品（石器）は含まれていない。文化層は単一であると考えられる。浅間大窪沢第１軽石を含む層中からの出土であることから、同火山灰の降下よりは新しい年代である。

隣接する北関東自動車道調査区からは、第１文化層として、浅間大窪沢第１軽石（As-OP.1）を混入するローム層の上位からいずれも黒色頁岩による細石刃核１点、二次加工のある剥片１点、縦長剥片が２点の計４点が出土している（「第６章旧石器時代」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団編『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第308集　北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第17集　光仙房遺跡　集落編』 2003 、日本道路公団・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）。層位的にみて、本調査区H区出土の旧石器19点に相当する時代の資料と考えられる。北関東自動車道調査区第１文化層出土の４点の旧石器には、「ホロカ型」細石刃核が存在し、細石刃石器群に位置づけられるという。

また、北関東自動車道調査区では、第２文化層として浅間大窪沢第１軽石（As-OP.1）を混入するローム層の下位から浅間板鼻褐色軽石（As-BP）が混入するローム層にかけて、２つのブロックに分かれて193点の石器が出土している。内訳は、尖頭器２点、彫刻刀形石器５点（接合後４点）、エンドスクレイパー３点、二次加工のある剥片９点（接合後８点）、微細剥離痕のある剥片１点、剥片33点、砕片８点、石核２点、礫130点である。石材は、礫では粗粒輝石安山岩が多く、それ以外では黒色安山岩が多いということで、本調査区出土の資料や、それと同じグループである北関東自動車道調査区検出の上位第１文化層出土の資料とは様相が異なっている。これら第２文化層は、槍先形尖頭器石器群に位置づけられるという。

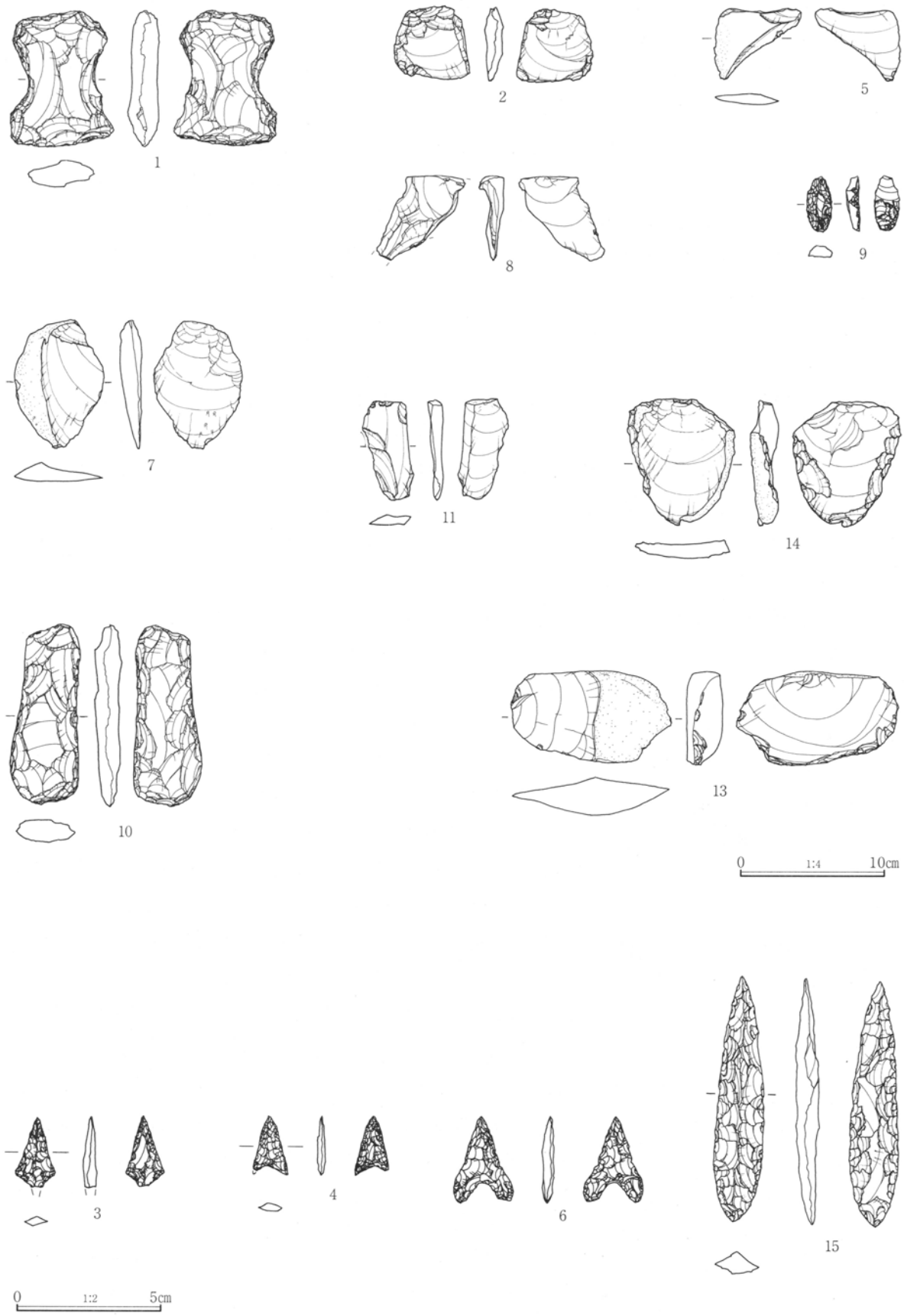


図116　出土石器（1）

図117　出土石器（2）

図118　出土石器（３）

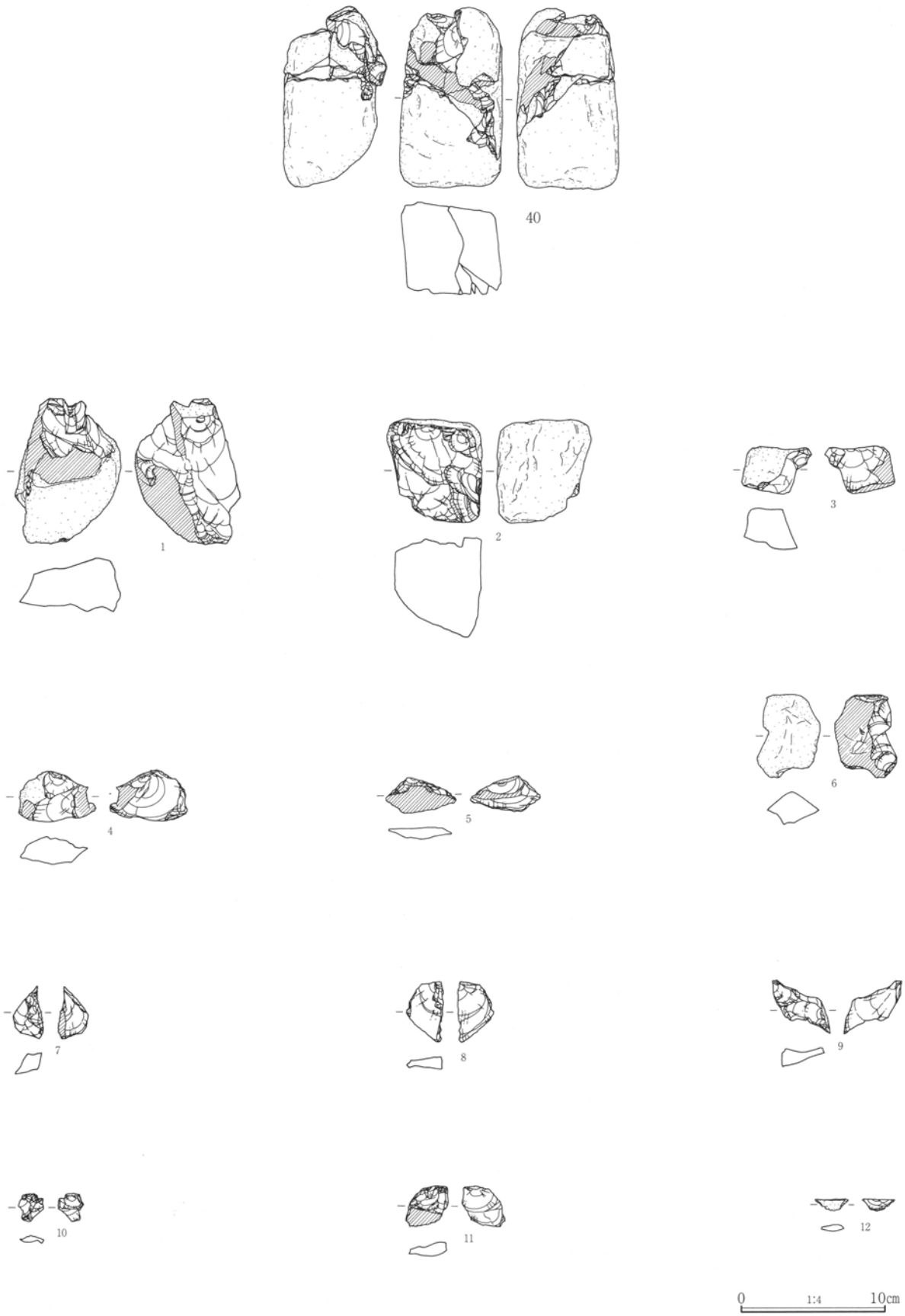


図119　出土石器（4）

まとめ

本遺跡の本事業対象地では６基の古墳が検出された。

昭和58年（1983）５月から翌59年（1984）10月まで実施された本遺跡の上武道路調査箇所では、下表の通り、現・伊勢崎・大間々線の西側から４基、東側から６基の計10基の古墳が検出されている。

墳　名	外　径	主　体　部	墳形	備　　考
１号墳	不　明	輝石安山岩川原石乱石積両袖式胴張横穴式	円墳	県道東。径2.9mの前庭。玄室内より鉄釘20点出土。
２号墳	11m	輝石安山岩割石箱式棺状竪穴式石室	円墳	県道西。玄室内より鉄鏃９点、周溝埋土中より土師器杯３点（６世紀前半）出土。
３号墳	14.5m	輝石安山岩割石箱式棺状竪穴式石室	円墳	県道西。石室天井石上面より鉄鎌出土。
４号墳	７m	輝石安山岩割石箱式棺状竪穴式石室	円墳	県道西。未盗掘墳ながら出土遺物なし。
５号墳	不明	未検出	不明	県道西。周溝のごく一部が検出されたのみ。
６号墳	不明	輝石安山岩川原石乱石積両袖式横穴式	不明	県道東。主体部底部のみ検出。周溝埋土中からは平安時代土器のみ出土。
７号墳	20m	未検出	円墳	県道東。後世の上面削平が著しく、抉状周溝のみ検出。周溝埋土中からは平安時代土器のみ出土。
８号墳	不明	川原石乱石積両袖式横穴式石室	円墳	県道東。後世の上面削平が著しく、弧状の周溝の一部と前庭及び羨道の一部のみ検出。周溝埋土中からは平安時代土器のみ出土。
９号墳	不明	未検出	不明	県道東。周溝の一部のみ検出。周溝埋土中からは平安時代土器のみ出土。
10号墳	不明	輝石安山岩割石・川原石箱式棺状竪穴式石室	不明	主体部底面の残骸のみ検出。

表２　本遺跡上武道路調査箇所検出古墳一覧表（当事業団報告書第80集『上植木光仙房遺跡』1988より）

いずれも円墳で、墳丘の封土は完全に削平されていたが、主体部の一部や痕跡を調査できた古墳が７基あり、それらはいずれも輝石安山岩の川原石や割石を用いた横穴式石室か箱式棺状竪穴式石室である。また、これらの古墳には、いずれにも墳丘部の葺石や埴輪等は認められなかった。Ａ区１号墳にも葺石や埴輪は全く認められないので、時期的にこれらの古墳に近いものと考えられる。

また、平成９年（1997）４月から平成11年（1999）10月にかけて実施された北関東自動車道調査区の調査では、下表の通り、現・伊勢崎・大間々線の東側と西側で１基づつ計２基の古墳が検出されている。

Ａ１号墳では埋土中から埴輪片が出土しているが、Ｂ１号墳からは埴輪は全く出土していない。遺物の年代からみてＢ１号墳はかなり終末期の新しい時期の古墳であると考えられる。

墳　名	外　径	主　体　部	墳形	備　　考
A1号墳	45m	石が一切残存しておらず不明	円墳か	県道西。周溝の南約半分弱が検出。玄室跡より耳環２点出土。周溝等埋土中より円筒埴輪片45点、形象埴輪片７点、古墳時代後期土師器２点（６世紀後半）、平安時代土器出土。
B1号墳	25m	未検出	円墳か	県道東。周溝の東約半分が検出。埋土中より須恵器大甕、土師器杯（７世紀後半～８世紀初頭頃）３点、平安時代土器出土。

表３　本遺跡北関東自動車道調査箇所検出古墳一覧表（当事業団報告書第308集『光仙房遺跡』2003より）

このような周辺での調査成果を勘案すると、本遺跡の伊勢崎・大間々線調査区で検出された古墳の年代も、周辺における古墳と同様、６世紀前半～７世紀初頭の年代を想定することが出来そうである。

今回の、伊勢崎大間々線調査区で検出された６基の古墳のうち、Ｇ区で検出されたＧ４号古墳が、北関東自動車道調査区で検出されたＡ１号の続きの部分であるほかは、いずれも本遺跡の中でははじめて調査された古墳である。

今回の調査で検出された６基の古墳を表にまとめると下記の通りである。

墳　名	外　径	主　体　部	墳形	備　　考
Ａ区 １号墳	11.9m	未検出	円墳	周溝の掘削単位痕跡が顕著。埴輪なし。
Ｃ区 ３号墳	不明	未検出	不明	周溝の東の弧の一部が検出されたのみ。埴輪なし。
Ｅ・Ｆ区 ２号墳	後円部 47m	未検出	前方後円墳	『上毛古墳綜覧』所載「殖蓮村62号墳」。 周溝埋土中埴輪片、６世紀後半～末の土師器杯出土。
Ｇ区 ４号墳	不明	未検出	不明	北関東自動車道調査区A1号古墳の続き。周溝埋土中埴輪片少量出土。６世紀後半。
Ｉ区 ５号墳	不明	未検出	不明	周溝のごく一部が検出されたのみ。埴輪なし。
Ｉ区 ６号墳	20.5m	輝石安山岩川原石乱石積両袖式横穴式石室	円墳	前庭部より７世紀前半～８世紀前半の土師器杯５点出土。古墳の年代は７世紀後半か。

表４　本遺跡伊勢崎大間々線調査箇所検出古墳一覧表

今回、伊勢崎・大間々線調査箇所において検出された古墳は、主体部が検出できたものは僅かに１基に過ぎず、墳形が明確に出来たものもＡ区１号墳とＩ区６号墳のみであり、道路拡幅内での調査という調査範囲がごく限定されたなかでは、古墳の全容が解明できるような調査は、元来が望むべくもないことである。全体的にみれば、後期から埴輪を使用しなくなった終末期に近い時期の古墳であり、これまで本遺跡でたびたび調査されてきた古墳の傾向から外れることはない。

前述したように粕川左岸の段丘上に展開する本関町古墳群の一画を形成していたものと考えられる。これまで確認されていた本関町古墳群最北の古墳は、今回の調査のＥ区・Ｆ区において後円部の周溝の一部が調査されたＥ・Ｆ区２号墳すなわち『上毛古墳綜覧』所載の「殖蓮村62号墳」と称される前方後円墳と考えられてきた。昭和23年（1948）米軍撮影の写真では、粕川左岸の耕地帯に、古墳痕跡のソイルマークを点々と確認することが可能であり、最近刊行された本遺跡に隣接する三和工業団地遺跡の発掘調査報告書（伊勢崎市教育委員会『三和工業団地Ⅳ遺跡－三和工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2004）でも、同写真を用いた本関町古墳群分布様態の分析がなされている。その写真によっても、殖蓮村62号墳以北の古墳の痕跡は大変に読み取りにくい。

今回検出されたＡ区１号墳は、その殖蓮村62号墳よりも、さらに北に200m上がった位置に存在している。本関町古墳群の範囲は、これまで考えられていたよりもさらに北に展開していたことが判明したのであり、この地域における古墳群の動態を考えていく上で大きな成果であったと言えよう。

すでに本遺跡の上武道路建設に伴う調査成果をまとめた『上植木光仙房遺跡』（当事業団、1988）や北関東自動車道建設に伴う調査成果をまとめた『光仙房遺跡（集落編）』（当事業団、2003）などの報告書でも言及されているように、古墳時代後期の集落は、古墳がまとまって検出されている今次調査区を中心とする本遺跡西部では検出されておらず、今回の調査によっても、墓域と居住域の別が、より明確になったわけである。

なお、Ｅ・Ｆ区２号墳では周溝埋土中から８世紀初頭～前半の土師器杯が２点、Ｉ区６号墳前庭部からは、７世紀前半の土師器杯が２点、７世紀後半の土師器杯が２点、８世紀前半の土師器杯が１点が、それぞれ出土している。Ｉ区６号墳前庭部出土の７世紀前半代の土師器杯はともかくも、それ以外の７世紀後半から８世紀にかけての土器は、墓前祭祀など、古墳築造後の世代による所為が存在したことを想定させる。

これらの古墳群からは約200～250年近く後のことになるが、Ｅ区及びＩ区において９世紀中葉から10世紀初頭頃と考えられる墓壙跡が検出されている。Ｅ区で検出された１号墓壙跡とＩ区で検出された２号墓壙跡とでは、出土土器の年代観からみて数十年分のひらきが存在するように見受けられるが、長円形状の墓壙の北側に寄った位置に、土師器杯が２点、東西に正位で並べて置かれたスタイルは、全く共通しており、さらにそのうちの東側に置かれた土師器杯には、ともに文字が記されている点まで共通している。もちろん、それぞれの土器に記されている文字の内容や文字記入の位置は異なり、また、Ｅ区１号墓壙跡出土の土器は墨書、Ｉ区２号墓壙跡出土の土器は刻書と、記入方法も異なっているが、共通する葬送儀礼方式のもとに行われたものと考えられる。

本遺跡のこれまでの調査では、古墳時代以降の古代の墓跡は全く検出されていなかった。少なくとも８世紀代までは行われていたと考えられるＥ・Ｆ区２号墳、Ｉ区６号墳における墓前祭祀・儀礼等の行為の存在を前提として考えるならば、これらの墓壙跡の存在も、そうした前代以来の墓域の継承と言う面から論じることが可能であるかもしれない。

また、前節で詳論したところであるので、ここでは改めて繰り返すことはしないが、本遺跡における他の事業に伴う調査区域において積み重ねられてきた旧石器の良好な資料群に、さらに今回の調査区域において出土した資料を加えることができたことも、旧石器時代遺跡の濃密な分布を呈する本遺跡及び周辺地域における新たな成果として特筆すべきであろう。

すでに第１章でも触れたように、本遺跡及び周辺では、昭和末期から平成16年度にかけて、上武道路、北関東自動車道、三和工業団地などの建設・造成に伴って約50万㎡に及ぶ面積が発掘調査され、広大な範囲が

面的に発掘調査され、各時代における人間の営みの軌跡が、広範囲にわたって明らかに出来た稀有な地域である。発掘調査の成果は、まず何よりも地域における歴史の解明と、そこから導かれるべき将来への活用に役立てられるべきものであり、そのような意味においては、本遺跡周辺地域は、その広大な調査範囲と膨大な調査成果によって、そのモデルケースとなるにふさわしいものと考えられる。

近年における周辺他遺跡における調査成果は、まだすべてが呈示されている訳ではないが、ここで報告した本遺跡本調査区域に関する調査成果も、周辺地域における膨大な調査成果と照合し、総合することによって、はじめて歴史的意義について解明でき、また活用の面でも同様に十分な成果が期待できることになろう。

報告書抄録

書名ふりがな	かみうえきこうせんぼういせき
書名	上植木光仙房遺跡
副書名	主要地方道伊勢崎大間々線単独特別道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	399
編著者名	高島英之
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20070331
作成法人ID	21005
郵便番号	377－8555
電話番号	0279－52－2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784－2
遺跡名ふりがな	かみうえきこうせんぼういせき
遺跡名	上植木光仙房遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんいせさきしさんわちょう
遺跡所在地	群馬県伊勢崎市三和町1417番地ほか
市町村コード	10204
遺跡番号	10005－00658
北緯（日本測地系）	362116
東経（日本測地系）	1391303
北緯（世界測地系）	362127
東経（世界測地系）	1391252
調査期間	20000101－20040930
調査面積	6452
調査原因	道路建設
種別	古墳・集落
主な時代	旧石器・古墳・奈良・平安・中世
遺跡概要	旧石器－旧石器、古墳－古墳－埴輪、奈良・平安－溝跡・土坑跡－土師器・須恵器、中世－竪穴建物跡、近世－溝跡・土坑跡－陶磁器
特記事項	本関町古墳群一角

A区全景（南より）

A区全景（北より）

A区北側全景（南より）

A区北側全景（北より）

A区１号墳全景（南より）

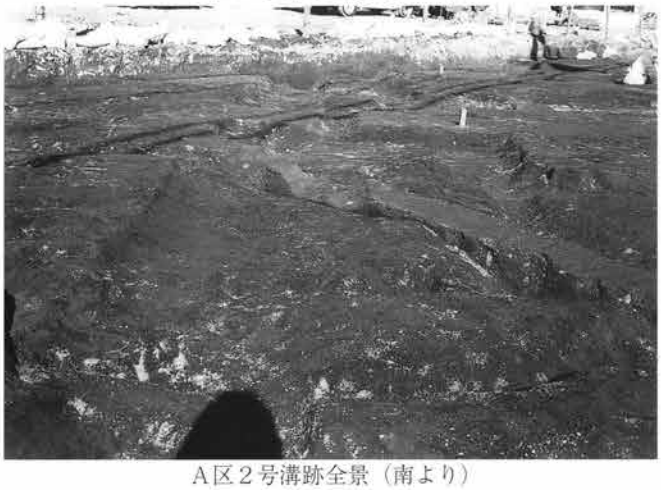
A区１号墳全景（北より）

A区１号墳周溝（北より）

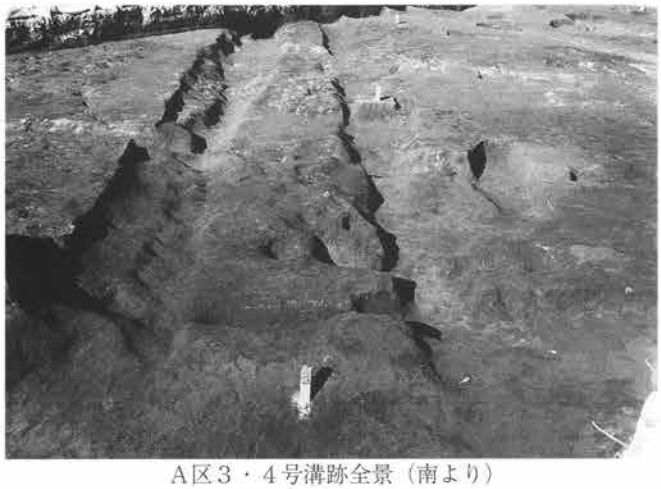
A区１号墳周溝（南より）

A区１号溝跡全景（東より）

A区１号溝跡全景（西より）



A区２号溝跡全景（南より）



A区３・４号溝跡全景（南より）

A区９号溝跡全景（東より）

A区10号溝跡全景（東より）

A区11号溝跡全景（西より）

A区12号溝跡全景（西より）

A区14～17号溝跡全景（南より）

A区18号溝跡全景（西より）

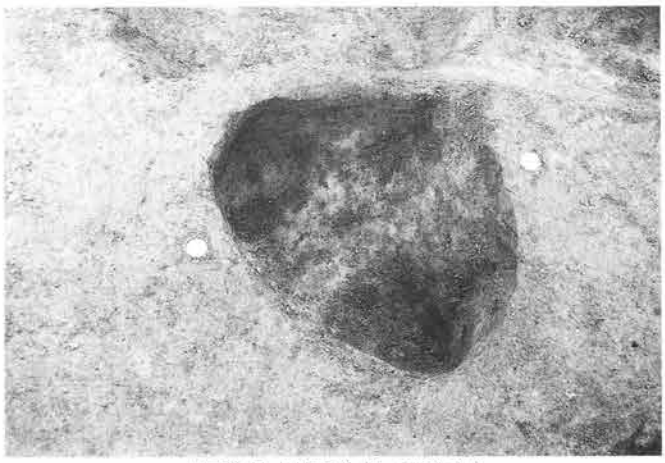
A区19号溝跡全景（東より）

A区20号溝跡全景（東より）

A区30号溝跡全景（北東より）

A区１号土坑跡全景（東より）

A区２号土坑跡全景（南西より）

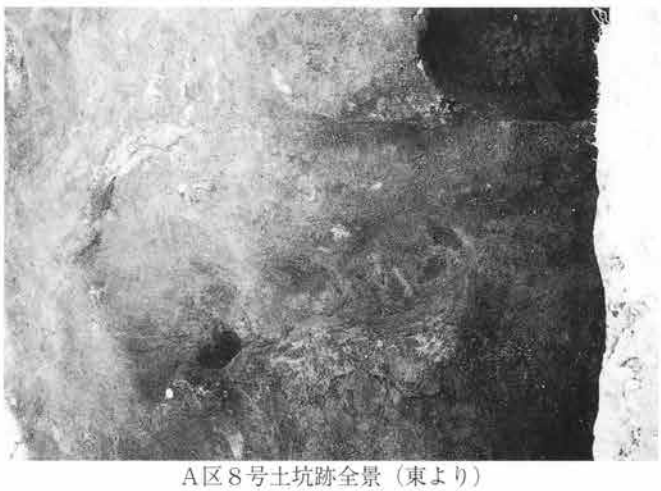


A区３号土坑跡全景（西より）

A区４号土坑跡全景（西より）

A区６号土坑跡全景（東より）

A区７号土坑跡全景（東より）

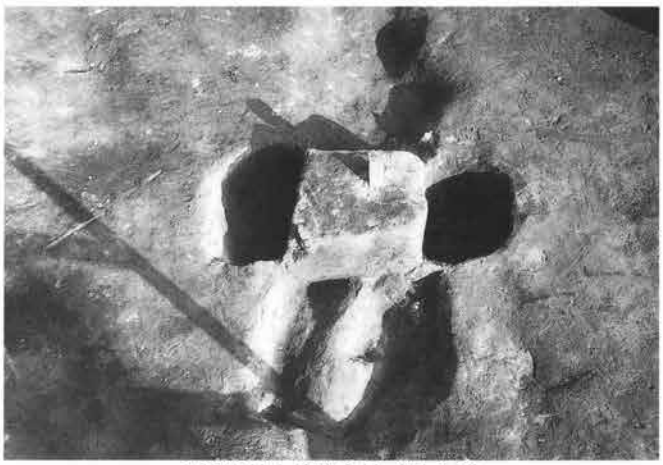


A区８号土坑跡全景（東より）

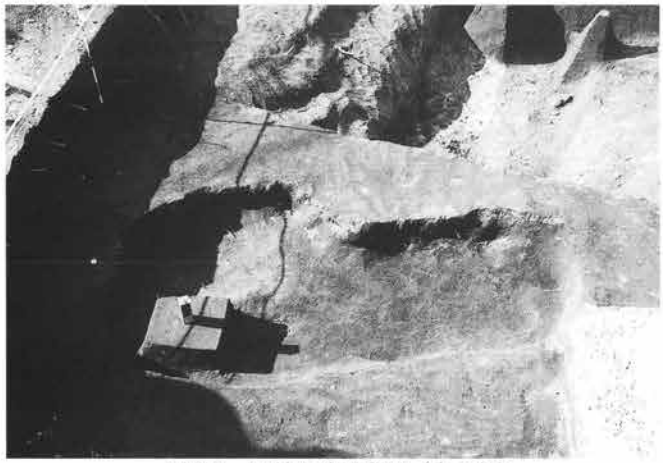
A区９号土坑跡全景（北より）

A区10号土坑跡全景（西より）

A区11号土坑跡全景（西より）



A区12号土坑跡全景（西より）



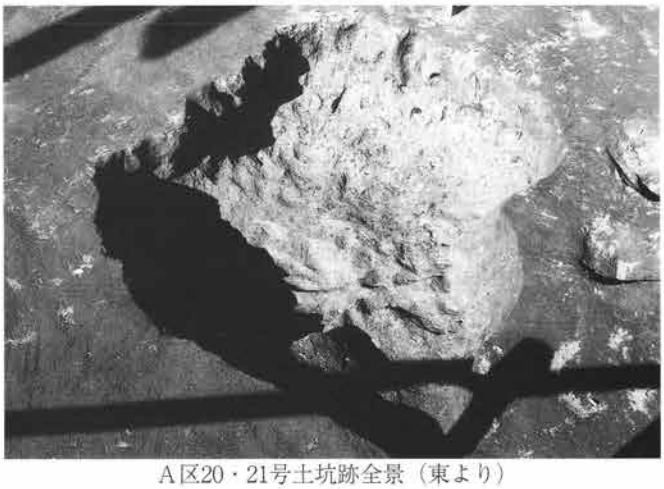
A区13・14号土坑跡全景（東より）

A区15号土坑跡全景（南より）

A区16号土坑跡全景（東より）

A区17号土坑跡全景（西より）

A区18・19号土坑跡全景（南より）



A区20・21号土坑跡全景（東より）

A区22号土坑跡全景（東より）

A区23号土坑跡全景（南西より）

A区24号土坑跡全景（北より）

B区最北端調査区全景（南より）

B区32・33号土坑跡全景（南より）

B区調査区全景（南より）

B区27号溝跡全景（東より）

B区28号溝跡全景（東より）

B区29号溝跡全景（南より）

B区29号溝跡全景（北より）

B区36号土坑跡全景（東より）

B区調査区全景（北より）

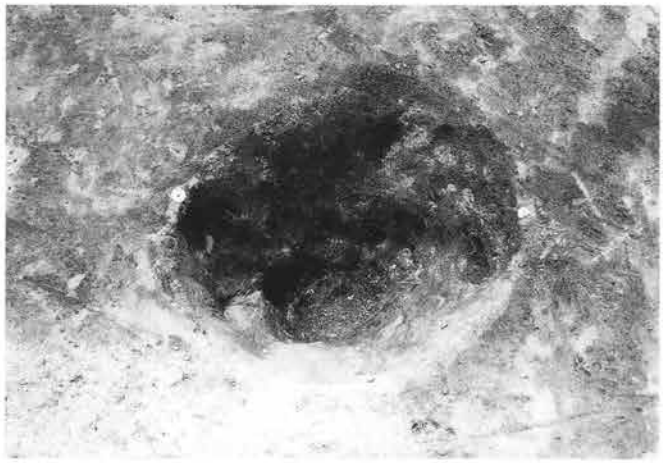
B区調査区全景（南より）

B区31号溝跡全景（西より）

B区32号溝跡全景（西より）

B区33号溝跡全景（西より）

B区34・35号土坑跡全景（南より）

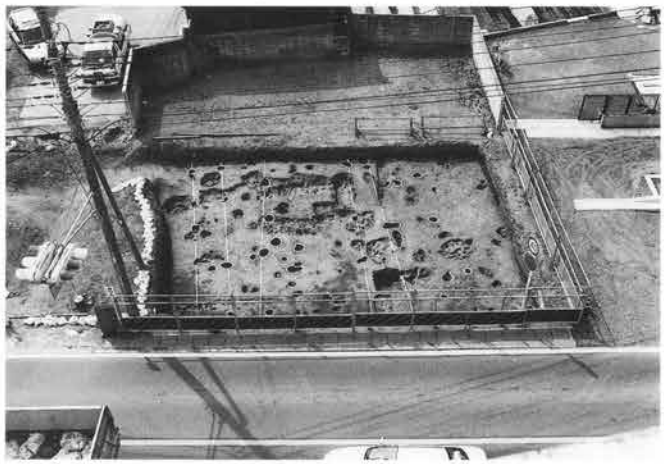


B区37号土坑跡全景（北より）

B区38号土坑跡全景（東より）

B区39号土坑跡全景（南より）

C区最南端調査区全景（東より）



C区調査区全景（東より）

C区調査区全景（西より）

C区調査区全景（北より）

C区１～３号竪穴建物跡全景（南より）

C区１～３号竪穴建物跡堀方全景（南より）

C区１号竪穴建物跡全景（南より）

C区１号竪穴建物跡堀方全景（北より）

C区１号竪穴建物跡南北土層断面（西より）

C区１号竪穴建物跡中心礎石状石検出状況（南より）

C区２号竪穴建物跡全景（南より）

C区２号竪穴建物跡堀方全景（北より）

C区２号竪穴建物跡東西土層断面（南より）

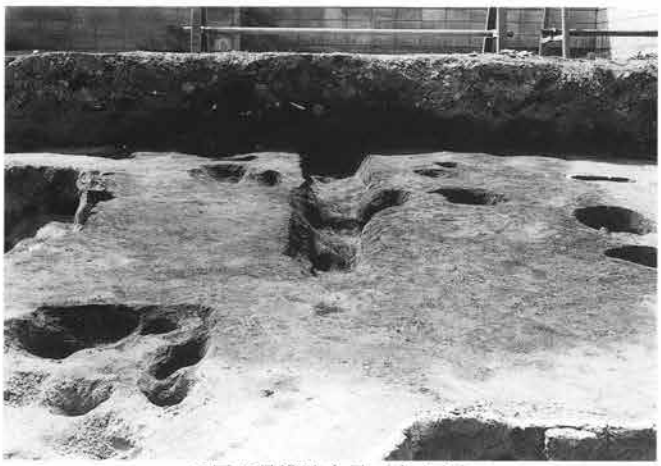
C区２号竪穴建物跡南北土層断面（西より）

C区２号竪穴建物跡堀方全景（北より）

C区３号竪穴建物跡全景（南より）

C区３号竪穴建物跡全景（北より）

C区３号竪穴建物跡堀方全景（南より）



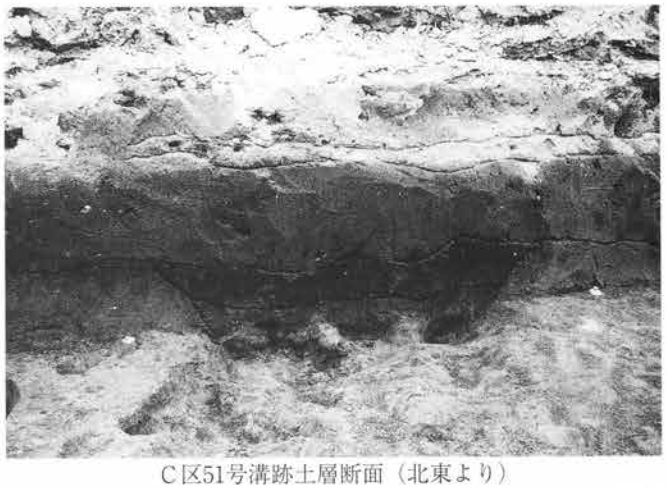
C区49号溝跡全景（東より）

C区49号溝跡土層断面（東より）

C区50号溝跡全景（北より）

C区50号溝跡土層断面（北より）

C区51号溝跡全景（北東より）



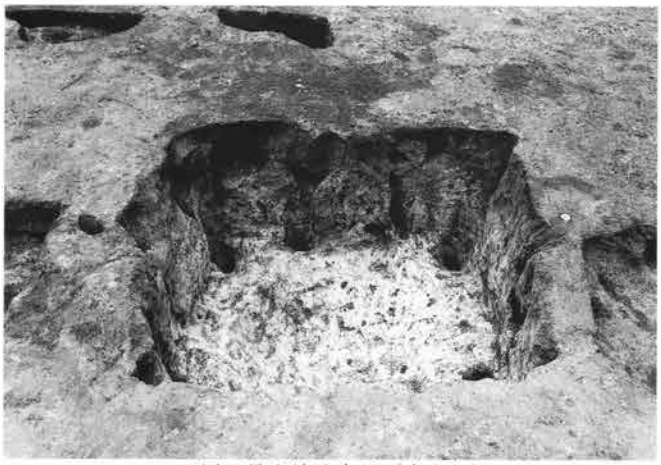
C区51号溝跡土層断面（北東より）

C区56号溝跡全景（北西より）

C区56号溝跡全景（北西より）

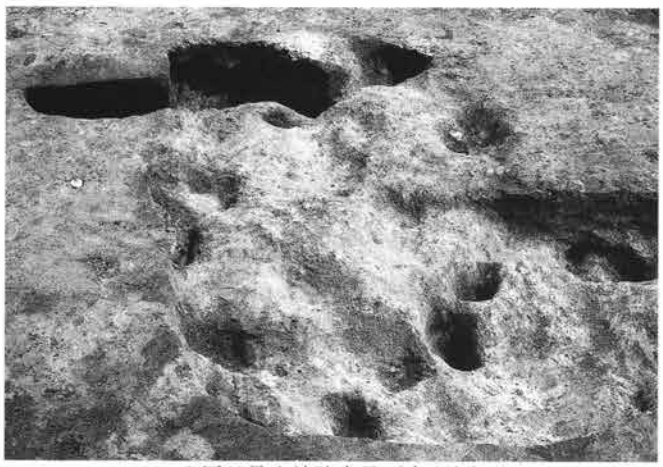
C区３号井戸跡全景（東より）

C区61～63号土坑跡全景（西より）

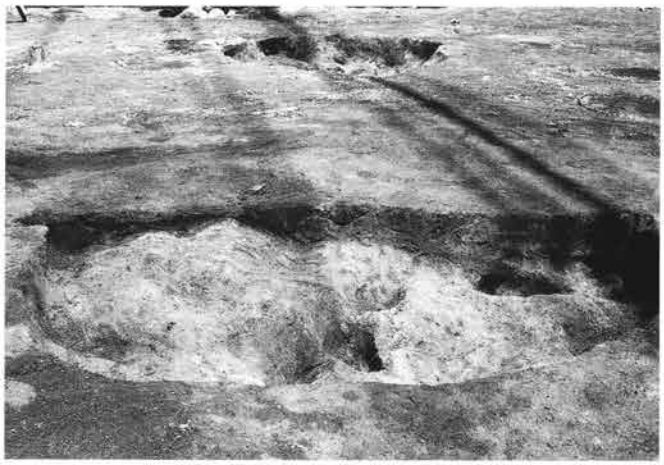


C区59号土坑跡全景（南より）

C区59号土坑跡土層断面（南より）

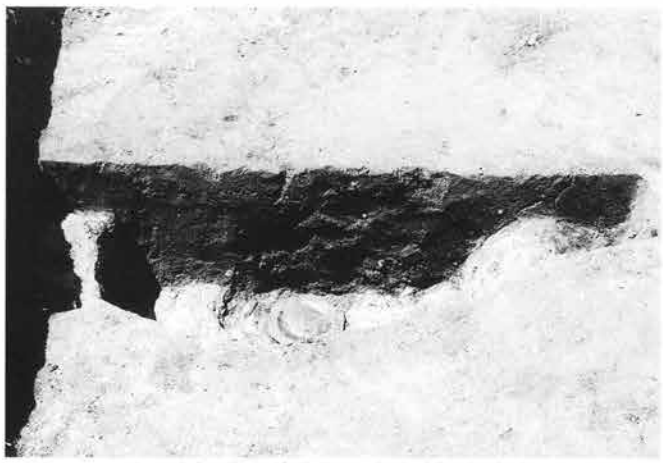


C区60号土坑跡全景（南より）



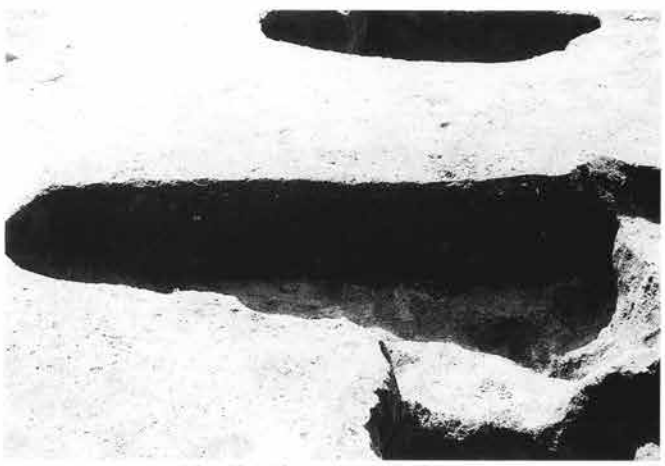
C区60号土坑跡土層断面（南より）

C区61号土坑跡全景（西より）



C区61号土坑跡土層断面（東より）

C区62号土坑跡土層断面（東より）



C区63号土坑跡土層断面（東より）

C区64～66号土坑跡全景（西より）

C区64号土坑跡土層断面（西より）

C区65号土坑跡土層断面（西より）

C区66号土坑跡土層断面（南より）

C区67号土坑跡土層断面（西より）

C区77号土坑跡全景（北西より）

C区77号土坑跡土層断面（東より）

C区78号土坑跡全景（東より）

C区78号土坑跡土層断面（東より）

C区79号土坑跡全景（北より）

C区79号土坑跡土層断面（東より）

C区80号土坑跡土層断面（東より）

C区82号土坑跡全景（東より）

C区81号土坑跡全景（東より）

C区81号土坑跡土層断面（東より）

C区83号土坑跡全景（東より）

C区83号土坑跡土層断面（北より）

C区84号土坑跡土層断面（東より）

C区85号土坑跡全景（東より）

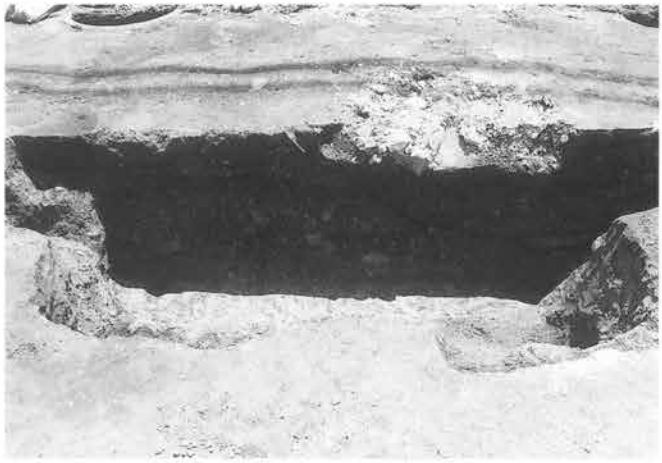
C区86号土坑跡全景（東より）

C区87号土坑跡全景（東より）

C区88・90号土坑跡全景（東より）

C区88・90号土坑跡全景（北より）

C区88・90号土坑跡土層断面（西より）



C区88・90号土坑跡土層断面（西より）

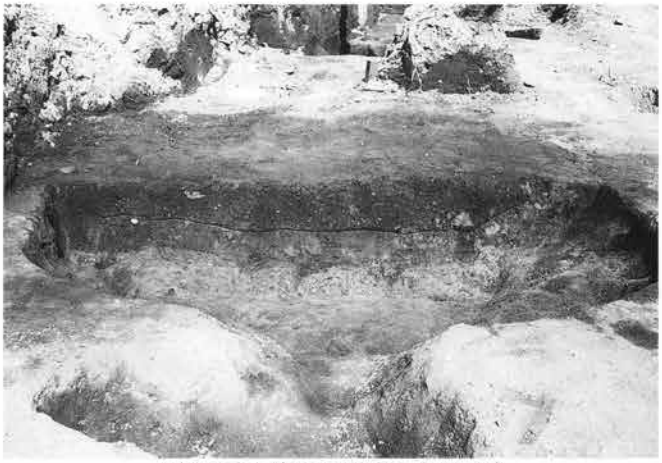
C区91号土坑跡土層断面（北東より）

C区92号土坑跡・56号溝跡土層断面（東より）

C区93号土坑跡全景（西より）

C区93号土坑跡土層断面（西より）

C区94号土坑跡全景（南より）

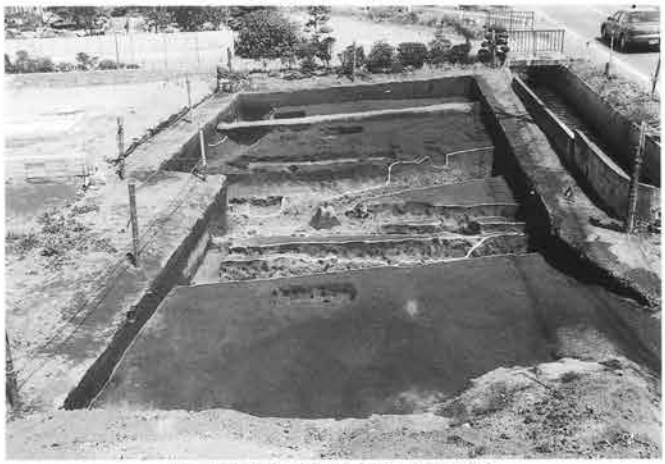


C区94号土坑跡土層断面（西より）

C区95号土坑跡全景（北西より）

C区96号土坑跡全景（東より）

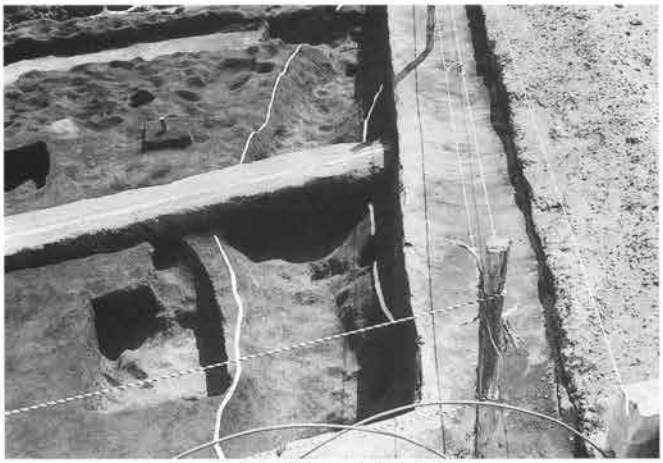
C区96号土坑跡土層断面（東より）



C区最北端調査区全景（南より）

C区最北端調査区全景（南より）

C区３号墳全景（東より）

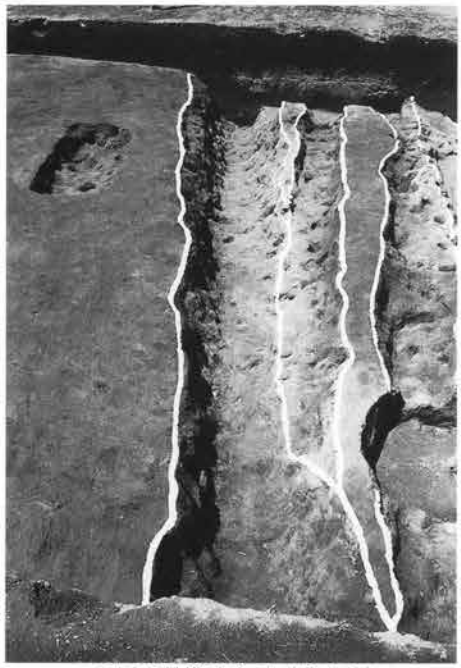


C区３号墳全景（北より）

C区39～43号溝跡全景（西より）

C区39号溝跡全景（東より）

C区40号溝跡全景（東より）



C区43号溝跡全景（東より）

C区旧石器試掘坑東壁土層断面（西より）

C区旧石器試掘坑石器出土状況（南より）

C区旧石器試掘坑石器出土状況（南より）

C区旧石器試掘坑石器出土状況（南より）

D区全景（北より）

D区全景（南より）

D区最北端調査区全景（北より）

D区４号竪穴建物跡全景（西より）

D区４号竪穴建物跡土層断面・46号溝跡（東より）

D区４号竪穴建物跡土層断面・46号溝跡（西より）

D区47号溝跡東壁土層断面（西より）

D区47号溝跡全景（東より）

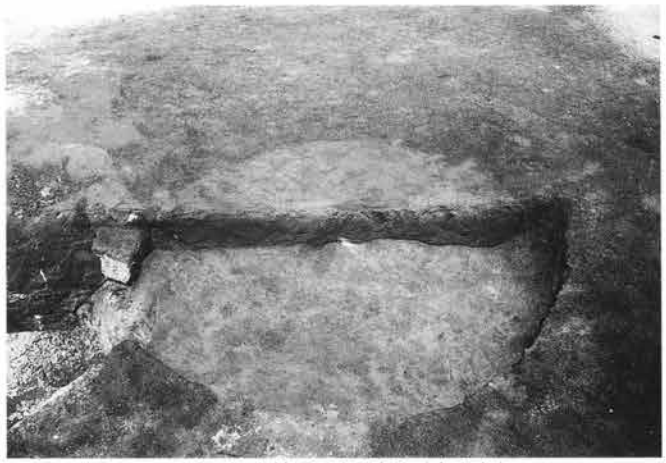
D区２号井戸跡（東より）

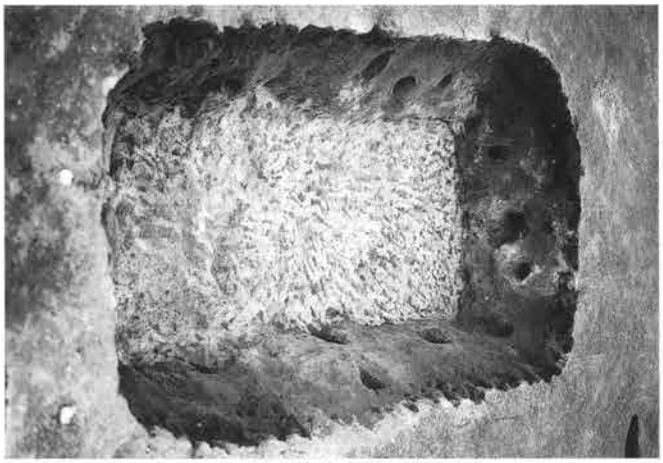
D区47号溝跡柱穴列（東より）

D区２号井戸跡全景（東より）

D区46号土坑跡全景（東より）

D区47号土坑跡全景（南より）

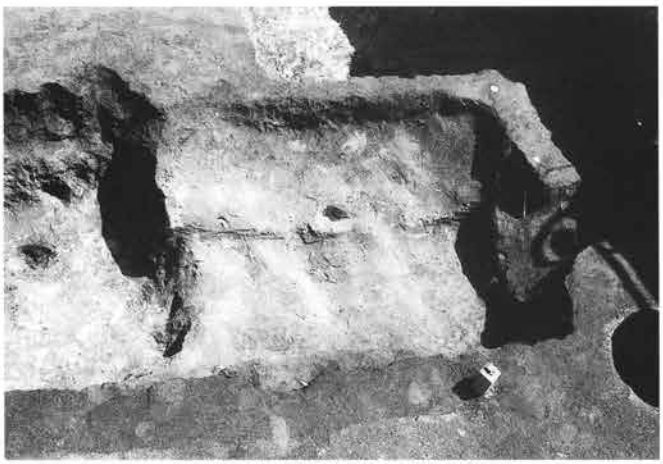

D区47号土坑跡土層断面（南より）

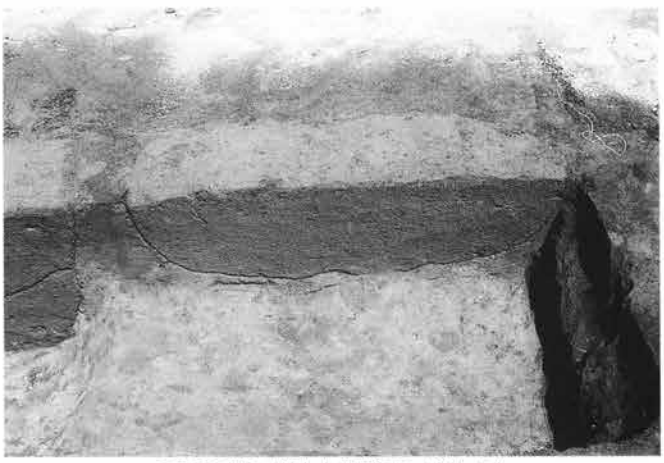

D区48号土坑跡全景（東より）

D区48号土坑跡土層断面（東より）

D区49号土坑跡全景（南より）

D区49号土坑跡土層断面（南より）


D区50号土坑跡全景（南より）


D区50号土坑跡土層断面（南より）

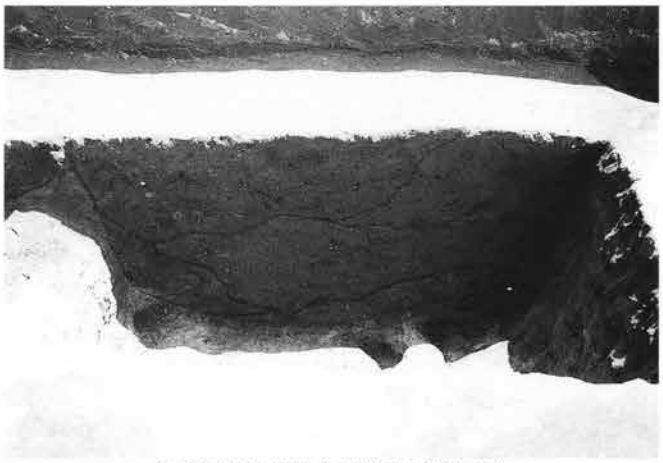
D区51号土坑跡全景（南より）

D区52号土坑跡土層断面（南より）

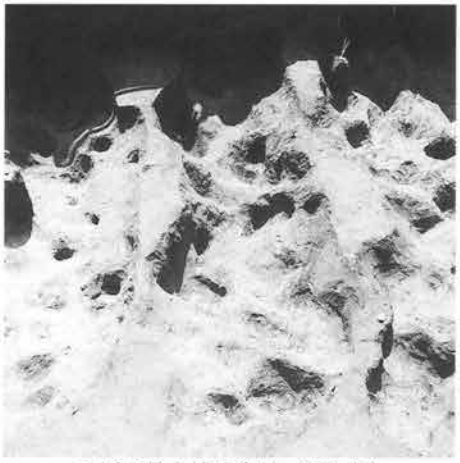
D区52号土坑跡全景（南東より）

D区53号土坑跡全景（西より）

D区54号土坑跡全景（西より）

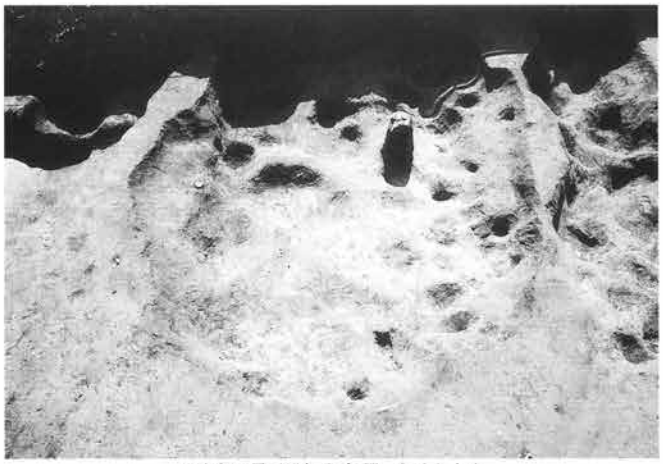


D区54号土坑跡土層断面（西より）

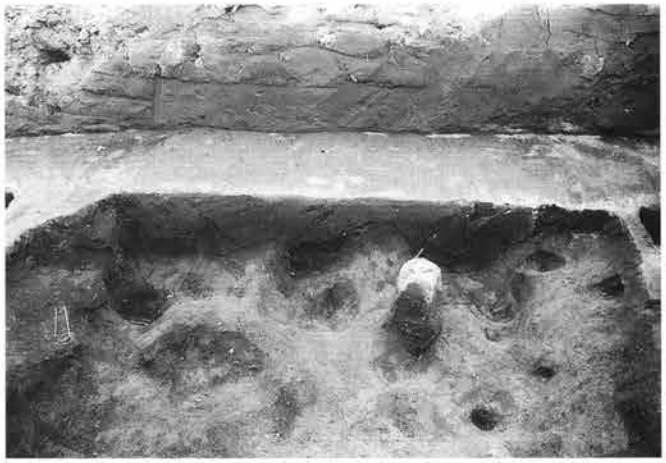


D区56号土坑跡全景（西より）

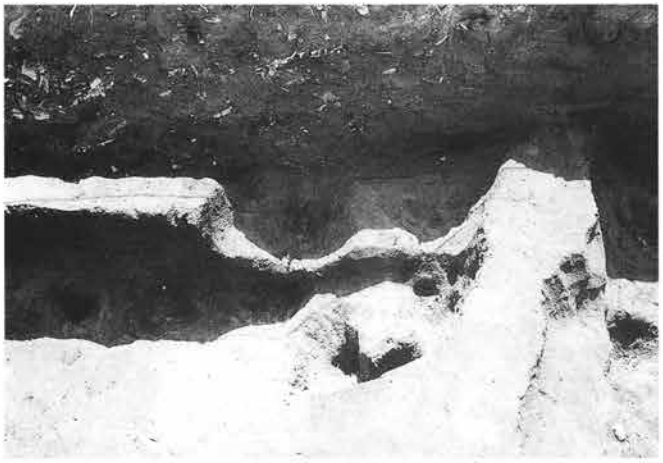
D区56号土坑跡土層断面（西より）



D区57号土坑跡全景（西より）



D区57号土坑跡土層断面（西より）



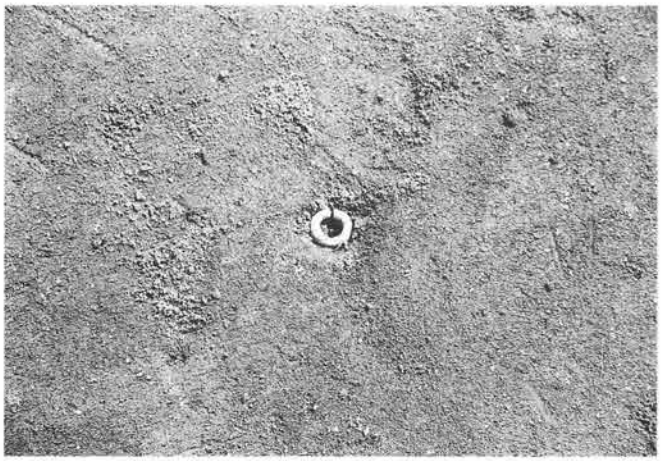
D区58号土坑跡全景（西より）

D区58号土坑跡土層断面（西より）

D区黒曜石出土状況

D区黒曜石出土状況

D区黒曜石出土状況



D区耳環出土状況

D区基本土層（西より）

D区最南端調査区全景（南より）

D区最南端調査区全景（北より）

D区最南端調査区北側（南より）

D区36号溝跡全景（東より）

D区36号溝跡土層断面（西より）

D区37号溝跡全景（東より）

D区38号溝跡全景（東より）

D区38号溝跡土層断面（東より）

D区中央調査区全景（南より）

D区40号土坑跡全景（南より）

E区最南端調査区全景（南より）

E区全景（東より）

E区最北端調査区全景（東より）

E区２号墳周溝西壁土層断面A-A′（東より）

E区２号墳周溝土層断面B-B′（東より）

E区２号墳周溝土層断面C-C′（西より）

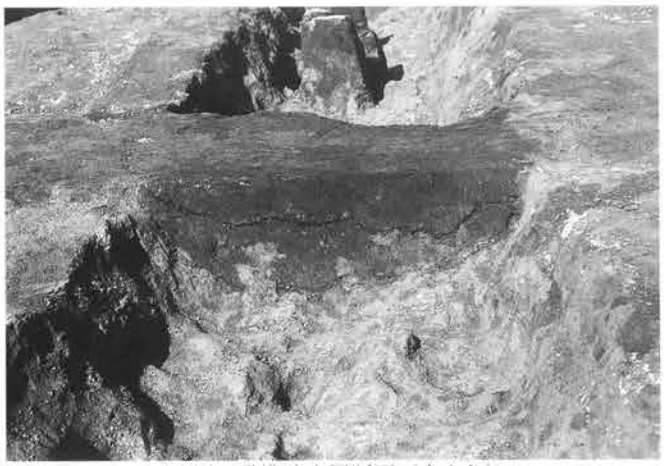
E区２号墳周溝北壁土層断面（南より）

E区２号墳周溝（西より）

E区２号墳周溝（北より）

E区２号墳周溝土層断面（西より）

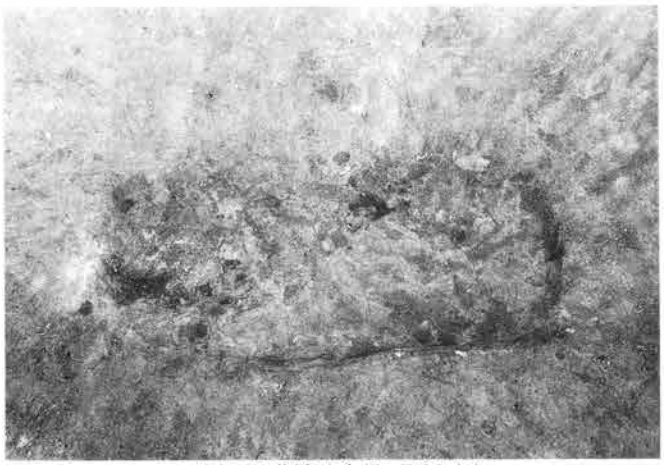
E区２号墳基底部土層（西より）

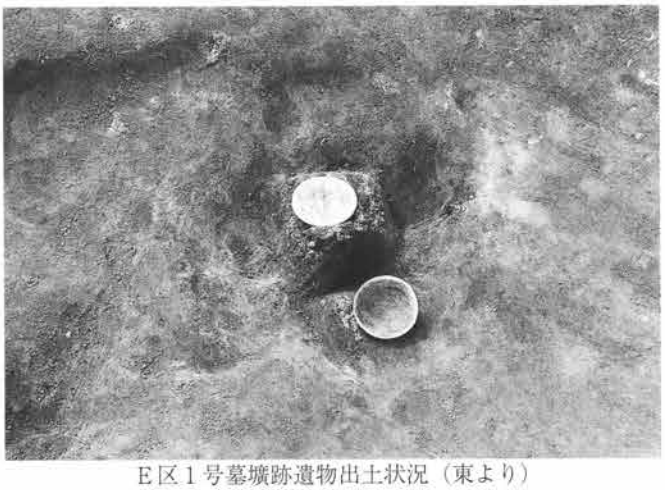

E区２号溝跡土層断面（南より）

E区２号溝跡土層断面（南より）

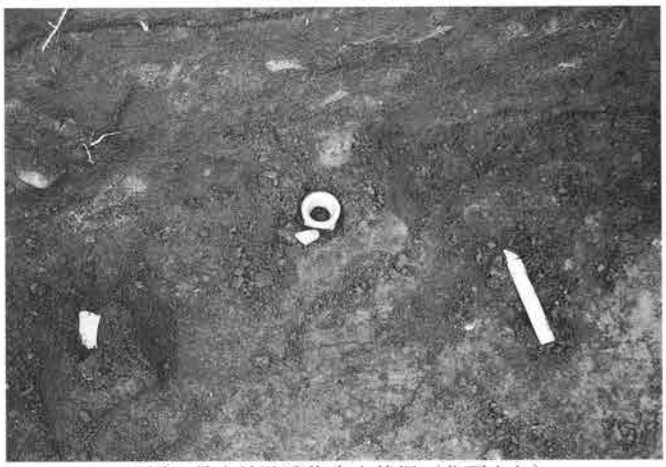
E区１・２号溝跡全景（南より）

E区１号墓壙跡土層断面（南西より）

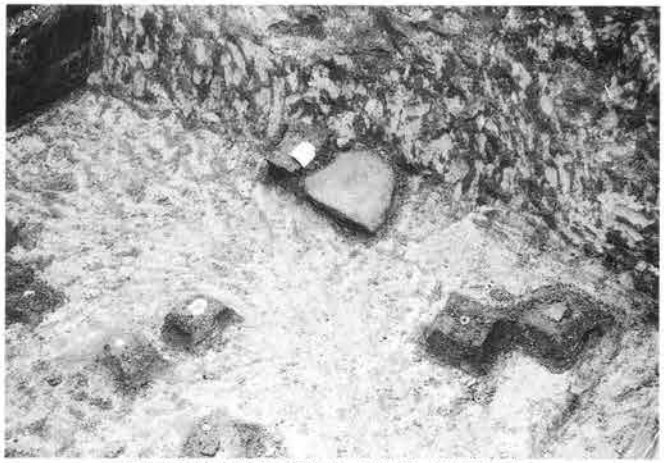

E区１号墓壙跡全景（西より）


E区１号墓壙跡遺物出土状況（東より）

E区 71号土坑跡南半（西より）


E区71号土坑跡遺物出土状況（北西より）

E区71号土坑跡遺物出土状況（南より）



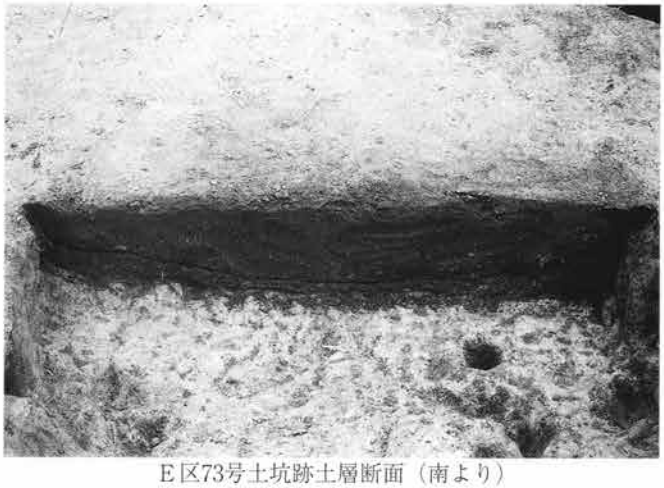
E区71号土坑跡遺物出土状況（北西より）

E区71号土坑跡遺物出土状況（南より）

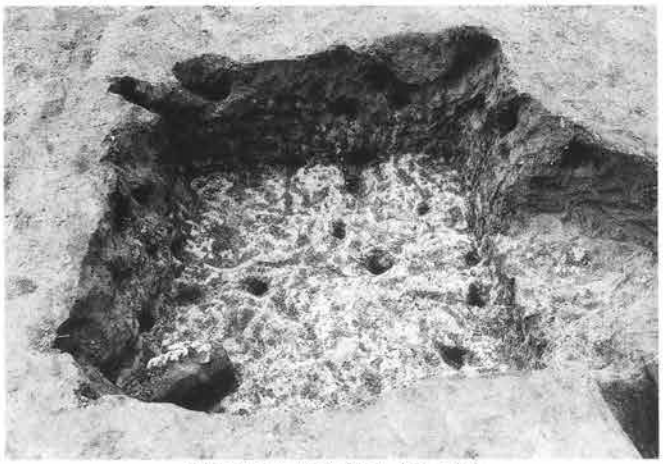
E区72号土坑跡土層断面（西より）

E区72号土坑跡全景（東より）

E区73号土坑跡全景（南より）



E区73号土坑跡土層断面（南より）



E区74号土坑跡全景（南より）

E区74号土坑跡土層断面（南より）

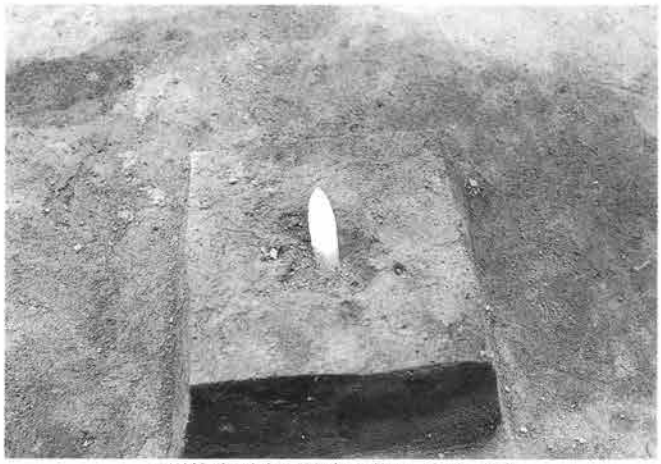
E区75号土坑跡土層断面（南より）

E区75号土坑跡全景（北より）

F区旧石器試掘坑全景（南より）

F区石器出土状況（北より）

F区槍先形尖頭器出土状況（東より）



F区槍先形尖頭器出土状況（北より）

F区最北端調査区全景（南より）

F区23・24号溝跡全景（南より）

F区21号溝跡全景（西より）

F区25号土坑跡全景（北より）

F区26号土坑跡全景（南より）

F区調査区全景（南より）

F区２号墳南北土層断面（東より）

F区26号溝跡全景（西より）

F区26号溝跡全景（西より）

F区２号墳周溝状況（西より）

F区27号土坑跡全景（南より）

F区28号土坑跡全景（南より）

F区29号土坑跡全景（南より）

F区最南端調査区全景（北より）

F区25号溝跡全景（南より）

F区30号土坑跡全景（西より）

F区31号土坑跡全景（南より）

F区調査区全景（南より）

F区２号墳周溝全景（北より）

F区２号墳周溝内遺物出土状況（南より）

F区２号墳周溝内出土遺物状況

G区北側調査区全景（南より）

G区４号墳周溝全景（南より）

G区４号墳周溝（南東より）

G区４号墳周溝（北西より）

G区４号墳周溝（北より）

H区全景（南より）

H区全景（北より）

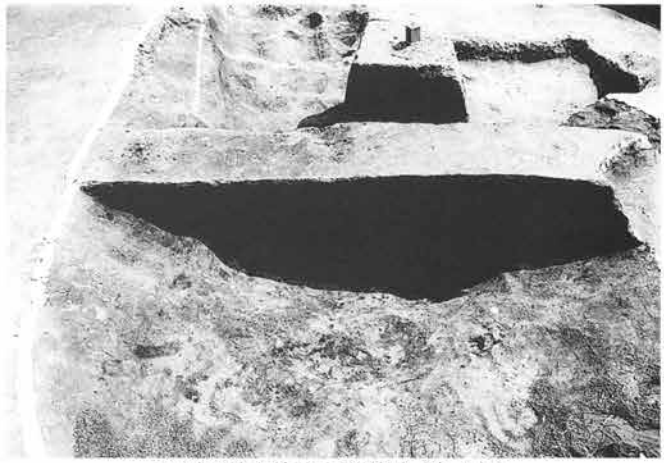
H区45号溝跡遺物出土状況（北より）

H区45号溝跡土層断面（南東より）

H区41号土坑跡全景（南より）

H区41号土坑跡土層断面（南より）

H区42号土坑跡全景（南より）



H区42号土坑跡土層断面（南より）

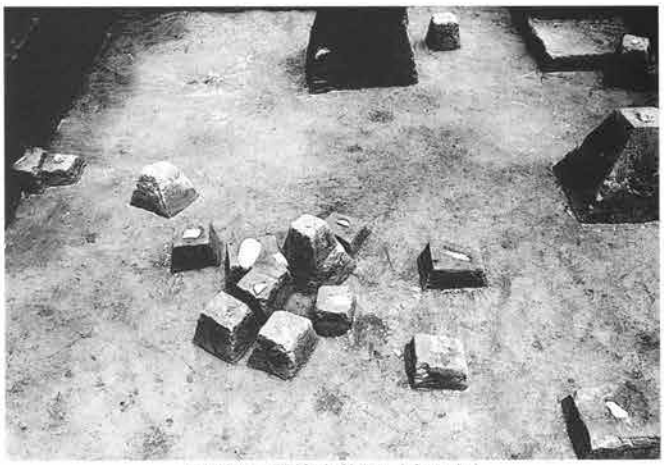
H区44号土坑跡全景（南より）

H区44号土坑跡土層断面（北より）

H区２号墓壙跡全景（南より）

H区２号墓壙跡遺物出土状況（南より）

H区旧石器検出状況（北より）



H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（北より）

H区旧石器検出状況（南より）

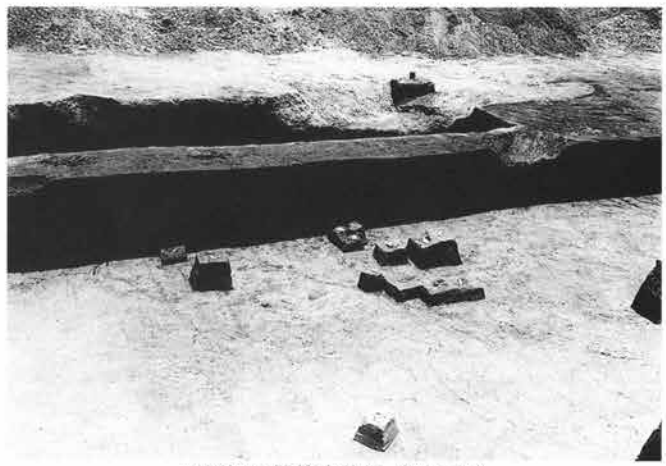
H区旧石器検出状況（東より）

H区旧石器検出状況（東より）

H区旧石器検出状況（東より）

H区旧石器検出状況（西より）

H区旧石器検出状況（西より）

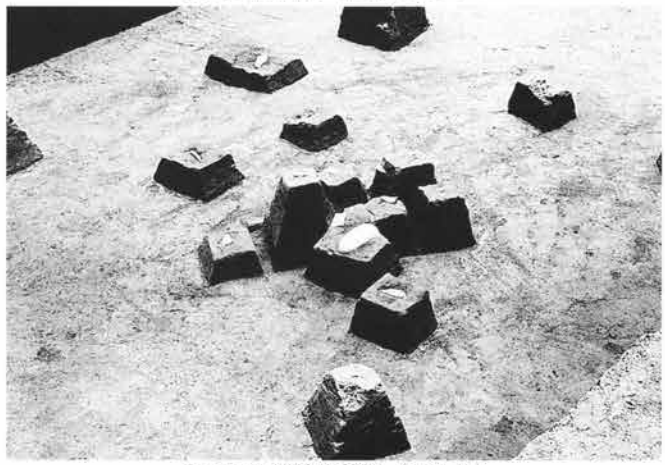


H区旧石器検出状況（西より）

H区旧石器検出状況（西より）

H区旧石器検出状況（西より）

H区旧石器検出状況（西より）



H区旧石器検出状況（西より）

H区旧石器検出状況（北より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（西より）

H区旧石器検出状況（西より）

H区旧石器検出状況（西より）

H区旧石器検出状況（西より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南から）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

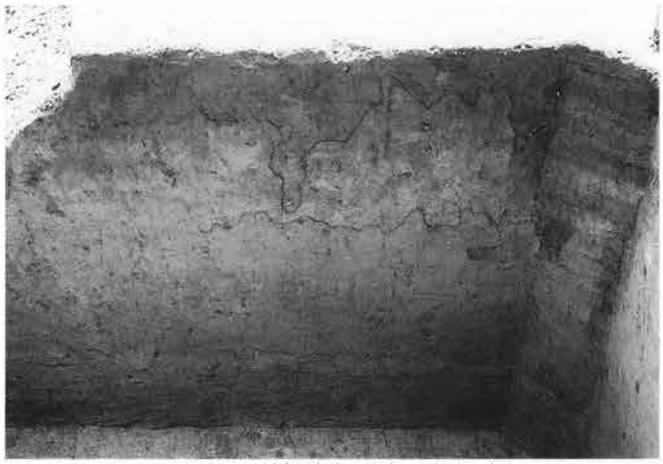
H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

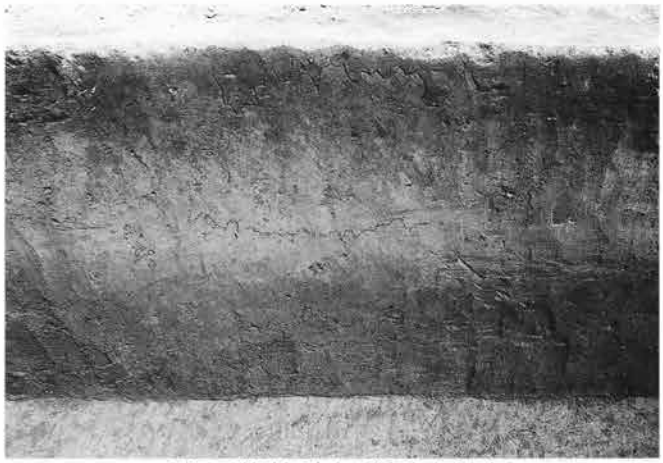
H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器検出状況（南より）

H区旧石器試掘坑土層断面（南より）

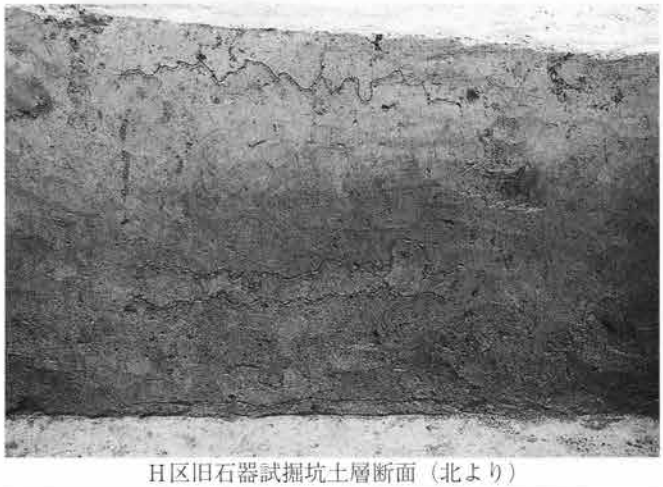


H区旧石器試掘坑土層断面（西より）



H区旧石器試掘坑土層断面（西より）

H区旧石器試掘坑土層断面（北より）



H区旧石器試掘坑土層断面（北より）

I区５号墳全景（北より）

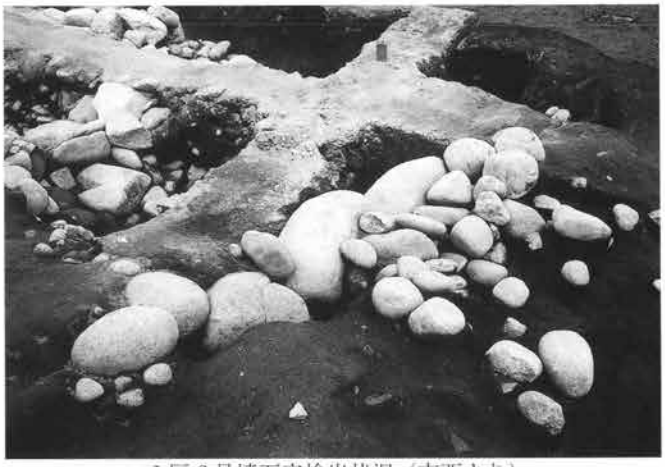
I区６号墳石室検出状況（南より）

Ⅰ区６号墳全景（北より）

Ⅰ区６号墳石室検出状況（南西より）

Ⅰ区６号墳石室検出状況（南東より）

Ⅰ区６号墳石室検出状況（北より）



Ⅰ区６号墳石室検出状況（南西より）

Ⅰ区６号墳石室検出状況（南東より）

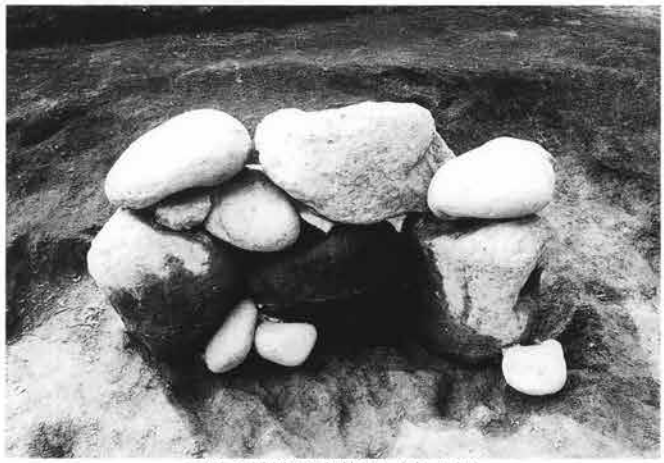
Ⅰ区６号墳石室全景（北より）

Ⅰ区６号墳石室堀方（南より）

Ⅰ区６号墳石室全景（南より）

Ⅰ区６号墳石室堀方（北より）

Ⅰ区６号墳石室状況（東より）



Ⅰ区６号墳石室状況（東より）

Ⅰ区６号墳石室内部状況（東より）

Ⅰ区６号墳石室前庭部状況（南より）

Ⅰ区６号墳周溝（西より）

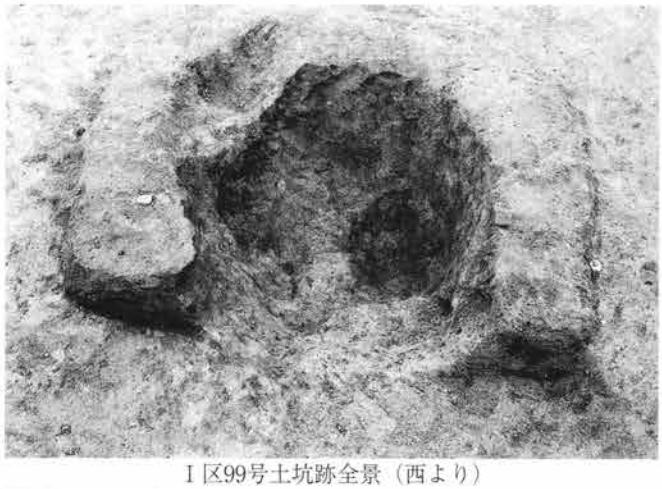
Ⅰ区６号墳周溝土層断面（北より）

Ⅰ区６号墳周溝（西より）

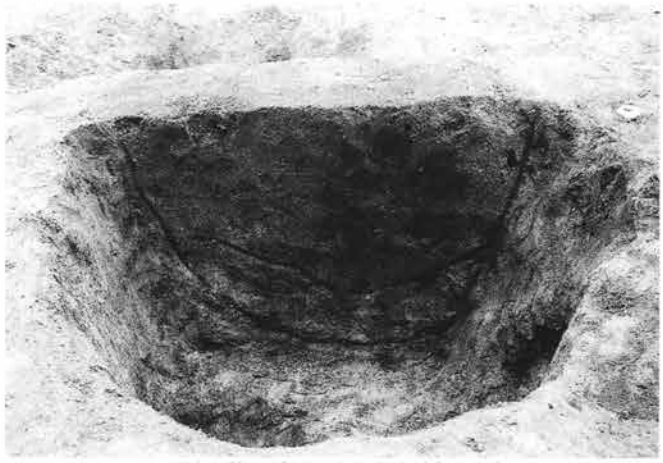
Ⅰ区６号墳周溝土層断面（西より）

Ⅰ区６号墳北側周溝（南より）

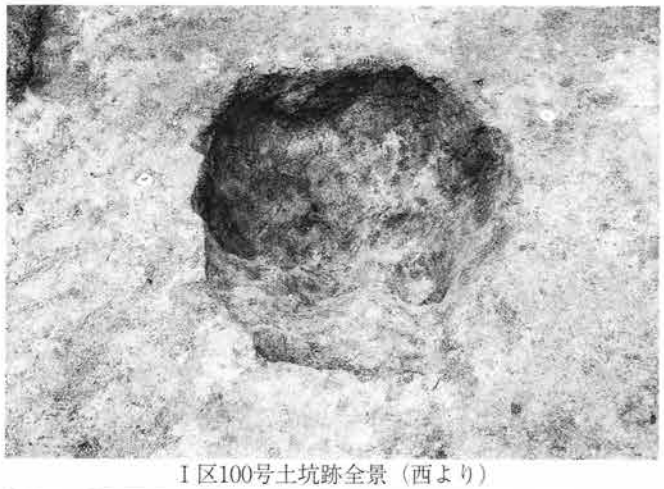
Ⅰ区６号墳北側周溝（東より）



Ⅰ区99号土坑跡全景（西より）



Ⅰ区99号土坑跡土層断面（東より）



Ⅰ区100号土坑跡全景（西より）

Ⅰ区100号土坑跡土層断面（西より）

Ⅰ区縄文時代包含層遺物出土状況

Ⅰ区石器剥片出土状況（北より）

Ⅰ区石器剥片出土状況（北より）

Ⅰ区旧石器試掘坑土層断面（北西より）

Ⅰ区旧石器試掘坑土層断面（南より）

Ｊ区全景（北より）

Ｊ区西壁土層断面（東より）

Ｊ区西壁土層断面（北より）

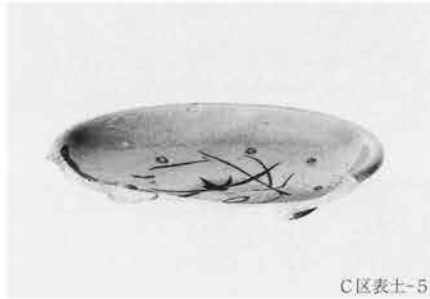
C区1竪穴-1

C区表土-1

C区表土-2

C区表土-3

C区表土-4


C区表土-5

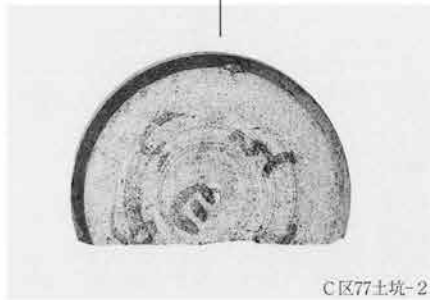
C区39溝-1

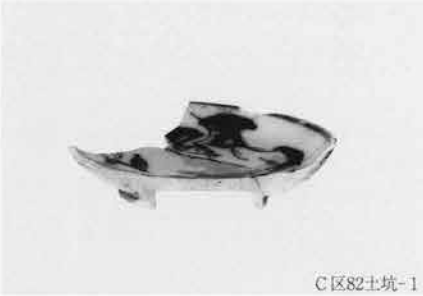
C区39溝-2

C区77土坑-1

C区85土坑-1

C区88土坑-1


C区77土坑-2


C区82土坑-1

C区88·90土坑-1

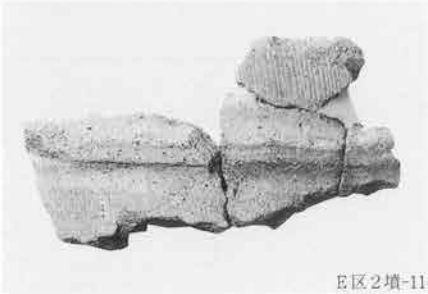
C区91土坑-1

C区91土坑-2

C区91土坑-3

C区93土坑-1

C区出土遺物


E区2墳-11

E区2墳-19

E区2墳-55

E区2墳-56

E区2墳-57

E区2墳-58

E区1墓壙-1

E区1墓壙-2

F区2墳-17

F区2墳-11

E区71土坑-5

F区2墳-41

F区2墳-42

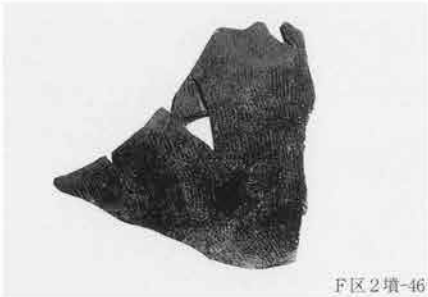
F区2墳-43

E・F区出土遺物

F区2墳-44

F区2墳-45

H区44土坑-1


F区2墳-46

F区2墳-47

H区2墓壙-2

H区2墓壙-1

H区表土-1

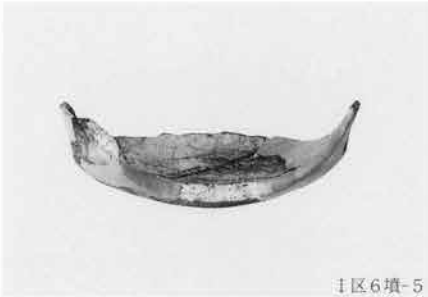
H区42土坑-1

I区6墳-1

I区6墳-2

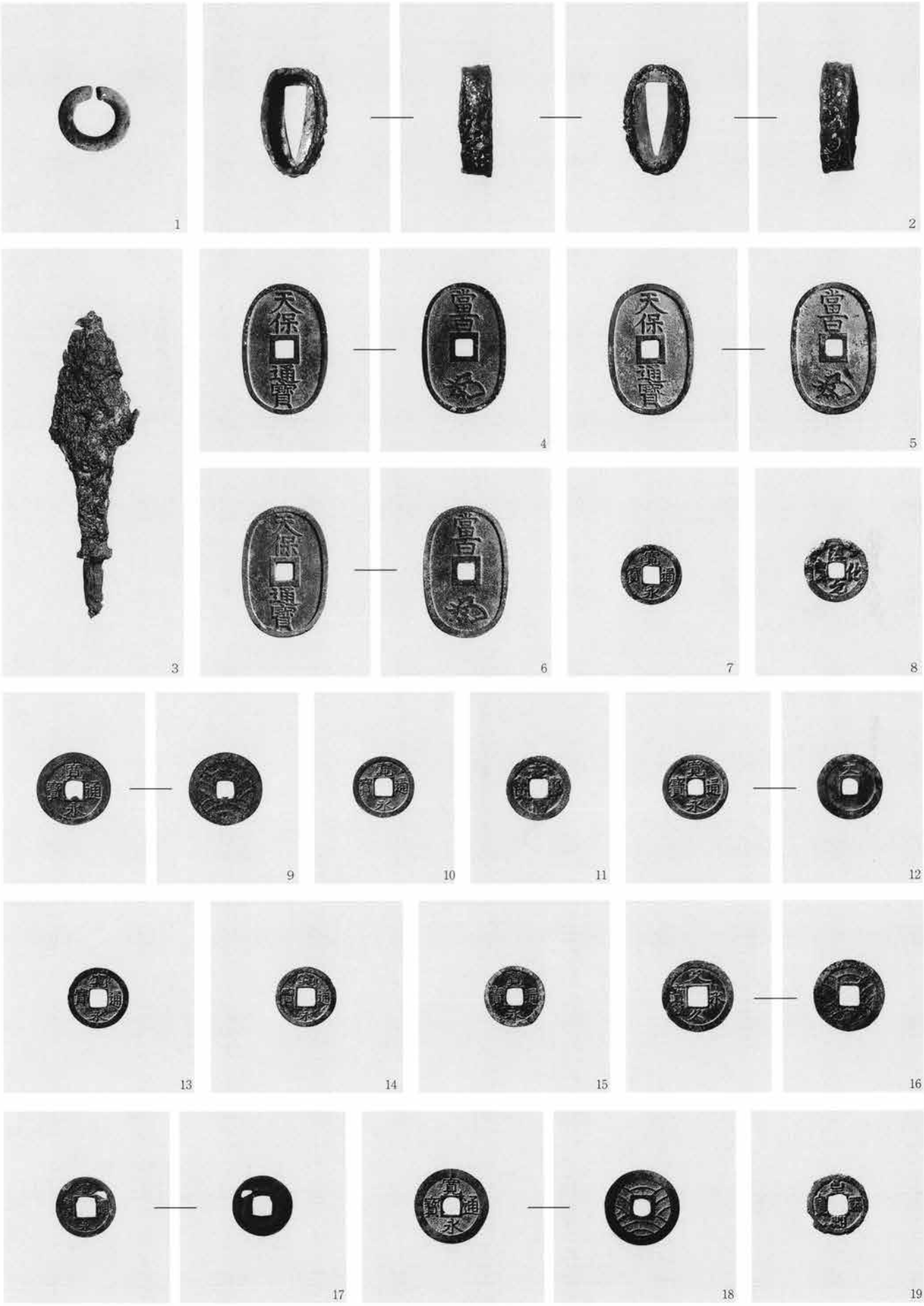
I区6墳-3

I区6墳-4


I区6墳-5

I区6墳-6

F・H・I区出土遺物



金属製品

縄-10

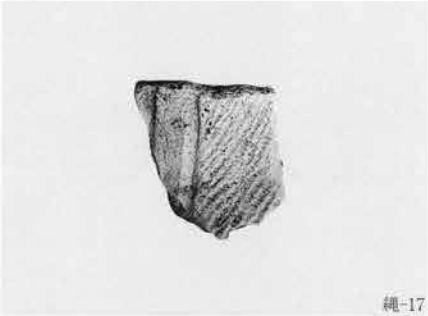
縄-14

縄-16

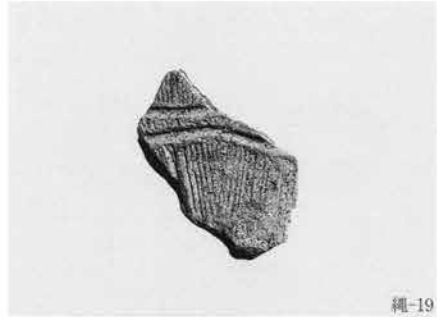
縄-11

縄-12

縄-15


縄-17

縄-18


縄-19

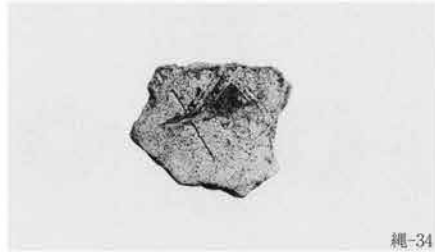
縄-21

縄-22

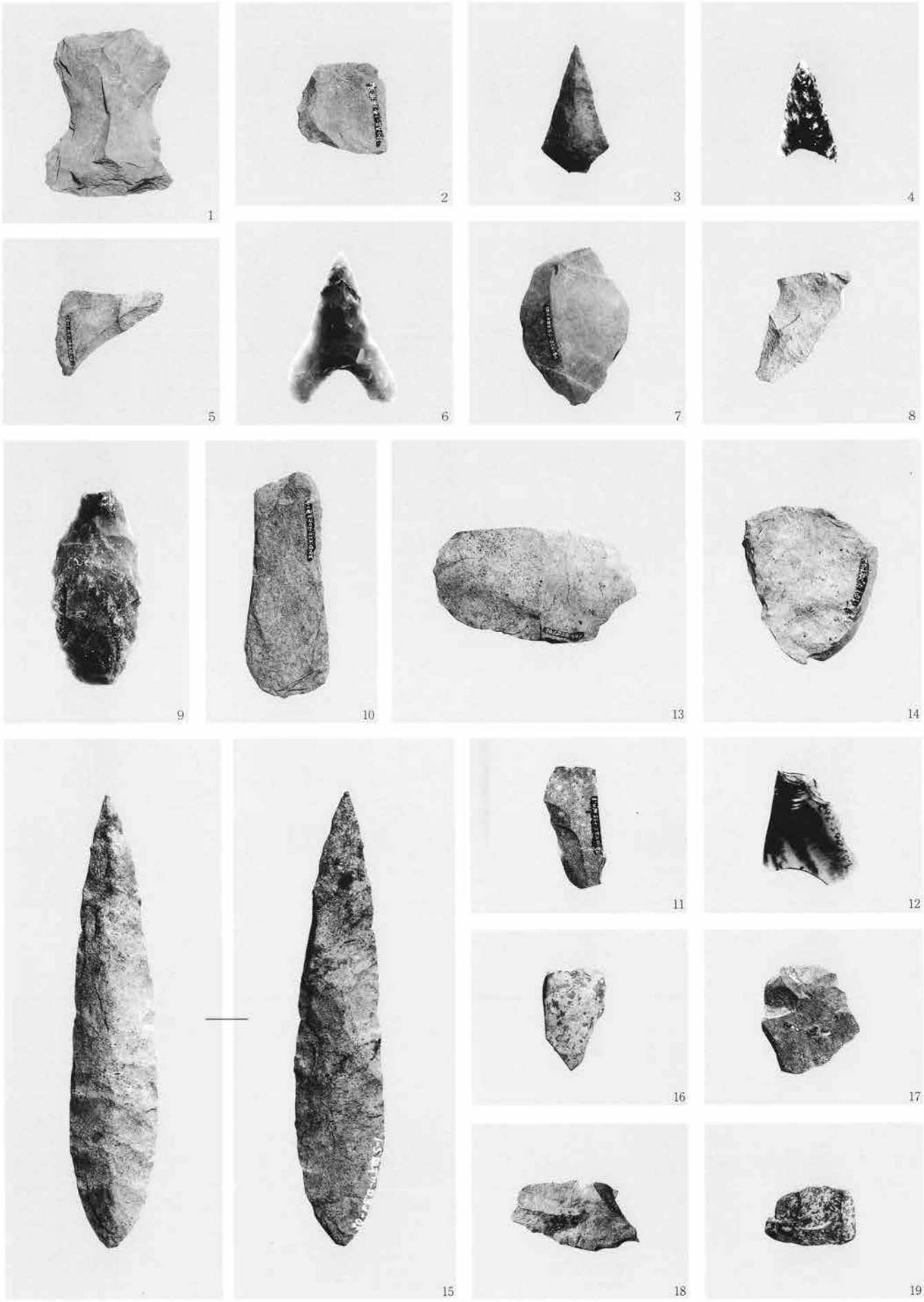
縄-23

縄-24

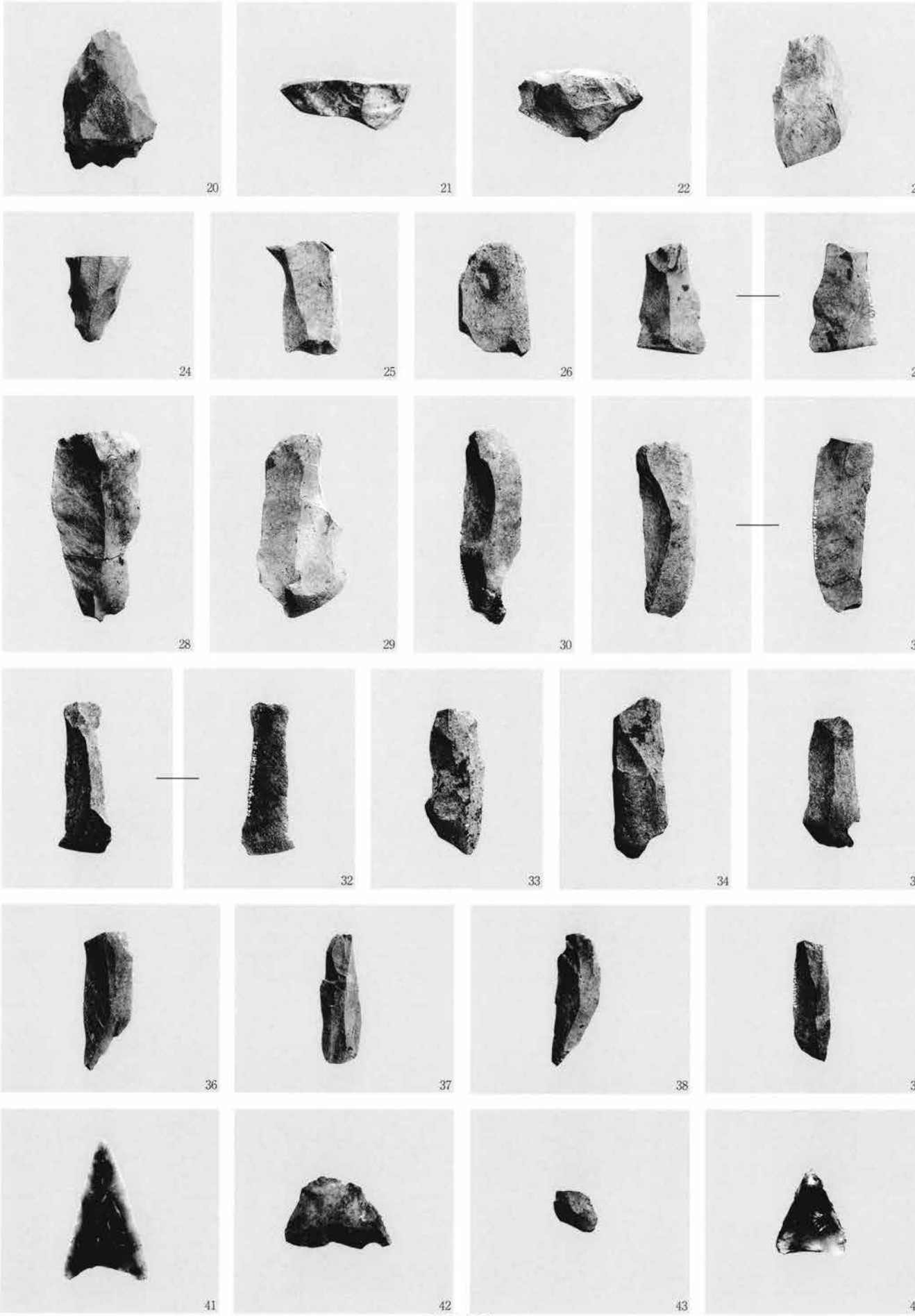
縄-33


縄-34

縄文土器



石器（1）



石器（2）

H区出土旧石器接合資料

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第399集

上植木光仙房遺跡

主要地方道伊勢崎大間々線単独特別道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成19年3月25日　印刷

平成19年3月31日　発行

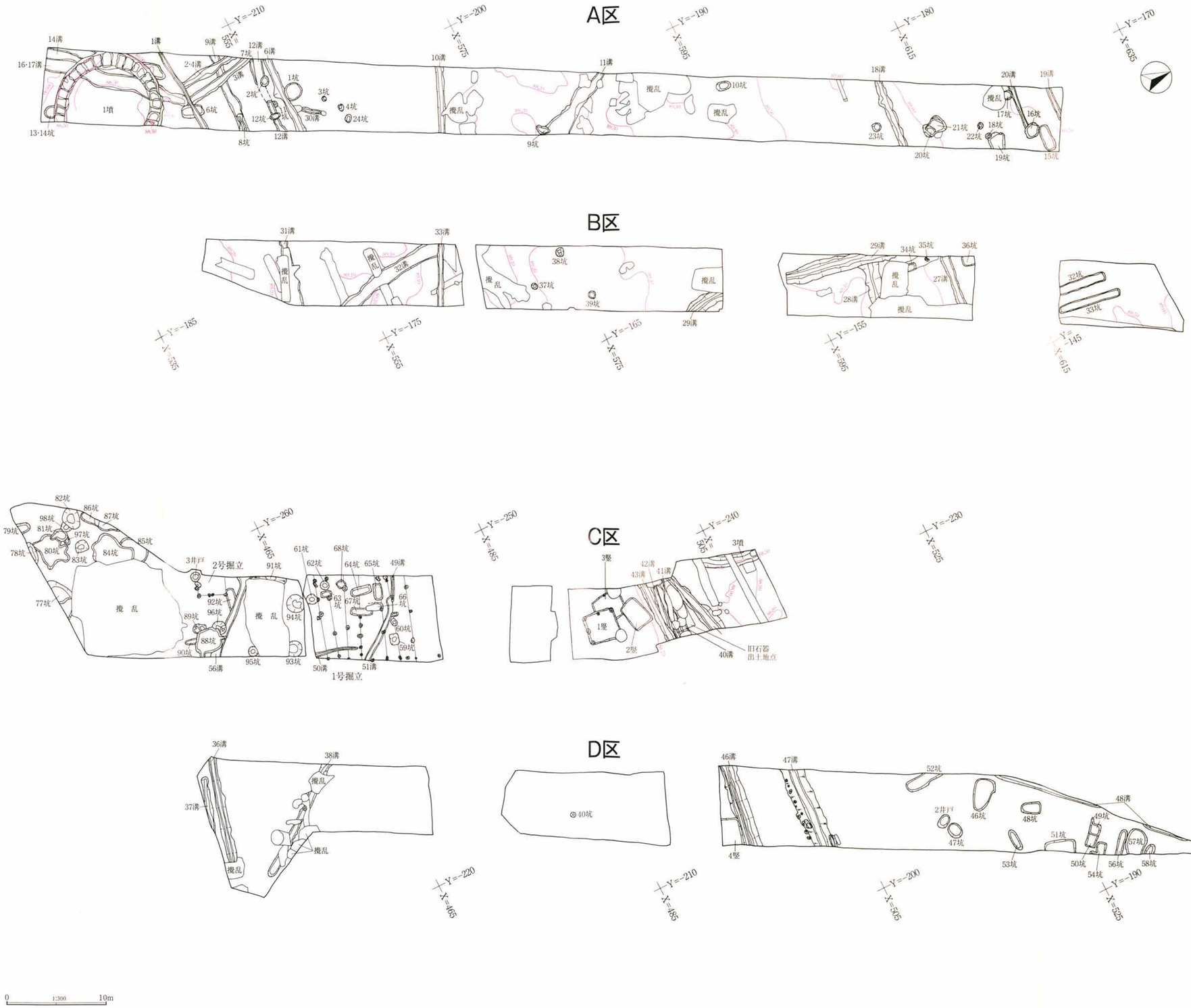
編集／発行　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377－8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784－2

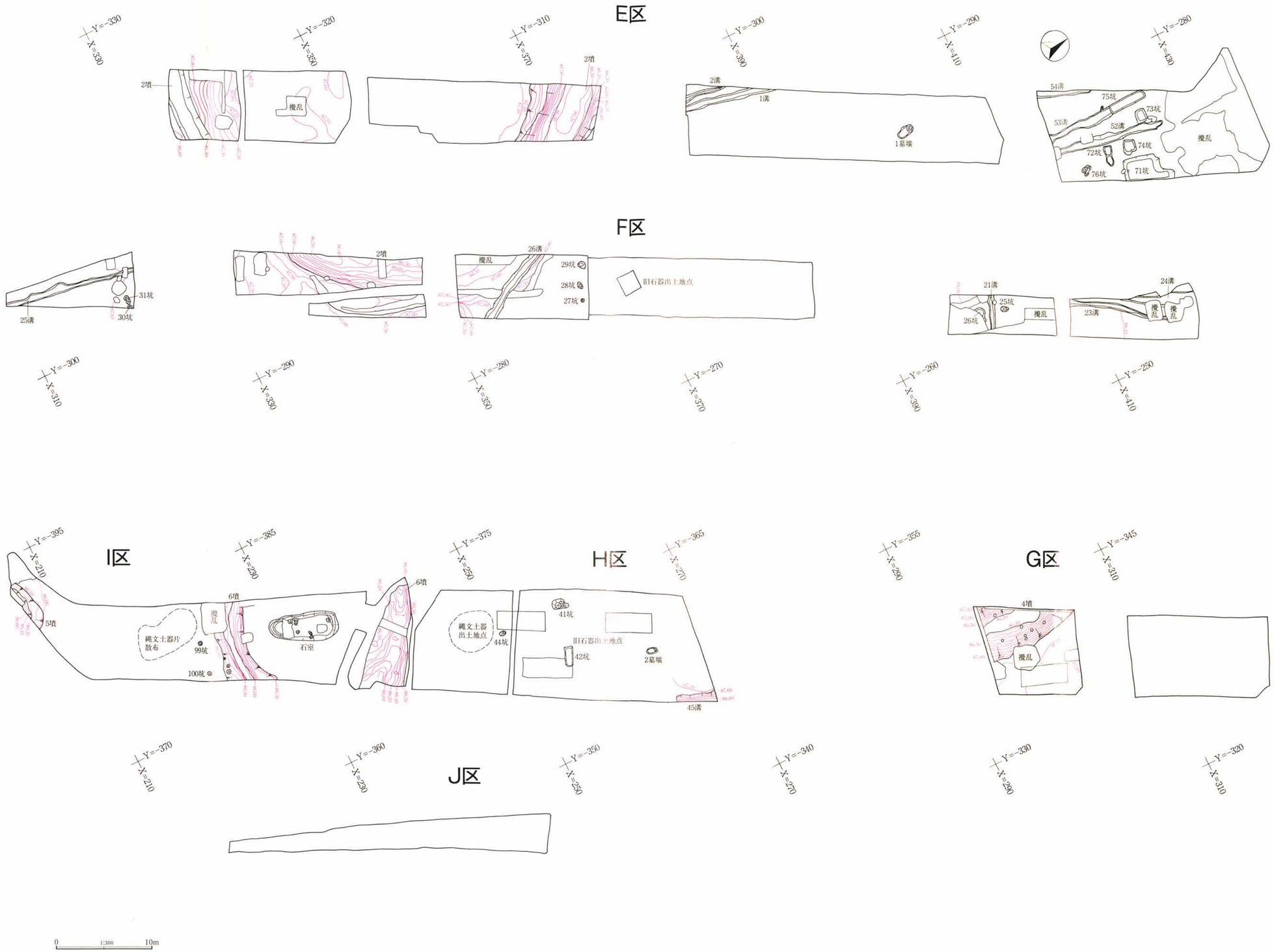
電話　0279－52－2511（代表）

URL　http://www.gunmaibun.org

印刷　松本印刷工業株式会社



付図１　上植木光仙房遺跡全体図（A･B･C･D区）



付図２　上植木光仙房遺跡全体図（E･F･G･H･I･J区）